YAO TOKUSHUKAI GENERAL HOSPITAL

病院年報

2024年



医療法人徳洲会

八尾徳洲会総合病院

Yao Tokushukai General Hospital

目次 Contents

理念・基本方針・患者様の権利	1
ご挨拶	2
概要・沿革	3
教育認定施設の指定状況・指定医療機関・高度医療機器設備	4
許可施設基準	5
八尾徳洲会総合病院 組織図	6
八尾徳洲会総合病院 委員会構成図	7
患 者 統 計	8
1.外　来	
1）外来患者統計	10
2）科別・月別外来患者数	10
3）1日平均外来患者数	11
4）1日平均外来新患者数	11
2.入　院	
1）入院患者統計	12
2）科別・月別1日平均入院患者数	12
3）病棟別・月別1日平均入院患者数	12
3.救　急	
1）月別救急搬送件数	13
2）救急搬送人数 年齢別・性別分布	14
3）救急搬送件数分布	15
病 歴 統 計	16
1）科別退院患者数	18
2）死亡退院患者統計	19
3）疾病分類＜大分類＞科別	20
4）疾病分類＜中分類＞	21
診 療 部	24
内　　科	26
循環器内科（カテーテル部門）	33
消化器内科	35
呼吸器内科	36
腫 瘍 内 科	37
血管透析科（腎不全対策・関連診療科）	39
腎 臓 内 科	43
糖尿病・代謝内科	44
脳神経内科	47
膠原病リウマチ内科	48
小　児　科	49
放 射 線 科（診療部）	51
救　急　科	52
集中治療科	55
外　　科	59
整 形 外 科	61
脳神経外科	65
心臓血管外科・心臓血管センター	67
形成外科・美容外科	70
呼吸器外科	72
小 児 外 科	74
歯科・歯科口腔外科	77
泌 尿 器 科	80
眼　　科	81
麻　酔　科	83
肝臓センター	85
皮　膚　科	90
婦　人　科	91
耳鼻咽喉科	92
病理診断科	93
副 診 療 部	96
薬　剤　部	98
放 射 線 科	102
臨床検査科	104
リハビリテーション科	108
（理学療法・作業療法・言語聴覚療法・心臓リハビリテーション）	
臨床心理科	114
臨床工学科	116
栄　養　科	121
治験センター	124
医療福祉相談室（MSW 医療ソーシャルワーカー）	125
病診連携室	129
健診センター	140
情報システム管理室	142
保　育　室	144
がん相談支援センター	146
医療安全管理部	150
感染制御部	155
臨床腫瘍センター	159
看 護 部	162
4階東　5階西	164
5階東　6階西	165
6階東　7階西	166
7階東　8階西	167
8階東　ICU	168
HCU	169
外来・ER	170
手術室　透析室	171
入退院支援　保健指導	172
委 員 会	180
呼吸ケアチーム（RST）	182
褥瘡対策委員会	183
研修管理委員会	184
栄養サポートチーム（NST）	188
緩和ケアチーム	190
がん緩和支援委員会	192
地域医療支援病院運営委員会	194
関 連 施 設	196
八尾徳洲会介護センター	198
よろこび訪問看護ステーション	202
介護老人保健施設 八尾徳洲苑	205
特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷	214
サービス付き高齢者向け住宅ラフィーネの郷	218
ラフィーネ介護センター	220
学 術 業 績	222
学会発表	224
学術論文	231

Yao
Tokushukai
General Hospital

理　　念

1. 生命を安心して預けられる病院
2. 健康と生活を守る病院

基本方針

1.『年中無休・24 時間オープン』で救急医療を提供します。
2. 患者様からの贈り物は一切受け取りません。
3. 医療技術・診療態度の向上に絶えず努力します。

患者様の権利

当院は次の項目について患者様の権利を尊重した医療を提供しています。

1. いつでも安全で良質な医療を受ける事が出来ます。
2. 医療についての説明を受け、医療行為を選択する権利があります。
3. 継続して一貫した医療を受ける事が出来ます。
4. プライバシーが守られ、個人の尊厳が保たれています。
5. 医療の情報について常に提供を受け健康教育や講演を受ける事が出来ます。
6. 生活の質と環境に配慮した医療の提供を受ける事が出来ます。

ご　挨　拶

八尾徳洲会総合病院　院長　原田　博雅

新型コロナウイルス感染症による医療体制から、平時の医療体制への移行を、無事に終えることができました。多くの入院患者さまを受け入れ、診療を行うことができたのは、地域の皆さまからの温かいご支援とご理解によるものであり、心より感謝申し上げます。本年度も、救急搬送により当院を受診された患者さまの数は年間１万人を超えました。救急医療においては、今後も本地域の基幹病院としての責務を果たし続けていく所存です。

将来を見据えた病院機能の強化として、2023 年 9 月より改修工事に着手いたしました。2024 年 12 月には、敷地南側に新館が竣工し、すでに運用を開始しております。引き続き、来年（2026 年）2 月末まで工事を継続する予定です。工事完了後は、ICU を 20 床、HCU を 30 床へと増床し、手術室は 2 室増設されて計 10 室となります。また、新たに感染症病棟の設置も予定しており、重症患者への対応能力向上を図ってまいります。これらの施設整備に加え、職員体制の強化にも注力し、医療提供体制の一層の充実を目指してまいります。

2024 年 4 月には、医師の働き方改革が本格的に始動いたしました。まだ整備すべき課題は多く残されておりますが、今後も着実に体制の整備と改善に取り組んでまいります。

2024 年度も、多くの皆さまからのご支援を賜り、誠にありがとうございました。今後とも地域医療の一翼を担うべく、引き続き尽力してまいりますので何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

Yao Tokushukai General Hospital

概要

創　　立	1978年7月1日
病 院 長	原田　博雅
職 員 数	1,075名（2025年1月現在）
診療科目	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、肝臓内科、糖尿病・代謝内科、緩和ケア内科、 腫瘍内科、内分泌内科、脳神経内科、心療内科、精神科、リウマチ科、血管透析内科 腎臓内科、皮膚科、小児科、救急科、放射線科、外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科 心臓血管外科、肝臓外科、乳腺外科、小児外科、形成外科、美容外科、泌尿器科、眼科、 麻酔科、歯科・歯科口腔外科、耳鼻咽喉科、婦人科、リハビリテーション科、病理診断科
関連施設	介護老人保健施設　八尾徳洲苑 八尾徳洲苑介護センター よろこび訪問看護ステーション 八尾徳洲会介護センター（居宅介護支援事業所） 特別養護老人ホーム　久宝寺愛の郷 八尾市地域包括支援センター　久宝寺愛の郷 サービス付き高齢者向け住宅　ラフィーネの郷 ラフィーネ介護センター
1日平均外来患者数	828名（2024年度）
1日平均入院患者数	406名（2024年度）

沿革

1978年 7 月	開院　許可病床250床
1979年 7 月	三基準取得　看護・給食・寝具
1980年10月	西館増築　許可病床数　350床
1986年 4 月	東館・西館改修　許可病床数　335床
1989年 9 月	新館増築　許可病床　415床
1992年 9 月	基準看護　特Ⅰ類取得
1994年 7 月	基準看護　特Ⅱ類取得
1994年 9 月	総合病院許可　心臓血管外科開設
1995年 7 月	新看護2.5：1（A）　10：1看護補助の承認
1995年 9 月	デイケア開設
1996年 5 月	病院管理棟増築
1996年11月	よろこび訪問看護ステーション開設
1998年 2 月	日帰り手術センター開設
1998年 3 月	歯科・歯科口腔外科開設
1998年 4 月	ER（救急総合診療部）開設　臨床研修指定病院指定
1998年12月	老人保健施設　八尾徳洲苑（100床）開設
2000年 4 月	よろこび訪問看護介護センター開設
2000年 4 月	八尾徳洲会介護センター開設
2001年 4 月	病児保育（八尾市委託）
2001年12月	ICU施設取得（6床）
2002年 4 月	心臓疾患リハビリテーション施設開設
2003年 1 月	日本医療機能評価機構取得
2003年 3 月	睡眠障害センター開設
2003年10月	2：1看護取得 電子カルテ導入
2004年 3 月	駐車場増設
2004年 4 月	医療安全管理部設置
2004年 6 月	亜急性病床開設（12床）
2005年 3 月	新病院土地の取得
2006年 6 月	DPC導入
2006年 6 月	健診センター開設
2006年11月	治験センター開設
2007年 6 月	プライバシーマーク制度（JISQ.15001.1999）取得
2007年 6 月	新病院建設開始
2007年12月	日本医療機能評価機構Ver.5受審
2008年 1 月	日本医療機能評価機構Ver.5取得
2009年 1 月	高規格救急車導入
2009年 8 月	新病院移転
2009年11月	エンゼル保育室新病院内移転
2010年 3 月	HCU施設基準取得（4：1）
2010年 4 月	大阪府がん診療拠点病院認可
2011年 4 月	大動脈センター・美容外科開設
2011年 8 月	肝臓センター開設
2011年 9 月	一般7：1入院基本料取得
2011年10月	小児科開設
2012年11月	放射線治療開始
2012年11月	日本医療機能評価機構Ver.6受審
2013年 1 月	日本医療機能評価機構Ver.6取得
2013年 9 月	卒後臨床研修評価機構認定
2014年 9 月	特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷開設
2015年 5 月	創傷ケアセンター開設
2017年 4 月	八尾市地域包括支援センター　久宝寺愛の郷開設
2018年 1 月	日本医療機能評価機構3rdG.Ver1.1受審
2018年 2 月	日本医療機能評価機構3rdG.Ver1.1取得（認定4回目）
2020年11月	JCI認証取得
2022年 1 月	特定集中治療室管理料1取得
2022年 2 月	手術支援ロボット導入（ダヴィンチ）
2022年 4 月	DPC特定病院群指定
2023年 4 月	地域医療支援病院
2023年 6 月	日本医療機能評価機構3rdG.Ver3.0受審
2023年10月	日本医療機能評価機構3rdG.Ver3.0取得（認定5回目）
2023年 8 月	新館増築・本館改修地鎮祭
2023年12月	JCI認証取得（2回目）
2024年 1 月	卒後臨床研修評価機構更新認定 介護老人保健施設　八尾徳洲苑、よろこび訪問看護ステーション
2024年 3 月	よろこび訪問看護介護センター、八尾徳洲会介護センター　新築移転 サービス付き高齢者向け住宅　「ラフィーネの郷」開設 ラフィーネ介護センター　開設"
2024年11月	12床増床　許可病床数　427床
2024年12月	南館新設

教育認定施設の指定状況

厚生労働省基幹型臨床研修病院
日本内科学会認定医制度教育病院
日本呼吸器学会認定施設
日本呼吸療法医学会専門医研修施設
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医関連施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設
IMPELLA補助循環用ポンプカテーテル実施施設
日本消化器病学会認定医制度研修施設
日本消化器内視鏡学会指導施設
日本神経学会認定准教育施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本高血圧学会研修施設Ⅰ
日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療後期研修プログラム研修施設
日本病院総合診療医学会認定施設
日本透析医学会専門医制度教育関連施設
日本肝臓学会認定関連施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設
日本外科学会専門医制度修練施設
日本消化器外科学会専門医制度専門医修練施設
日本呼吸器外科学会専門研修連携施設
日本小児外科学会教育関連施設
日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
日本乳癌学会関連施設認定
日本乳癌オンコプラススティックサージャリー学会インプラント実施施設認定
日本がん治療認定医機構認定研修施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
日本脈管学会認定研修指定施設
日本成人心臓血管外科手術データベース機構認定施設
日本ステントグラフト実施基準管理員会　腹部･胸部ステントグラフト実施施設
浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会　浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
日本救急医学会救急科専門医指定施設
日本集中治療医学会専門医研修施設
日本整形外科学会認定医制度研修施設
日本手外科学会研修施設
日本脳神経外科学会専門医認定制度研修プログラム研修施設
日本脳卒中学会認定研修教育施設
日本形成外科学会認定施設
日本眼科学会専門医制度認定研修施設
日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関(画像診断･IVR･核医学)
日本インターベンショナルラジオロギー学会専門医修練認定施設
日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本心臓血管麻酔学会心臓血管麻酔専門医認定施設
日本病理学会研修認定施設
日本臨床細胞学会教育研修施設
日本臨床栄養代謝学会認定教育施設
日本静脈経腸栄養学会　NST 稼働施設
日本栄養療法推進協議会認定　NST 稼働施設
日本静脈経腸栄養学会　NST 専門療法士実地修練認定教育施設
日本医療薬学会教育研修施設
日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設

指定医療機関

日本医療機能評価機構認定病院
臨床研修指定病院
保険医療機関
救急告示病院
結核指定医療機関
被爆者一般疾病医療機関
母体保護法指定医療機関
生活保護法指定医療機関
労災保険指定医療機関
公害医療機関
指定自立支援医療機関
身体障害者福祉法指定医
大阪府肝炎専門医療機関
大阪府がん診療拠点病院
大阪府地域医療支援病院
DPC対象病院

高度医療機器設備

MRI（磁気共鳴画像装置）
320列CT
DSA（デジタルサブトラクション血管撮影装置）
CAG（心血管撮影装置）
RI（核医学診断装置）
ESWL（体外衝撃波結石破砕装置）
各種内視鏡機器装置
マイクロサージャリー（顕微鏡下手術）
放射線治療装置（リニアック）
医療用ナビゲーションシステム
光干渉式眼軸長測定装置
光干渉断層計（OCT）
ハイブリッド手術室対応多軸透視・撮影装置
ダヴィンチ（手術支援ロボット）
マゾールX（脊椎手術支援ロボット）
Saroa（手術支援ロボット）

許可施設基準

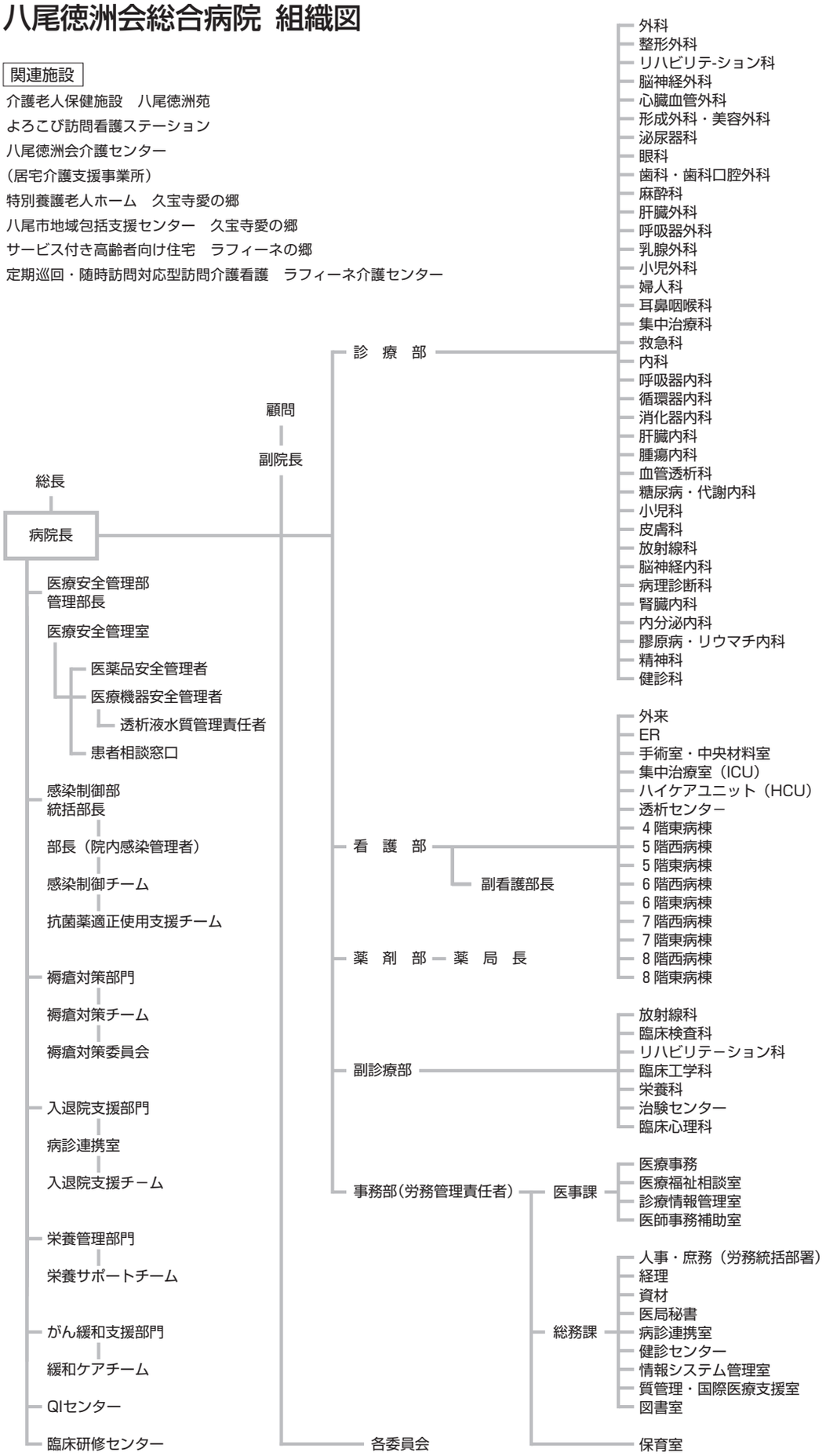
入院時食事療養(I)
地域歯科診療支援病院歯科初診料
歯科外来診療環境体制加算
歯科診療特別対応連携加算
一般病棟入院基本料(7対1)
臨床研修病院入院診療加算
救急医療管理加算
超急性期脳卒中加算
診療録管理体制加算1
医師事務作業補助体制加算(15対1)
急性期看護補助体制加算
療養環境加算
重傷者等療養環境特別加算
栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算1
感染防止対策加算1
感染防止対策地域連携加算
入退院支援加算
救急搬送患者地域連携紹介加算
救急搬送患者地域連携受入加算
呼吸ケアチーム加算
病棟薬剤業務実施加算
データ提出加算2
特定集中治療室管理料1
ハイケアユニット入院医療管理料1
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料イ・ロ・ハ
糖尿病透析予防指導管理料
院内トリアージ実施料
夜間休日救急搬送医学管理料
救急搬送看護体制加算1
ニコチン依存症管理料
開放型病院共同指導料
地域連携診療計画管理料
がん治療連携計画策定料
肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料
医療機器安全管理料1
歯科治療総合医療管理料
在宅患者訪問看護・指導料3
同一建物居住者訪問看護・指導料3
検体検査管理加算(Ⅳ)
埋込型心電図検査
時間内歩行試験
ヘッドアップティルト試験
神経学的検査
コンタクトレンズ検査料1
小児食物アレルギー負荷検査
センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る)
画像診断管理加算1
CT撮影及びMRI撮影
冠動脈CT撮影加算
心臓MRI撮影加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算
悪性腫瘍病理組織標本加算
外来化学療法加算1
無菌製剤処理料
心大血管疾患リハビリテーション料(I)
脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
運動器リハビリテーション料(I)
呼吸器リハビリテーション料(I)
がん患者リハビリテーション料
認知療法・認知行動療法
歯科口腔リハビリテーション料2
処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1
透析液水質確保加算2
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2
経皮的冠動脈形成術
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
経皮的冠動脈ステント留置術
心臓ペースメーカー指導管理料及び遠隔モニタリング加算
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
大動脈バルーンパイピング法(IABP法)
経皮的大動脈遮断術
経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
ダメージコントロール手術
腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術
腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
腹腔鏡下肝切除術
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む)に掲げる手術
手術の休日加算1及び深夜加算1
輸血管理料I
輸血適正使用加算
人工肛門・人工膀胱増設術前処置加算
麻酔管理料(I)
放射線治療専任加算
高エネルギー放射線治療
1回線量増加加算
クラウンブリッジ維持管理料
後発医薬品使用体制加算1
精神疾患診療体制加算
認知症ケア加算2
地域医療体制確保加算
せん妄ハイリスク患者ケア加算
病理診断管理加算2/口腔病理診断管理加算2
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
在宅療法後方支援病院)
在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)
人工腎臓/導入期加算1
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
連携充実加算
外来放射線照射診療科
歯根端切除術の注3
胸腔鏡下弁形成術/胸腔鏡下弁置換術
急性期充実加算
看護職員処遇改善評価科43
外来腫瘍化学療法診療科1
腹腔鏡下直腸切除・切除術(切除術・低位前方切除及び切除術に限る)(内視鏡手術用支援器を用いる場合)
周術期栄養管理実施加算
周術期薬剤管理加算
内視鏡的小腸ポリープ切除術
体外式膜型人工肺管理料
救急搬送診療科の注4に規定する重症患者搬送加算
顎関節人工関節全置換術(歯科)
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
膀胱頚部形成術(膀胱頚部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
緑内障手術　緑内障手術(流出路再建術(緑内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
緑内障手術　濾過胞再建術(needle法)
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
生体腎移植術
下肢創傷処置管理料
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡的手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡的手術用支援機器を用いる場合)
緩和ケア診療加算
BRCA12遺伝子検査
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
報告書管理体制加算
経皮的下肢動脈形成術
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
緑内障手術　緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの)

2025年1月1日 現在

八尾徳洲会総合病院 組織図

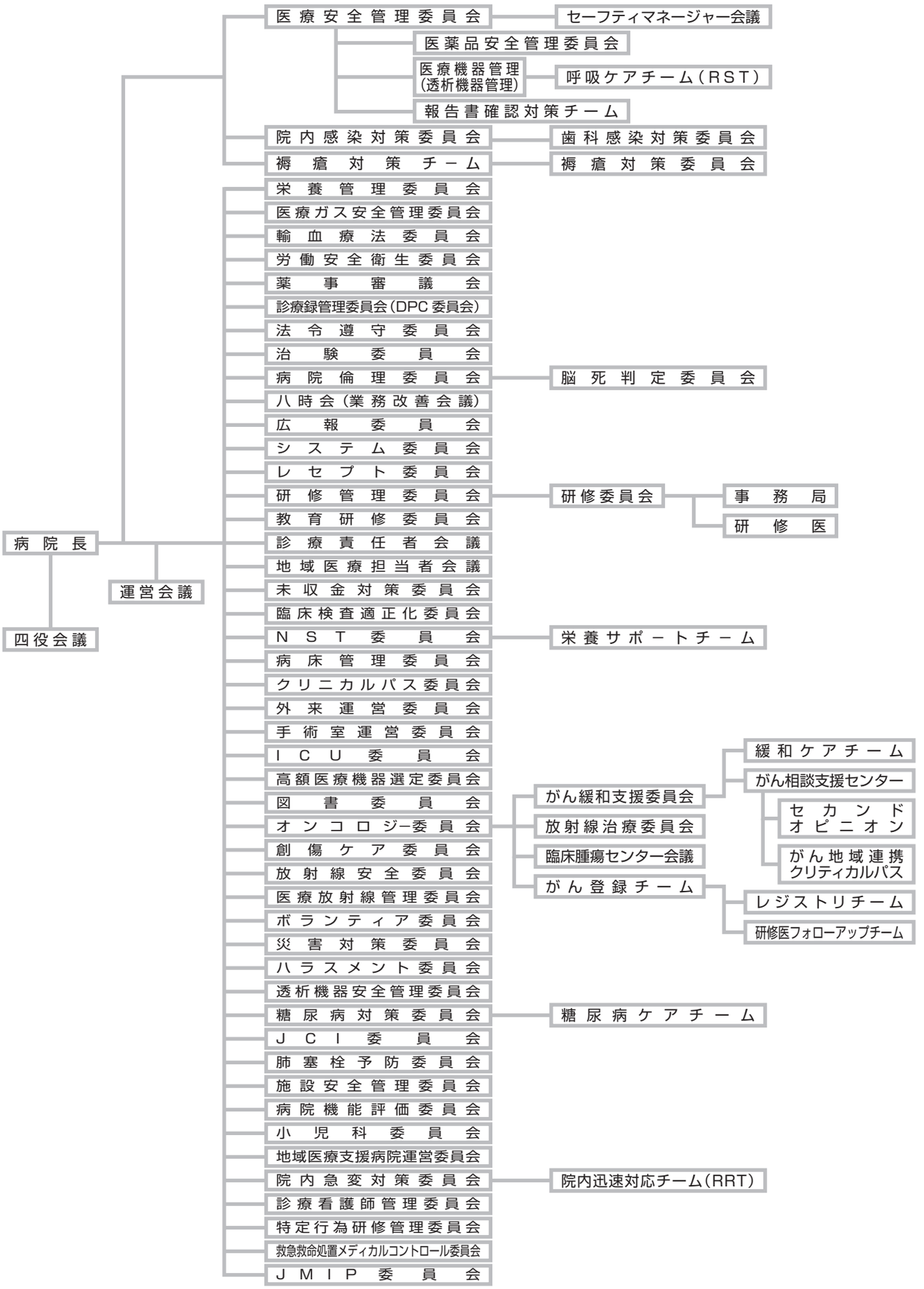
関連施設

介護老人保健施設　八尾徳洲苑
よろこび訪問看護ステーション
八尾徳洲会介護センター
（居宅介護支援事業所）
特別養護老人ホーム　久宝寺愛の郷
八尾市地域包括支援センター　久宝寺愛の郷
サービス付き高齢者向け住宅　ラフィーネの郷
定期巡回・随時訪問対応型訪問介護看護　ラフィーネ介護センター



八尾徳洲会総合病院 委員会構成図

2025年1月1日 現在



患　者　統　計

―― 2024年 ――

1．外　来

1）外来患者統計　10

2）科別・月別外来患者数　10

3）1 日平均外来患者数　11

4）1 日平均外来新患者数　11

2．入　院

1）入院患者統計　12

2）科別・月別 1 日平均入院患者数　12

3）病棟別・月別 1 日平均入院患者数　12

3．救　急

1）月別救急搬送件数　13

2）救急搬送人数　年齢別・性別分布　14

3）救急搬送件数分布　15

1. 外　来

1）外来患者統計

①1日平均患者数　②1ヶ月総患者数　③1日平均新患者数

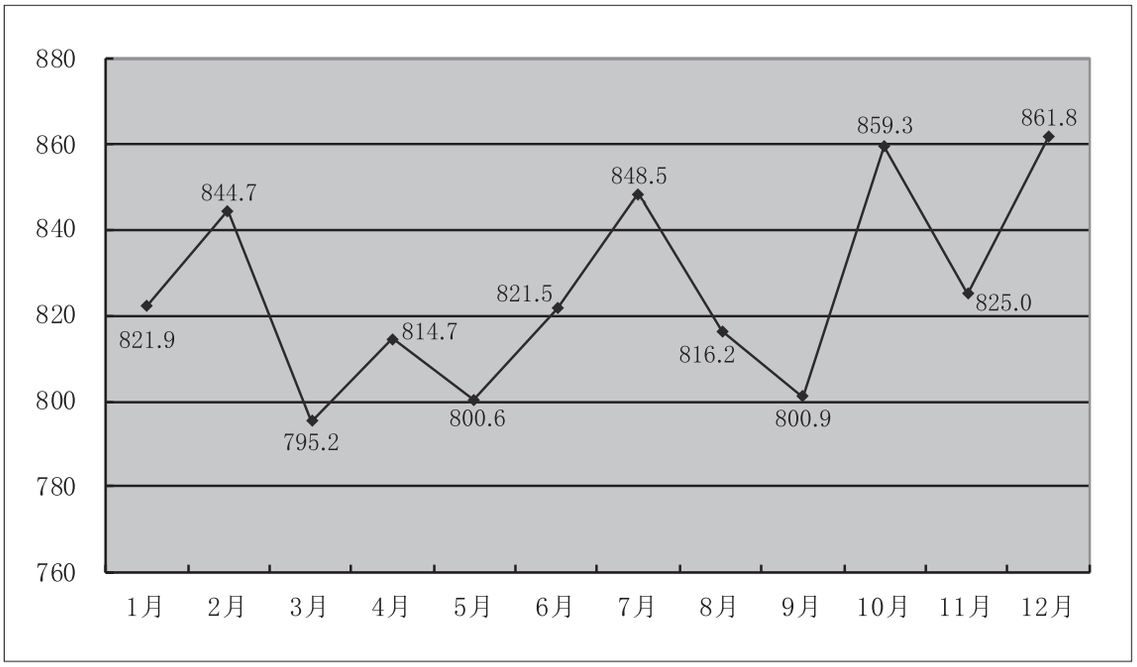
外来	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
①	821.9	844.7	795.2	814.7	800.6	821.5	848.5	816.2	800.9	859.3	825.0	861.8	9,910.3	825.9
②	25,478	24,497	24,651	24,440	24,818	24,644	26,302	25,302	24,028	26,638	24,750	26,716	302,264	25,189
③	28.3	27.4	26.1	33.8	28.0	27.9	30.5	27.2	27.2	26.9	27.2	33.8	344.3	28.7

2）科別・月別外来患者数

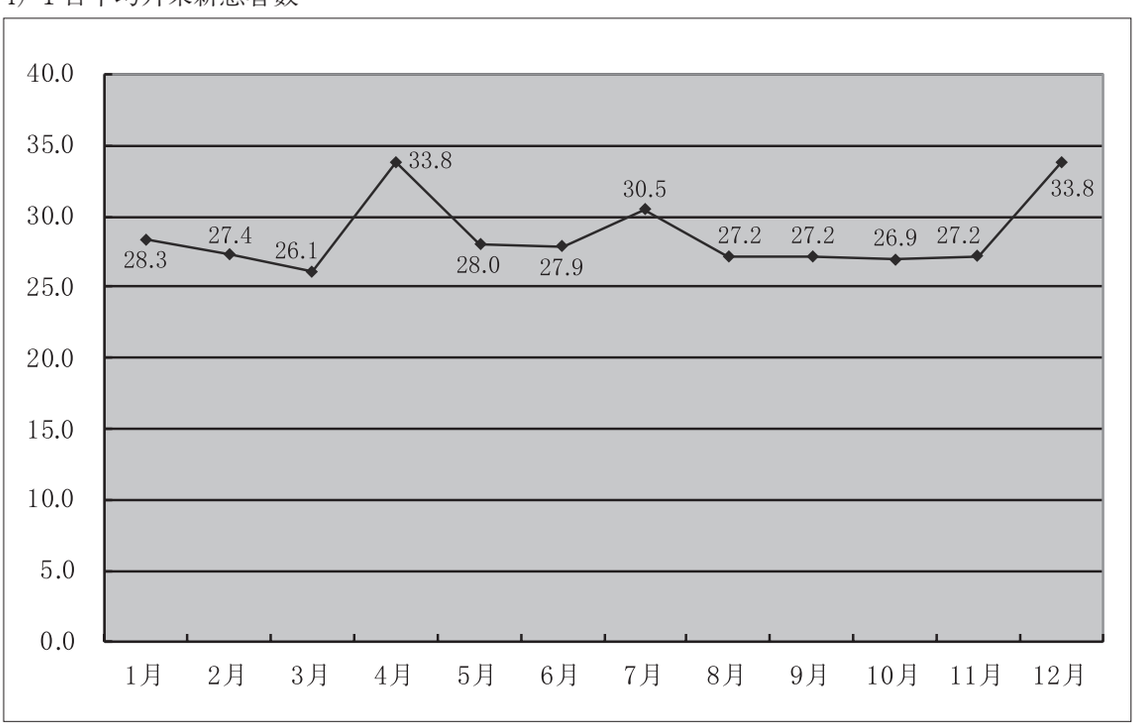
	内科	循環器科	外科	呼吸器外科	乳腺外科	小児外科	肝臓外科	肝臓内科	整形外科	心臓外科	眼科	脳神経外科	泌尿器科	形成外科	美容外科	放射線治療部
1月	7,565	1,639	1,304	191	155	67	688	0	2,795	460	1,230	864	1,289	630	1	304
2月	6,818	1,621	1,174	260	144	75	707	0	2,573	511	1,329	872	1,251	545	0	260
3月	6,805	1,646	1,210	267	196	102	711	0	2,638	575	1,300	918	1,456	541	2	79
4月	7,032	1,855	1,351	259	146	84	827	1	2,543	562	1,323	872	1,407	520	0	84
5月	7,180	1,783	1,408	256	137	67	824	2	2,494	539	1,363	928	1,314	552	2	51
6月	6,969	1,758	1,288	241	142	88	815	0	2,380	576	1,407	1,018	1,452	505	0	72
7月	8,031	1,703	1,299	232	99	90	830	0	2,575	548	1,241	909	1,448	556	0	89
8月	7,080	1,643	1,247	303	131	97	789	0	2,500	519	1,327	870	1,433	518	0	53
9月	6,868	1,675	1,215	304	130	77	854	0	2,453	568	1,270	916	1,316	418	1	77
10月	7,772	1,681	1,406	313	171	73	879	2	2,764	590	1,468	1,010	1,438	606	0	57
11月	7,063	1,705	1,361	250	148	97	704	0	2,466	578	1,350	939	1,304	501	0	165
12月	8,154	1,930	1,375	253	156	107	814	1	2,678	535	1,415	879	1,482	519	1	312
合計	87,337	20,639	15,638	3,129	1,755	1,024	9,442	6	30,859	6,561	16,023	10,995	16,590	6,411	7	1,603
平均	7,278.1	1,719.9	1,303.2	260.8	146.3	85.3	786.8	0.5	2,571.6	546.8	1,335.3	916.3	1,382.5	534.3	0.6	133.6

	リハビリ外来	人工透析	歯科口腔外科	皮膚科	小児科	婦人科	耳鼻咽喉科	検診	人間ドック	リウマチ科	膠原病	訪問看護	創傷治療センター	ストーマ外来	腫瘍内科	精神科	合計
1月	82	1,073	847	169	660	194	323	472	1,181	0	394	91	139	18	201	0	25,026
2月	65	997	849	172	766	223	278	1,448	636	3	326	64	135	15	236	0	24,353
3月	74	1,060	916	195	719	213	372	871	686	0	416	87	164	21	234	1	24,475
4月	75	1,030	883	298	729	193	330	559	638	0	371	75	161	12	220	0	24,440
5月	71	1,022	953	366	758	222	350	640	646	0	423	94	128	20	225	0	24,818
6月	76	923	860	389	757	254	339	847	691	0	347	96	154	8	190	1	24,643
7月	81	1,026	966	501	778	242	366	1,044	744	0	443	102	134	20	205	0	26,302
8月	74	969	948	521	754	261	319	1,531	646	0	373	76	113	8	198	1	25,302
9月	80	888	870	526	687	257	321	869	647	1	354	79	92	9	206	0	24,028
10月	83	989	982	553	791	239	353	668	907	0	446	58	135	7	197	0	26,638
11月	79	953	872	490	955	250	322	821	657	1	373	61	107	3	175	0	24,750
12月	87	968	900	505	995	130	409	823	543	0	429	67	135	12	197	0	26,811
合計	927	11,898	10,846	4,685	9,349	2,678	4,082	10,593	8,622	5	4,695	950	1,597	153	2,484	3	301,586
平均	77.3	991.5	903.8	390.4	779.1	223.2	340.2	882.8	718.5	0.4	391.3	79.2	133.1	12.8	207.0	0.3	25,132.2

3）1日平均外来患者数



4）1日平均外来新患者数



2. 入　院

1）入院患者統計

①1日平均患者数　②1カ月総患者数　③平均在院日数　④病床稼動率

入院	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
①	413.7	409.7	412.8	400.2	402.1	386.6	397.5	414.1	400.9	401.7	408.9	412.7	4,860.9	405.1
②	12,823	11,882	12,797	12,005	12,465	11,599	12,321	12,837	12,027	12,454	12,267	12,795	148,272	12,356
③	14.17	12.92	13.70	12.43	12.70	12.21	12.08	13.03	13.40	12.42	12.85	11.97	153.88	12.82
④	103.39	103.46	103.82	101.16	101.65	98.13	100.53	104.53	100.92	101.65	103.11	104.89	1,227.2	102.3

2）科別・月別1日平均入院患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
内科	154.58	155.07	152.87	140.63	139.77	145.90	150.19	137.39	138.57	142.87	137.73	152.32	1,747.89	145.66
循環器内科	43.90	43.52	42.39	43.40	36.55	35.90	37.61	46.68	39.37	37.16	34.53	41.29	482.30	40.19
外科	38.45	39.48	44.32	37.00	38.55	41.17	46.29	45.52	47.87	52.29	49.07	44.06	524.07	43.67
肝臓センター	16.58	24.21	25.03	23.57	22.74	23.70	26.45	28.00	31.77	28.68	25.57	24.77	301.07	25.09
整形外科	49.26	44.72	41.35	38.97	48.35	34.97	35.29	43.23	42.90	45.19	47.93	42.19	514.35	42.86
脳神経外科	49.65	35.38	39.94	46.30	46.32	37.63	39.03	42.61	41.50	41.29	45.77	47.10	512.52	42.71
泌尿器科	10.84	10.59	7.32	6.77	8.94	8.63	11.03	9.58	7.10	7.71	7.93	7.03	103.47	8.62
婦人科	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
小児科	0.06	0.00	0.06	0.40	0.00	1.03	0.29	0.48	0.27	0.39	0.00	0.65	3.63	0.30
眼科	3.58	4.00	3.90	6.50	5.16	5.07	4.77	3.81	5.53	4.61	5.30	5.13	57.36	4.78
形成外科	12.19	14.66	12.84	18.80	20.61	15.17	16.68	23.68	16.70	12.26	18.50	12.52	194.61	16.22
心臓外科	19.68	19.31	24.13	24.87	25.23	26.20	22.58	17.84	15.40	13.39	20.27	20.81	249.71	20.81
耳鼻咽喉科	0.06	0.41	0.48	0.30	0.10	0.00	0.23	0.00	0.00	0.06	0.40	0.03	2.07	0.17
皮膚科	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
口腔外科	3.45	4.10	3.39	3.17	2.87	2.87	3.84	4.97	4.20	4.81	4.30	4.03	46.00	3.83
腎臓内科	11.35	14.28	14.77	9.50	6.90	8.40	3.16	10.32	9.73	11.03	11.60	10.81	121.85	10.15
合計	413.7	409.7	412.8	400.2	402.1	386.6	397.5	414.1	400.9	401.7	408.9	412.7	4,860.9	405.1

3）病棟別・月別1日平均入院患者数

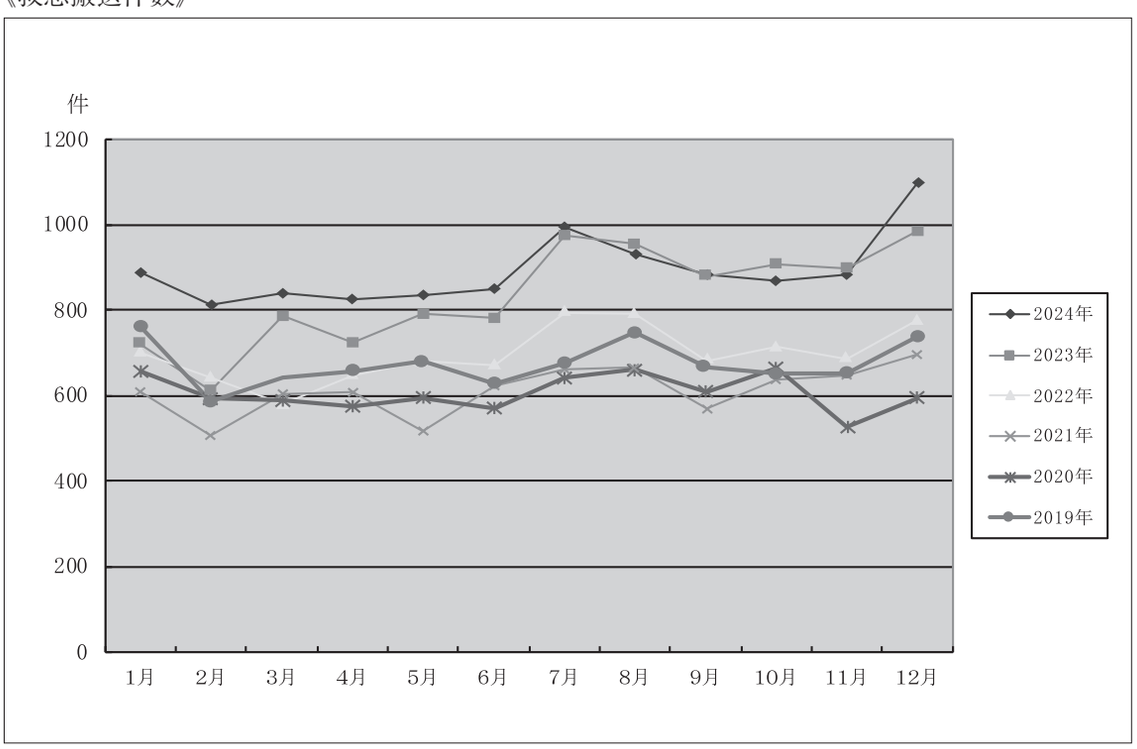
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
ICU	7.29	7.41	7.13	6.00	6.45	6.67	7.45	7.74	7.57	7.48	7.57	7.48	86.24	7.19
HCU	17.97	18.21	17.03	16.43	17.23	16.70	17.35	16.87	17.93	16.81	16.83	17.52	206.88	17.24
4東	45.13	42.90	44.26	44.67	43.58	39.97	42.00	44.39	42.40	41.77	43.20	45.10	519.37	43.28
5東	43.55	42.34	44.03	41.47	40.26	38.53	36.65	41.58	38.27	39.23	40.33	41.81	488.05	40.67
5西	38.87	38.97	39.81	38.80	39.55	37.87	38.81	39.23	38.57	39.26	39.33	38.94	468.01	39.00
6東	43.06	41.90	42.16	41.40	41.94	38.17	41.39	44.26	40.70	41.87	42.37	42.77	501.99	41.83
6西	44.71	44.17	43.97	41.70	43.61	39.77	42.48	44.65	42.10	44.29	44.73	44.42	520.60	43.38
7東	43.61	42.79	42.03	40.60	40.74	41.10	42.03	43.03	43.20	43.68	43.63	42.81	509.25	42.44
7西	44.71	43.86	44.19	42.47	41.77	42.23	42.58	44.42	43.87	44.03	43.90	44.61	522.64	43.55
8東	41.19	44.17	44.32	43.73	43.65	43.13	43.42	43.90	43.83	40.84	43.40	43.71	519.29	43.27
8西	43.55	43.00	43.87	42.90	43.32	42.50	43.29	44.03	42.47	42.48	43.60	43.58	518.59	43.22
総計	413.7	409.7	412.8	400.2	402.1	386.6	397.5	414.1	400.9	401.7	408.9	412.7	4,860.9	405.1

3. 救　急

1）月別救急搬送件数

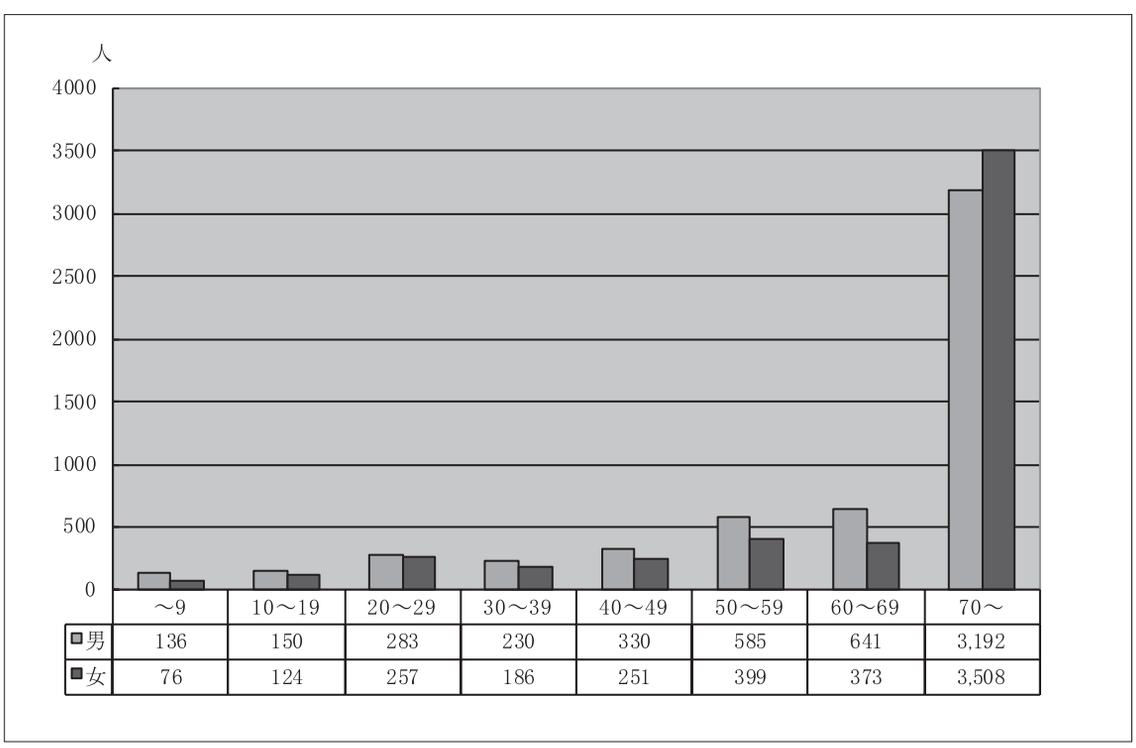
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
2024年	888	813	842	825	836	851	995	934	885	870	883	1,099	10,721	893.4
2023年	720	612	787	723	791	780	975	955	880	910	898	986	10,017	834.8
2022年	701	645	581	646	682	672	794	793	681	714	685	777	8,371	697.6
2021年	611	507	606	607	515	624	664	665	569	638	647	697	7,350	612.5
2020年	657	594	591	574	593	571	643	662	610	665	527	592	7,279	606.6
2019年	761	587	643	658	682	629	677	749	669	650	653	737	8,095	674.6

《救急搬送件数》



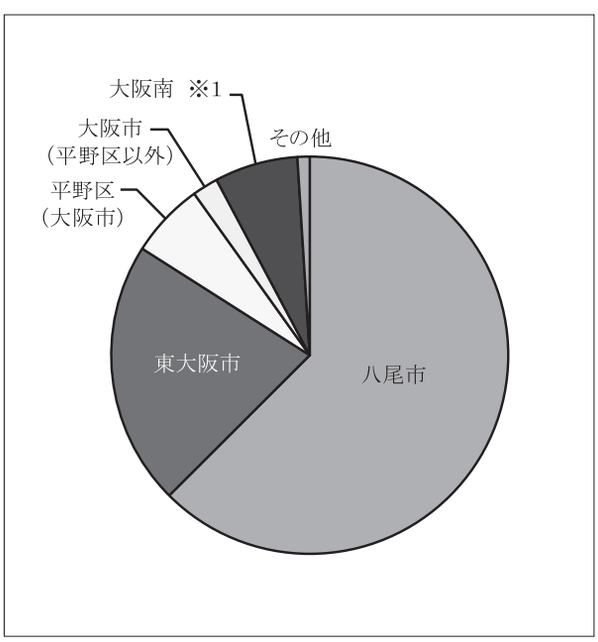
2）救急搬送人数　年齢別・性別分布

年齢	性別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	総合計
0～9歳	男	11	10	7	9	15	12	11	10	12	12	12	15	136	212
	女	10	7	7	8	7	4	10	3	7	8	3	2	76	
10～19歳	男	11	4	14	7	15	20	13	11	11	16	20	8	150	274
	女	4	6	4	8	9	5	14	17	14	19	11	13	124	
20～29歳	男	21	18	17	23	19	27	24	27	30	21	26	30	283	540
	女	21	26	27	18	17	27	17	24	15	17	22	26	257	
30～39歳	男	19	16	20	16	17	15	26	17	27	13	18	26	230	416
	女	12	15	13	10	17	19	18	16	9	20	14	23	186	
40～49歳	男	29	26	25	24	36	34	26	32	23	29	13	33	330	581
	女	18	15	19	17	22	25	26	22	27	19	23	18	251	
50～59歳	男	47	44	39	45	38	51	60	49	58	43	54	57	585	984
	女	29	26	26	18	36	41	42	40	25	26	43	47	399	
60～69歳	男	54	64	55	55	49	48	57	47	57	55	41	59	641	1,014
	女	30	22	38	29	30	24	28	35	29	37	32	39	373	
70歳～	男	268	247	258	247	239	244	298	281	264	263	254	329	3,192	6,700
	女	304	267	273	291	270	255	325	303	277	272	297	374	3,508	
合計	男	460	429	435	426	428	451	515	474	482	452	438	557	5,547	10,721
	女	428	384	407	399	408	400	480	460	403	418	445	542	5,174	



3）救急搬送件数分布

	八尾市	東大阪市	平野区	大阪市（平野区以外）	大阪南	その他	合計
1月	547	183	44	26	76	12	888
2月	486	196	41	23	59	8	813
3月	509	170	63	11	66	23	842
4月	525	140	70	27	53	10	825
5月	545	143	55	19	67	7	836
6月	547	185	49	18	49	3	851
7月	615	243	47	17	62	11	995
8月	575	223	53	18	54	11	934
9月	548	202	61	19	52	3	885
10月	553	196	49	6	60	6	870
11月	580	192	46	14	47	4	883
12月	673	231	76	28	82	9	1,099
合計	6,703	2,304	654	226	727	107	10,721



	件数	%
八尾市	6,703	62.5%
東大阪市	2,304	21.5%
平野区（大阪市）	654	6.1%
大阪市（平野区以外）	226	2.1%
大阪南 ※1	727	6.8%
その他	107	1.0%
合計	10,721	100.0%

単位：件

※1　大阪南
柏羽藤（柏原市、羽曳野市、藤井寺市）
富田林市・河内長野市・太子町・河南町・千早赤阪村

病　歴　統　計

―― 2024年 ――

1．科別退院患者数　18

2．死亡退院患者統計　19

3．疾病分類＜大分類＞科別　20

4．疾病分類＜中分類＞　21

1. 科別退院患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
内　科	157	159	162	139	177	173	210	177	174	200	168	201	2,097	174.8
循環器科	151	155	140	169	153	143	108	147	101	113	115	136	1,631	135.9
外　科	78	99	108	99	101	98	104	113	92	112	92	105	1,201	100.1
心臓外科	24	27	32	31	30	40	26	32	25	23	26	41	357	29.8
脳神経外科	62	67	57	69	88	72	70	69	86	79	76	86	881	73.4
整形外科	61	71	86	66	68	64	61	60	74	81	83	77	852	71.0
泌尿器科	50	44	43	51	38	47	46	45	41	49	51	42	547	45.6
形成外科	19	20	18	16	26	28	22	26	17	24	19	31	266	22.2
小児科	1	0	1	3	1	5	4	2	3	4	0	5	29	2.4
眼　科	41	64	54	68	67	67	63	46	56	56	64	76	722	60.2
耳鼻咽喉科	1	2	3	1	2	1	3	0	0	2	4	1	20	1.7
皮膚科	0	0	0	0	2	2	2	2	0	2	1	2	13	1.1
乳腺外科	2	6	4	3	5	2	2	6	2	3	9	4	48	4.0
腎臓内科	26	17	21	15	13	17	10	13	12	14	16	23	197	16.4
口腔外科	27	38	35	27	28	33	38	38	42	38	39	43	426	35.5
肝臓外科	55	58	63	67	65	75	83	83	72	77	54	64	816	68.0
肝臓内科	2	7	4	7	11	5	8	4	6	9	7	9	79	6.6
小児外科	4	10	10	12	4	6	6	11	4	6	9	11	93	7.8
呼吸器外科	17	14	28	19	22	15	21	28	18	20	34	19	255	21.3
呼吸器内科	18	26	23	23	22	15	34	37	24	35	30	49	336	28.0
腫瘍内科	17	14	20	18	12	15	16	19	13	15	16	15	190	15.8
集中治療科	46	30	33	51	53	47	47	41	38	38	28	40	492	41.0
救急総合診療科	0	1	0	0	1	1	1	1	1	1	0	4	11	0.9
放射線治療部	4	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	5	11	0.9
合　計	863	929	945	954	990	971	986	1,000	901	1,001	941	1,089	11,570	964.2
男	485	547	549	549	569	558	566	582	506	571	531	597	6,610	550.8
女	378	382	396	405	421	413	420	418	395	430	410	492	4,960	413.3

2. 死亡退院患者統計

《科別》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
内　科	41	25	34	19	21	20	38	18	19	24	25	27	311	25.9
男	22	13	21	13	12	11	24	12	11	12	17	7	175	14.6
女	19	12	13	6	9	9	14	6	8	12	8	20	136	11.3
循環器科	6	4	3	0	3	4	5	5	0	2	2	3	37	3.1
男	3	1	2	0	2	2	4	1	0	1	1	3	20	1.7
女	3	3	1	0	1	2	1	4	0	1	1	0	17	1.4
外　科	5	4	4	3	9	6	9	4	5	7	6	5	67	5.6
男	5	3	3	3	6	4	7	1	4	5	3	5	49	4.1
女	0	1	1	0	3	2	2	3	1	2	3	0	18	1.5
心臓外科	4	3	6	4	2	2	1	2	1	2	2	1	30	2.5
男	1	1	3	4	1	1	1	2	0	1	2	0	17	1.4
女	3	2	3	0	1	1	0	0	1	1	0	1	13	1.1
脳神経外科	6	4	3	6	11	2	2	3	3	5	9	4	58	4.8
男	3	2	2	2	5	1	1	1	2	1	2	4	26	2.2
女	3	2	1	4	6	1	1	2	1	4	7	0	32	2.7
整形外科	0	0	1	1	1	0	2	0	1	0	1	3	10	0.8
男	0	0	1	0	1	0	2	0	0	0	0	2	6	0.5
女	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	1	4	0.3
泌尿器科	0	3	0	3	1	0	0	0	1	0	0	0	8	0.7
男	0	3	0	3	1	0	0	0	1	0	0	0	8	0.7
女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
形成外科	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1	4	0.3
男	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	3	0.3
女	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0.1
肝臓外科	3	9	4	5	3	3	4	4	13	4	4	2	58	4.8
男	3	7	3	4	1	1	2	2	7	1	2	1	34	2.8
女	0	2	1	1	2	2	2	2	6	3	2	1	24	2.0
腎臓内科	4	2	2	1	1	0	1	3	0	2	2	1	19	1.6
男	3	2	1	0	1	0	1	3	0	1	0	1	13	1.1
女	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1	2	0	6	0.5
集中治療科	12	5	8	8	9	8	11	8	7	3	6	15	100	8.3
男	6	4	8	5	7	4	7	6	6	2	5	11	71	5.9
女	6	1	0	3	2	4	4	2	1	1	1	4	29	2.4
合　計	81	59	65	50	61	46	74	47	51	49	57	62	702	58.5
男	46	36	44	34	37	25	50	28	31	24	32	35	422	35.2
女	35	23	21	16	24	21	24	19	20	25	25	27	280	23.3

《疾病別》

悪性腫瘍	肺	38	肝臓	5	前立腺	2	
	大腸	12	胆管	5	直腸	2	
	膵臓	12	食道	3	乳	2	
	胃	8	悪性リンパ腫	2	原発不明	1	
	転移癌	8	癌性悪液質	2	その他	13	合　計　115
呼吸器系	誤嚥性肺炎	58	COVID-19	19	肺炎球菌肺炎	2	
	急性肺炎	47	細菌性肺炎	10	胸膜炎	1	
	呼吸不全	36	膿胸	5	肺膿瘍	1	
	間質性肺炎	27	気管支肺炎	3	その他	2	合　計　211
循環器系	心不全	48	解離性大動脈瘤	7	胸部大動脈瘤破裂	2	
	脳出血	25	重症虚血肢	3	肺高血圧症	2	
	脳梗塞	15	心停止	3	肺塞栓症	2	
	急性心筋梗塞	14	くも膜下出血	2	その他	11	合　計　134
消化器系	肝硬変	11	イレウス	5	急性胆管炎	3	
	肝不全	8	消化管出血	5	肝膿瘍	1	
	腸壊死	8	腹膜炎	4	その他	8	合　計　53
その他の疾患	敗血症	71	老衰	9	出血性ショック	3	
	慢性腎臓病	22	低酸素性脳症	8	窒息	3	
	急性循環不全	10	多臓器不全	7	パーキンソン病	2	
	急性腎不全	9	低酸素血症	4	尿毒症	2	
	菌血症	9	尿路感染症	4	その他	26	合　計　189

3. 疾病分類＜大分類＞科別

科別 / 疾病分類	内科	循環器科	外科	心臓外科	脳神経外科	整形外科	泌尿器科	形成外科	小児科	眼科	耳鼻咽喉科	皮膚科	乳腺外科	腎臓内科	口腔外科	肝臓外科	肝臓内科	小児外科	呼吸器外科	呼吸器内科	腫瘍内科	集中治療科	救急総合診療科	放射線治療部	合計
感染症及び寄生虫症（A00～B99）	135	3	29	5	1	2	2	13	4	0	0	2	0	2	0	18	5	0	1	8	1	43	0	0	274
新生物＜腫瘍＞（C00～D48）	234	0	305	0	34	7	242	40	0	0	0	0	48	0	32	258	23	3	126	6	119	5	0	9	1,491
血液及び造血器の疾患ならびに免疫機構の障害（D50～D89）	39	1	1	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	4	0	0	0	0	7	1	0	0	59
内分泌・栄養及び代謝疾患（E00～E90）	180	4	6	0	1	0	2	10	3	4	0	0	0	4	0	7	4	0	0	1	4	34	0	0	264
精神及び行動の障害（F00～F99）	8	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	1	17
神経系の疾患（G00～G99）	51	1	2	0	72	6	1	5	0	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	10	0	0	152
眼及び付属器の疾患（H00～H59）	1	0	0	0	0	0	0	8	0	705	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	714
耳及び乳様突起の疾患（H60～H95）	13	1	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	28
循環器系の疾患（I00～I99）	127	1,561	6	317	614	1	1	22	0	0	0	0	0	15	0	14	0	0	1	3	5	30	2	0	2,719
呼吸器系の疾患（J00～J99）	675	29	16	8	0	3	1	0	21	0	6	0	0	12	2	13	4	0	106	236	35	217	1	0	1,385
消化器系の疾患（K00～K93）	242	2	790	4	0	0	2	0	0	0	0	0	0	3	354	468	37	65	0	1	8	20	0	0	1,996
皮膚及び皮下組織の疾患（L00～L99）	35	1	5	1	0	0	0	74	1	0	0	11	0	1	11	3	2	1	0	0	2	6	0	1	155
筋骨格系及び結合組織の疾患（M00～M99）	49	1	5	2	41	176	0	45	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	1	2	0	19	2	0	347
腎尿路生殖器系の疾患（N00～N99）	211	10	6	10	0	2	284	11	0	0	0	0	0	147	0	5	3	8	0	3	1	37	0	0	738
妊娠、分娩及び産じょく＜褥＞（O00～O99）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
先天性奇形・変形及び染色体異常（Q00～Q99）	1	0	2	0	1	0	3	2	0	0	0	0	0	0	7	0	0	15	0	0	0	0	0	0	31
症状・徴候及び異常臨床所見・異常臨床所見で他に分類されないもの（R00～R99）	24	3	3	3	5	0	7	1	0	0	1	0	0	3	0	14	0	0	0	2	1	3	0	0	70
損傷・中毒及びその他の外因の影響（S00～T98）	39	10	21	2	111	655	2	34	0	13	1	0	0	2	20	9	1	1	20	0	2	31	5	0	979
特殊目的用コード（U00～U99）	33	2	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	73	5	31	0	0	151
合　　計	2,097	1,631	1,201	357	881	852	547	266	29	722	20	13	48	197	426	816	79	93	255	336	190	492	11	11	11,570

4. 疾病分類〈中分類〉

第1章　感染症および寄生虫症	274
A00-09　腸管感染症	82
A15-19　結核	4
A20-28　人蓄共通細菌性疾患	0
A30-49　その他の細菌性疾患	150
A50-64　主として性的伝播様式をとる感染症	0
A65-69　その他のスピロヘータ疾患	0
A70-74　クラミジアによるその他の疾患	0
A75-79　リッチケア症	0
A80-89　中枢神経系のウイルス感染症	7
A90-99　節足動物媒介ウイルス熱およびウイルス出血熱	0
B00-09　皮膚および粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	10
B15-19　ウイルス肝炎	10
B20-24　ヒト免疫不全ウイルス〔HIV〕病	0
B25-34　その他のウイルス疾患	4
B35-49　真菌症	4
B50-64　原虫疾患	1
B65-83　ぜん＜蠕＞虫症	1
B85-89　シラミ症、ダニ症およびその他の動物寄生症	0
B90-94　感染症および寄生虫症の続発・後遺症	1
B95-97　細菌、ウイルスおよびその他の病原体	0
B99　その他の感染症	0
第2章　新生物＜腫瘍＞	1,491
C00-14　口唇、口腔および咽頭	0
C15-26　消化器	601
C30-39　呼吸器および胸腔内臓器	235
C40-41　骨および関節軟骨	0
C43-44　皮膚	11
C45-49　中皮および軟部組織	9
C50　乳房	53
C51-58　女性生殖器	6
C60-63　男性生殖器	85
C64-68　尿路	142
C69-72　眼、脳および中枢神経系のその他の部位	5
C73-75　甲状腺およびその他の内分泌腺	7
C76-80　部位不明確、続発部位および部位不明の悪性新生物	97
C81-96　原発と記載されたまたは推定されたリンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物	41
C97　独立した(原発性)多部位の悪性新生物	0
D00-09　上皮内新生物	4
D10-36　良性新生物	59
D37-48　性状不詳または不明の新生物	136
第3章　血液および造血器の疾患並びに免疫機構の障害	59
D50-53　栄養性貧血	20
D55-59　溶血性貧血	1
D60-64　無形成性貧血およびその他の貧血	21
D65-69　凝固障害、紫斑病およびその他の出血性病態	6
D70-77　血液および造血器のその他の疾患	11
D80-89　免疫機構の障害	0
第4章　内分泌、栄養および代謝疾患	264
E00-07　甲状腺障害	6
E10-14　糖尿病	123
E15-16　その他のグルコース調節および膵内分泌障害	15
E20-35　その他の内分泌腺障害	5
E40-46　栄養失調(症)	2
E50-64　その他の栄養欠乏症	0
E65-68　肥満(症)およびその他の過栄養＜過剰摂食＞	0
E70-90　代謝障害	113

第5章　精神および行動の障害	17
F00-09　症状性を含む器質性精神障害	10
F10-19　精神作用物質使用による精神および行動の障害	1
F20-29　統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害	0
F30-39　気分〔感情〕障害	2
F40-48　神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	2
F50-59　生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	2
F60-69　成人の人格および行動の障害	0
F70-79　知的障害＜精神遅滞＞	0
F80-89　心理的発達の障害	0
F90-98　小児＜児童＞期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	0
F99　詳細不明の精神障害	0
第6章　神経系の疾患	152
G00-09　中枢神経系の炎症性疾患	8
G10-13　主に中枢神経系を障害する系統萎縮症	2
G20-26　錐体外路障害および異常運動	18
G30-32　神経系のその他の変性疾患	1
G35-37　中枢神経系の脱髄疾患	1
G40-47　挿間性および発作性障害	61
G50-59　神経、神経根および神経そう＜叢＞の障害	11
G60-64　多発(性)ニューロパチ＜シ＞ーおよびその他の末梢神経系の障害	0
G70-73　神経筋接合部および筋の疾患	6
G80-83　脳性麻痺およびその他の麻痺性症候群	1
G90-99　神経系のその他の障害	43
第7章　眼および付属器の疾患	714
H00-06　眼瞼、涙器および眼窩の障害	11
H10-13　結膜の障害	3
H15-22　強膜、角膜、虹彩および毛様体の障害	1
H25-28　水晶体の障害	353
H30-36　脈絡膜および網膜の障害	234
H40-42　緑内障	67
H43-45　硝子体および眼球の障害	37
H46-48　視神経および視(覚)路の障害	0
H49-52　眼筋、眼球運動、調節および屈折の障害	0
H53-54　視機能障害および盲＜失明＞	0
H55-59　眼および付属器のその他の障害	8
第8章　耳および乳様突起の疾患	28
H60-62　外耳疾患	0
H65-75　中耳および乳様突起の疾患	0
H80-83　内耳疾患	28
H90-95　耳のその他の障害	0
第9章　循環器系の疾患	2,719
I00-02　急性リウマチ熱	0
I05-09　慢性リウマチ性心疾患	3
I10-15　高血圧性疾患	6
I20-25　虚血性心疾患	914
I26-28　肺性心疾患および肺循環疾患	17
I30-52　その他の型の心疾患	665
I60-69　脳血管疾患	601
I70-79　動脈、細動脈および毛細血管の疾患	480
I80-89　静脈、リンパ管およびリンパ節の疾患、他に分類されないもの	29
I95-99　循環器系のその他および詳細不明の障害	4

4. 疾病分類〈中分類〉

第10章	呼吸器系の疾患	1,385	第15章	妊娠、分娩および産じょく＜褥＞	0
J00-06	急性上気道感染症	9	O00-08	流産に終わった妊娠	0
J10-18	インフルエンザおよび肺炎	608	O10-16	妊娠、分娩および産じょく＜褥＞における浮腫、たんぱく＜蛋白＞尿および高血圧性障害	0
J20-22	その他の急性下気道感染症	13			
J30-39	上気道のその他の疾患	6	O20-29	主として妊娠に関連するその他の母体障害	0
J40-47	慢性下気道疾患	117	O30-48	胎児および羊膜腔に関連する母体ケアならびに予想される分娩の諸問題	0
J60-70	外的因子による肺疾患	369			
J80-84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患	110	O60-75	分娩の合併症	0
J85-86	下気道の化膿性およびえ＜壊＞死性病態	29	O80-84	分娩	0
J90-94	胸膜のその他の疾患	100	O85-92	主として産じょく＜褥＞に関連する合併症	0
J95-99	呼吸器系のその他の疾患	24	O95-99	その他の産科的病態、他に分類されないもの	0
第11章	消化器系の疾患	1,996	第16章	周産期に発生した病態	0
K00-14	口腔、唾液腺および顎の疾患	355	P00-04	母体側要因ならびに妊娠および分娩の合併症により影響を受けた胎児および新生児	0
K20-31	食道、胃および十二指腸の疾患	97			
K35-38	虫垂の疾患	129	P05-08	妊娠期間および胎児発育に関連する障害	0
K40-46	ヘルニア	225	P10-15	出産外傷	0
K50-52	非感染性腸炎および非感染性大腸炎	4	P20-29	周産期に特異的な呼吸障害および心血管障害	0
K55-64	腸のその他の疾患	400	P35-39	周産期に特異的な感染症	0
K65-67	腹膜の疾患	20	P50-61	胎児および新生児の出血性障害および血液障害	0
K70-77	肝疾患	111	P70-74	胎児および新生児に特異的な一過性の内分泌障害および代謝障害	0
K80-87	胆のう＜嚢＞、胆管および膵の障害	625			
K90-93	消化管系のその他の疾患	30	P75-78	胎児および新生児の消化器系障害	0
第12章	皮膚および皮下組織の疾患	155	P80-83	胎児および新生児の外皮および体温調節に関連する病態	0
L00-08	皮膚および皮下組織の感染症	80			
L10-14	水疱症	2	P90-96	周産期に発生したその他の障害	0
L20-30	皮膚炎および湿疹	5	第17章	先天奇形、変形および染色体異常	31
L40-45	丘疹落せつ＜屑＞＜りんせつ＜鱗屑＞＞性障害	0	Q00-07	神経系の先天性奇形	0
L50-54	じんま＜蕁麻＞疹および紅斑	3	Q10-18	眼、耳、顔面および頚部の先天性奇形	2
L55-59	皮膚および皮下組織の放射線(非電離および電離)に関する障害	0	Q20-28	循環器系の先天性奇形	1
			Q30-34	呼吸器系の先天性奇形	0
L60-75	皮膚付属器の障害	0	Q35-37	唇裂および口蓋裂	0
L80-99	皮膚および皮下組織のその他の障害	65	Q38-45	消化器系のその他の先天奇形	15
第13章	筋骨格系および結合組織の疾患	347	Q50-56	性器の先天奇形	4
M00-03	感染性関節障害	8	Q60-64	尿路系の先天奇形	8
M05-14	炎症性多発性関節障害	33	Q65-79	筋骨格系の先天奇形および変形	1
M15-19	関節症	26	Q80-89	その他の先天奇形	0
M20-25	その他の関節障害	2	Q90-99	染色体異常、他に分類されないもの	0
M30-36	全身性結合組織障害	25	第18章	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	70
M40-43	変形性脊柱障害	11			
M45-49	脊椎障害	107	R00-09	循環器系および呼吸器系に関する症状および徴候	16
M50-54	その他の脊柱障害	37	R10-19	消化器系および腹部に関する症状および徴候	13
M60-63	筋障害	25	R20-23	皮膚および皮下組織に関する症状および徴候	0
M65-68	滑膜および腱の障害	4	R25-29	神経系および筋骨格系に関する症状および徴候	4
M70-79	その他の軟部組織障害	22	R30-39	腎尿路系に関する症状および徴候	6
M80-85	骨の密度および構造の障害	11	R40-46	認識、知覚、情緒状態および行動に関する症状および徴候	7
M86-90	その他の骨障害	31			
M91-94	軟骨障害	1	R47-49	言語および音声に関する症状および徴候	0
M95-99	筋骨格系および結合組織のその他の障害	4	R50-69	全身症状および徴候	23
第14章	腎尿路生殖器系の疾患	738	R70-79	血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの	1
N00-08	糸球体疾患	13	R80-82	尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの	0
N10-16	腎尿細管間質性疾患	155	R83-89	その他の体液、検体＜材料＞および組織の検査の異常所見、診断名の記載がないもの	0
N17-19	腎不全	202			
N20-23	尿路結石症	175	R90-94	画像診断および機能検査における異常所見、診断名の記載がないもの	0
N25-29	腎および尿管のその他の障害	15			
N30-39	尿路系のその他の疾患	148	R95-99	診断名不明確および原因不明の死亡	0
N40-51	男性生殖器の疾患	27			
N60-64	乳房の障害	0			
N70-77	女性骨盤臓器の炎症性疾患	2			
N80-98	女性性器の非炎症性障害	1			
N99	腎尿路生殖器系のその他の障害	0			

4. 疾病分類〈中分類〉

第19章	損傷、中毒およびその他の外因の影響	979
S00-09	頭部損傷	133
S10-19	頚部損傷	23
S20-29	胸部＜郭＞損傷	46
S30-39	腹部、下背部、腰椎および骨盤部の損傷	76
S40-49	肩および上腕の損傷	86
S50-59	肘および前腕の損傷	99
S60-69	手首および手の損傷	24
S70-79	股関節部および大腿の損傷	251
S80-89	膝および下腿の損傷	102
S90-99	足首および足の損傷	11
T00-07	多部位の損傷	5
T08-14	部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷または部位不明の損傷	9
T15-19	自然開口部からの異物侵入の作用	8
T20-32	熱傷および腐食	8
T33-35	凍傷	0
T36-50	薬物、薬剤および生物学的製剤による中毒	14
T51-65	薬用を主としない物質の毒作用	1
T66-78	外因のその他および詳細不明の作用	28
T79	外傷の早期合併症	1
T80-88	外科的および内科的ケアの合併症、他に分類されないもの	54
T90-98	損傷、中毒およびその他の外因による影響の続発・後遺症	0
第20章	傷病および死亡の外因	0
V01-99	交通事故	0
W00-X59	不慮の損傷のその他の外因	0
X60-84	故意の自傷および自殺	0
X85-Y09	加害にもとづく傷害および死亡	0
Y10-34	不慮か故意か決定されない事件	0
Y35-36	法的介入および戦争行為	0
Y40-84	内科的および外科的ケアの合併症	0
Y85-89	傷病および死亡の外因の続発・後遺症	0
Y90-98	他に分類される傷病および死亡の原因に関係する補助的因子	0
第21章	健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	0
Z00-13	検査および診査のための保健サービスの利用者	0
Z20-29	伝染病に関連する健康傷害をきたす恐れのある者	0
Z30-39	生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者	0
Z40-54	特定の処置および保健ケアのための保健サービスの利用者	0
Z55-65	社会経済的環境および社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者	0
Z70-76	その他の環境下での保健サービスの利用者	0
Z80-99	家族歴、既往歴および健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者	0
第22章	特殊目的用コード	151
U07	COVID-19	151

診　療　部

―― 2024年 ――

1）内　　科　26
2）循環器内科（カテーテル部門）　33
3）消化器内科　35
4）呼吸器内科　36
5）腫 瘍 内 科　37
6）血管透析科（腎不全対策･関連診療科）　39
7）腎 臓 内 科　43
8）糖尿病・代謝内科　44
9）脳神経内科　47
10）膠原病リウマチ内科　48
11）小　児　科　49
12）放 射 線 科（診療部）　51
13）救　急　科　52
14）集中治療科　55
15）外　　科　59
16）整 形 外 科　61
17）脳神経外科　65
18）心臓血管外科・心臓血管センター　67
19）形成外科・美容外科　70
20）呼吸器外科　72
21）小 児 外 科　74
22）歯科・歯科口腔外科　77
23）泌 尿 器 科　80
24）眼　　科　81
25）麻　酔　科　83
26）肝臓センター　85
27）皮　膚　科　90
28）婦　人　科　91
29）耳鼻咽喉科　92
30）病理診断科　93

1）内　科

病院長　原田　博雅

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病代謝内科　44
脳神経内　47
膠原リウ　48
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
集中治療　55
外　科　59
整形外科　61
脳神経外　65
心臓血管心臓血セ　67
形成外科美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　90
婦人科　91
耳鼻咽喉　92
病理診断　93

1. 概要

一般内科は、糖尿病や高血圧などの慢性疾患から、急性肺炎、尿路感染症、うっ血性心不全などの、急性疾患まで取り扱っております。現代では、医療の専門性が細分化したことにより、患者様自身で適切な診療科を選択しかねる症状が増えてきました。八尾徳洲会総合病院でも、その地域性により当院には幅広い年代の患者様が様々な症状を訴えられ当院を受診されます。当科ではどの診療科に受診すべきかわからない患者様に対して最初の窓口としての役割を担います。また、一般的な疾患に対しての治療と、循環器科など専門治療への紹介の橋渡しを行います。また、健康診断でいくつかの臓器にわたる異常を指摘され、受診する診療科に困った際にも一般内科を案内させていただきます。

診断のついていない健康問題を抱える患者様 に対して臓器の枠にとらわれない横断的な知識を活かして、幅広い医療を提供することを目標 にしています。臨床の経験に富んだ医師が、診断・治療に難渋する患者様の問題解決に尽力しています。診断の結果専門診療科への紹介が好ましい場合は、院内紹介や他施設への紹介を速やかに行い、対応していきます。

2. メンバー構成

循環器	福田貢（総長）、松尾浩志（部長）、高橋直也、原田貴臣、高橋圭 田辺悠馬、熊田博斗
呼吸器	原田博雅（院長）、石原英樹（副院長）、原田祥子
消化器	浅野耕吉、中島ひろみ（医長）
糖尿病・代謝	石橋里江子（部長）、植田秀樹、堀川慶子、羽鳥広隆
腫瘍	瓜生恭章（副院長）
脳神経内科	辰己新水（部長）
腎臓	森ちさこ（医長）
膠原病	古川牧緒
総合診療	高原良典（部長）、橋本泰、康天志

3. 実績

《退院患者数》

◎内　科

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
419	402	399	415	432	411	427	435	363	416	373	473	4,965

4. 今後の目標

常に質の高い医療を提供できるように努めて参ります。

1.感染症および寄生虫症（A00-B99）

疾　　病	件	疾　　病	件
敗血症	70	非結核性抗酸菌症	4
（MRSA）	（11）	サルモネラ感染症	4
（連鎖球菌）	（6）	（腸炎）	（2）
細菌感染症	41	カンジタ菌血症	3
（大腸菌）	（9）	肺結核	3
（溶連菌）	（4）	ウイルス感染症	2
（緑膿菌）	（2）	レジオネラ肺炎	2
腸炎	25	ニューモシスチス肺炎	1
（ウイルス性）	（3）	進行性多巣性白質脳症	1
細菌性腸炎	16	単純ヘルペス脳炎	1
（偽膜性）	（7）	伝染性単核症	1
（カンピロバクター）	（2）	肺アスペルギルス症	1
ウイルス性髄膜炎	5	その他	7
帯状疱疹	5	合　計	192

2.新生物（C00-C97）※術後・再発・化学療法を含む

疾　　病	件	疾　　病	件
肺	143	悪性中皮腫	3
胃	55	甲状腺	2
悪性リンパ腫	24	前立腺	2
食道	17	胆管	2
転移癌	15	乳房	2
（胸膜）	（7）	直腸S状部	2
（脳）	（4）	尿道	2
（肺）	（3）	卵巣	2
（骨）	（1）	膀胱	2
結腸	13	腎	1
直腸	8	多発性骨髄腫	1
悪性中皮腫	4	尿管	1
多発性骨髄腫	4	脳	1
卵巣	4	その他	8
腎	3	合　計	321

◎上皮内・良性・性状不詳または不明の新生物（D00-D48）

〈良性腫瘍〉　　〈性状不詳・不明〉

疾　　病	件	疾　　病	件
結腸腺腫	10	骨髄異形成症候群	6
胃腺腫	9	肺腫瘍	5
盲腸腺腫	8	結腸腫瘍	3
直腸腺腫	2	胸壁腫瘍	1
特発性多中心性キャッスルマン病	1	副腎腫瘍	1
		その他	6
合　計	30	合　計	22

3.血液および造血器の疾患、免疫障害（D50-D89）※輸血目的の再入院を含む

疾　　病	件	疾　　病	件
貧血症	32	サラセミア	1
（急性失血性）	(12)	トルソー症候群	1
（鉄欠乏性）	(8)	血小板減少症	1
（葉酸欠乏性）	(4)	好酸球増加症	1
血球貧食症候群	3	再生不良性貧血	1
好中球減少症	3	その他	4
慢性特発性血小板減少性紫斑病	2	合　計	49

4.内分泌、栄養および代謝疾患（E00-E90）

疾　　病	件	疾　　病	件
Ⅰ型糖尿病	12	低血糖	12
（ケトアシドーシス）	(6)	低カリウム血症	10
（合併症なし）	(3)	高カリウム血症	9
（眼合併症）	(2)	高カルシウム血症	7
（神経学的合併症）	(1)	電解質異常	7
Ⅱ型糖尿病	93	アシドーシス	6
（合併症なし）	(32)	低アルブミン血症	5
（ケトアシドーシス）	(19)	甲状腺機能亢進症	2
（その他の合併症）	(17)	低カルシウム血症	2
（多発合併症）	(9)	亜急性甲状腺炎	1
（高血糖高浸透圧症候）	(7)	下垂体機能低下症	1
（眼合併症）	(3)	水中毒	1
（腎合併症）	(3)	低栄養	1
脱水症	31	その他	3
低ナトリウム血症	24	合　計	227

5.精神および行動の障害（F00-F99）

疾　　病	件	疾　　病	件
アルコール依存症	4	摂食障害	1
急性アルコール中毒	4	双極性感情障害	1
拒食症	1	その他	2
心身症	1	合　計	14

6.神経系の疾患（G00-G99）

疾　　病	件	疾　　病	件
てんかん	15	トッド麻痺	1
パーキンソン病	11	ミトコンドリア脳筋症	1
低酸素性脳症	8	悪性症候群	1
周期性四肢麻痺	3	一過性脳虚血発作	1
神経核内封入体病	2	化膿性脳髄膜炎	1
水頭症	2	視神経脊髄炎	1
多系統萎縮症	2	その他	12
アルツハイマー型認知症	1	合　計	62

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　47
膠原リウ　48
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
集中治療　55
外　科　59
整形外科　61
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　90
婦人科　91
耳鼻咽喉　92
病理診断　93

7.耳および乳様突起の疾患(H60-H95)

疾　　病	件	疾　　病	件
めまい症	16	内リンパ水腫	3
(末梢性)	(10)	その他	1
(回転性)	(3)	合　計	20

8.循環器系の疾患(I00-I99)※検査入院を含む

◎心血管

疾　　病	件	疾　　病	件
心不全	464	冠状動脈狭窄症	55
(うっ血性)	(296)	房室ブロック	39
(左室)	(100)	陳旧性心筋梗塞	22
(慢性)	(51)	虚血性心筋症	17
(急性)	(7)	たこつぼ型心筋症	14
狭心症	332	蘇生に成功した心停止	10
(労作性)	(50)	肺血栓塞栓症	10
(不安定)	(38)	洞不全症候群	9
(3枝病変)	(20)	大動脈弁狭窄症	8
冠状動脈硬化症	287	冠状動脈閉塞症	5
急性心筋梗塞	106	心室細動	5
(下壁)	(41)	徐脈性心房細動	4
(前壁)	(28)	低血圧症	4
(後壁)	(5)	感染性心内膜炎	3
(側壁)	(5)	その他	40
虚血性心疾患	59	合　計	1,493

◎脳血管

疾　　病	件	疾　　病	件
脳梗塞	10	脳出血	1
(後遺症)	(4)	その他	3
高血圧脳症	1	合　計	15

◎その他の血管

疾　　病	件	疾　　病	件
下肢閉塞性動脈硬化症	174	毛細血管拡張症	4
(壊疽あり)	(3)	解離性大動脈瘤	2
重症虚血肢	37	うっ滞性皮膚炎	1
食道静脈瘤	7	非特異性腸間膜リンパ節炎	1
(破裂)	(3)	その他	4
深部静脈血栓症	5	合　計	235

9.呼吸器系の疾患（J00-J99）

疾　　病	件	疾　　病	件
肺炎・病原体不詳	451	呼吸不全	18
（気管支）	(78)	肺炎球菌肺炎	15
（大葉性）	(4)	肺気腫	11
誤嚥性肺炎	331	過敏性肺炎	7
間質性肺炎	98	急性気管支炎	7
（薬剤性）	(4)	膿胸	5
細菌性肺炎	90	肺水腫	5
（マイコプラズマ）	(14)	肺膿瘍	5
（MRSA）	(6)	インフルエンザ菌肺炎	4
慢性閉塞性肺疾患	52	気胸	3
気管支喘息	44	急性呼吸窮迫症候群	3
（発作）	(23)	急性扁桃炎	3
胸水貯留	20	ウイルス性肺炎	2
インフルエンザ	19	その他	12
（肺炎を伴う）	(3)	合　計	1,205

10.消化器系の疾患（K00-K93）

◎食道、胃、十二指腸

疾　　病	件	疾　　病	件
逆流性食道炎	3	胃潰瘍	20
出血性食道潰瘍	1	（出血性）	(15)
食道狭窄	1	（急性）	(3)
十二指腸潰瘍	13	胃前庭部毛細血管拡張症	4
（出血性）	(9)	胃ポリープ	4
（急性）	(2)	胃穿孔	1
急性十二指腸粘膜病変	1	表層性胃炎	1
十二指腸ポリープ	1	その他	2
十二指腸狭窄症	1	合　計	53

◎その他の腸疾患

疾　　病	件	疾　　病	件
腸憩室疾患	45	潰瘍性大腸炎	3
大腸ポリープ	17	S状結腸軸捻転	2
急性虚血性腸炎	16	出血性直腸潰瘍	2
消化管出血	9	内痔核	2
便秘症	5	横隔膜ヘルニア	1
イレウス	4	腸管気腫症	1
腸腰筋膿瘍	4	その他	4
直腸ポリープ	3	合　計	118

◎肝疾患

疾　　病	件	疾　　病	件
肝硬変	15	肝膿瘍	1
（アルコール性）	(7)	脂肪肝	1
肝不全	4	合　計	21

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　47
膠原リウ　48
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
集中治療　55
外　科　59
整形外科　61
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　90
婦人科　91
耳鼻咽喉　92
病理診断　93

◎胆嚢、胆管、膵

疾　　病	件	疾　　病	件
総胆管結石	35	急性膵炎	9
（胆管炎を伴う）	(6)	（アルコール性）	(2)
（胆のう炎を伴う）	(1)	慢性膵炎	9
急性胆管炎	25	（アルコール性）	(4)
総胆管狭窄症	1	自己免疫性膵炎	3
胆管拡張症	1		
胆石仙痛	1	合　計	84

11.皮膚および皮下組織の疾患（L00-L99）

疾　　病	件	疾　　病	件
蜂窩織炎	33	急性湿疹	1
褥瘡	4	頚部リンパ節炎	1
皮膚潰瘍	2	中毒性表皮壊死症	1
薬疹	2	腹部膿瘍	1
アレルギー性じんま疹	1	合　計	46

12.筋骨格系および結合祖組織の疾患（M00-M99）

疾　　病	件	疾　　病	件
横紋筋融解	17	関節リウマチ	3
関節リウマチ性間質性肺炎	6	腰椎化膿性脊椎炎	3
偽痛風	6	成人発症スチル病	3
顕微鏡的多発血管炎	6	多発関節炎	3
ANCA関連血管炎	5	廃用症候群	3
リウマチ性多発筋痛	4	その他	14
壊死性筋膜炎	3	合　計	76

13.腎尿路生殖器系の疾患（N00-N99）

疾　　病	件	疾　　病	件
慢性腎臓病	156	腎盂腎炎	3
尿路感染症	127	水腎症	3
急性腎盂腎炎	64	子宮留膿症	2
急性腎不全	22	陰のう水腫	1
急性腎障害	10	尿毒症	1
ネフローゼ症候群	8	その他	4
結石性腎盂腎炎	8	合　計	409

14.先天性奇形、変形および染色体異常（Q00-Q99）

疾　　病	件
常染色体顕性（優性）多発性のう胞腎	1
合　計	1

15.症状、徴候および以上臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの（R00-R99）

疾　　病	件	疾　　病	件
意識障害	5	不明熱	2
食欲不振	4	喀血	2
窒息	3	CO2ナルコーシス	1
痙攣発作	3	その他	14
徐脈	2	合　計	36

16.損傷、中毒およびその他の外因の影響（S00-T98）

疾　　病	件	疾　　病	件
脊椎圧迫骨折	15	坐骨骨折	2
急性薬物中毒	14	大腿骨骨折	2
熱中症	14	サイトカイン放出症候群	1
アナフィラキシー	13	ポート感染症	1
ペースメーカー電池消耗	7	異物誤飲	1
透析シャント閉塞	3	外傷性くも膜下出血	1
カテーテル関連尿路感染症	2	その他	11
偶発性低体温	2	合　計	89

17.特殊目的用コード（U00-U99）

疾　　病	件
COVID-19	147
合　計	147

4. 今後の目標

常に質の高い医療を提供できるように努めて参ります。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　47
膠原リウ　48
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
集中治療　55
外　科　59
整形外科　61
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　90
婦人科　91
耳鼻咽喉　92
病理診断　93

2）循環器内科（カテーテル部門）

循環器内科部長　松尾　浩志

1. 概要

循環器内科は救急医療の最前線で重要な役割を担い、心臓外科と連携して 24 時間体制の救急対応を整えています。幅広い循環器疾患の診療を行う中でも、特に虚血性心疾患および末梢動脈疾患の治療に注力しています。

虚血性心疾患では冠動脈高度石灰化症例に対する Rotablator や Diamondback といった先端医療機器を駆使した治療を行っており、全国トップクラスの症例数を誇っています。また、特殊なレーザーにより血栓やプラークを消失させるエキシマレーザーも導入し、より高度な治療を提供しています。

末梢動脈疾患では、増加傾向にある下肢閉塞性動脈硬化症に対して積極的なカテーテル治療を行っています。下肢壊疽や潰瘍といった重症虚血肢に対しては、形成外科による創傷ケアセンターと協力しながら包括的な診療を実現しています。高度石灰化病変を伴う大腿膝窩動脈病変に対しては、Jetstream を新規導入し治療施行しております。

部長の松尾は海外での治療および指導経験が豊富で、国際交流が活発な診療科です。海外からの見学受け入れや、国内外の学会発表を積極的に行っています。

今年度から新たに不整脈部門も新設し、不整脈に対するカテーテル治療も開始予定となっています。

2. メンバー構成

福田貢（総長）・松尾浩志（循環器内科部長）・髙橋直也・原田貴臣・髙橋圭・田辺悠馬・熊田博斗

3. 実績

	2022 年	2023 年	2024 年
PCI	765	737	749
末梢血管 EVT	230	251	233
ペースメーカー	33	9	22
リードレスペースメーカー	2	20	18
ローターブレーター	215	214	221
ダイアモンドバック	34	26	68
ショックウェイブ	−	43（新規導入）	28
エキシマレーザー	57	81	61
Jetstream	−	15（新規導入）	21

《外来患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
1,639	1,621	1,646	1,855	1,783	1,758	1,703	1,643	1,675	1,681	1,705	1,930	20,639	1,720

4. 今後の目標

最先端の血栓吸引デバイスも導入予定です。また近年患者数が増加している大動脈弁狭窄症に対するカテーテル治療の施設認定を予定しています。これまで以上に質の高い、的確な医療サービスを提供し、地域医療に貢献して参ります。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病代謝内科　44
脳神経内　47
膠原リウ　48
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
集中治療　55
外　科　59
整形外科　61
脳神経外　65
心臓血管心臓血セ　67
形成外科美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　90
婦人科　91
耳鼻咽喉　92
病理診断　93

3）消化器内科

消化器内科　中島　ひろみ

1. 概要

当院の内視鏡室では、消化管内視鏡検査・治療を施行しております。内視鏡適応症例に関しましては、ESD をはじめとして食道拡張術、食道・胃静脈瘤に対する硬化療法など様々な治療を積極的に行っています。

又、消化管出血などの緊急性を有する処置に関しても止血術･異物除去をはじめとして、様々な治療を行っております。

下部消化器内視鏡検査では、ポリペクトミーや内視鏡的粘膜切除術（EMR）を日帰りで行っています。一括切除できない病変もしくは、出血リスクがあるポリープに対しては、入院での治療を行っております。　胆膵領域では、閉塞性黄疸や化膿性胆管炎、癌の胆管狭窄・閉塞に対し内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP）を行っており、超音波内視鏡（EUS)、FNA 関連手技（EUS － FNA）も行っております。

日本消化器内視鏡学会の推奨する日本消化器内視鏡データベースプロジェクト（JED：他施設共同研究事業）にも参加しています。

その他内視鏡室では、安全な検査・治療を行うためにスコープ・処置具の洗浄消毒への取り組みに力を入れています。

2. メンバー構成

学会認定

医長　中島　ひろみ　日本内科学会認定専門医、日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医、日本超音波医学会専門医
羽鳥　葵　日本内科学会認定専門医

3. 実績

内視鏡業務	
上部消化管内視鏡検査	5,341
下部消化管内視鏡検査	2,652
ERCP	440
気管支鏡	105
ESD（上・下を含む）	113
ポリペク	765
EMR	468
硬化療法（EVL/EIS）	27
止血術	118
超音波内視鏡 /EUS-FNA	89/29

4. 今後の目標

患者さまに対し、より苦痛の少ない検査、質の高い検査・治療を目指していきたいと考えております。

4）呼吸器内科

副院長　石原　英樹

1. 概要

当院にはこれまでも呼吸器内科常勤医は常に在籍状態にあったのですが、呼吸器内科として正式に標榜するようになったのは 2016 年 4 月からとなります。肺癌に関しては腫瘍内科が診療の中心になるので、当科では主に肺癌以外の呼吸器疾患（COPD、間質性肺炎など）を診療しています。それに加えて、呼吸リハビリテーションチームとして、院内の呼吸管理のコンサルト業務もおこなっています。2018 年 4 月からは濱口眞成医師が加わり、マンパワー的にも充実しつつあります。

また、呼吸器内科・人工呼吸領域での学会活動も積極的におこなっています。

2020 年以来の新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、当科と集中治療部を中心に中等症・重症患者の診療を担っています。特に ICU では、人工呼吸管理だけではなく ECMO 管理も含めた集学的治療を行っています。

2. メンバー構成

院長	原田　博雅	日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器専門医 日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器学会指導医・専門医
副院長	石原　英樹	日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医
医員	原田　祥子	日本内科学会総合内科専門医

3. 実績

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
489	551	474	534	588	489	563	549	548	664	608	545	6,602

4. 今後の目標

現在、中河内地区で呼吸器内科を標榜している病院がほとんどないのが現状です。今後これらの地域を含めた呼吸器診療の一助になれるよう努力していく所存です。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　47
膠原リウ　48
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
集中治療　55
外　科　59
整形外科　61
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　90
婦人科　91
耳鼻咽喉　92
病理診断　93

5）腫瘍内科

腫瘍内科部長　瓜生　恭章

1. 概要

・腫瘍内科は常勤医２名、非常勤医１名の体勢になりました。
・血液腫瘍の診療は少ないですが、非常勤医師の洪先生に診ていただいています。
・腫瘍内科本来の臓器横断的な薬物療法ができていない現状は、未だ継続しています。
・消化器・呼吸器外科、肝臓センター、泌尿器科の先生方に協力を得て、固形がんに対する化学療法ができています。
・当院には抗がん剤に精通したがん専門薬剤師が３名、及び、がん薬物療法認定看護師が２名に増え、より質の高い診療、加療が行われております。
・看護部の協力もあり、化学療法がより安全確実に行える体勢が整っております。
・がん薬物療法看護師の育成にも力を入れています。
・臨床腫瘍センターでの看護業務の中で認定看護師として必要な知識の習得を目指し、積極的に認定看護師教育機関への入学支援を行っています。
・本年度　上田　晴香が、がん化学療法看護認定看護師資格を得ました。
・呼吸器腫瘍に関しては、全国の徳洲会呼吸器部会で行っているカンファレンスを通じて、治療介入が難しい症例の治療方針についての相談を行っており、適正な標準治療が行えるように、腫瘍内科、呼吸器外科と協力し治療を行っています。

2. メンバー構成

部長

瓜生　恭章　　資格／日本臨床腫瘍学会　がん薬物療法専門医
日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医
専門分野／各種固形がん（肺がん、乳がん、胃がん、膵臓がんなど）

原田　祥子　　資格／日本内科学会総合内科専門医
専門分野／各種固形がん（肺がん）

非常勤医師

洪　　鉉寿　　資格／日本臨床腫瘍学会　がん薬物療法専門医
日本内科学会総合内科専門医、日本消化器病学会専門医
日本血液学会専門医
専門分野／各種固形がん（肺がん、大腸がん、胃がん、
悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など）

副部長（薬剤部兼任、臨床腫瘍センター専任副部長）

山本　倫数　　資格／日本医療薬学会がん専門薬剤師
専門分野／臨床薬理学

薬局長（薬剤部兼任）

草薙　みか　　資格／日本医療薬学会がん専門薬剤師
専門分野／臨床薬理学

副主任（薬剤部兼任）
薬剤師（主任）
青山　瑛里子
専門分野／臨床薬理学
薬剤師（副主任）
濱田　達志　資格／日本医療薬学会がん専門薬剤師
専門分野／臨床薬理学
主任（看護部兼任）
苗代　啓子　資格／がん化学療法看護認定看護師
専門分野／がん看護
上田　晴香　資格／がん薬物療法看護認定看護師
専門分野／がん看護
赤埴　広美　専門分野／がん看護

3. 実績

《外来患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
201	236	234	220	225	190	205	198	206	197	175	197	2,484	207

4. 今後の目標

市中病院でも標準治療を行えるように今後も努力していきます。
がん薬物療法を受ける患者様が安心して、加療ができる環境を維持していきます。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　47
膠原リウ　48
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
集中治療　55
外　科　59
整形外科　61
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　90
婦人科　91
耳鼻咽喉　92
病理診断　93

6）血管透析科（ 腎不全対策・関連診療科 ）

透析センター長　申　勝

1. 概要

2024 年は、常勤医師 3 名・非常勤医師 4 名 の診療体制となっています。また、看護師（15 名）、薬剤師（兼任 3 名）、臨床工学技士（兼任 4 名）、管理栄養士（兼任 3 名）、医事課の透析スタッフが、入院と通院を合わせて約 100 名の透析患者さまの対応をしています。

センター関連の総入院患者数は継続して増加の方向にあり、昨年のべ 1,271 例の内訳は 男：女＝ 2.3：1, 平均年齢 ; 73.7 歳 , 糖尿病有病率 ; 58.9％ , 年間救急搬送率 ; 47.2％（600 件）でした。特に 75 歳以上の後期高齢者は、総入院患者数の 49.5％ と半数を占め、救急搬送率 ; 55.7％ と増加しました。内科系：外科系＝ 1.72：1 と、内科系入院が全体の 63.3％ を占めています。2019 年末から世界的流行の 新型コロナウィルス感染症（COVID-19）に対しては、他施設や行政との緊密な連携の上で、地域の診療体制継続と感染拡大防護に多職種で徹底して取り組んでいます。

2012 年 4 月より当院においても CAPD 外来が開設され、2024 年 12 月末までに 67 名の方が腹膜透析を開始されました。12 月末時点で PD 終了者と他施設の通院患者を除く 7 名が、当院を通院し腹膜透析を継続されています。腎移植については、専門外来の開設準備として腎移植委員会を 2021 年 10 月に立ち上げました。経過については定期的に報告して参ります。大阪府中河内地域における救急搬送腎不全患者の動向について、2024 年 6 月に 森 ちさこ が日本透析医学会において報告しました。

経年的集計より透析センター関連での入院患者数と緊急透析数の増加を認めており、重症度に適合した対応をしています。2016 年より風水害対策としての地域防災連携協議会を当院でも開き、臨床工学技士を中心に多職種チームとして活動しています。万一の災害時には、迅速に広域的に展開していく方針です。

2. メンバー構成：透析センター診療担当医師

血液透析主担当：申　勝（血管・透析内科）
腹膜透析主担当：森　ちさこ（腎臓・免疫内科）
病棟管理主担当：玉城　裕史（透析・膠原病科）
集中治療室担当：石原　英樹（呼吸器内科）
循環器診療担当：福田　貢（循環器内科）
糖尿病診療担当：植田　秀樹（糖尿病内科）
透析室支援担当：寺川　知良（泌尿器科非常勤）
移植外来主担当：未登録（腎移植外科）

3. 実績

《外来患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
1,073	997	1,060	1,030	1,022	923	1,026	969	888	989	953	968	11,898	992

《透析センター月別患者数》（2024年）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
透析患者数（月平均）	91.6	105.1	99.0	95.1	93.7	92.1	90.2	92.6	88.2	78.7	84.5	94.8	1,105.6	92.1
新入院数	129	117	93	117	105	96	103	129	88	95	99	100	1,271	105.9
新規導入数	5	7	6	1	7	1	3	2	1	2	0	5	40	3.3
CAPD開始数	0	0	0	1	0	0	2	1	0	0	0	1	5	0.4
シャント手術数	9	5	6	4	4	3	2	4	1	4	3	3	48	4.0
PDカテ留置数	0	0	0	1	0	0	2	1	0	0	0	1	5	0.4
死亡者数	6	5	2	1	10	5	9	5	4	3	3	7	60	5.0

注1：透析患者数には、当院への通院患者を含みます。 新規導入数には、PD患者も含みます。
注2：新入院数は透析ｾﾝﾀｰに紹介された患者の総数であり、腎不全患者なども含みます。
注3：死亡者数は、腎代替療法を行い透析患者登録されたことのある患者の総死亡数です。

《診療科別入院透析患者数（のべ人数）》（2024年）

内科系	総合	呼吸器	循環器	消化器	肝臓	腎臓(CAPD)	膠原病ﾘｳﾏﾁ	糖尿病代謝	血管(その他)	合計
科別人数	57	181	280	30	2	162	74	15	3	804

外科系	脳神経	呼吸器	心臓血管	消化器	肝臓	泌尿器	整形(ﾘｳﾏﾁ)	眼・耳・歯	形成(末梢)	合計
科別人数	71	11	58	92	47	24	51	34	79	467

注4：複数科にまたがる場合は、入院時の主診療科にて登録しました。

《年齢別入院分類表》

令和6年度(2024年) 八尾徳洲会総合病院 透析センター	20歳～65歳未満の入院患者（～19歳の入院なし） 259名(20.4%)	65歳～75歳未満の入院患者（前期高齢者） 323名(25.4%)	75歳以上～の入院患者（後期高齢者） 689名(54.2%)	透析センターに紹介された全ての入院患者を対象（外来 or 紹介） 1,271名(100.0%)
男女比(男:女)	3.7：1	2.4：1	1.9：1	2.3：1
平均年齢	54.8歳	70.3歳	82.3歳	73.7歳
救急搬送率	35.5%	38.4%	55.7%	47.2%
糖尿病の有病率	72.2%	60.1%	53.1%	58.8%
ICUの入室率	15.8%	16.7%	12.6%	14.3%
緊急透析の有無	6.2%	8.7%	6.5%	7.0%
入院中 手術あり	39.4%	33.1%	22.2%	28.5%
入院中 カテあり	27.0%	26.0%	12.1%	18.7%
死亡率 入院時から一週間(168時間)	2.3%	5.3%	8.1%	6.2%

内科 26
循環器内 33
消化器内 35
呼吸器内 36
腫瘍内科 37
血管透析 39
腎臓内科 43
糖尿病代謝内科 44
脳神経内 47
膠原リウ 48
小児科 49
放射診科 51
救急科 52
集中治療 55
外科 59
整形外科 61
脳神経外 65
心臓血管心臓血セ 67
形成外科美容外科 70
呼吸器外 72
小児外科 74
歯科歯科口腔 77
泌尿器科 80
眼科 81
麻酔科 83
肝臓セン 85
皮膚科 90
婦人科 91
耳鼻咽喉 92
病理診断 93

《年齢血液浄化表》

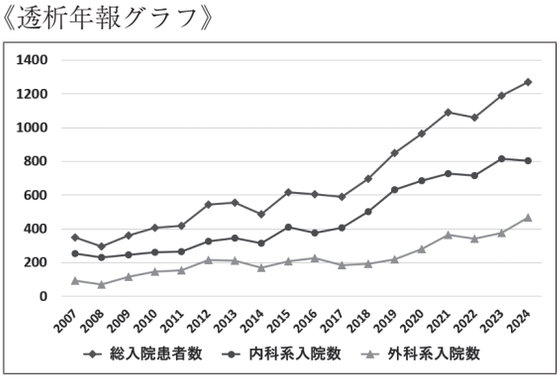
令和6年度(2024年) 八尾徳洲会総合病院 透析センター	20歳～65歳未満の 入院患者 (～19歳の入院なし) 259名	65 歳～75 歳未満の 入院患者 (前期高齢者) 323名	75 歳以上の 入院患者 (後期高齢者) 689名	透析センターに 紹介された 入院患者(全体)を 対象(外来 or 紹介) 合計1,271名
緊急HD(初回時)	8	10	24	計42件
緊急CHDF(初回時)	8	18	21	計47件
CHDFの年間全件数 (緊急/ICU/術後etc.)	11	28	35	計74件(のべ609回)
エンドトキシン吸着療法 (PMX-DHP)	0	0	0	計0件(のべ0回)
血漿交換(PE)	1	0	0	計1件(のべ4回)
ビリルビン吸着療法	0	0	1	計1件(のべ2回)
LDLアフェレーシス	3	5	1	計9件(のべ52回)
血球吸着療法 (LCAP、GCAP)	1	0	0	計1件(のべ8回)

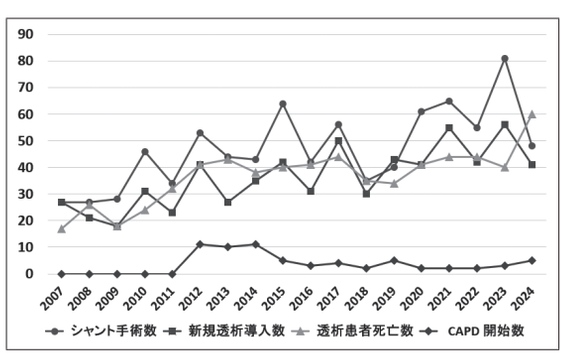
《病院全体での比較》

令和6年度(2024年) 八尾徳洲会総合病院 透析センター	病院全体での 年間入院患者 (医事課の集計より) 11,600名(100%)	病院全体の年間 救急搬送後入院 (病院全体の37.3%) 4,324名(100%)	透析センター関連の 年間入院患者 (病院全体の11.0%) 1,271名(100%)	透析センター関連の 年間救急搬送後入院 (病院全体の5.2%) 600名(100%)
男女比 (男：女)	1.3：1	1.2：1	2.3：1	2.0：1
平均年齢 (歳)	71.2歳	76.3歳	73.7歳	76.2歳
内科系入院数	5.547名 (47.8%)	3,114名 (72.0%)	804名 (63.3%)	403名 (67.2%)
外科系入院数	6,053名 (52.2%)	1,210名 (28.0%)	467名 (36.7%)	197名 (32.8%)

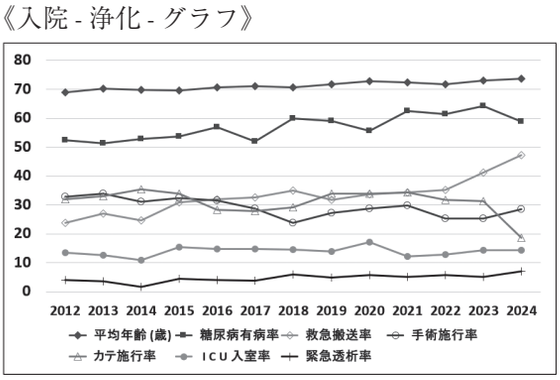
【病院救急搬送数】 年間 10,721 件 (月平均 893 件)

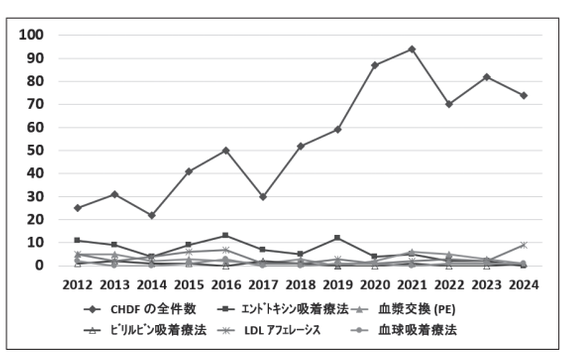
《透析年報グラフ》





《入院 - 浄化 - グラフ》





《週間当番表》

透析室 待機表	月	火	水	木	金	土
午前	申	森	玉城	寺川	申	申
午後	玉城	申	申	玉城	森	申
休日	申 （玉城）	申 （石原）	玉城 （申）	寺川 （玉城）	玉城 （申）	申 （福田）

4. 今後の目標

近隣の先生方の御指導のもと、他施設および他診療科と協力して、より高度な集学的治療および看護を提供できるように一層の基幹施設整備を行います。腎移植実施に向けて徳洲会グループの湘南鎌倉総合病院と連携し、2021 年－秋－から準備を開始しています。また、地域の腎不全患者の－新規透析導入・入院加療・災害対策－の総合施設としての役割を担えるよう、スタッフ一同協力し引き続き努力していく所存です。今後とも宜しくお願い申し上げます。

（ 申　勝 ）

2023 年 2 月～ 2024 年 12 月の玉城 裕史（医師）の任期に伴い、透析室管理医師が 1 名増員となりました。2025 年からも医師交替を含め対処して参ります。若い人から高齢者までの幅広い年齢の患者さまに、腎移植と腹膜透析を含めた適切な治療選択を提供して参りたいと考えています。腎不全治療の 3 本柱（移植・血液透析・腹膜透析）を基礎とし、グループ病院の特性を生かし、今後の高齢化・独居の患者さまにも対応したいと思います。今後とも宜しくお願い申し上げます。

（ 森　ちさこ ）

本邦では透析を行うべき疾患や対応すべき災害が年々増大しており、現在の対策は限界に近づきつつあります。八尾市周辺で急性期対応できる施設は当院を含めて一部に限定されますが、今後は他施設と連携して拡充した地域対策を行います。血液透析という治療が標準となる様に早期に実現したいと考えています。どうかご支援の程宜しくお願い申し上げます。

（ 玉城　裕史 ）

内　科 26
循環器内 33
消化器内 35
呼吸器内 36
腫瘍内科 37
血管透析 39
腎臓内科 43
糖尿病 代謝内科 44
脳神経内 47
膠原リウ 48
小児科 49
放射診科 51
救急科 52
集中治療 55
外　科 59
整形外科 61
脳神経外 65
心臓血管 心臓血セ 67
形成外科 美容外科 70
呼吸器外 72
小児外科 74
歯　科 歯科口腔 77
泌尿器科 80
眼　科 81
麻酔科 83
肝臓セン 85
皮膚科 90
婦人科 91
耳鼻咽喉 92
病理診断 93

7）腎臓内科

腎臓内科医長　森　ちさこ

1. 概要

2017 年 4 月から常勤医として働いています。2017 年 11 月より、前任の今田聰雄先生の患者様も引き継ぎ診させていただいています。腎炎、糖尿病性腎症などの腎不全を診ています。

最大の特色は腹膜透析の導入･施行をしていることです。検尿異常から発見される腎炎（IgA 腎症・ANCA 関連血管炎）も診断・早期治療に尽力しています。腎炎から慢性腎不全と幅広く対応させていただいております。透析に至らないことが目標ですが､残念ながら腎不全に至った場合でも当院では療法選択をすることができます。

2. メンバー構成

森　ちさこ（医長）

日本内科学会認定医・日本透析学会専門医・日本腎臓学会員

外来診察日　火曜（午前）・木曜（午後）・金曜（午前）

3. 実績

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
247	236	252	259	252	242	220	261	260	291	287	272	3,079

3. 今後の目標

近年の傾向として、糖尿病性腎症を主とした腎不全、腎硬化症の患者様が増えています。腎不全に至った場合でも、腹膜透析・血液透析・移植と 3 つの治療法を提案していきたいと思います。腎炎の患者様も積極的に診ております。検尿異常からの早期発見に力をいれています。腎生検による診断、ステロイド治療をしていきます。中河内地域に多い ANCA 関連血管炎も多く診させて頂いています。難病指定医ですので､医療費に関わる申請をさせていただきます。

また多発性のう胞腎を積極的に診察しています。難病申請により医療費を軽減したうえで、進行抑制できるトルバプタンの認定医であるため導入が可能です（導入には 1 泊入院が必要）。開業医の先生方には、疑わしい症例がありましたら、また腎機能障害の方がいらっしゃれば御紹介頂けると幸いです。可能な限り当日紹介も診させて頂きます。

8）糖尿病・代謝内科

糖尿病代謝内科部長　石橋　里江子

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病代謝内科　44
脳神経内　47
膠原リウ　48
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
集中治療　55
外　科　59
整形外科　61
脳神経外　65
心臓血管心臓血セ　67
形成外科美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　90
婦人科　91
耳鼻咽喉　92
病理診断　93

1. 概要

2024 年は入院を担当する常勤医が増員となり、診療看護師も加わったことで例年に比べ充実した体制となりました。院内の糖尿病患者数は増加傾向にあり、当科では 1 日あたり全病床数の 1 割にあたる 40 例内外をマネジメントしています。1 型糖尿病患者の増加に伴い、CSII（インスリンポンプ療法）も導入しました。糖尿病外来では合併症パスを改訂し、糖尿病透析予防指導も軌道に乗せることができました。また、肥満症治療に対応する準備も整いました。

例年通り、糖尿病教室は公開医療講座として、2 月と 8 月を除き月 2 講演ずつハイブリッド形式で行いました。11 月 14 日には当院で 7 回目となる世界糖尿病デーの院内イベントを開催しました。

今後も地域における糖尿病診療の中核を担うべく、チームで協力しながら体制を強化していく所存です。

2. 糖尿病ケアチーム構成メンバー　（★日本糖尿病学会専門医　○糖尿病療養指導士）

【常勤医師】　★石橋里江子　髙原良典（総合内科部長）　★植田秀樹　★堀川慶子　羽鳥広隆
【診療看護師】　髙橋博之
【保健師】　○酒井菜穂子　○藤井安希子　○西村千恵　大谷康仁　牧田美奈　魚田緋那
【薬剤師】　○坂野千賀　○森田亜記　○栗野大輔　小田麻優子　清水麻理子
竹村姫穂　大槻玲子　上出茉柚　山本実伶奈
【理学療法士】　○服部玄徳　西田知哉
【管理栄養士】　佐藤友亮　坂本美紀子　八坂陽菜　篠田歩実　尾鼻千波
【臨床検査技師】　○髙津美乃里　大前裕也　戸野川始　○松村知里　上紺屋利則　山尾克樹
【臨床心理士】　宮坂なつ花　藤原恭子　田原一樹
【看護師】　井本ユミ
【医事課】　寺田将彰　五十嵐稀吏

3. 実績

1）糖尿病外来患者数

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
764	734	786	890	849	826	902	872	799	965	794	970	10,151

2）糖尿病入院担当件数　482 件 / 年　（主科 128 件含む）

3）『世界糖尿病デー　in YAOTOKU』　2024 年 11 月 14 日（木）　延べ参加者 127 名
場所：八尾徳洲会総合病院 1 階　エントランスホール
・糖尿病内科医師による相談コーナー
・管理栄養士による栄養相談

・InBody（体成分分析装置）による体組成分析と理学療法士による運動個別相談会
・保健師による歯周病チェック
・自律神経検査
・血糖測定
・クイズラリー
・糖尿病川柳
・ポスター、パンフレット展示

4）糖尿病教室　（公開医療講座）

場所：八尾徳洲会総合病院３階　第１・２会議室　ハイブリッド開催

月	テーマ	担当	講師	参加人数
1月16日	糖尿病と歯周病	歯科医師	占部　一彦	28
	糖尿病の食事療法～総集編～	管理栄養士	八木　楓子	27
3月15日	血糖値　測ってみよう、考えてみよう	薬剤師	坂野　千賀	21
	小児から成人を対象とした 社会資源の活用法	医療 ソーシャルワーカー	三谷　勇一	18
4月19日	糖尿病性網膜症	眼科医師	山田　真弘	29
	糖尿病食事療法の基礎・応用	管理栄養士	佐藤　友亮	30
5月24日	糖尿病の薬について	薬剤師	栗野　大輔	24
	運動療法のキホン ～有酸素運動とレジスタンス運動について～	理学療法士	服部　玄徳	26
6月21日	検査データについて ～糖尿病連携手帳に沿って～	臨床検査技師	戸野川　始	24
	災害への備え	医師	髙原　良典	28
7月19日	スティグマとアドボカシーPart2	医師	植田　秀樹	20
	こころの健康と糖尿病	臨床心理士	藤原　恭子	20
9月20日	運動と食事療法	管理栄養士	八坂　陽菜	22
	運動療法実践編：有酸素運動 ～脂肪を燃やして血糖値を下げよう！～	理学療法士	服部　玄徳	22
10月18日	糖尿病と生活習慣病の薬 （高血圧　脂質異常症）	薬剤師	栗野　大輔	21
	おうちでできる足のお手入れ	保健師	藤井　安希子	20
11月15日	糖尿病関連腎臓病	医師	羽鳥　広隆	28
	糖尿病合併症について	臨床検査技師	松村　知里	29
12月20日	高齢者の上手な糖尿病のつきあい方	診療看護師	髙橋　博之	28
	運動療法実践論：レジスタンス運動 ～今日から始める健康貯”筋”～	理学療法士	西田　知哉	28
			合計	493

4. 今後の目標

1) チーム医療に精通したスタッフの育成

2) 専門医・療養指導士など資格取得の促進

3) 先進医療の導入と安全な運用

4) 病診連携の強化

内　科 26
循環器内 33
消化器内 35
呼吸器内 36
腫瘍内科 37
血管透析 39
腎臓内科 43
糖尿病 代謝内科 44
脳神経内 47
膠原リウ 48
小児科 49
放射診科 51
救急科 52
集中治療 55
外　科 59
整形外科 61
脳神経外 65
心臓血管 心臓血セ 67
形成外科 美容外科 70
呼吸器外 72
小児外科 74
歯　科 歯科口腔 77
泌尿器科 80
眼　科 81
麻酔科 83
肝臓セン 85
皮膚科 90
婦人科 91
耳鼻咽喉 92
病理診断 93

9）脳神経内科

脳神経内科部長　辰己　新水

1. 概要

脳神経内科疾患全般を扱っております。

2. メンバー構成

常　勤：辰己　新水

非常勤：辻　浩史

3. 実績

主要な疾患は、下記の通りです。（辰己医師、2024 年 1 月～ 2024 年 12 月の期間の新規登録患者）

疾患カテゴリー	症例数	疾患カテゴリー	症例数
神経変性疾患	72	筋疾患	8
感染性神経疾患	12	神経筋接合部疾患	4
代謝・中毒性神経障害	19	末梢神経障害 （脳神経障害を含む）	19
てんかん・けいれん	46		

4. 今後の目標

常勤医一人の体制でご迷惑をおかけするかもしれません。今後ともどうかよろしくお願いいたします。

10）膠原病リウマチ内科

膠原病リウマチ内科　吉崎　和幸

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　47
膠原リウ　48
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
集中治療　55
外　科　59
整形外科　61
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　90
婦人科　91
耳鼻咽喉　92
病理診断　93

1. 概要

当診療科は 2008 年 5 月に発足した診療科で、17 年が経過しました。内科疾患の中で、特に関節リウマチと全身性エリテマトーデスなど膠原病・リウマチ疾患を中心に診療しています。その他、血管炎症症候群やベーチェット病、免疫不全症、キャッスルマン病、更に不明熱も診療しています。診断が困難な患者様もご紹介ください。

治療法として、有効な生物学的製剤、あるいは JAK 阻害剤も診察室近くで行われ、安心して治療を受けることが出来ます。

2. メンバー構成

本診療科は医師のみならず、薬剤師や看護師、理学療法士、そして医師事務作業補助者のチーム連携によって緻密な治療を包括的に行っています。患者さまに「安心して生命をまかせられる医療」を提供できるよう日々精進しております。毎日、専門医が診察しておりますので、患者さまは当診療科を安心し、信頼して頂いた上でご受診くださっていると考えております。

診療担当医と外来診療日

吉崎和幸（非常勤）　: 水曜日（午前 10：00 － 12：00）
八木田正人（非常勤）: 水曜日、金曜日（午前 9：00 － 12：00）
古川牧緒（常勤）　　: 火曜日、木曜日（午前 9：00 － 12：00）

3. 実績

年月を経るごとに患者数が増加し、周辺の医療機関にもその存在が定着しています。

膠原病リウマチ内科は、生物学的製剤治療、JAK 阻害剤を含めた先端医療を行っております。その結果、より高度で有効な治療を推進し、著しい治療効果が認められています。患者さまの満足度は高く、安全性にも十分配慮しているので、患者さまのほぼ全員が安心して本院での治療を継続しています。

現在、膠原病・リウマチ診療においては、東大阪、八尾、柏原地域の中心的診療病院として活動しております。このため、以前は離れた大阪市内の病院あるいは大学病院に通院していた患者さまが、当院へ受診するようになっております。

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
394	329	416	371	423	347	443	373	355	446	374	429	4,700	392

4. 今後の目標

学会・研究会に出席し、また医学雑誌により新しい知識を得て、患者さまにとって安全安心の最新医療をご提供できるよう努めていきます。

11）小児科

小児科部長　石垣　早知子

1. 概要

小児科としては多職種連携と情報交換の為に月１回院内小児科委員会を開催し、種々の問題に対応し、最新の小児情報を共有しています。また大阪府発達障がい対応登録施設に登録しています。アレルギー学会準教育施設登録施設としてもアレルギーの勉強のできる対応を心がけております。

当院の JCI 等認定に相応しい診療を行っています。

2. メンバー構成

一般外来の他、発達とアレルギー、心身症について石垣は月曜から土曜まで外来を行い併存疾患への対応も心がけています。午後は予約診療です。アレルギー学会専門医や子どもの心の相談医、ICD（感染対策）等の資格を取得し、多岐にわたる患者の診療を続け、入院患者も受けいれています。

また大阪医科薬科大学より診療の援助を頂いています。月曜は松村先生（一般小児と小児腎外来と午後予防接種も担当)、木曜は新田先生、金曜は清水先生（毎週午前一般小児と小児循環器を主に第 1、3 金曜午後)、土曜は小武内先生（女性医師)、小児神経も土曜ほぼ毎週七里先生が担当しています。神原先生は火水の午後、木曜の夕診に主に心身症と発達心理等の予約診療を行っています。予防接種は月曜日午後に行っています。第 3 金曜午後に乳児健診も行っています。小児関連では他科との交流も盛んで、特に虫垂炎疑いなどの小児外科疾患については互いに連携しています。石垣は成人アレルギー疾患についても舌下免疫療法やアレルギー相談を中心として診療を行っています。

3. 実績

アフターコロナであっても感染症対策が必要とされる現状に対しては､外来レイアウトの他、感染対策に留意し､通常外来運営を維持できるよう努力しています。隔離室は 2 部屋あります。

入院の受け入れは肺炎など一般疾患が中心ですが、時には心身症などの疾患も入院して加療を行っています。起立性調節障害では現在点滴療法の検討が盛んに行われています。当科でもある程度対応しています。また引き続き医療だけでなく各種ケアも行っています。小児の言語発達遅滞など発達障害に対して言語聴覚士（ST）が評価および訓練を行っており、また小児心療内科として、臨床心理士がカウンセリングや心理治療を行っています。大阪府発達障がい支援施設の登録施設になったためもありコロナ後の対応に努力しています｡中河内地区として、八尾市のみならず東大阪市や柏原市とも連携しています。

小児科外来横には八尾市の委託事業でもあるモコモコ病児保育室があり、保育師とともに外来看護師が、看病できない保護者にかわって子どもたち（病児、病後児）のケアを年間 1,000 人以上受け入れています。今年度は、さらに感染対策と受け入れ体制に工夫をしながら、できるだけ安全安心の病児保育受け入れをできるよう努力されています。院内の看護師、医師、コメディカルの就業支援にも役立っていますが、広く開放し育児支援の役割も担っています。参

加している全国病児保育協議会は広く病児のために啓発活動をしています。

ほかに石垣は奈良リハビリテーション専門学校の小児科関連の講義に求めに応じて出張したりなど地域の小児科関連での活動援助を行っています。

大阪健康安全基盤研究所（旧大阪公衆衛生研究所）と府、国の感染対策の連携も取り、感染症の定点報告機関としての役割を果たしています。環境感染学会など感染症関連学会にも所属し、ICD としても感染制御部と AST,ICT、地域連携と新型インフルエンザ訓練などの院内外の感染対策に寄与しています。

微力ながら小児外科患者様の必要時対応や、症状による評価後他科 consult を行い院内協力も行っています。中河内地区のみならず重症者や稀少な疾患、悪性腫瘍、膠原病、先天疾患等は大阪市内、藤井寺等のセンターや大学病院、規模の大きい小児科との紹介連携も行っています。

徳洲会グループとしても小児科部会として全国で交流し症例報告や外部からの講演会も行われています。学会発表や講演会座長などもわずかながら行われています。日本小児臨床アレルギー学会や地域の小児科研究会、大阪小児科医会等での活動は目立たないながらもこつこつ行われています。

昨年度ですが、日本小児臨床アレルギー学会にて生物学的製剤使用での喘息児の診療、依頼にて大阪小児科医会雑誌への八尾徳洲会総合病院の紹介投稿、各種研究会での発表を行っています。

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
660	766	719	729	758	757	778	754	687	791	955	995	9,349	779

4. 今後の目標

今後も小児の心身の健康と成長に必要な小児診療を発展させ、新しい情報を保護者様たちの為にも役立てたいと考えています。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　47
膠原リウ　48
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
集中治療　55
外　科　59
整形外科　61
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　90
婦人科　91
耳鼻咽喉　92
病理診断　93

12）放射線科（診療部）

放射線科　兵藤　公一

1. 概要

放射線科ではCT、MRI、RI、消化管造影、マンモグラフィーと一部の単純撮影の読影。一部の消化管造影の施行、腹部四肢の血管造影とIVR、放射線治療を主に担当しています。各診療科や近隣の病院、診療所と連携し、各種画像診断、IVRや放射線治療を迅速かつ適切・正確に実施することに努めています。

2. メンバー構成

画像診断・IVR部門：常勤医5名（岩崎聖　津島寿一 兵藤公一　甲川佳代子 伊藤博文）
非常勤10名
放射線治療部門　　：常勤医1名（梶谷千香枝）　非常勤2名
上記のうち、診断専門医10名　IVR専門医5名　治療専門医3名　検診マンモグラフィー読影認定医3名（従事2名）

3. 実績

①読影件数　CT、MR、RI、GI 約47,600件/年、マンモグラフィー約1,900件/年
②IVR件数　55件/年
③放射線治療（新患人数）51人/年（2024年3～11月は入替工事のため稼働停止）

4. 今後の目標

画像診断・IVR部門では、CTの読影件数増加が著しいです。RI装置が更新され、MRI装置は3台目のバージョンアップが完了しました。

放射線治療部門では、年末にVARIAN True Beamに機器更新され、定位放射線治療が可能になりました。2014年1月から常勤の放射線治療専門医1名体制で行っていますが、引き続き大学からの応援と遠隔システムを利用し、安全で有効な放射線治療を各診療科と協力して遂行していきます。

日本医学放射線学会専門医修練機関に認定されており、研修医の教育にも力を入れていきたいと考えています。

13）救急科

救急センター長　村尾　佳則

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　47
膠原リウ　48
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
集中治療　55
外　科　59
整形外科　61
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　90
婦人科　91
耳鼻咽喉　92
病理診断　93

1. 概要

当院は、427 床の急性期病院として、年間 10,000 件以上の中河内地区を中心とした救急搬送を受け入れており、年々件数が増加している。2024 年は 10,721 例の救急搬送を受け入れた。当院の方針である「断らない医療の実践」のため、24 時間を通して対応できる体制をとっている。近隣施設より病診連携室経由で急性期疾患を紹介いただき救急搬送される場合は当科を窓口に受け入れ、積極的に初期対応を行っている。

また、新型コロナ感染症が 2 類であった時には、度重なる緊急事態宣言や発熱患者の増多に対し、発熱対応エリアを作成し通常疾患患者とエリア分けして初期対応にあたった。

現在、増改築中で ICU20 床、HCU30 床、感染症病床 26 床を含め 48 床が 2026 年に増える予定である。この計画では初療室に 5 床を配置します。将来的に救命救急センターを目指す HCU 病棟は感染対応可能な陰圧陽圧を切り替えできる個室が 12 床ある。

救急科専門医養成基幹施設に登録：八尾徳洲会総合病院は中河内地区の 2 次医療機関であるが、新型コロナ感染症が 2 類から 5 類に引き下げられたこともあり、2024 年は約 10,721 例の救急搬送を受け入れた。2023 年度より救急科専門医の専攻医募集を始めた。プログラムの特徴は、3 次医療機関である岸和田徳洲会病院、湘南鎌倉総合病院、宇治徳洲会病院、2 次医療機関として北野病院と野崎徳洲会病院を含む徳洲会グループの施設に加えて 3 次医療機関の大学病院の基幹施設として奈良県立医科大学高度救命救急センター、近畿大学病院救命救急センター、さらに国立病院機構大阪南医療センター、共愛会病院、名瀬徳洲会病院、徳之島徳洲会病院を連携、関連施設としている。

2. メンバー構成

村尾　佳則　救急センター長

救急科専門医・指導医、外科専門医・指導医、熱傷専門医、外傷専門医、社会医学系専門医・指導医、日本救急医学会功労会員、日本外傷学会名誉会員、第 32 回日本外傷学会会長（2018 年）、日本熱傷学会名誉会員、第 46 回日本熱傷学会会長（2020 年）、日本腹部救急医学会特別会員、日本臨床外科学会評議員、日本臨床救急医学会評議員・副編集委員長、日本 Acute Care Surgery 学会評議員、日本ショック学会評議員、日本災害医学会評議員、近畿外科学会特別会員、臨床研修指導者、救急科専門医プログラム統括責任者、日本 DMAT 隊員、日本 DMAT 統括

海外：ISS/SIC,IATSIC member, American Association for the Surgery of Trauma（AAST）, Shock Society（米国）member

阿部　祐子　救急総合診療部医長

ICLS インストラクター、ABLS インストラクター

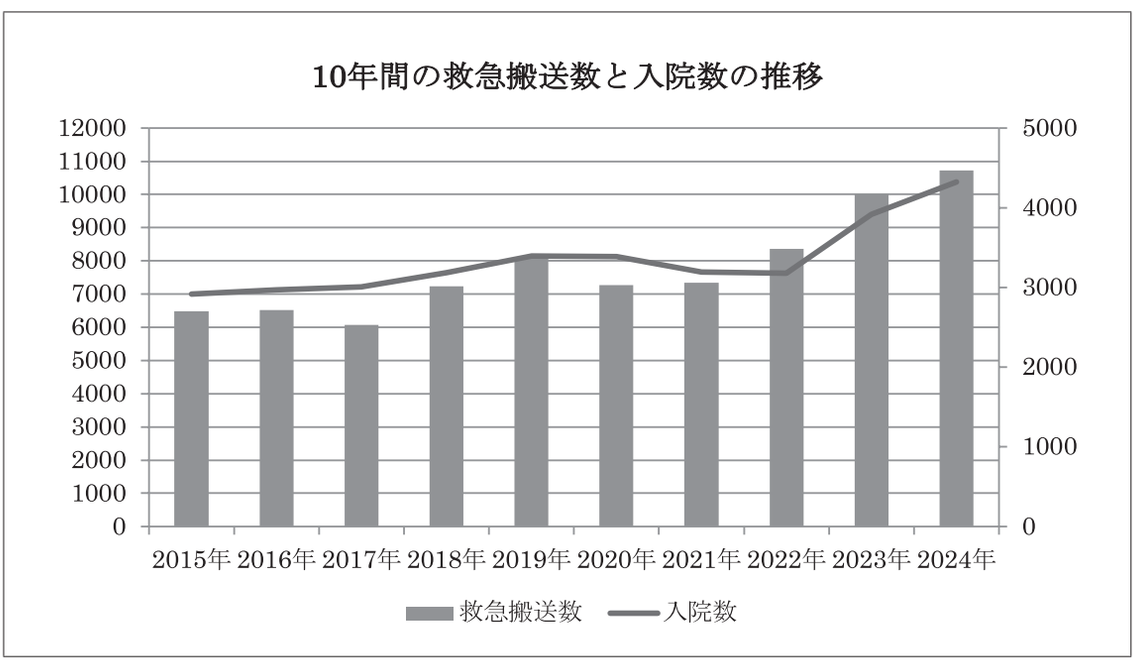
日本 DMAT 登録隊員、日本医師会認定産業医

松岡　信子　救急総合診療科（救急科）兼外科医長
日本外科学会専門医、日本救急医学会専門医、JATEC インストラクター、JPTEC プロバイダー、ITLS プロバイダー、MCLS プロバイダー、マンモグラフィー読影認定医、緩和ケア研修会受講

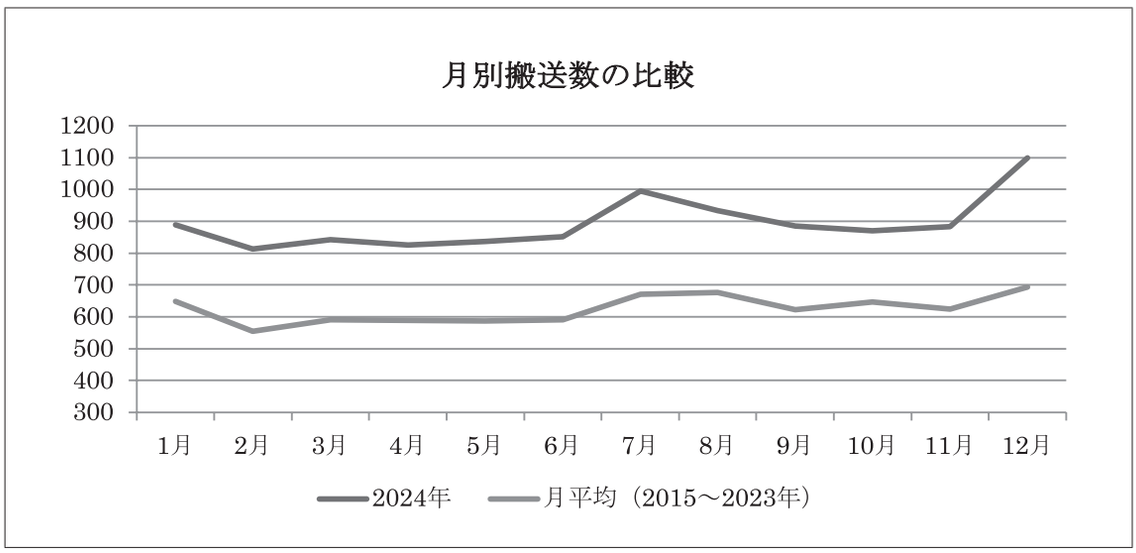
大津　周　救急科専攻医
外科専門医、消化器外科専門医、消化器内視鏡専門医、がん治療認定医、消化器がん外科治療認定医

3. 実績

救急搬送数は新型コロナ感染症が 2023 年 5 月に 2 類から 5 類に引き下げられたこともあり、搬送数が増加した。コロナ病床は感染状況により縮小した。



また月別搬送数において、年々増加傾向にあり、やはり年末の搬送数が増加した。過去 10 年間の月平均数よりも大幅に増加している。



なお、ここでいう救急搬送数は、当院２階救急外来で受け入れし診察した件数である。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数
搬送数総合計	888	813	842	825	836	851	995	934	885	870	883	1,099	10,721
外傷搬送	211	201	232	239	228	223	220	236	246	257	278	267	2,838
紹介搬送	80	100	108	98	72	81	79	112	85	90	97	126	1,128
CPA搬送数	38	32	26	20	12	17	21	12	19	11	25	37	270

上記のように、病診連携を通して他病院から各科への紹介救急搬送の初期対応を、毎月約10% 救急外来で行っている。

心肺停止症例は毎月約 20 例搬送されており、蘇生後低酸素脳症に対し、積極的に脳低温療法を取り入れるようにしている。

4. 今後の目標

本年も昨年同様、「断らない医療の実践」を目標に、医療ガイドラインに沿った安全、安心の医療を提供するとともに、初期研修病院として研修医、救急科専攻医枠も 2025 年度より 2 人と増加の予定で、今後さらに専攻医の育成、地域のメディカルコントロール体制を充実することにより中河内地区の救急災害医療の充実に努めたい。

また年々救急搬送件数が増加傾向にあり、お断り件数を減少させるために 48 床の増床計画をしている。2026 年度はじめには ICU,HCU, 感染症病棟を完成させる予定である。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　47
膠原リウ　48
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
集中治療　55
外　科　59
整形外科　61
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　90
婦人科　91
耳鼻咽喉　92
病理診断　93

14）集中治療科

集中治療科部長　緒方　嘉隆

1. 概要

1）集中治療科

2022 年 10 月 4 日、厚生労働省より各都道府県知事あてに「新型コロナウイルス感染症拡大下において、集中治療に従事する医師の重要性が認識される中、地域における集中治療提供体制を適切に把握するため、「従事する診療科名等」の欄について、「集中治療科」を追加する。」と通達があった。この通達に伴い当院集中治療部は、2023 年より名称を集中治療科と改めた。

当院集中治療科は 2024 年現在 ICU 8 床で運用を行っている。

ICU のタイプとしては general ICU である。すなわち ER ICU（ 救急 ）・surgical ICU（ 外科系)・medical ICU（ 内科系)・CCU（ 循環器集中 ）としての性格をもって運用されている。ER ICU としては重症急性呼吸不全（ ARDS: 急性呼吸窮迫症候群・ILD-AE: 間質性肺疾患急性増悪 など)、敗血症性ショック、心停止後症候群、急性腎傷害（ acute on CKD: 慢性腎不全急性増悪含む)、急性薬物中毒、重症熱中症、代謝性疾患（ 糖尿病性ケトアシドーシスなど ）などの症例が主に入室している。surgical ICU としては心臓血管外科・消化器外科・肝臓外科・脳神経外科・形成外科・呼吸器外科・口腔外科、小児外科症例が入室している。medical ICU として院内急変症例の入室がある。また当院心臓血管センターとの密接な協力の下、多数の循環器疾患患者を受け入れており CCU としての性格も色濃く担っている。

運用形式から見るといわゆる、より closed に近い semi-closed ICU であり、専従集中治療医が主に診療を担い、症例によっては主科と協力し診療を行っている。

2024 年 4 月時点で、当科に所属する専従集中治療医は 4 名であり、うち日本集中治療医学会学会認定集中治療専門医 1 名・救急科専門医 2 名で診療に当たっている（ 重複あり)。

また、2025 年度からは 2 名の専従医が増員となる予定である。

学会認定に関して当集中治療室は、日本集中治療医学会認定専門医研修施設、および日本専門医機構認定集中治療科専門医養成の基幹施設として指定を受け、集中治療科専門医を養成する施設として稼働している。現在機構認定集中治療専門医のプログラムに 4 名参加中である。また、日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設の認定も受けており、学会事業の一つである ECMO プロジェクトに参画している。

最後に、当集中治療室は引き続き、特定集中治療加算 1 の指定を受けていることを標す。

2）重症新型コロナウイルス感染症と日本 ECMOnet

2020 年 4 月から現在も断続的に続いている新型コロナウイルス感染症パンデミックに関しては、その初期より大阪府の重症受入医療機関として、多数の重症例を受入れ、治療に当たり、良好な成績をおさめた。現在までに多数の挿管人工呼吸管理（ 人工呼吸管理総数 140、人工呼吸離脱率 81.5%)・ECMO（extracorporeal membrane oxygenation ）管理を行ってきている。また今回の新型コロナウイルス感染症パンデミックが始まって以来設立された日本 ECMOnet には当集中治療科より 2 名が所属し、その活動に積極的に携わっている。2021 年の第 5 波における首都東京の医療逼迫の時期には日本 ECMOnet の活動に協力、現地入りして東京の都立

病院支援を行った。そして部長緒方は現在、日本 ECMOnet 大阪･奈良･和歌山エリアコーディネータの任を負っている。その関連で当 ICU は ECMO センターとしての性格も有する。他院からの ECMO 導入後患者の搬送受入、また ECMO 導入目的で他院よりの患者受入も行っている。なお 2020 年 4 月以降、当科において管理を行った ECMO 総数は 110（ V-V 37, V-A 24, ECPR 45, hybrid 3, central 1 ）である。

3）心臓血管センター

当院心臓血管センターは積極的に重症循環器疾患の受入を行っている。センター所属のメンバーと密接に協力し診療に当たっている。MCS（ mechanical cardiac support: 機械的循環補助 : V-A ECMO・ECPR・Impella・IABP ）症例の管理も行っている。

4）ICU・CCU 増床

2025 年度に ICU は増床される予定である。現在の 8 床から 20 床（ うち CCU 10 床 ）となる。

5）臨床試験、症例集積事業への参画

当集中治療科は全国の大学病院を中心に行われている臨床試験、学会主導の症例集積事業にも積極的に参加している。

現在参加している主なものは以下の通りである。内容詳細に関しては割愛する

・JIPAD（ 日本集中治療医学会 ）
・JPICS（ 日本集中治療医学会 ）
・R-CAST study（ 岡山大学など ）
・Lung stress mapping（ 大阪大学など ）
・SAVER Express study（ 広島大学など ）
・Liberation study（ 東京大学・広島大学など ）
・PCT study（倉敷中央病院・広島大学など）

6）2024 年 1 月～ 12 月の入室患者（ JIPAD より抽出 ）

入室の総患者数：435
在室 16 日以上の長期在室患者数：36
年間延べ在室日数：2988

・治療内容

人工呼吸器使用患者数：286（ 65.7% ）
血液浄化法実施患者数：100（ 23.0% ）
ECMO 実施患者数：22（ 5.1% ）

・重症度評価

APACHEII 中央値 16　平均値 18.9
APACHEIII 中央値 65　平均値 74.5

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　47
膠原リウ　48
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
集中治療　55
外　科　59
整形外科　61
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　90
婦人科　91
耳鼻咽喉　92
病理診断　93

SAPSII 中央値 38.5　平均値 44.4
SOFA 中央値 7　平均値 7.6

・アウトカム
ICU 実死亡率 13.1　病院内実死亡率 24.1
予測死亡率 31.3（予測死亡率に用いたスコア APACHEII ）

2. 治療科メンバー紹介（2024 年度時点・2025 年度から 2 名増員）
・部長
緒方　嘉隆（ 平成 7 年 大阪大学医学部卒業 ）
専門医など
医学博士
日本救急医学会・救急科専門医
日本集中治療医学会・評議員、学会認定集中治療専門医、日本専門医機構認定・集中治療科指導医
日本呼吸療法医学会・呼吸療法専門医、代議員、機関誌「呼吸療法」編集委員会委員、ECMO プロジェクト委員会委員
日本内科学会・認定内科医・総合内科専門医
日本呼吸器学会・呼吸器専門医・指導医
日本呼吸器内視鏡学会・気管支鏡専門医
日本 ECMOnet 大阪・奈良・和歌山エリアコーディネータ
Euro ELSO adult ECMO course in Karolinska Institute 修了
所属学会
日本救急医学会・日本集中治療医学会・日本呼吸療法医学会・日本心肺補助学会・日本内科学会・日本呼吸器学会・日本呼吸器内視鏡学会

・医長
濵口　眞成（ 平成 20 年 大阪大学医学部卒業 ）
専門医など
日本救急医学会・救急科専門医
日本呼吸療法医学会・呼吸療法専門医
日本内科学会・認定内科医
日本 ECMOnet 協力者

・医長
石井　真梨子（ 平成 22 年大阪医科大学（ 現大阪医科薬科大学 ）医学部卒業 ）
専門医など
日本内科学会・認定内科医

・医員

山田　知樹（ 平成 25 年大阪大学医学部卒業 ）

専門医など

日本内科学会・認定内科医・総合内科専門医

日本呼吸器学会・呼吸器専門医

日本呼吸療法医学会・呼吸療法専門医

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　47
膠原リウ　48
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
集中治療　55
外　科　59
整形外科　61
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　90
婦人科　91
耳鼻咽喉　92
病理診断　93

15）外　科

外科部長　遠藤　幸丈

1. 概要

当科では当院理念である救急医療を中心に地域医療への貢献､府がん拠点病院としての役割､そして、へき地医療への貢献を目指しています。手術において従来通りの拡大手術を行うとともに、根治性とともに安全で、合併症の少ない手術を最優先事項と考えています。 その中で、積極的に MIS（minimally invasive surgery: 低侵襲手術）として腹腔鏡手術、近年ではロボット手術を取り入れて、患者さんの体に負担の少ない手術を行っています。また、地域医療を貢献するよう緊急手術も積極的に行っています。

病診連携をはじめ手術部・病棟・薬剤部・リハビリ等と協力しつつ、地域医療に貢献し続けたいと考えています。

2024 年緊急手術件数、総手術数 1,293 件でした。

2. メンバー構成

村上　修　（部長）／日本外科学会専門医、ダヴィンチサージカルシステム助手資格認定
遠藤　幸丈（部長）／日本外科学会専門医、ダヴィンチサージカルシステム助手資格認定
豊田　亮　（医長）／日本外科学会専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医、
ダヴィンチサージカルシステム術者資格認定
垣本　佳士（医長）／日本外科学会専門医、日本消化器外科専門医・指導医
日本がん治療認定医療機構認定医
大田　修平（医長）／日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、
日本消化器内視鏡学会専門医、日本がん治療認定医療機構認定医
ダヴィンチサージカルシステム術者資格認定
ACLS・BLS プロバイダー、Diploma in Tropical Medicine
堤　綾乃　（医長）／日本外科学会専門医、日本肝臓学会専門医、日本がん治療認定医療機構認定医、
日本消化器外科専門医、日本乳癌学会乳腺認定医、
ダヴィンチサージカルシステム助手資格認定
松岡　信子（医長）／日本外科専門医、日本救急医学会専門医、JATEC インストラクター、
JPTEC プロバイダー、ITLS プロバイダー、MCLS プロバイダー、
ダヴィンチサージカルシステム術者資格認定
服部　彬　／日本外科学会専門医
小池　廣人　／日本外科専門医、日本消化器外科専門医、消化器がん外科治療認定医、
ダヴィンチサージカルシステム助手資格認定
白木　秀門　／日本外科専門医、腹部救急医学認定医、ICLS インストラクター、
ダヴィンチサージカルシステム助手資格認定
楠本　健太（専攻医）
清水　元就（専攻医）

3. 実績

《外科手術件数》

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
食道	6	9	2	3	1
胃切除・胃全摘（腹腔鏡下）	20	65	61	38	17
胃切除・胃全摘（開腹）	20	9	18	7	5
腹腔鏡下胆摘（四孔式）	93	213	191	221	245
腹腔鏡下胆摘（単孔式）	0	0	0	0	0
膵頭十二指腸切除	0	12	9	9	13
膵体尾部切除	1	4	11	1	6
肝切除	0	37	33	13	16
虫垂切除（腹腔鏡下）	66	89	95	88	96
虫垂切除（開腹）	4	2	0	1	3
結腸切除（腹腔鏡下）	82	78	80	57	73
結腸切除（開腹）	24	9	12	12	18
直腸切除・切断（腹腔鏡下）	24	31	32	39	22
直腸切除・切断（開腹）	1	4	1	6	3
鼠径部ヘルニア修復（腹腔鏡下）	85	110	125	115	138
鼠径部ヘルニア修復（鼠径部切開）	34	15	35	44	56
肛門疾患（内痔核硬化療法等）	29	34	28	27	11
乳房腫瘤・乳がん	21	27	29	17	34
その他	249	406	354	330	327
呼吸器外科	0	124	127	118	143
ロボット支援			1	54	66
手術件数	759	1,278	1,244	1,200	1,293

4. 今後の目標

緊急症例から慢性期疾患まで適切な診察・診断からの適切な治療を目指します。より精度を向上し内視鏡治療・腹腔鏡手術・ロボット手術・開腹手術といった治療で患者様に応じた医療を提供します。各部署との連携を大切にし、消化器疾患の治療でより地域の医療に貢献していきたいと思います。

個人としては各種ライセンスの取得に努めます。Jses ロボットプロクター、ダヴィンチサージカルシステム術者資格、消化器外科専門医、内視鏡外科技術認定医、外科周術期管理認定医などの取得予定としています。本年度も何卒よろしくお願い申し上げます。

内　科 26
循環器内 33
消化器内 35
呼吸器内 36
腫瘍内科 37
血管透析 39
腎臓内科 43
糖尿病代謝内科 44
脳神経内 47
膠原リウ 48
小児科 49
放射診科 51
救急科 52
集中治療 55
外　科 59
整形外科 61
脳神経外 65
心臓血管心臓血セ 67
形成外科美容外科 70
呼吸器外 72
小児外科 74
歯　科歯科口腔 77
泌尿器科 80
眼　科 81
麻酔科 83
肝臓セン 85
皮膚科 90
婦人科 91
耳鼻咽喉 92
病理診断 93

16）整形外科

整形外科部長　當麻　俊彦

1. 概要

スタッフ５名で日々の整形外科診療にあたっております。外来は午前診が毎日、夕診は週２日（火・木）の２診体制で行っております。整形外科当直を行い、救急診療科と連携して365日24時間体制で整形外科救急疾患の受け入れを、また、麻酔科の協力を得て緊急手術の受け入れ体制を整えております。入院されました患者様は45床の整形外科病棟（6階西）で治療にあたっております。

手術件数は、2024年は年間968件でした。骨折・外傷疾患の手術が多く、中でも高齢者の骨折手術が多くみられ、合併症を持つ患者さまもできるだけ受傷前の状態に回復できるように院内他科、および近隣の回復期リハビリ病院様の協力も得て手術治療を行っております。また、人工関節手術は年間15例（股関節13例、膝関節２例）、脊椎外科手術は125例の手術をこなし、手外科症例は248例と安定した成績をあげております。昨年９月に岩崎医師、11月に松尾（裕）医師が赴任いたしました。

また、患者様のニーズに応えるべく専門外来も開設しております。當麻は脊椎外来（毎週木曜日10:00～12:00、予約制）を、土肥は手の外科・四肢外傷外来（毎週月曜日14:00～16:00、予約制）を担当しております。

地域の基幹病院として外傷のほかに変性疾患等への対応に力を入れるだけでなく、研修会開催等にて近隣整形外科病院・クリニックの先生方との交流を深める機会を設けて病診連携機能の強化を図っております。また、公開医療講座等にて整形外科疾患の治療・予防に関する情報を地域の方々に発信しております。

2. メンバー構成

顧問	長谷川　潔	専門：人工関節外科、骨粗鬆症（病気療養中）
診療部長	當麻　俊彦	専門：脊椎外科、災害医療
診療部長	岩崎　圭至	専門：人工関節　手外科
医長	土肥　義浩	専門：手外科
医長	三木　秀賢	専門：人工関節
医員	松尾　裕次郎	専門：手外科　整形外科一般
専攻医	西岡　広薫	専門：整形外科一般

3. 実績

《外来患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
2,795	2,573	2,638	2,543	2,494	2,380	2,575	2,500	2,453	2,764	2,466	2,678	30,859	2,572

《手術件数》

分野	各手術	コメント	件数
脊椎 1	1 頚椎後方	形成術、除圧術、ヘルニア摘出術	21
		固定	3
	2 頚椎前方	除圧	6
		固定	1
	3 胸腰椎後方	形成術、除圧術、ヘルニア摘出術	58
		固定（椎体間固定、後側方固定）	26
	4 胸腰椎前方	除圧	0
		固定	0
	5 胸腰椎（前方＋後方）	前方+後方同時手術	0
	6 脊椎腫瘍手術		0
	7 脊椎外傷手術		0
	8 抜鋼術		8
	9 その他の手術（側方経路椎体間固定含む）	BKP、感染など	2
合計			125
骨盤 2	1 骨盤骨折観血的整復固定術		4
	2 抜鋼術		0
	3 その他の手術		0
合計			4
股関節，大腿骨 3	1 大腿骨頸部骨折 観血的整復固定術	内側骨折・転子間骨折など	43
	2 大腿骨頸部骨折 人工骨頭置換術	人工骨頭	87
	3 大腿骨骨幹部骨折観血的整復固定術		116
	4 人工股関節置換術（初回 THA）	初回例です	13
	5 人工関節・骨接合材料の抜去病巣郭清術	病巣郭清	0
	6 人工股関節置換術（再置換術）	再置換例です	1
	7 臼蓋形成術（Shelf, Chiari, RAO など）		0
	8		0
	9 小児股関節脱臼手術		0
	10 抜鋼術		9
	11 その他の手術		3
合計			272
膝関節，下腿骨 4	1 膝関節周辺骨折（膝蓋骨も含む）	膝蓋骨骨折	18
	2 下腿骨骨折観血的手術		21
	3 人工膝関節置換術（初回 TKA）	初回例です	2
	4 人工膝関節置換術（再置換術）	再置換例です	0
	5 人工関節・骨接合材料の抜去病巣郭清術	病巣郭清	2
	6 関節鏡（簡単なもの）	検査を主体とするもの	0
	7 関節鏡（複雑なもの）	半月板・滑膜切除など	2
	8 靭帯再建術（鏡下も含む）	陳旧例に対する再建術	0
	9 高位脛骨骨切り術		0
	10 抜鋼術		18
	11 その他の手術		3
合計			66
足関節，足部 5	1 足関節周辺骨折観血的整復固定術	踵骨骨折も含む	26
	2 足趾骨折観血的整復固定術		5
	3 人工足関節置換術		0
	4 足関節固定術		0
	5 足関節滑膜切除術		0
	6 アキレス腱縫合術		5
	7 足関節周辺靱帯縫合，再建術		0
	8 外反母趾手術		0
	9 足趾関節形成術	（外反母趾を除く）	0
	10 先天奇形手術		0

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　47
膠原リウ　48
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
集中治療　55
外　科　59
整形外科　61
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　90
婦人科　91
耳鼻咽喉　92
病理診断　93

分野	各手術	コメント	件数
	11 内反足手術		0
	12 抜鋼術		18
	13 その他の手術		1
合計			55
鎖骨，肩関節 6 上腕	1 鎖骨・肩鎖関節周辺外傷に関する手術	骨折と靱帯損傷の修復手術	28
	2 上腕骨頚部骨折観血的整復固定術	骨接合術	7
	3 上腕骨骨折観血的整復固定術	頚部骨折以外の症例	36
	4 人工肩関節置換術		0
	5 肩板断裂手術		0
	6 反復性脱臼手術		0
	7 抜鋼術		18
	8 その他の手術		3
合計			92
肘関節，前腕 7	1 肘関節周辺骨折観血的整復固定術	Montegia 骨折を含む	21
	2 前腕骨骨折観血的整復固定術		6
	3 肘関節滑膜切除術，関節形成術		0
	4 人工肘関節置換術		0
	5 抜鋼術		10
	6 その他の手術		1
合計			38
手関節，手 8	1 手関節周辺の観血的整復固定術	ｺｰﾚｽ骨折，手根骨骨折を含む	66
	2 手指の骨折・靱帯損傷手術	骨折・靱帯手術	48
	3 手関節滑膜切除術，関節受動・形成術	手根骨部分固定も含む	3
	4 指関節滑膜切除術，関節受動・形成術		11
	5 腱鞘切開術	バネ指，デケルバンなど	49
	6 腱縫合術・移植・移行・腱剥離術	腱の手術	14
	7 重度外傷手術	再接着含む	0
	8 抜鋼術		41
	9 その他の手術		16
合計			248
神経の手術 9	1 尺骨神経剥離術（前方移行，King 等）		1
	2 手根管解放術（正中神経剥離術）		26
	3 梨状筋症候群手術		0
	4 その他 剥離，縫合，移植（上肢）		4
	5 その他 剥離，縫合，移植（下肢）		4
合計			35
腫瘍の手術 10	1 骨腫瘍 良性 四肢		0
	2 骨腫瘍 悪性 四肢		0
	3 骨腫瘍 良性 脊椎・骨盤・躯幹		0
	4 骨腫瘍 悪性 脊椎・骨盤・躯幹		0
	5 骨腫瘍生検術		1
	6 軟部腫瘍 良性 四肢		14
	7 軟部腫瘍 悪性 四肢		0
	8 軟部腫瘍 良性 脊髄		0
	9 軟部腫瘍 悪性 脊髄		0
	10 軟部腫瘍生検術		0
合計			15
筋性斜頸 11	1 腱切り術		0
植皮，移植 12	1 複合組織移植，遊離皮弁		0
	2 有茎皮弁		2
	3 遊離植皮		4
四肢切断術 13	1 上肢	手指を除く	0
	2 手指		0

分野	各手術	コメント	件数
	3 下肢	足趾を除く	0
	4 足趾		0
	5 その他の部位		0
その他の手術 14	1 上記に分類されない手術		0
			0
			0
手術件数			956

4. 今後の目標

地域の基幹病院として外傷のほかに変性疾患等への対応に力をいれるだけでなく、研修会開催等にて近隣整形外科病院・クリニックの先生方との交流を深める機会を設けて病診連携機能の強化を図って参ります。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　47
膠原リウ　48
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
集中治療　55
外　科　59
整形外科　61
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　90
婦人科　91
耳鼻咽喉　92
病理診断　93

17）脳神経外科

脳神経外科部長　吉村　政樹

1. 概要

われわれ脳神経外科は脳および脊髄神経を守ることを目的としています。突然の麻痺や呂律障害で発症する脳卒中の方の救急対応をはじめ、顔や手足の痛み・しびれ感や、ふらつきなどの症状がおありの方に対して、脳から脊椎脊髄疾患を想定した診断と治療を提供します。

脳卒中では、ホットライン対応により、急性期脳卒中の受け入れを 24 時間体勢で行なっています。一次脳卒中センターとして、超急性期血行再開通療法（t-PA 静注療法および血栓回収療法）を積極的に行い、以前は寝たきりになっていたような脳梗塞でも、歩いて帰ることができる方が増えています。脳動脈瘤や血管狭窄症に対しても、血管内治療を積極的に行う体制に移行しています。2024 年からは、院内発症の脳卒中疑い症例に関しては脳神経外科医がファーストタッチできる体制に変更し、血栓回収術を行う可能性を高めて、入院患者さまの予後悪化を防ぐべく努力しております。

高難度な頭蓋底腫瘍手術や下垂体腺腫など、当院としては希少な疾患の手術では、大阪公立大学脳神経外科と連携し、共同で対応できるよう体制を整えています。

脊椎疾患においては、顕微鏡手術による神経への愛護的手技を行なうと共に、筋組織へのダメージが少ない低侵襲手術により、神経機能回復と筋運動機能温存の両立を目指しています。2018 年からは最小侵襲手技である全内視鏡下手術（FESS）を開始し、当科の特徴となっています。若年者の腰椎ヘルニアや、高齢者の椎間孔狭窄などに適応し、ピンポイントで神経への圧迫を解除します。創は 1cm 弱で、痛みが少なく、入院期間の短縮（平均 4 日間）にもつながっています。

2. メンバー構成

吉村　政樹（部長）	日本脳神経外科学会専門医・指導医、日本脊椎脊髄外科専門医、日本脊髄外科学会認定医、日本脊髄外科学会脊髄内視鏡下手術技術認定医、日本脳卒中学会専門医、日本脳卒中の外科学会技術認定医、日本神経内視鏡学会技術認定医
坂本　竜司（医員）	日本脳神経外科学会専門医、脳血栓回収療法実施医
高　　沙野（医員）	日本脳神経外科学会専門医
成井　　牧（医員）	日本脳神経外科学会専修医
川村　　晨（医員）	日本脳神経外科学会専修医
畑中　政人（医員）	日本脳神経外科学会専修医

3. 実績

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
864	872	918	872	928	1,018	909	870	916	1,010	939	879	10,995	916

《入院患者数》874 例（2024 年）

《手術件数》 2024 年 1 月～ 12 月

術式	件数	術式	件数
頭部疾患関連外科手術	119	脊椎疾患手術（合計）	51
動脈瘤クリッピング手術	1	頸椎前方除圧術	4
脳内血腫除去術（開頭＋内視鏡）	13	頸椎後方除圧術・固定術	24
脳動静脈奇形摘出手術	0	胸腰椎後方除圧術・固定術	5
頸動脈内膜剥離術，脳血管バイパス手術	2	全内視鏡下手術（FESS）	15
脳腫瘍摘出手術	15	経皮的椎体形成術	1
脳腫瘍生検術	1	その他	2
頭部外傷　開頭術	5	血管内手術（合計）	144
慢性硬膜下血腫穿頭ドレナージ術	46	急性期再開通療法	64
水頭症手術	22	脳動脈瘤塞栓術	45
		頸部血管形成術（CAS）	30
その他	14	動脈塞栓術	5
		合計	314

4. 今後の目標

適切な診断と、適切な治療適応の判断を徹底し、それぞれの患者様に最も適したやさしい治療をモットーに診療します。当院の最大の特徴である急性期脳卒中治療に関しては、血管内治療環境や CT 装置の更新による診断能力向上などハード面の充実とともに、ER や放射線科、ME スタッフのご協力の下、安定した治療サービスの提供が行えるようになっております。

今後は院内全スタッフへの啓蒙を行うことで、盲点になりがちな「院内発症」の脳卒中診療のスピードアップを図りたいと思います。 脳卒中を疑えば､主治医スキップで脳外科院内ホットライン（PHS　3151）へ！！

脊椎脊髄疾患については、脳神経疾患との鑑別を含めた診断、脊椎アライメントを重視した姿勢管理、筋組織へのダメージを最小限に抑えた低侵襲手術を軸に診療を行って参ります。特に当科の特徴である FESS は、今後ますます需要が高まると考えられます。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　47
膠原リウ　48
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
集中治療　55
外　科　59
整形外科　61
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　90
婦人科　91
耳鼻咽喉　92
病理診断　93

18）心臓血管外科・心臓血管センター

心臓血管外科　部長・心臓血管センター長　薦岡　成年

1. 概要

現体制になり 5 年目､また心臓血管センター開設から 4 年目になりました。メンバーは現在、薦岡以下、3 名体制となっています。日頃から循環器科と密な関係を維持し、循環器科 Hot Line の運用も上手くいっており、24 時間 365 日循環器系医師の院内常駐を実現しています。また手術部をはじめ集中治療部および ER/ICU/HCU・病棟・リハビリ・薬剤部とも良好な連携を図り、循環器系の地域医療に貢献することができました。皆様のご協力に感謝申し上げます。より一層の連携を深め、さらに地域医療に微力ながら貢献し続けたと考えています。

2024 年の手術件数は、ステントグラフト手術 115 例、開心術 111 例、総手術件数 368 件と、過去最高を記録しました。

施設認定

- 三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
- 日本ステントグラフト実施基準管理委員会　腹部・胸部ステントグラフト実施施設
- 日本脈管学会認定研修指定施設
- MPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設
- 下肢静脈瘤血管内治療実施委員会認定実施施設

2. メンバー構成

部　　長：薦岡　成年　2003 年防衛医科大学卒業
　　外科専門医、心臓血管外科専門医・修練指導医、循環器専門医、脈管専門医・指導医
　　胸部・腹部ステントグラフト指導医、TAVI 指導医、日本血管外科学会認定血管内治療医

医　　長：小島　三郎　2012 年広島大学卒業
　　外科専門医・心臓血管外科専門医（2023 年取得）

医　　員：春日　健介　2016 年滋賀医科大学卒業
　　外科専門医（2022 年取得）、心臓血管外科専門医（2022 年取得）

3. 実績

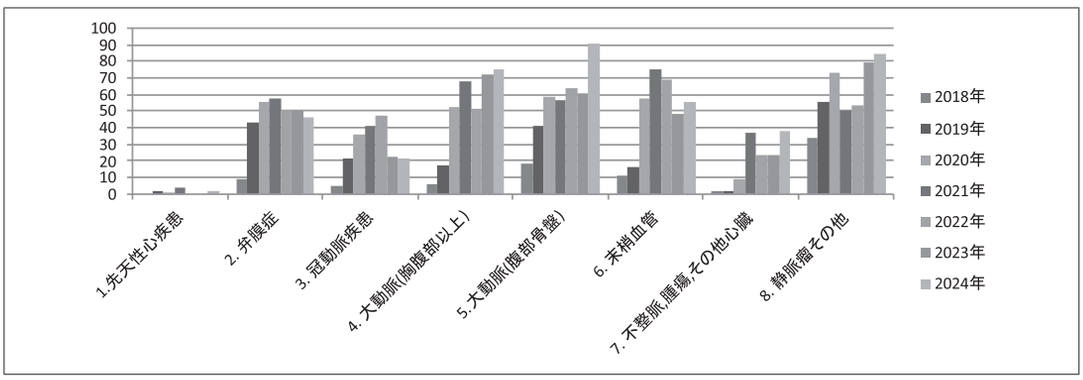
手術件数

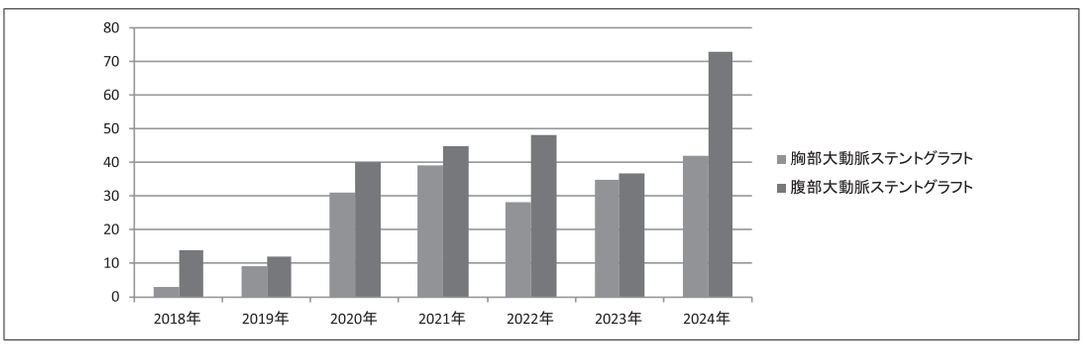
年	腹部ステントグラフト	胸部ステントグラフト	計
2010	22	8	30
2011	43	31	74
2012	24	12	36
2013	40	7	47
2014	23	10	33
2015	31	5	36
2016	26	7	33
2017	36	4	40
2018	14	3	17
2019	12	9	21
2020	40	31	71
2021	45	39	84
2022	48	28	76
2023	35	37	72
2024	73	42	115
合計	512	273	785

全心臓血管手術（重複例あり）	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
1. 先天性心疾患			2	1	4			2
2. 弁膜症	9	9	43	56	58	50	50	46
3. 冠動脈疾患	18	5	21	36	41	47	23	22
4. 大動脈（胸腹部以上）	14	6	17	53	68	51	72	75
5. 大動脈（腹部骨盤）	37	18	41	59	57	64	61	91
6. 末梢血管	14	11	16	58	75	69	48	56
7. 不整脈 , 腫瘍 , その他心臓	1	2	2	9	37	24	24	38
8. 静脈瘤その他	50	34	56	73	50	54	79	85
合計件数	143	85	198	345	390	359	357	415
	2018 年 9 月から新体制							
主要心臓大動脈手術（重複例あり）	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
1. 先天性心疾患			2	1	4			2
2. 弁膜症	9	9	43	56	58	50	50	46
3. 冠動脈疾患	18	5	21	37	41	47	23	22
4. 大動脈（胸腹部以上）	14	6	17	53	68	51	72	75
5. 不整脈、腫瘍、その他心臓		2	2	9	37	24	24	38
合計件数	41	22	85	156	208	172	169	183

ステントグラフト手術	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
胸部大動脈ステントグラフト	4	3	9	31	39	28	35	42
腹部大動脈ステントグラフト	36	14	12	40	45	48	37	73
経カテーテル的大動脈弁置換術	0	0	0	0	0	0	0	0
合計件数	40	17	21	71	84	76	72	115

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病代謝内科　44
脳神経内　47
膠原リウ　48
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
集中治療　55
外　科　59
整形外科　61
脳神経外　65
心臓血管心臓血セ　67
形成外科美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　90
婦人科　91
耳鼻咽喉　92
病理診断　93





・弁膜症手術：目標であったTAVI認定施設の取得は専門医の人数の関係で、今年も残念ながら達成できなかった。そのため、高齢者の大動脈弁膜症カテーテル治療は、薦岡が岸和田徳洲会病院に出張手術する形を継続している。2024年の当院での弁膜症手術数は概ね横ばいとなった。
・冠動脈バイパス術：2024年は前年と比較して横ばいとなったが、件数としてはあまり多くはない。循環器科の医師数増加及びPCI件数の増加だと考えている。
・急性A型大動脈解離：心臓血管センターの開設に伴い、急性大動脈解離の院外紹介が緩やかではあるが増加している。手術は、ほぼ全例若手医師が執刀し、良好な成績を残せている。ただ病床が満床であったり、ERでの対応不可や手術室満室などの理由で、緊急を断る件数もあったことが課題として残った。
・ステントグラフト：suture deviceを用いた経皮的ステントグラフト手術を標準術式にすることで、負担の少ない動脈瘤治療を継続しており、症例数は大きく増加した。また以前から行っている、解離性動脈瘤に対する血管内治療は良好な治療成績を維持している。また単純なステントグラフト手術の多くは若手医師が執刀した。
・末梢動脈：ほぼ全例若手医師が執刀した。

4. 今後の目標

本年度はようやくTAVI（経カテーテル的大動脈弁置換術）施設認定要件を満たしたため、施設認定取得に動くと共に、可能な限り早くTAVIを開始していきたいと考えています。心臓外科的には若手の増員を目指し、また循環器科、コメディカルと共同し、病診連携にさらに力を注ぎ、中河内地区の循環器医療に貢献したいと考えていますので、本年もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

19）形成外科・美容外科

形成外科・美容外科部長　綾部　忍

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病代謝内科　44
脳神経内　47
膠原リウ　48
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
集中治療　55
外　科　59
整形外科　61
脳神経外　65
心臓血管心臓血セ　67
形成外科美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　90
婦人科　91
耳鼻咽喉　92
病理診断　93

1. 概要

当科は、常勤 5 名で診療しています。2008 年より日本形成外科学会認定施設、現在は大阪公立大学形成外科の専門研修連携施設となっています。

当科の特徴としては「下肢救済治療」が挙げられます。

2009 年に米国足病医と連携し、下肢切断を防ぐことを目的とした「創傷ケアセンター」を開設し、現在では日本で最も治療件数の多い施設となりました。閉塞性動脈硬化症に伴う下肢創傷の治療に力を入れており、distal bypass 術（足首付近までのバイパス術）を含めた血行再建も形成外科で積極的に行っています。血管内治療（カテーテル治療）は循環器内科で行っており、最近では足首より末梢まで血管を拡張できるようになりました。術後の潰瘍や創傷治療には、積極的に陰圧閉鎖療法（NPWT）や赤外線療法を取り入れることで、より早期の離床・退院を可能にしています。

当科では装具療法にも力を入れています。他院で数回にわたる手術を受けたにもかかわらず治癒しない潰瘍でも適切なフットウェアを装着することで治癒に至る場合もあります。糖尿病や透析をされている患者さまでは複数の施設で連携して治療を行うのが一般的ですが、当院では関連他科の協力の結果、すべての治療を行うことができ、このような施設は全国的にもほとんど見られません。

2015 年から、日本であまり行われていない「糖尿病足変形（シャルコー足など）に対する Surgical Offloading」を開始しました。足の変形に対して装具療法を行いますが、それにもかかわらず潰瘍形成を繰り返してしまう患者さまに、変形を矯正する手術を行うことで良好な結果を得ています。

読売新聞社より発売された「病院の実力 2014」では、血流の回復と組み合わせて傷の治療を行った患者数が全国 3 位となっており、最近では大阪府外（滋賀・三重・奈良・兵庫・和歌山）からもご紹介いただけるようになりました。糖尿病・透析患者さまも多数受診され、他院で足を切断するように言われた方も歩いて帰っていただけるよう、チーム一丸となり治療しています。

顔面の皮膚癌、特に基底細胞癌の治療では「modified dermis graft 法」で皮膚欠損部の再建を行っています。2014 年に当院が初めて報告した方法で、周囲に新たな瘢痕を残さないことが特徴で整容的に優れており、自身で論文を検索し関東からも来院されるようになりました。

眼窩底骨折の手術では皮膚に傷を残さない「経結膜切開法」を採用しています。

2011 年より「美容外科」も開設しました。しみ・しわ・たるみ・脱毛のレーザー治療を行っています（自費診療）。

手術件数は大学病院などと比較すると多くはありませんが、患者様一人一人に対し丁寧で質の高い治療を行うよう心掛けています。

また当院は、大阪公立大学医学部附属病院の関連病院として運営しているため、大学病院及び大学関連病院と連携をはかり、患者さまにとって最良の医療を提供することが可能となっています。

2. メンバー構成

綾部忍・森川周至・川田恭平・塚原麻理奈・畑夏生の 5 名で診療を行っています。

3. 実績

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
630	545	541	520	552	505	556	518	418	606	501	519	6,411	534

【2024 年度　形成外科　年間の疾患大分類別手術手技数】

集計期間　2024 年 1 月 1 日～ 2024 年 12 月 31 日

形成外科　新患者数　2,165 名

形成外科　入院患者数　249 名

疾患大分類手技数	入院			外来			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
外傷	15	0	4	0	0	77	96
先天異常	1	0	0	0	0	1	2
腫瘍	21	0	23	0	0	314	358
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	1	0	0	0	0	5	6
難治性潰瘍	2	1	7	0	0	2	12
炎症・変性疾患	10	6	53	0	0	70	139
美容（手術）	0	0	0	0	0	0	0
その他	84	10	165	1	0	581	841
Extra レーザー治療	0	0	0	0	0	0	0
計	134	17	252	1	0	1,050	1,454

4. 今後の目標

一般形成外科治療に加え、当科の特徴である下肢救済治療の分野でより高い専門性を目指し、地域貢献できればと考えています。引き続き学会発表や誌上発表も積極的に行っていきます。

20）呼吸器外科

呼吸器外科部長　市橋　良夫

1. 概要

原発性肺癌、転移性肺癌、縦隔腫瘍、気胸、膿胸などの外科的治療を基本として治療を行っている。胸腔鏡を用いて安全で低侵襲な手術を行い、患者さまに寄り添う治療を心がけている。

2. メンバー構成

市橋　良夫（常勤）　日本外科学会専門医
呼吸器外科専門医合同委員会　呼吸器外科専門医
ロボット支援手術サーティフィケイト

森田　琢郎（常勤）

花岡　伸治（非常勤）　大阪医科薬科大学附属病院　特任教授　呼吸器外科科長
日本外科学会専門医専門医・指導医・代議員
呼吸器外科専門医合同委員会　呼吸器外科専門医・指導医・評議員
日本肺癌学会評議員
がん治療認定医
ロボット支援手術プロクター

佐藤　澄（非常勤）　大阪医科薬科大学附属病院　講師
日本外科学会専門医・指導医
呼吸器外科専門医合同委員会　呼吸器外科専門医・評議員
日本呼吸器学会専門医
がん治療認定医
ロボット支援手術プロクター

3. 実績

《外来患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
191	260	267	259	256	241	232	303	304	313	250	253	3,129	261

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　47
膠原リウ　48
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
集中治療　55
外　科　59
整形外科　61
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　90
婦人科　91
耳鼻咽喉　92
病理診断　93

《2024 年　呼吸器外科手術症例件数》

	胸腔鏡下 （移行含む）	開胸 （移行含む）	ダヴィンチ （完遂）	合計
原発性肺癌（中皮腫含む）	40	18	12	70
気胸	27	1	0	28
転移性肺癌	11	1	0	12
縦隔腫瘍	3	1	7	11
その他 （膿胸、肺炎、良性腫瘍等）	21	4	0	25
合計	102	25	19	146

4. 今後の目標

2023 年 10 月より呼吸器外科常勤 2 人体制となり外科的治療適応の拡大を目指し、新規医療技術にも積極的に携わっていく。

一昨年より手術支援ロボット（da-Vinci）、単孔式解剖学的肺葉切除術の件数拡大を目指す。

21）小児外科

小児外科部長　木村　拓也

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病代謝内科　44
脳神経内　47
膠原リウ　48
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
集中治療　55
外　科　59
整形外科　61
脳神経外　65
心臓血管心臓血セ　67
形成外科美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　90
婦人科　91
耳鼻咽喉　92
病理診断　93

1. 概要

近年の発展としては、肥厚性幽門狭窄症（生後 30 日前後）に鏡視下手術を導入し、安全に 10 例で完遂でき、全て術後数日で退院しています。また、2025 年には小児泌尿器分野のロボット手術を予定しています。

2024 年は当院で小児外科開設後、14 年目となりました。年間の手術数から考えると、約 1,400 名程度の小児が当院で、小児の全身麻酔、手術を施行したこととなります。この 14 年間を振り返りますと、様々な症例を経験し、また無事に治療ができて、大きな合併症なく、過ごせたことに病院関係者、小児外科スタッフ、コメディカルに感謝し、また近隣のクリニックからも信頼を失うことなく、患児を紹介していただけたことに深謝いたします。

当院は 6 年前より日本小児外科学会の教育関連施設（大阪大学小児成育外科学教室が母体）として認定され、若手の外科医が専門医取得を目指せる環境となりました。当院外科は新たな専門医制度のもと、基幹施設として認定されています。それに伴い、若い人材も増えて、指導体制を整えております。また当科では、3 年前より 3 人体制となり、小児外科領域の救急症例も引き続き積極的に受け入れていきたいと考えております。

どうしても少子高齢化の社会で、小児の症例が減少傾向にありますが、新たに小児医療チームとして、小児科、小児外科、小児泌尿器科で活動できるように準備したいと思います。

小児医療を担う次世代が育つように、またそれに伴い病棟には子供たちの笑顔があふれるように、安全に標準医療が提供できるように頑張っていきたいと思います。

2. メンバー構成

部長：木村　拓也（平成 7 年）

資格：日本外科学会認定医、専門医、指導医、日本小児外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、指導医、日本総合診療医学会認定医、日本臨床栄養代謝学会認定医、日本肝臓学会認定肝臓専門医、指導医、日本移植学会認定医、日本肝胆膵外科学会評議員、日本内視鏡外科学会評議員、日本病態栄養学会評議員、日本臨床栄養代謝学会評議員、近畿外科学会評議員、近畿小児外科学会評議員、ICT ドクター（ICD）、外科系プログラム責任者、NST 委員長、JCI 委員長、臨床研修指導者、臨床研修プログラム責任者、ダヴィンチサージカルシステム助手資格認定、ダヴィンチサージカルシステム術者資格認定

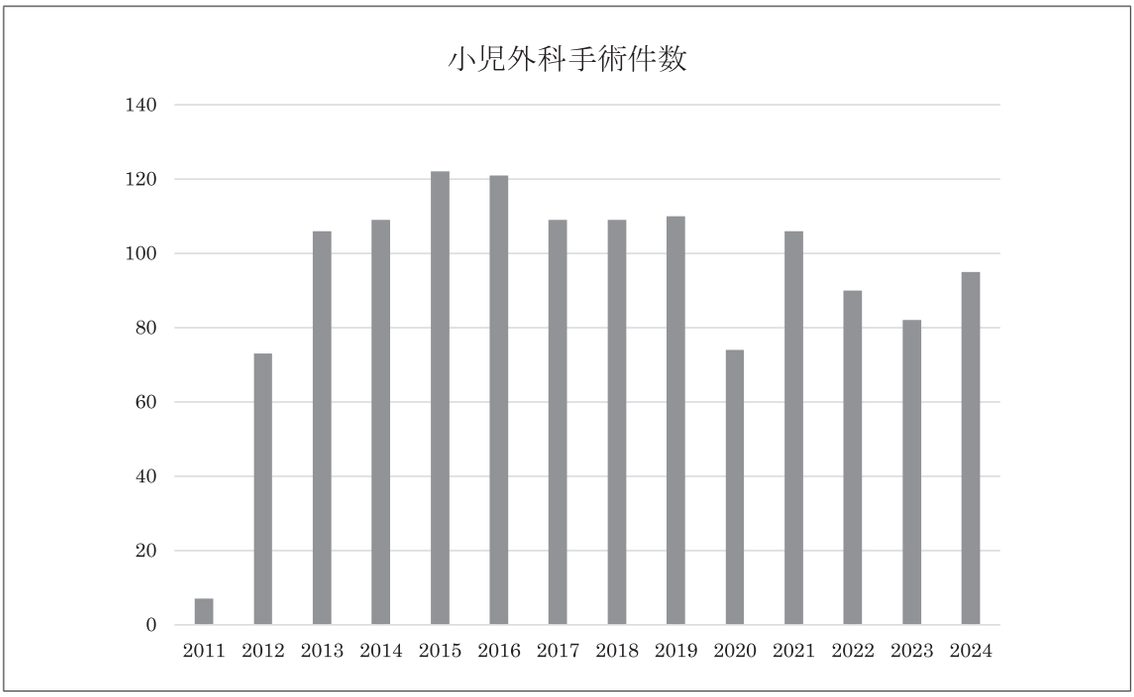
医長：山中　宏晃（平成 14 年）

資格：日本外科学会専門医、日本小児外科学会専門医、近畿小児外科学会評議員

医長：河島　茉澄（平成 22 年）

資格：日本外科学会専門医、日本小児外科学科専門医、日本消化器外科学会専門医、日本肝臓学会専門医、臨床研修医指導者講習、がん診療にかかわる医師に対する緩和ケア研修会、ダヴィンチサージカルシステム助手資格認定

3. 手術数の推移（2024 年度：95 例）



4. 実績

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
67	75	102	84	67	88	90	97	77	73	97	107	1,024	85

2024 年の手術に関する主な内容：合計　95 例

・体表疾患（12 例）

舌小帯：7 例

皮下腫瘤：5 例

・胸部疾患（2 例）

縦隔腫瘍：1 例

漏斗胸：1 例

・腹部疾患（73 例）

肥厚性幽門狭窄症：4 例

鼠径ヘルニア

高位結紮：19 例

単孔式腹腔鏡手術（LPEC）：27 例

急性虫垂炎：9 例（全例単孔式腹腔鏡手術）

臍ヘルニア、臍形成：6 例

イレウス：1 例
腸回転異常：1 例
腹腔鏡下回盲部切除：1 例（結腸重複症）
内視鏡的ポリペクトミー：1 例
内視鏡的異物除去：1 例
胆嚢摘出術：1 例
肛門膿瘍切開：1 例

・生殖器、泌尿器科疾患（8 例）
停留精巣：4 例（内　除睾術 1 例）
包皮形成術：1 例
尿膜管遺残：2 例
包皮形成：1 例

4. 今年の目標

2025 年も 3 人体制を維持し、地域に根ざし、地域の子供たちを守るだけではなく、広域で子供たちの治療を安全に継続可能な体制を作ります。

今後、当院は小児チームとして、小児科、小児外科で共同し、小児医療を実践したいと考えています。従来通り、小児外科特有の救急疾患に関しても可能な限り対応していきながら、積極的に、小児医療を提供したいと考えています。こどもの治療で悩んだら、何でも相談してください！

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　47
膠原リウ　48
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
集中治療　55
外　科　59
整形外科　61
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　90
婦人科　91
耳鼻咽喉　92
病理診断　93

22）歯科・歯科口腔外科

歯科・歯科口腔外科部長　占部　一彦

1. 概要

歯科口腔外科は、部長：占部一彦（2006 年 4 月赴任）、医長：牛村彩子（2024 年 7 月赴任）、医員：笠原　駿（2022 年 4 月赴任）の 3 名体制で診療にあたっています。八尾市・東大阪市・大阪市平野区・柏原市内の医院・歯科医院との病診連携をおこなっており、紹介率 40％以上を維持しています。

2008 年度より地域歯科支援病院の認定をうけ地域医療に貢献できるように体制づくりをしています。

診療内容としては、親知らずの抜歯・腫瘍・粘膜疾患・顎変形症・顎顔面外傷などの手術を中心に、顎関節症などの治療および他科入院患者様の周術期口腔機能管理を行っています。一般的な歯科治療は原則おこなっておりません。

当院は、大阪大学歯学部第一口腔外科の関連病院として運営しており、当科で加療が困難な疾患に関しては、大阪大学および他の大学関連病院と連携をはかり対応しています。また日本口腔外科学会の準関連研修施設認定をうけています。診療特徴としては、下記の内容が挙げられます。



1）抗凝固剤服用中の患者様への対応

抜歯などの小手術は、基本的にワーファリン等の抗凝固薬・抗血小板薬の服用は休薬なしで行っています。

抗凝固薬　：基本的に休薬なし（場合によって減量）で 1（～ 2）泊の入院下で処置・止血管理をおこないます。

抗血小板薬：基本的に休薬なしで外来処置室にて小手術をおこないます。

2）入院下での埋伏智歯抜歯

埋伏智歯抜歯術は、歯肉切開や骨削除を行って抜歯しますが、かなり腫脹をともなう処置になります。それが数本ある患者さまの場合には、腫脹がその都度伴うことになります。そこで入院管理下で全身麻酔下にて抜歯を行うことで１本抜歯に対する時間が短くすみ、数本まとめて抜歯することができます。また術後点滴と、疼痛コントロール・感染予防を行うことで１回の腫脹で済ませることができます。年間 200 件をこえる症例数となっています。

2. メンバー構成

部長：占部　一彦（歯学博士）　日本口腔外科学会専門医
医長：牛村　彩子（歯学博士）　日本口腔外科学会認定医
医員：笠原　駿（歯学博士）　日本口腔外科学会認定医

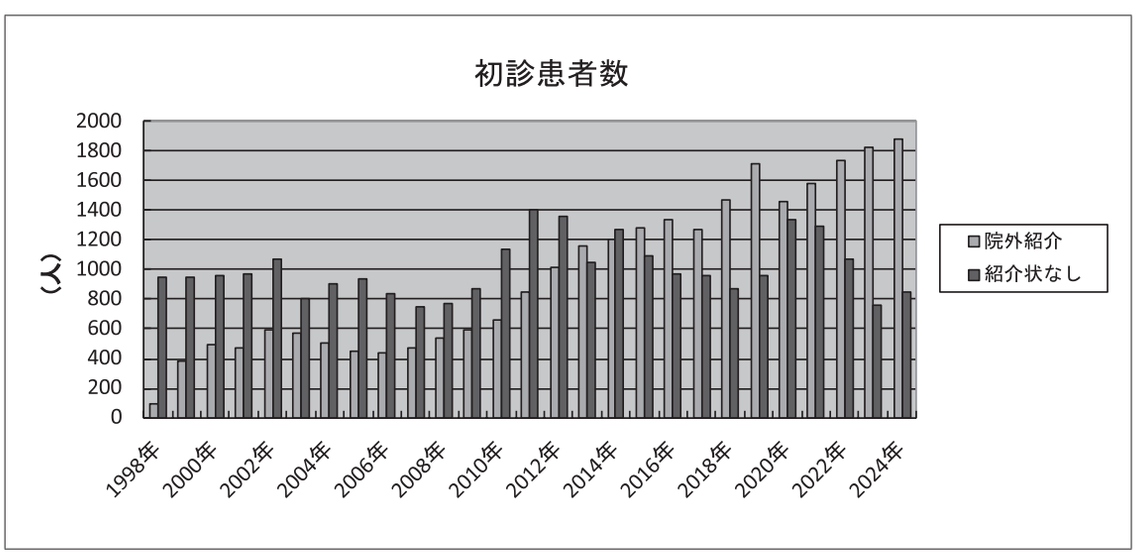
3. 実績

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
847	849	916	883	953	858	965	944	866	980	870	899	10,830	903

《初診患者数推移》

	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
院外紹介	95	386	493	472	590	576	506	453	443	467	538	590	662	846	1,017	1,160	1,205	1,276	1,341	1,266	1,468	1,716	1,456	1,584	1,733	1,827	1,881
紹介状なし	945	945	961	970	1,070	809	900	932	834	752	775	866	1,134	1,406	1,355	1,051	1,264	1,088	973	959	871	955	1,333	1,287	1,070	763	844



内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　47
膠原リウ　48
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
集中治療　55
外　科　59
整形外科　61
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　90
婦人科　91
耳鼻咽喉　92
病理診断　93

《外来手術例》

手術名	件数
骨性埋伏智歯抜歯	713
難抜歯	308
単純抜歯	672
歯根端切除 / 歯根嚢胞摘出術	110
口腔内・外消炎処置	22
口腔内外創傷処置	23
舌腫瘍摘出術	11
上顎洞口腔瘻閉鎖術	16
顎関節脱臼非観血的整復術	30
歯牙脱臼整復固定	14
歯肉腫瘍摘出術	4
粘液嚢胞摘出術	13
顎骨腫瘍摘出術	11
腐骨除去術	3
その他	75
合計	2,025

《入院手術例》

手術名	件数
埋伏歯抜歯	223
抜歯（止血異常）	46
歯根端切除 / 歯根嚢胞摘出術	2
顎骨腫瘍摘出術	34
顎変形症手術	44
上･下顎骨･頬骨骨折観血的整復術	10
腐骨除去術	10
口腔内・外消炎手術	7
抜釘術	11
舌腫瘍摘出	3
骨隆起形成術	4
その他	23
合計	417

4. 今後の目標

救急病院の特徴として、炎症性疾患や外傷性疾患の救急対応が多いため、より迅速に対応できるように体制を構築し、ER とも連携し地域医療に貢献できるよう力をいれています。

また医科歯科連携にて現在入院患者さまの周術期口腔機能管理を積極的に行っており、患者さまの入院期間の短縮に、より貢献していきたいと思います。。

23）泌尿器科

泌尿器科部長　金丸　知寛

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　47
膠原リウ　48
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
集中治療　55
外　科　59
整形外科　61
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　90
婦人科　91
耳鼻咽喉　92
病理診断　93

1. 概要

2024 年は前年度と同様の 3 人体制で、昨年に引き続き私が泌尿器科部長を務めております。

2024 年度も、2022 年に導入されたダヴィンチ Xi の手術症例を増やすことに尽力いたしました。2024 年度ではロボット支援膀胱全摘除術の症例数増加に伴い、同手術の施設認定も取得できました。ロボット手術は非常に低侵襲ですので、今までは手が出せなかった高齢の進行性膀胱癌患者にも施行できるようになり、積極的に症例を増やしております。尿路変更もロボット支援で施行しており、患者の術後 ADL の向上と早期退院に貢献できたと考えております。2024 年の当科症例数を下記に示しています。

2. メンバー構成

顧問　飯盛宏記

部長　金丸知寛　日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本泌尿器内視鏡学会・技術認定医
ロボット支援手術プロクター　日本透析医学会専門医

医員　榮井広嗣　日本泌尿器科学会専門医

3. 実績

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
1,289	1,251	1,456	1,407	1,314	1,452	1,448	1,433	1,316	1,438	1,304	1,482	16,590	1,383

《手術実績》

ロボット支援前立腺全摘除術　11 例
ロボット支援腎摘除・腎尿管全摘除術　12 例
ロボット支援腎部分切除術　10 例
ロボット支援膀胱全摘　10 例（うち、腔内回腸導管増設　7 例、尿管皮膚瘻　3 例）
ロボット支援腎盂形成術　5 例

4. 今後の目標

本年より、当院へ、リバーフィールド社の新しい医療用ロボット SAROA が導入されましたので、さらなる泌尿器科でのロボット支援手術数の増加を目指したいと思っております。

24）眼科

眼科部長　奥田　吉隆

1. 概要

現在 4 名の常勤医師、非常勤医師数名により外来診療および手術を行っております。午前診察は初診および予約診療を行っております。午後はレーザー等の処置や時間のかかる検査が必要な患者様の予約診療を主として行っております。

当院で行っている手術は、網膜硝子体手術、白内障手術（多焦点眼内レンズ含む）、緑内障手術、外眼部手術が中心です。

網膜硝子体手術は、硝子体手術用機械（コンステレーションアルコン社製）、硝子体手術用広角観察システム（リサイトカールツァイス社製）および眼科手術用顕微鏡（Lumera700　カールツァイス社製）を使用しており、小切開硝子体手術を行っております。また 2022 年 4 月からは 3D ビジュアルシステム（NGENUITY）での手術を行っております。本年度、疾患としては、硝子体出血、網膜剥離、黄斑円孔、黄斑上膜、水晶体・眼内レンズ脱臼、外傷性眼疾患などを行っております。近医の開業医さんからのご紹介は基本的に 24 時間対応可能です。

白内障手術は、日帰りもしくは入院で行っております。当院での白内障手術の特徴は褐色白内障、過熟白内障といった進行した白内障手術が多いことです。眼内レンズ強膜内固定術や眼内レンズ縫着術等の眼内レンズ関連手術も積極的に行っております。

また角膜乱視の矯正の為に、トーリック眼内レンズを使用した白内障手術も行っております。

最近では多焦点眼内レンズも導入し幅広い白内障手術を施行し、患者様の満足度の高い手術を心がけております。

外眼部手術に関しては、眼瞼下垂症、内反症などに対する眼形成手術や、翼状片手術、脂肪ヘルニアに対する手術、霰粒腫切開術、眼瞼皮膚腫瘍切除術、涙道疾患に対する手術などを行っております。

加齢黄斑変性症や網膜静脈閉塞症に合併した黄斑浮腫に対しては、抗 VEGF 薬の硝子体内注射を通院にて行っております。また、糖尿病網膜症に対する汎網膜光凝固術や急性緑内障発作に対するレーザー虹彩切開術、後発白内障に対する YAG レーザーなど、各種レーザー治療も行っております。

八尾市、柏原市、東大阪市、松原市、大阪市平野区、羽曳野市の先生方に於かれましては、いつも貴重な患者さまをご紹介頂きまして誠にありがとうございます。今後とも病診連携を通じて地域医療に貢献させていただければ幸いです。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

2. メンバー構成

（常勤医師）

奥田　吉隆　（部長）　日本眼科学会専門医　日本網膜硝子体学会専門医
PDT 認定医　ボトックス認定

宮木　俊哉　（医長）　日本眼科学会専門医　日本網膜硝子体学会専門医

山田　真弘　（医員）

米田　貴博　（医員）　日本眼科学会専門医

（非常勤医師）

照林　優也　緑内障専門医

高鍬　広章　眼形成専門医

西庄　龍東　ぶどう膜専門医

大学応援医師

3. 実績

≪外来患者数≫ 2024 年 1 月 1 日～ 2024 年 12 月 31 日

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
1,230	1,329	1,300	1,323	1,363	1,407	1,241	1,327	1,270	1,468	1,350	1,415	16,023

≪手術件数≫　2024 年 1 月 1 日～ 2024 年 12 月 31 日

計 2,067 件（うち白内障手術 1,041 件・硝子体手術 411 件・緑内障手術 89 件・眼形成 69 件・硝子体注射 377 件・その他 80 件）

4. 目標

地域の患者さまから、より一層頼りにされるような病院を目指し、地域医療に貢献して参ります。また近隣の開業医様や病院様より沢山のご紹介を頂けるようになり、本当に感謝しております。今後も緊急疾患含めどのような疾患に対しても真摯に向き合い、患者さまが満足して頂けるよう精一杯治療していきたいと思っております。

このような手術件数ができるのも日頃より大事な患者さまをご紹介して頂いている近隣の先生方のおかげでございますので、その思いを裏切らないよう馬車馬のように働いていく所存でございます。引き続きご支援を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　47
膠原リウ　48
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
集中治療　55
外　科　59
整形外科　61
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　90
婦人科　91
耳鼻咽喉　92
病理診断　93

25）麻酔科

麻酔科部長　谷　仁介

1. 概要

当院麻酔科は、日本麻酔科学会の麻酔科認定病院に指定され、5 名の常勤麻酔科医師と複数の非常勤麻酔科医師で運営されています。

常勤麻酔科医師は、全員が厚生労働省認定の麻酔科標榜医資格を有し、また日本麻酔科学会認定の麻酔科指導医もしくは麻酔科専門医資格を有し、24 時間 365 日の麻酔業務に取り組んでいます。

当科の方針として、手術を受ける患者様の安全を第一に考え、本邦における標準的な全身麻酔を実践することを掲げています。

当院の手術室は、一般的な手術に加えてハイブリッド手術室を設置し、ダヴィンチによるロボット手術が泌尿器科、呼吸器外科、外科、肝臓外科で施行されています。

2023 年 4 月より脊椎固定術用のロボットが導入され、今まで以上に安全な脊椎手術が行えるようになり、さらに 2025 年初頭に追加導入した「サロア」により、ロボット手術が幅広く施行出来るようになりました。

コロナウィルスを始めとする感染症対策として、手術室内できめ細かい感染対策をし、患者様が安心して手術、麻酔を受けていただけるようにしています。

手術を受ける際には多大な不安があると思いますが、当院での手術・麻酔に関しては我々にお任せください。

2. メンバー構成

部長　谷　仁介　　（日本麻酔科学会指導医・専門医）
部長　池下　和敏　（日本麻酔科学会指導医・専門医、医学博士）
医員　金沢　晋弥　（日本麻酔科学会指導医・専門医・心臓麻酔専門医）
医員　仲村　光世　（日本麻酔科学会指導医・専門医）
医員　濱崎　亜弓　（日本麻酔科学会指導医・専門医）

3. 実績

2024 年の麻酔科管理手術件数は 2,880 件でした。

《麻酔方法》

全身麻酔	TIVA	全身麻酔 + 硬、伝麻	脊髄くも膜下麻酔	鎮静
2,368 件	7 件	794 件	10 件	1 件

＜手術部位別＞

開頭・頸動脈	開胸	心臓・大血管	開胸＋開腹	胸腹壁
57 件	138 件	259 件	4 件	279 件

上腹部	下腹部	頭頸部	脊椎	股関節・四肢
445 件	527 件	404 件	164 件	603 件

《年齢別》

0 － 5 歳	6 － 19 歳	20 － 65 歳	66 － 85 歳	86 歳以上
61 件	105 件	1,004 件	1,406 件	304 件

4. 今後の目標

患者の安全を最優先に考え、術前、術中、術後が問題無く経過することを目標とし、24 時間 365 日、いつでも患者さまを受け入れ、常に安全な手術麻酔を提供させていただきます。

コロナウィルスを始めとする感染症に対し、可能な限りの感染対策を取るとともに、最先端の手術に柔軟に対応し、患者さまがいつでも安心して手術を受けられる麻酔科・手術室を目指します。

内　科 26
循環器内 33
消化器内 35
呼吸器内 36
腫瘍内科 37
血管透析 39
腎臓内科 43
糖尿病代謝内科 44
脳神経内 47
膠原リウ 48
小児科 49
放射診科 51
救急科 52
集中治療 55
外　科 59
整形外科 61
脳神経外 65
心臓血管心臓血セ 67
形成外科美容外科 70
呼吸器外 72
小児外科 74
歯　科歯科口腔 77
泌尿器科 80
眼　科 81
麻酔科 83
肝臓セン 85
皮膚科 90
婦人科 91
耳鼻咽喉 92
病理診断 93

26）肝臓センター

肝胆膵外科部長　木村　拓也

1. 概要

2024 年はマイナ保険証の運用開始、医師の働き方改革制度の開始、そして令和 6 年度診療報酬改定が行われた年でした。マイナ保険証の導入は、患者の同意を得たうえで医療機関・薬局が特定健診情報を閲覧可能となり、未病の肝疾患の拾い上げなどにつながる大きな可能性をもった制度と言えます。

また、医師の働き方改革制度開始により、今まで以上に他科との連携や、多職種とのタスクシェア・シフトが重要になってきます。

医療の労働環境が魅力あるものとなり、より良質な医療の提供につながることを願います。診療報酬改定では、経静脈的肝生検に 13,000 点という保険点数が付きました。経皮的肝生検が適応にならない症例に対して経静脈からアプローチし肝組織を採取する手技ですが、それほど簡単な手技ではなく、一定の合併症も発生する可能性がある手技であり今回適切な手技点数が設定されたのはありがたいことです。

さて、今年の目玉はロボット支援下手術の安定運用と、高度技能専門医修練施設新規申請です。

肝臓センターでは、肝胆膵領域の悪性疾患を中心に、肝炎・肝硬変・胆管炎・膵炎などの診療を行っており、中河内地区に根差し、14 年目の節目を迎えました。

大阪府がん診療拠点病院、肝疾患専門医療機関として、近隣施設より多くの患者様を紹介いただきました。低侵襲な腹腔鏡手術・ロボット手術から、血行再建を伴う超拡大手術まで幅広く手術を行っており、また、総合病院として、さまざまな合併症を抱える方・80 歳を超える高齢の方などに、ガイドラインに沿い患者目線に立った医療を提供しています。

新しく 2 人の先生に入職していただき、現在 7 人体制で診療に従事しています。外科系診療科で一致団結し、後期研修医の教育、徳洲会グループとして各拠点病院にも研修可能な体制づくりを継続していくとともに、研究にも力を入れていきたいと思っています。

以下、肝臓センターとして、科の枠組みを超えた活動もしています。

・周術期、担癌患者への NST・ICT・緩和ケアチームとの連携
・JCI 更新に向けての院内稼働中クリニカルパスの見直しと新規パス（膵頭十二腸切除術）導入
・外国人永住者が多い八尾市における外国人受け入れ医療機関として、JMIP 認証新規取得に向けた整備
・地域小中学校での、がん教育の講演や、地域診療所の先生方に向けた肝疾患 web セミナーの開催

2. メンバー構成

・松田康雄（顧問、肝臓センター長）

資　　格：日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会指導医、日本超音波医学会専門医

・木村拓也（副院長・肝胆膵外科部長）平成7年卒

資　　格：日本外科学会認定医・専門医・指導医、日本小児外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医･指導医､日本総合診療医学会認定医､日本臨床栄養代謝学会認定医、肝臓学会認定肝臓専門医・指導医、日本移植学会認定医、日本肝胆膵外科学会評議員、日本内視鏡外科学会評議員、日本病態栄養学会評議員、日本臨床栄養代謝学会評議員､近畿外科学会評議員､近畿小児外科学会評議員､感染制御医師（ICT)、外科プログラム責任者、NST 委員長、QI センター長、TNT 講習、PEACE プロジェクト緩和ケア講習、臨床研修医指導者講習、臨床研修プログラム責任者講習、ダヴィンチサージカルシステム助手資格認定、ダヴィンチサージカルシステム術者資格認定、Saroa サージカルシステム術者資格認定

・井上雅文（医長）平成11年卒

資　　格：日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本肝臓学会認定肝臓専門医、日本消化器内視鏡学会専門医･指導医、近畿外科学会評議員、PEACE プロジェクト緩和ケア講習、臨床研修医指導者講習

・藤井貴子（医長）平成13年卒

資　　格：日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医・指導医、消化器がん外科治療認定医、日本肝臓学会専門医・指導医、日本移植学会移植認定医、日本化学療法学会抗菌化学療法認定医、日本がん外科治療認定医、医療情報学会医療情報技師、日本肝臓学会西部会評議員、臨床研修医指導者講習、日本感染症学会セクションコントロールドクター（ICD)、医療安全管理者、がん診療にかかわる医師に対する緩和ケア研修会、がんのリハビリテーション研修会、ダヴィンチサージカルシステム助手資格認定、Saroa サージカルシステム術者資格認定、QI センター副センター長、下肢静脈瘤血管内治療実施医、日本医療通訳協会医療通訳２級

・豊田甲子男（医員）

資　　格：日本外科学会専門医、日本救急医学会専門医、JATEC コース 修了、SSTT コース 修了

・中多靖幸（医員）

資　　格：日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医・指導医、消化器がん外科治療認定医、日本肝臓学会専門医、日本肝胆膵外科学会高度技能専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医、日本がん治療認定医機構認定医、ダヴィンチサージカルシステム術者資格認定

・河島茉澄（医長）

資　　格：日本外科学会専門医、日本小児外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、日本肝臓学会専門医、臨床研修医指導者講習、がん診療にかかわる医師に対する緩和ケア研修会、ダヴィンチサージカルシステム助手資格認定

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　47
膠原リウ　48
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
集中治療　55
外　科　59
整形外科　61
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　90
婦人科　91
耳鼻咽喉　92
病理診断　93

3. 実績

・手術件数（図 1 参照）

289 件／年

考察：昨年は当科の手術枠がある火曜日と木曜日に祝日がなかった年で、手術枠 105 日に対して 289 件の手術を施行しています。一昨年と比較し総手術件数は増えており、肝胆膵悪性腫瘍手術の件数は大きな増加はなかったものの、腹腔鏡手術の割合が増えています。膵癌・中下部胆管癌に対する膵頭十二指腸切除術の件数が多いのも当科の特徴です。症例も蓄積されてきたため、今後は術後成績（術前化学療法の有無、pStage 別、コンバージョン症例）を解析し示していきたいと考えています

・肝胆膵の内視鏡処置件数（診断含む）

ERCP 332 件（数例重複含む）

EUS 101 件（うち、EUS-FNA 19 件）

EUS 下ドレナージ 9 件

（GBD4、ダグラス窩膿瘍 2、膵液漏 1、膵嚢胞（IPMN、仮性）2）

考察：肝胆膵疾患について、術前診断をはじめ、緊急処置・術後合併症に対する内視鏡的治療を迅速かつシームレスに行えるのが当センターの強みです。合併症による再開腹手術を回避するなど、術後成績向上に寄与しています。

・外来患者数（図 2 参照）

5,738 人／年（昨年比 10％増）

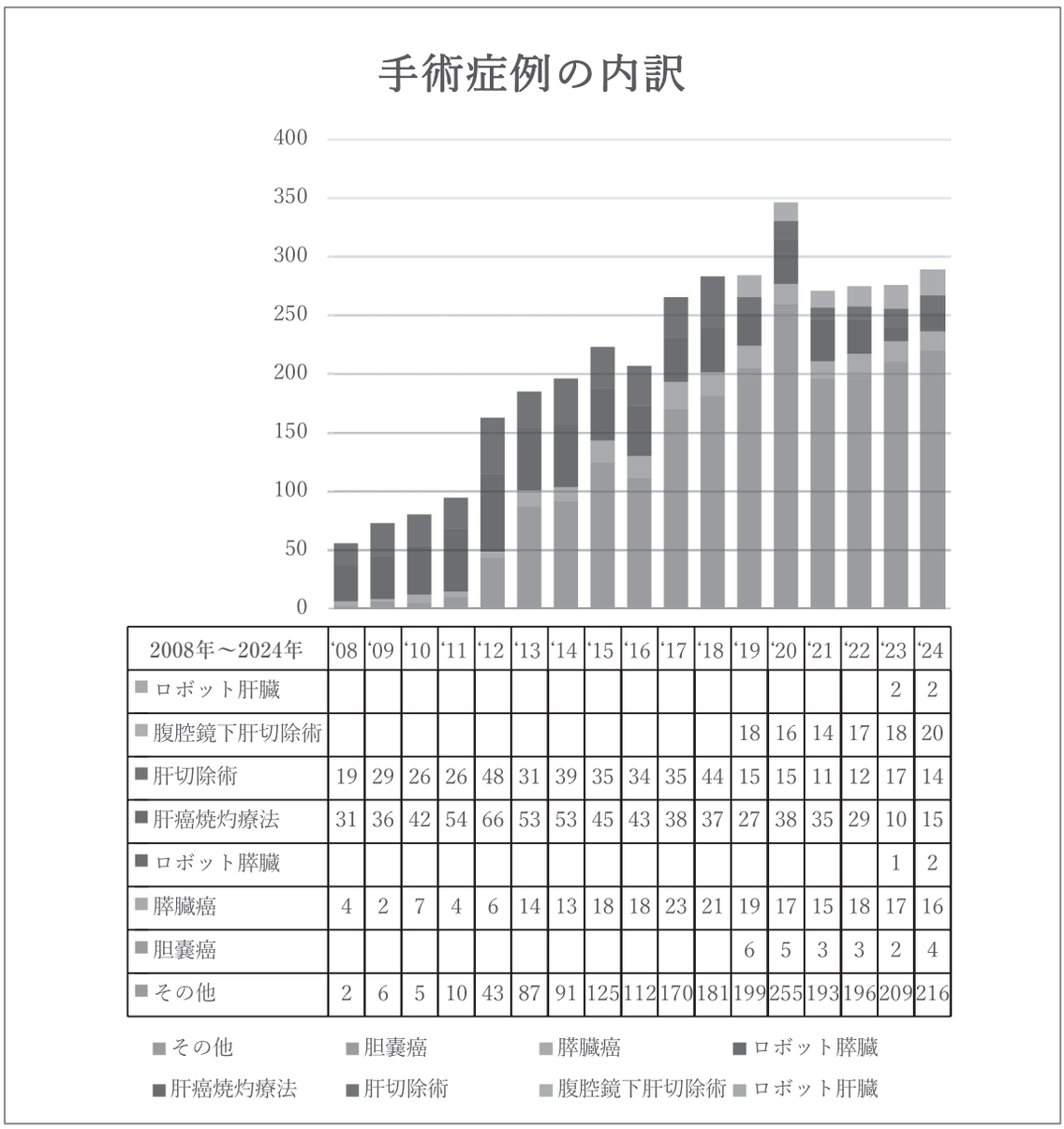
考察：C 型肝炎院内サーベイランス、B 型肝炎再活性化の監視、「肝炎・肝硬変・肝不全外来」の立ち上げを行い、院内外の未病の肝疾患患者の拾い上げや精査を行うことで、がんの早期発見や手術件数増加に向け日々の努力を重ねています。

肝胆膵悪性腫瘍の総診断件数を、その紹介元別に内訳をみると、近隣医療機関からのご紹介が半数以上を占め、「がんの治療」で当科が評価いただけていると考えます。患者さんに満足いただける医療を提供し、また、近隣病院の挨拶回りなど、ご縁が途切れないよう努力が重要と考えます。一方 ER からの拾い上げが少ないと感じています。一見さんではなく、平日の外来受診へとつなげなくてはなりません。

・がん薬物療法治療数

延べ 694 件／年（前年比 21％増）

考察：肝胆膵悪性腫瘍でがん薬物療法を行っている患者延べ数は、ICI の適応拡大、NAC や術後補助療法などにより件数が増えています。癌種別では肺がんに次いで 2 位であり、今後も需要が増えると予想されます。Conversion surgery につなげるために、より積極的な集学的治療を検討していきたいと思います。



2008年～2024年	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19	'20	'21	'22	'23	'24
■ロボット肝臓																2	2
■腹腔鏡下肝切除術												18	16	14	17	18	20
■肝切除術	19	29	26	26	48	31	39	35	34	35	44	15	15	11	12	17	14
■肝癌焼灼療法	31	36	42	54	66	53	53	45	43	38	37	27	38	35	29	10	15
■ロボット膵臓																1	2
■膵臓癌	4	2	7	4	6	14	13	18	18	23	21	19	17	15	18	17	16
■胆嚢癌												6	5	3	3	2	4
■その他	2	6	5	10	43	87	91	125	112	170	181	199	255	193	196	209	216

図1

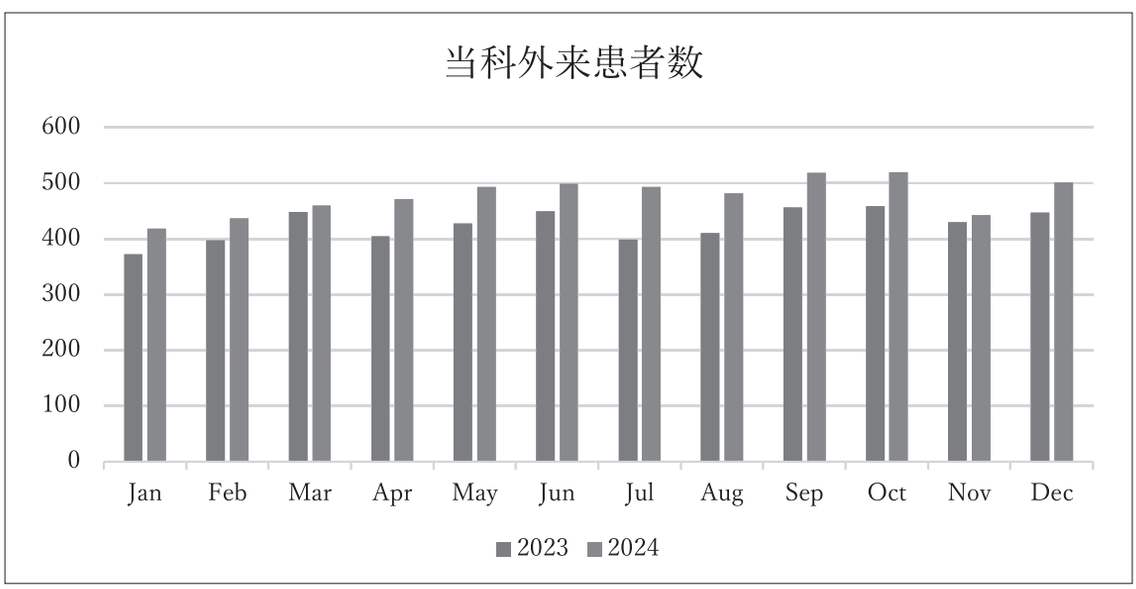


図2

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　47
膠原リウ　48
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
集中治療　55
外　科　59
整形外科　61
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　90
婦人科　91
耳鼻咽喉　92
病理診断　93

《来院経路》

診断年	原発部位《局在コード》	自主的受診	自施設での他疾患経過観察中	他施設からの紹介	その他(救急車)
膵臓	2023	5	11	26	2
	2024	8	11	28	4
Vater乳頭	2023	0	0	2	0
	2024	2	0	2	1
肝外胆管	2023	3	4	10	1
	2024	8	3	13	1
胆嚢	2023	1	0	1	0
	2024	1	2	9	2
肝内胆管	2023	3	0	6	0
	2024	1	1	4	2
肝臓	2023	2	3	18	2
	2024	0	13	16	3

図3

4. 今後の目標

本年も昨年同様、手術件数・外来患者数・がん薬物療法延べ患者数の増加を維持します。特に、原発性肝癌に対する肝切除数増加にもこだわります。低侵襲手術で適応を広げ、血管吻合・再建などを伴う難度の高い手術で差別化を図りたいと考えます。

また、高度技能専門医修練施設に認定された後は、教育にも力を入れ、後期研修医の確保を目指していきたいです。

27）皮膚科

皮膚科医員　葉山　友紀

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病代謝内科　44
脳神経内　47
膠原リウ　48
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
集中治療　55
外　科　59
整形外科　61
脳神経外　65
心臓血管心臓血セ　67
形成外科美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　90
婦人科　91
耳鼻咽喉　92
病理診断　93

1. 概要

2024 年度より、常勤 2 名で診療にあたっております。

当科では、薬疹、接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、尋常性乾癬、水疱症、天疱瘡、掌蹠膿疱症、円形脱毛症などの各疾患、白癬症、ヘルペス感染症、尋常性疣贅、尋常性ざ瘡、蜂窩織炎、丹毒、感染性粉瘤、尖圭コンジローマ・梅毒（STD）などの皮膚感染症、および皮膚腫瘍、皮膚潰瘍、熱傷（保存的治療可能な 、主に SDB まで）といった一般皮膚科疾患を診療しております。

検査としましては、皮膚生検による病理検査、RAST 測定によるアレルギー検査、ダーモスコピー検査、顕微鏡検査を行っております。

皮膚腫瘍に関しましては、ダーモスコピー検査、エコー検査、皮膚生検による病理検査を行っております。手術が必要な場合は当院形成外科や大阪公立大学医学部附属病院にご紹介しております。

専門的、高度な加療が必要な疾患は、大阪公立大学医学部附属病院をはじめとした高次医療機関へご紹介させていただいております。

※紫外線療法は行っておりません。

2. メンバー構成

常勤　葉山　友紀、白川　玲奈

3. 実績

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
169	172	195	298	366	389	501	521	526	553	490	505	4,685	390

4. 今後の目標

地域医療に貢献して参りたく存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。

28）婦人科

婦人科　出口　昌昭

1. 概要

2024 年 4 月より常勤医師 1 名、非常勤医師 2 名にて婦人科外来診療を開始し、同時に院内他診療科よりのコンサルトに対応しています。

主たる外来診療業務は、

1）婦人科悪性腫瘍の診断

2）婦人科良性腫瘍の診断と子宮筋腫・子宮内膜症等に対する薬物療法

3）月経困難症・月経前症候群・月経不順に対する薬物療法

4）不妊・内分泌疾患の診断と治療　（体外受精は実施せず）

5）更年期障害の薬物療法

6）骨盤臓器脱に対する保存的治療

7）HPV ワクチン接種

周産期の診療に関しては、現在当院にて分娩を取り扱っていない事により、妊娠の診断と妊娠初期の検診のみ実施しています。

2. メンバー構成

出口昌昭（常勤）	月～木	担当	日本産科婦人科学会専門医・指導医
			日本婦人科腫瘍学会専門医
梅咲直彦（非常勤）	金	担当	日本産婦人科学会専門医・指導医
			日本婦人科腫瘍学会専門医・指導医
浜崎　新（非常勤）	水	担当	日本産婦人科学会専門医
			日本周産期・新生児学会専門医

3. 実績

《2024 年　婦人科外来患者数の推移》

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	
総数	194	223	213	193	222	254	
新患	1	3	1	3	7	8	
	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	計
総数	261	257	239	239	250	130	2,675
新患	5	4	7	4	2	9	54

4. 今後の目標

24 時間対応可能な人的資源の充実を待って、まずは婦人科疾患の治療（手術療法・化学療法・放射線療法）の自院での再開を目指す。

29）耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科部長　森　彰之

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　47
膠原リウ　48
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
集中治療　55
外　科　59
整形外科　61
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　90
婦人科　91
耳鼻咽喉　92
病理診断　93

1. 概要

2024 年は相変わらず新型コロナウイルス感染症も多く、年末にはインフルエンザの流行もあり急性の上気道症状患者が多く来院されました。昨年同様に感染対策を行っており耳鼻咽喉科外来からの院内感染は起きておりません。今後も患者さまに安心して受診していただけるように引き続きの感染対策継続および強化をしてまいります。本年度も常勤医が 1 名のため入院や手術は適応・重症度を検討し治療にあたっています。

一般診療では以下の疾患を主に診察しております。

・鼻：鼻腔異物、アレルギー性鼻炎、急性副鼻腔炎、慢性副鼻腔炎、鼻出血など
・耳：耳垢栓塞、外耳炎、外耳道異物、急性中耳炎、慢性中耳炎、突発性難聴、老人性難聴、顔面神経麻痺、ハント症候群、メニエール病・前庭神経炎等の内耳性めまいなど
・のど：咽頭異物、急性扁桃炎、扁桃周囲膿瘍、急性咽頭炎、急性喉頭蓋炎、声帯ポリープなど耳鳴りおよび補聴器についての特殊外来で対応しています。

成人のスギ、ダニに対する舌下免疫療法も開始いたしました。
外来、入院患者の嚥下機能検査およびリハビリテーションも対応しております。
甲状腺疾患は当科では診察を行っておらず、専門機関に紹介しております。

入院は急性炎症や突発性難聴・顔面神経麻痺などのステロイド治療、めまい症など。
手術は就学児童以上を対象としております。
副鼻腔炎に対する内視鏡下鼻内手術、鼻閉改善手術、扁桃摘出術、アデノイド切除術、声帯ポリープ切除術、鼓膜チューブビング術などを症例の重症度を検討し行っております。
中耳、内耳手術や唾液腺手術、悪性腫瘍に関しては高次施設に紹介いたします。

2. メンバー構成

森　彰之（常勤）

3. 実績

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
323	278	372	330	350	339	366	319	321	353	322	409	4,082	340

4. 今後の目標

入院・手術での対応を行っていき地域医療に貢献していきたいと思います。

30）病理診断科

病理診断科部長　中塚　伸一

1. 概要

2024 年 12 月現在、医師 10 名（常勤 4 名、非常勤 6 名）、病理専任の臨床検査技師 10 名（常勤 9 名、非常勤 1 名）（うち細胞検査士 5 名）、医療事務 2 名が業務に携わっています。

当科では、院内の組織診断、細胞診断、病理解剖を行うほか、徳洲会大阪病理診断研究センターとして、大阪および近隣府県のグループ病院、一般医療機関の病理診断を請け負っています。2024 年には新たに中部徳洲会病院、阪南中央病院および一般医療機関 2 施設の受託を開始し、12 月現在でグループ病院 10 病院、一般医療機関 7 施設と連携しています。中部徳洲会病院、神戸徳洲会病院とはバーチャルスライドを使用した遠隔病理診断連携を行っており、病理医の不足･偏在を解消するモデルケースとして実績を積み重ねています。引き続き病病連携･病診連携を推進し、積極的に地域医療への貢献に努めてまいります。2024 年の病理診断の総件数は組織診断 11,387 件、細胞診断 17,690 件でした。院内外で 11 件の病理解剖を行い、10 回の臨床病理検討会（CPC）を行いました。初期研修医は病理解剖に実際に立ち会い、CPC での発表を通して、全身の臓器の状態を把握し、病態を理解する訓練を積んでいます。近畿大学病院とも病理専門研修プログラムの連携を組み、病理専攻医を 1 名受け入れ、病理解剖についての技術習得を支援し、指導を行っています。

2023 年から in house で実施している AmoyDx 肺癌マルチ遺伝子 PCR パネル検査についても順調に実績を積み重ねて、近年進む分子生物学的ながん医療への対応も模索しています。

2. メンバー構成

医師

中塚伸一（部長､センター長）	日本専門医機構病理専門医、日本病理学会分子病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医
寺田信行（副部会長）	日本専門医機構病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医
久保勇記	日本専門医機構病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医
南部尚子	日本専門医機構病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医
青笹克之（最高顧問）	日本専門医機構病理専門医
山下憲一（非常勤）	日本専門医機構病理専門医
関川進（非常勤）	日本専門医機構病理専門医
若狭朋子（非常勤）	日本専門医機構病理専門医、産婦人科専門医、臨床検査専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医
北村昌紀（非常勤）	日本専門医機構病理専門医、日本病理学会分子病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医
加藤雅大（非常勤）	日本専門医機構病理専門医

臨床検査技師

岩﨑由恵（細胞検査士）、西川裕子（細胞検査士）、室木魁人（細胞検査士）、坪佐朱莉（細胞検査士）、吉川つかさ、溝邉栞、平井翔也、塩見日向子、伊佐萌子、弘中由佳（非常勤、細胞検査士）

3. 実績

《組織診断、細胞診断件数》

	組織診断	迅速組織診断	細胞診断	
徳洲会グループ病院				
当院	5,068[45%]	157	8,597[49%]*	*うちROSE 127件
1 松原徳洲会病院	1,723	18	1387**	病理解剖も受託(4件)。**2024年9月～。
2 生駒市立病院	1,298	0	2,341	
3 近江草津徳洲会病院	1,032	0	1,872	
4 神戸徳洲会病院	466	4***	448	***迅速診断は遠隔病理診断。
5 中部徳洲会病院	399#	0	0	2024年4月～。#遠隔病理診断のみ。
6 阪南中央病院	280	0	629	2024年10月～。
7 六地蔵病院	196	0	257	
8 東佐野病院	50	0	6	
9 東大阪徳洲会病院	27	0	12	
全南病院	7	0	0	2024年八尾徳洲会総合病院に統合。
10 名古屋徳洲会病院	0	0	2,114	
松原中央病院	0	0	0	2024年松原徳洲会病院に統合。
徳洲会グループ病院　小計	10,546	179	17,663	
グループ外病院・診療所				
11 恵生会病院	779	1	0	
12 菊池内科	21	0	0	
13 新井クリニック	19	0	24	
14 城山病院	16	16	0	2024年7月～。迅速診断(戻しを含む)のみ。
15 Takaデンタルクリニック	6	0	3	2024年3月～。
16 八尾市立病院	0	19	0	迅速診断のみ。
17 なかたに歯科	0	0	0	
グループ外病院・診療所　小計	841	36	27	
合計	11,387	215	17,690	

他、医真会八尾総合病院から免疫染色のみ受託。愛染橋病院、森之宮病院と病理解剖受託契約を締結している。

《剖検一覧》

剖検番号	剖検日	出所	年齢	性別	臨床診断
749	2024.01.06	内科	78	男	肺癌
750	2024.01.11	松原徳洲会病院・発熱外来	81	男	肺炎
751	2024.02.22	松原徳洲会病院・内科	78	男	肺炎
752	2024.03.08	腫瘍内科	76	男	肺癌
753	2024.03.09	内科	73	男	関節リウマチ、肝障害
754	2024.03.23	腫瘍内科	66	男	肺癌
755	2024.07.04	松原徳洲会病院・内科	97	男	腸管壊死
756	2024.08.26	腫瘍内科	72	男	中皮腫
757	2024.10.03	腫瘍内科	77	女	肺癌、アミロイドーシス
758	2024.10.08	松原徳洲会病院・内科	38	男	急性肝不全
759	2024.11.05	腫瘍内科	60	男	肺癌

計 11 例

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　47
膠原リウ　48
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
集中治療　55
外　科　59
整形外科　61
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　90
婦人科　91
耳鼻咽喉　92
病理診断　93

《担当カンファレンス》

消化器カンファレンス（水曜午前、毎週）

乳腺カンファレンス（水曜午後、月に約２回）

呼吸器カンファレンス（木曜午後、毎週）

4. 今後の目標

引き続き、正確で迅速な病理診断に努めてまいります。大阪病理診断研究センターの活動として、さらに近隣の医療施設との提携を拡大し、質の高い病理診断で地域医療に貢献できるよう努めます。今後、不足が予想される病理医、細胞検査士について積極的にリクルート活動を行い、後進の育成に努めます。また、徳洲会グループ施設の横断的活動を通して、先頭に立って相互の教育体制整備、教材整備、学術活動をを推進します。

副　診　療　部

―― 2024年 ――

31）薬　剤　部　98
32）放 射 線 科　102
33）臨床検査科　104
34）リハビリテーション科　108
（理学療法・作業療法・言語聴覚療法・心臓リハビリテーション）
35）臨床心理科　114
36）臨床工学科　116
37）栄　養　科　121
38）治験センター　124
39）医療福祉相談室　125
（MSW 医療ソーシャルワーカー）
40）病診連携室　129
41）健診センター　140
42）情報システム管理室　142
43）保　育　室　144
44）がん相談支援センター　146
45）医療安全管理部　150
46）感染制御部　155
47）臨床腫瘍センター　159

31）薬剤部

薬剤部部長　大里　恭章

薬剤部　98
放射線科　102
臨床検査　104
リハビリ　108
臨床心理　114
臨床工学　116
栄養科　121
治験セン　124
医療福祉　125
病診連携　129
健診セン　140
情報シス　142
保育室　144
がん相談　146
医療安全　150
感染制御　155
臨床腫瘍　159

1. 概要

2024 年 4 月より、私が徳洲会薬剤部の本部長に着任したことにより、急遽院内の薬剤部の運営を草薙薬局長、坂野副薬局長を中心に横山係長、前田係長、山本（倫）係長が補佐をする体制で臨むことになりました。薬剤部の責任者としての業務の移譲を少しずつ行なってはいますが十分な申し送りができず、各部署に迷惑をかけることもありました。2025 年 4 月からは医薬品安全管理者を草薙薬局長、実務実習指導薬剤師を横山係長、麻薬管理者を前田係長に担当者を決め、また主任、副主任の管理者にもそれぞれに業務の役割を分担し、薬剤部の運営を任していこうと考えています。

また、4 月からは 6 名の新しいスタッフを迎えることができ、2026 年 2 月の 475 床の病棟フルオープンを迎えた時に病棟薬剤師が全病棟にはいる構想も固めることができました。病棟業務活動では服薬指導件数も昨年から 8%以上の増加で、全てで前年同月を上回る結果となりました。また、2024 年は医師の働き方改革が本格化することもあり、救急件数が 10，000 件を超える当院の状況を踏まえ、薬剤師が ER 現場のスタッフの負担軽減と業務の効率を考えたうえで、まずできる範囲になりますが ER での日中の常駐化をはじめました。多くは救急搬送で運ばれた患者の服用薬・持参薬の確認作業ですが、これから業務の範囲を拡大していきたいと考えています。

学会発表も積極的に行ない、『医療薬学フォーラム 2024　第 32 回クリニカルファーマシーシンポジウム』では 2 演題、『第 34 回日本医療薬学会年会』では 3 演題を発表し、また『第 18 回日本腎臓病薬物療法学会学術集会』においてはスタッフの竹腰薬剤師が発表した「透析患者に P,Ca 濃度測定に対する PBPM の策定を処方提案」が優秀演題賞を受賞しました。今後はこれらの発表を論文に繋げていきたいと考えています。

2025 年も常に薬剤師として臨床現場で何が求められ、何ができるのかを考え、それらの責務を果たせるよう努めていきたいと思います。

2. メンバー構成

・薬剤師　52 名（非常勤 1 名）

【育児休暇：1 名】【僻地・離島応援：3 名】

助　手　3 名（非常勤 1 名）

・有資格者

日本医療薬学会	医療薬学指導薬剤師	大里恭章
	医療薬学専門薬剤師	大里恭章、草薙みか
	がん専門薬剤師	草薙みか、山本倫数、濱田達志
	薬物療法指導薬剤師	草薙みか
	薬物療法専門薬剤師	草薙みか
日本病院薬剤師会	感染制御認定薬剤師	横山靖法
	認定指導薬剤師	大里恭章、草薙みか
日本化学療法学会	抗菌化学療法認定薬剤師	横山靖法
日本臨床栄養代謝学会	NST専門療法士	大里恭章、草薙みか、森田亜記、岩政かおり、山本倫数、森田幸男
日本糖尿病療法指導士認定機構	糖尿病指導療法士	坂野千賀、森田亜記、栗野大輔
日本アンチドピング機構	スポーツファーマシスト	大里恭章、山本倫数、井上悠、森下夏伎
日本薬剤師研修センター	漢方薬・生薬認定薬剤師	草薙みか、門間智恵
	小児薬物療法認定薬剤師	坂野千賀
	認定実務実習指導薬剤師	大里恭章、草薙みか、坂野千賀、横山靖法、前田晃佑、青山瑛里子
日本麻酔科学会	周術期管理チーム薬剤師	大里恭章、前田晃佑
日本臨床救急医学会	救急認定薬剤師	山本浩二郎
日本臨床腫瘍薬学会	外来がん化学療法認定薬剤師	濱田達志
日本アカデミック・ディテーリング研究会	アカデミック・ディテーリング認定薬剤師	大里恭章、坂野千賀、栗野大輔
日本循環器学会	心不全療養指導士	森田幸男、森下夏伎

3. 実績

学生実習受け入れ【2024年度：2024年 5 月～2025年 2 月：12名】

・2期　4 名（大阪医科薬科大学 1名、近畿大学 3 名）

・3期　4 名（摂南大学 1 名、大阪大谷大学 1 名、近畿大学 2 名）

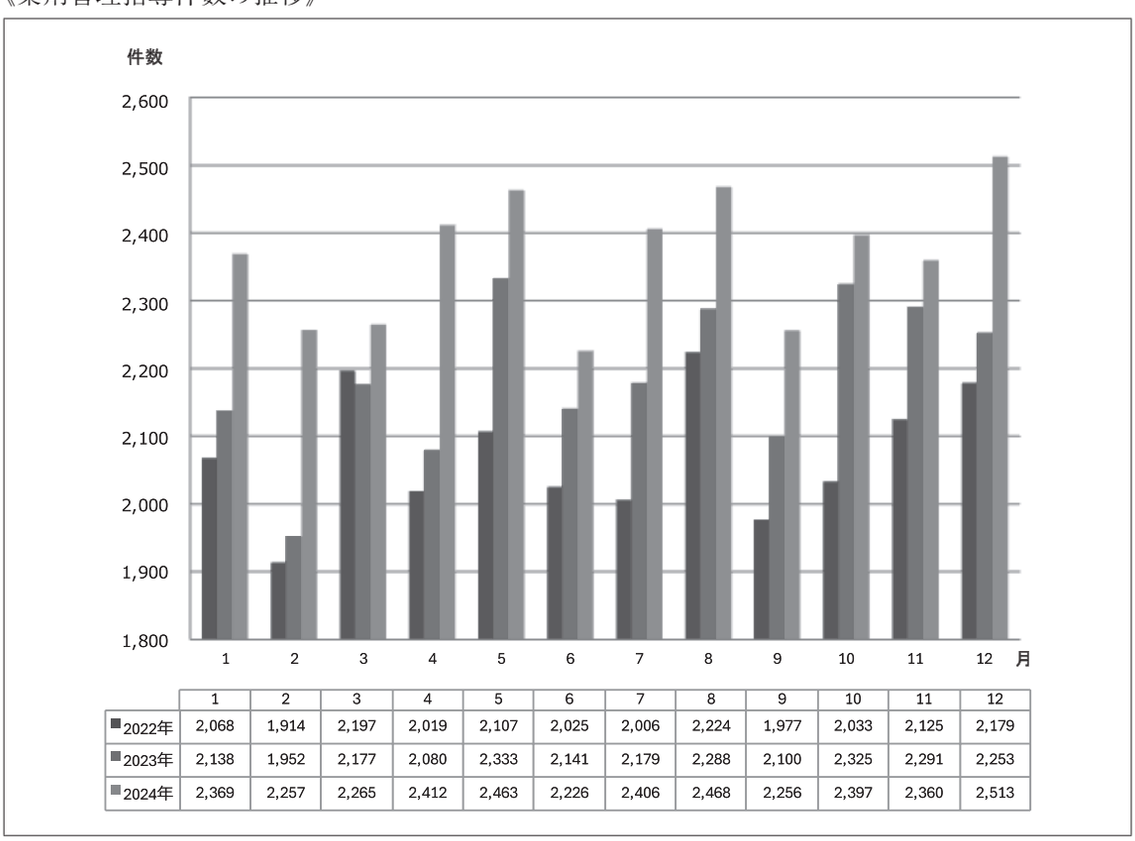
・4期　4 名（近畿大学 4 名）

薬剤部 98
放射線科 102
臨床検査 104
リハビリ 108
臨床心理 114
臨床工学 116
栄養科 121
治験センター 124
医療福祉 125
病診連携 129
健診センター 140
情報システム 142
保育室 144
がん相談 146
医療安全 150
感染制御 155
臨床腫瘍 159

《業務量》2024 年

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均	前年比
処方箋枚数(外来)	1,941	1,602	1,499	1,475	1,644	1,481	1,667	1,624	1,437	1,562	1,501	2,140	19,573	1,631.1	94.2%
調剤数(外来)	4,090	3,477	3,332	3,243	3,644	3,216	3,547	3,516	3,136	3,545	3,265	4,613	42,624	3,552.0	91.8%
処方箋枚数(入院)	8,217	8,313	8,753	8,430	9,085	8,259	8,621	9,278	8,217	8,613	8,743	9,080	103,609	8,634.1	116.4%
調剤数(入院)	16,749	17,423	18,806	18,597	19,321	17,347	18,216	19,908	17,552	18,640	18,334	18,750	219,643	18,303.6	117.9%
注射本数	36,831	33,629	35,003	35,038	35,331	31,943	34,372	36,109	34,311	35,582	32,869	35,742	416,760	34,730.0	105.8%
無菌製剤処理2件数(入院)	210	210	195	171	217	230	178	222	206	272	208	216	2,535	211.3	100.4%
無菌製剤処理1件数(悪性腫瘍)	245	238	213	232	244	220	244	239	208	241	208	232	2,764	230.3	87.9%
外来腫瘍化学療法診療料 1-イ	230	226	248	230	178	222	206	272	208	216	224	210	2,670	222.5	100.4%
外来化学療法加算　1	61	51	53	60	64	54	63	62	47	63	60	59	697	58.1	102.2%
薬剤情報提供件数	1,839	1,474	1,367	1,322	1,522	1,383	1,545	1,535	1,344	1,444	1,389	1,976	18,140	1,511.7	98.5%
退院時薬剤情報指導件数	557	655	696	473	503	525	518	539	532	568	597	718	6,881	573.4	109.1%
薬剤管理指導件数(Ⅰ)	1,512	1,395	1,415	1,640	1,558	1,395	1,531	1,564	1,434	1,526	1,521	1,699	18,190	1,515.8	112.9%
薬剤管理指導件数(Ⅱ)	857	862	850	772	905	831	875	904	822	871	839	814	10,202	850.2	100.5%
薬剤管理指導件数(合計)	2,369	2,257	2,265	2,412	2,463	2,226	2,406	2,468	2,256	2,397	2,360	2,513	28,392	2,366.0	108.1%

《薬剤管理指導件数の推移》



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
■2022年	2,068	1,914	2,197	2,019	2,107	2,025	2,006	2,224	1,977	2,033	2,125	2,179
■2023年	2,138	1,952	2,177	2,080	2,333	2,141	2,179	2,288	2,100	2,325	2,291	2,253
■2024年	2,369	2,257	2,265	2,412	2,463	2,226	2,406	2,468	2,256	2,397	2,360	2,513

4. 今後の目標

①臨床業務活動のさらなる充実をめざす

②学会発表・論文発表を積極的に行い、リサーチマインドを追求する

③スタッフの育成とともに資格取得ができる環境を構築する

④医療制度改革に対応できるように組織の変革を常に継続する



32）放射線科

放射線科技師長　平野　泰弘

薬剤部　98
放射線科　102
臨床検査　104
リハビリ　108
臨床心理　114
臨床工学　116
栄養科　121
治験セン　124
医療福祉　125
病診連携　129
健診セン　140
情報シス　142
保育室　144
がん相談　146
医療安全　150
感染制御　155
臨床腫瘍　159

1. 概要

2024 年は診療放射線技師 4 名の新入職と転勤が 2 名あり、現在は診療放射線技師 37 名・事務員 1 名の体制となっております。今年度も放射線部会と緊密に連携し、徳洲会グループの超規模病院としての責務を全うしてまいります。

検査実績としましては、昨年と同様に近隣のクリニックや診療所より年間 2985 件の検査依頼を頂きました。

今期は 2024 年 4 月から 10 月に地下 1 階の治療装置を更新し、10 月に核医学検査室の機器変更と場所移動をしました。他の既存の装置をフル活用する事で検査待ち日数を短縮し、緊急検査にもスムーズに対応できるよう努めました。また、昨年同様に循環器科と脳外科の協力により、緊急カテーテルの件数も増加し、脳卒中の患者様に対しても緊急 CT・MRI 検査、緊急の血栓除去術や血管塞栓術の治療も行う等､救急の面においても貢献できたと考えております。

学術面では、今後も個人能力向上と放射線科全体のレベルアップを目指し、学会等への積極的な参加を続けていきます。

治療・検査体制の充実を図り、安全に配慮しながら迅速に対応できるよう、また、地域に信頼される病院になれるように努力してまいります。

2. メンバー構成

診療放射線技師 37 名、事務員 1 名

有資格取得者

第 1 種放射線取扱主任者	伊吹剛、井上竜太、齋藤里沙、宮本夏実
マンモグラフィ検診認定技師	村尾信義、川野友也
	疋田直子、齋藤里沙、安川莉愛、金岡愛実、宮本夏実
	大西あゆみ、藤田雅舞、坂元真衣
胃がん検診認定技師	琉秀光、近藤浩司
肺がん CT 認定技師	近藤浩司、伊吹剛
救急撮影認定技師	平野泰弘、小川宏明
Ai 認定技師	橋詰智
医療情報技師	村尾信義、川野友也
X 線 CT 認定技師	伊吹剛、瀬川裕一

3. 実績

《月別放射線科統計》

2024年	単純透視	CT	MR	RI	CAG	DSA	放射線治療	紹介件数	総件数
1月	6,678	3,135	894	111	111	53	291	226	11,499
2月	6,829	2,939	880	90	130	53	241	256	11,418
3月	6,465	3,084	956	110	107	47	54	292	11,115
4月	6,543	3,345	850	88	156	41	0	289	11,312
5月	6,770	3,303	936	107	135	54	0	243	11,548
6月	6,552	3,197	919	89	107	44	0	251	11,159
7月	7,401	3,397	928	79	95	50	0	246	12,196
8月	7,581	3,280	940	87	105	60	0	200	12,253
9月	6,453	3,145	886	93	87	40	0	258	10,962
10月	7,134	3,388	949	55	83	51	0	273	11,933
11月	6,634	3,206	845	92	98	44	129	243	11,291
12月	6,428	3,431	845	93	109	61	444	208	11,619
合計	81,468	38,850	10,828	1,094	1,323	598	1,159	2,985	138,305
平均	6,789	3,238	902	91	110	50	97	249	11,525

実習生受け入れ

清恵会第二医療専門学院　　1 名

大阪ハイテクノロジー専門学校　3 名

4. 今後の目標

CT 線量管理による画像の質の向上や被曝量の低減等を含め、診断精度及び治療成績の向上に努め、引き続き予防医療や地域貢献を目指します。

また、科内の労働環境改善を目指すと共に、勉強会への積極的な参加や資格の取得励行など、個人能力の向上に努めてまいります。

33）臨床検査科

臨床検査科技師長　松田　治恵子

薬剤部　98
放射線科　102
臨床検査　104
リハビリ　108
臨床心理　114
臨床工学　116
栄養科　121
治験セン　124
医療福祉　125
病診連携　129
健診セン　140
情報シス　142
保育室　144
がん相談　146
医療安全　150
感染制御　155
臨床腫瘍　159

1. 概要

2024 年は、増改築工事による検査室移転（2025 年 3 月予定）の準備に費やした 1 年でした。1 階から地下へ移転後の検体検査は、到着確認から遠心・測定・検体冷蔵庫保管・廃棄までのフルオート搬送システムを導入予定で進めています。

当院は、2019 年に徳洲会グループに加わった全南病院に続き、12 月には厚生会第一病院の親病院として、今後連携を取りながら地域の医療充実を図っていきます。

検査部会全体としては離島僻地医療の応援が続いており、2024 年は 11 月に経験年数 7 年目の技師を、12 月には 5 年目の技師を約 1 ヶ月間徳之島に派遣しました。他に交換研修として、野崎徳洲会病院から 4 年目の技師を受入れました。また、2024 年は好評であった超音波検査を始めた技師のハンズオン研修を数年ぶりに関西大阪ブロックで企画し、当院で実施しました。

検査各部門では、生理検査は過去最高の件数と点数でした。しかし腹部超音波検査は移転時を最高件数として減少傾向にあり、近年ではその他の超音波件数が増加しています。心臓超音波検査は、最高件数であった 2016 年とほぼ同数の依頼件数まで回復してきました。検体検査は、微生物と免疫検査がコロナの件数と保険点数に大きく影響を受けてきましたが、その微生物と免疫検査件数はほぼ昨年と同等であり、検体検査全体の合計件数は過去最高となりました。センター化された病理部門では業務拡大が著しく、毎年 5 ～ 10％の増加率を継続しています。

学術発表においては、微生物学会、医学検査学会で各々 1 演題と、細胞学会で 3 演題を発表し、学術集会での発表や学会でのスライドカンファレンスの回答者としても参加することができました。また、院内品質改善検討会（QI 大会）では、最優秀賞を獲得することができました。

2. メンバー構成

臨床検査技師　　48 名（＊他、採血コーナー常勤看護師 1 名、非常勤看護師 1 名）

合計：50 名



3. 実績

1）資格試験合格者

・日本糖尿病療養指導士　松村知里技師

・ICLS　　桐原恵利佳技師、米澤考紘技師

2）実習生受け入れ

・日本医療学院専門学校　2名（4ヶ月）

・大阪医療技術学園専門学校　3名（4ヶ月）

・関西医療大学　2名（3ヶ月）

3）機器更新・新設

・運動負荷心電図検査装置MLX-1000Mulex フクダ電子

・デイープフリーザー　2台

4）学会発表

・第35回日本臨床微生物学会

開催日：2024／2／9～2／10

場所：パシフィコ横浜ノース

発表者：竹野里奈

演題：Gemella morbillorum による敗血症の一例

・第 65 回日本臨床細胞学会春季大会

開催日：2024／6／8～6／9

場所：大阪国際会議場

発表者：西川裕子

演題：AmoyDx 肺癌マルチ遺伝子検査における器具洗浄液利用の検証

・第 65 回日本臨床細胞学会春季大会

開催日：2024／6／8～6／9

場所：大阪国際会議場

発表者：室木魁人

演題：MET exon 14 skipping mutation を認めた肺癌の 4 症例

・第 65 回日本臨床細胞学会春季大会

開催日：2024／6／8～6／9

場所：大阪国際会議場

発表者：坪佐朱莉

演題：細胞質内脂肪球を有する細胞やエオジン好性細胞を多数認めた中皮腫の 1 例

・第 63 回日臨技近畿支部医学検査学会

開催日：2024／11／3～11／4

場所：グランキューブ大阪

発表者：岸上周平

演題：好塩基球増多を伴った 5q- 症候群の 1 症例

薬剤部 98
放射線科 102
臨床検査 104
リハビリ 108
臨床心理 114
臨床工学 116
栄養科 121
治験センター 124
医療福祉 125
病診連携 129
健診センター 140
情報システム 142
保育室 144
がん相談 146
医療安全 150
感染制御 155
臨床腫瘍 159

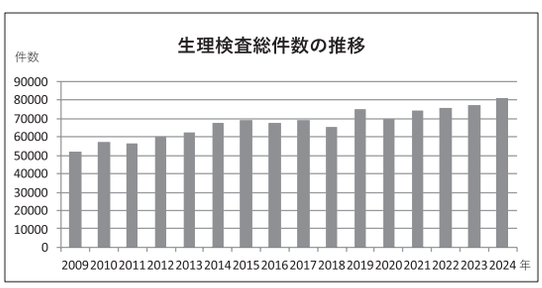
5）2024 年月別検査統計

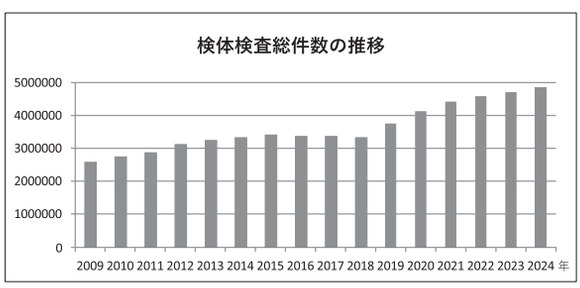
（件数）

項目 / 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
一般	42,815	40,522	42,831	43,481	45,245	45,000	47,747	45,505	42,431	48,733	42,488	46,794	533,592	44,466.0
血液	84,624	81,168	85,721	87,580	96,295	85,305	94,360	93,502	86,497	92,982	86,000	91,597	1,065,631	88,802.6
微生物	8,208	7,304	7,602	7,580	7,557	7,199	8,611	7,869	7,464	8,155	7,604	8,406	93,559	7,796.6
免疫	26,613	25,095	25,293	24,270	25,403	24,294	27,106	25,338	23,944	26,296	24,525	27,708	305,885	25,490.4
生化学	185,170	175,831	186,491	190,433	206,713	185,060	206,880	199,775	188,930	201,957	186,498	198,766	2,312,504	192,708.7
病理	1,046	1,135	1,154	1,142	1,247	1,306	1,441	1,338	1,099	2,123	1,461	1,311	15,803	1,316.9
細胞診	2,323	2,283	2,181	1,944	2,030	2,519	2,688	2,510	3,016	3,906	3,769	3,399	32,568	2,714.0
外注合計	5,019	4,902	5,760	6,091	5,507	5,681	5,591	5,917	5,794	5,714	5,941	6,341	68,258	5,688.2
検体合計	390,189	370,422	390,596	397,678	425,252	390,773	432,274	416,845	394,085	427,220	392,207	421,845	4,849,386	404,115.5
腹部エコー	747	778	813	807	886	881	874	796	832	796	852	824	9,886	823.8
心エコー	723	692	725	778	796	762	857	793	713	793	787	813	9,232	769.3
他エコー	870	864	837	843	929	883	934	855	838	855	862	871	10,441	870.1
生理合計	6,386	6,119	6,488	6,531	7,061	6,708	7,479	7,240	6,371	6,872	6,598	6,795	80,648	6,720.7
月間検査合計	396,575	376,541	397,084	404,209	432,313	397,481	439,753	424,085	400,456	434,092	398,805	428,640	4,930,034	410,836.2

（点数）

項目 / 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
一般	283,207	281,488	284,184	287,245	323,847	293,237	324,673	315,509	283,037	335,858	283,625	299,819	3,595,729	299,644.1
血液	1,150,727	1,117,754	1,184,111	1,166,001	1,270,126	1,172,333	1,285,643	1,266,345	1,183,787	1,268,046	1,172,357	1,245,720	14,482,950	120,6912.5
微生物	1,463,705	1,186,971	1,235,608	1,192,391	1,161,500	1,136,633	1,354,406	1,207,110	1,138,114	1,242,423	1,140,522	1,270,366	14,729,749	1,227,479.1
免疫	2,865,492	2,807,693	2,554,641	1,986,619	2,045,402	1,739,283	2,217,766	2,024,276	1,756,226	2,012,941	1,834,821	2,349,895	26,195,055	2,182,921.3
生化学	2,518,568	2,413,121	2,567,047	2,554,993	2,833,082	2,440,301	2,762,422	2,707,660	2,538,682	2,637,147	2,459,528	2,630,824	31,063,375	2,588,614.6
病理	901,030	984,760	995,110	976,940	1,069,650	1,129,540	1,237,510	1,150,070	947,070	1,818,480	1,242,980	1,127,200	13,580,340	1,131,695.0
細胞診	289,627	279,355	269,607	252,180	256,652	311,400	333,255	308,920	361,150	459,010	445,235	400,620	3,967,011	330,584.3
外注合計	1,067,150	1,203,182	1,250,486	1,366,059	1,353,484	1,276,391	1,174,378	1,275,871	1,150,380	1,270,211	1,301,562	1,334,256	15,023,410	1,251,950.8
検体合計	11,701,566	11,405,304	11,480,974	10,921,628	11,465,053	10,616,728	11,920,793	11,437,891	10,501,596	12,222,526	11,018,710	11,941,560	136,634,329	11,386,194.1
腹部エコー	413,140	432,080	449,920	448,470	493,000	488,360	481,560	436,320	460,260	436,320	473,000	456,410	5,468,840	455,736.7
心エコー	642,680	620,740	656,600	706,960	718,460	689,160	772,140	713,340	637,360	713,340	703,720	724,120	8,298,620	691,551.7
他エコー	486,900	483,900	473,450	482,150	516,550	493,650	523,900	482,650	469,500	482,650	482,800	488,950	5,867,050	488,920.8
生理合計	2,169,645	2,036,430	2,235,900	2,314,780	2,454,310	2,292,550	2,515,565	2,395,280	2,191,150	2,265,865	2,302,800	2,361,080	27,535,355	2,294,612.9
院内検査合計	13,871,211	13,441,734	13,716,874	13,236,408	13,919,363	12,909,278	14,436,358	13,833,171	12,692,746	14,488,391	13,321,510	14,302,640	164,169,684	13,680,807.0





4. 今後の目標

1）検査技師の質の向上

①各専門技師育成

細胞検査士、輸血専従技師、微生物検査技師、生理検査技師（超音波・各種機能検査）

②各種資格試験の受験

細胞検査士、認定臨床微生物検査技師、感染制御認定臨床微生物検査技師、
認定輸血検査技師、認定血液検査技師　など

③各種学会発表・論文執筆の推進

④離島応援（半年：5 人派遣）

2）業務改善・改革

①採血と生理検査の受付をまとめ、受付者不在時間の削減

②自動搬送システムによる効率化

③各専門分野における業務配置の見直し

3）患者様満足度向上

①採血支援システム導入による効率化

②採血室拡大による混雑解消

③生理検査待受けモニター設置

34）リハビリテーション科（理学療法・作業療法・言語聴覚療法・心臓リハビリテーション）

理学療法室　室長　野村　日呂美

薬剤部　98
放射線科　102
臨床検査　104
リハビリ　108
臨床心理　114
臨床工学　116
栄養科　121
治験セン　124
医療福祉　125
病診連携　129
健診セン　140
情報シス　142
保育室　144
がん相談　146
医療安全　150
感染制御　155
臨床腫瘍　159

1. 概要

2024 年は診療報酬の改定があり、『リハビリ栄養口腔連携体制加算』取得目的に多くの病院が病棟専従スタッフを置きましたが、当院はもう一つの『急性期加算』をより多く取得する目的で、病棟専従を置かずフレキシブルに動けるスタッフによる急性期加算取得に専念しました。これにより毎月 75 万円程度の増収がありましたが、若いスタッフも多く算定方法が十分理解できていないため取り漏れも多くありました。来年は算定漏れ防止に努めていきたいと考えています。

少子化でどの企業もスタッフ獲得に苦戦しているのと同様、当部署も思うように募集人数の獲得が進みませんでした。採用計画の一つとして多数の実習生の受け入れを行うとともに、SNS・インスタグラム等での広告活動を今後も強化していきたいと考えています。

例年問題となっていた言語聴覚士の業務量過多により、経験年数豊富なスタッフが 3 名退職となりました。これにより残ったスタッフに更なる業務量過多が起こり、退職の連鎖が引き起こされてしまいました。ST の業務量過多を援助する形で 12 月より理学療法士と作業療法士による『口腔内の掃除』と『飲水テスト・ペースト食の開始』をスタートしました。リハビリ室全体として離職を防止し、協力できる体制を今後も検討・模索していく予定です。

2. メンバー構成（次項参照）

3. 実績（次項参照）

4. 今後の目標

2025 年度は全南病院の病床移管のため、リハビリ室が 4F から 3F へ移動となります。増床に向けてのスタッフ育成とスムーズな引っ越しを行っていく予定です。

【理学療法】

1. メンバー構成

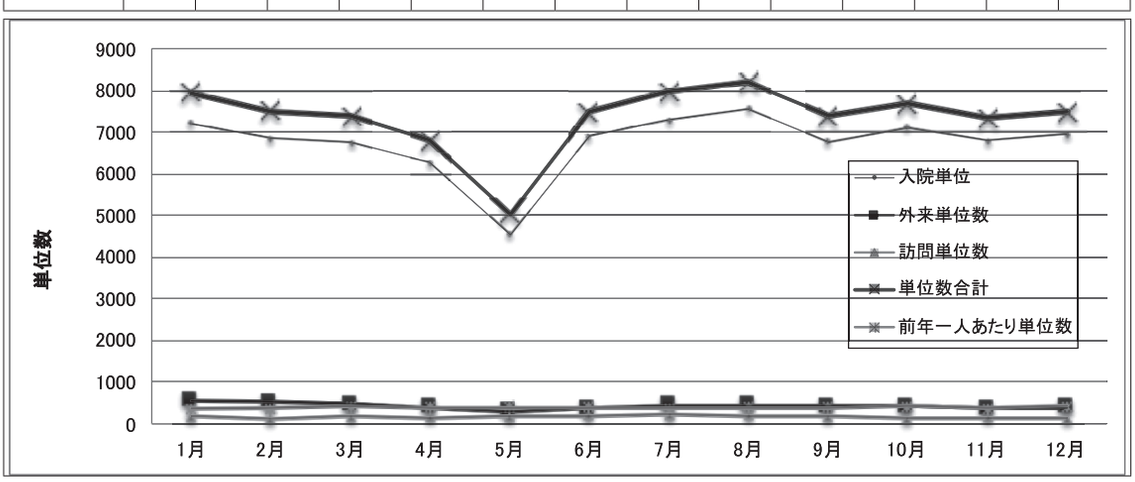
在籍人数　　単位：名

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
27	27	25	26	26	26	26	26	25	25	25	25

全南病院全日応援、3月から週3回に変更
屋久島に1月～3月　　1名応援
1月～9/20まで1名育児短時間にて勤務（-0.3）、2/3～来年まで1名産休
2023年11月～2月1名病欠にて休み
2月2名　3月3名退職、4月に4名入職、9月より1名屋久島に転勤
整形兼務の訪問担当者を2名、合計訪問チーム3名で運用
1名ICU・HCU　加算6月まで。6月以降はICUのみ加算算定継続

2. 実績

2024年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計単位数	平均
入院単位	7,213	6,853	6,742	6,257	4,538	6,898	7,274	7,553	6,778	7,119	6,800	6,948	80,973	6,747.8
外来単位数	556	526	466	396	300	383	447	450	414	421	382	392	5,133	427.8
訪問単位数	181	127	172	148	186	206	234	194	186	143	150	133	2,060	171.7
単位数合計	7,950	7,506	7,380	6,801	5,024	7,487	7,955	8,197	7,378	7,683	7,332	7,473	88,166	7,347.2
スタッフ数（実働数）	19.2	18.2	17.6	15.6	17.2	18.9	19.7	20.1	19.1	19.1	19.1	19.1		18.6
一人あたり病院単位数	404.6	405.4	409.5	426.5	281.3	385.2	391.9	398.2	376.5	394.8	376.0	384.3		386.2
前年一人あたり単位数	369.8	377.9	431.0	402.6	403.5	406.5	387.6	388.2	389.5	412.5	382.0	414.9		397.2
前年スタッフ数	20.2	19.2	19.2	19.2	20.4	21.4	21.9	22.2	22.2	21.2	21.2	20.2		20.7
延べ入院件数	4,872	4,655	4,712	4,456	4,538	4,739	5,079	5,379	4,811	5,155	4,842	6,948	60,186	5,015.5
延べ外来件数	391	385	360	324	300	293	324	322	301	320	291	392	4,003	333.6
訪問患者数	17	13	14	12	14	14	14	16	16	12	11	11	164	13.7



薬剤部 98
放射線科 102
臨床検査 104
リハビリ 108
臨床心理 114
臨床工学 116
栄養科 121
治験センター 124
医療福祉 125
病診連携 129
健診センター 140
情報システム 142
保育室 144
がん相談 146
医療安全 150
感染制御 155
臨床腫瘍 159

①実習生受け入れ

＜見学実習＞	期間	学年	
森ノ宮医療大学	8/5 ～ 8/9	2年	1名
大阪公立大学	9/9 ～ 9/13	2年	2名
大和大学	3/3 ～ 3/8	1年	1名
＜検査測定実習＞			
大阪保健医療大学	1/22 ～ 2/16	3年	2名
大阪府立大学	2/13 ～ 3/1	3年	1名
＜臨床実習＞			
大阪医療福祉専門学校	9/16 ～ 11/2	3年	1名
大阪公立大学	6/3 ～ 7/24	4年	1名
＜地域実習＞			
大阪公立大学	9/2 ～ 9/6	4年	2名

②地域連携

服部　玄徳　　八尾市柏原市理学療法士会　学術部員
久松　寛　　八尾市柏原市理学療法士会　学術部員

③学術発表・論文投稿

学会名：第 24 回 AKA 医学会理学・作業療法士会学術集会
テーマ：関節拘縮の改善により歩行可能となった 1 症例
発表者：高橋杏佳

学会名：第 36 回大阪府理学療法学術大会
テーマ：認知機能低下を有する患者に対するセルフケア定着に向けた取り組み
～視覚性記憶に着目した患者教育が有効であった左 TKA の一症例～
発表者：植田健斗

3. 今後の目標

・急性期加算の取り漏れが多いため今年は算定漏れ防止の強化
・スタッフの離職防止と新人獲得
・在院日数短縮に向けて入院時のリハビリ見学・リハビリパスの導入

【作業療法】

1. メンバー構成　　単位：名

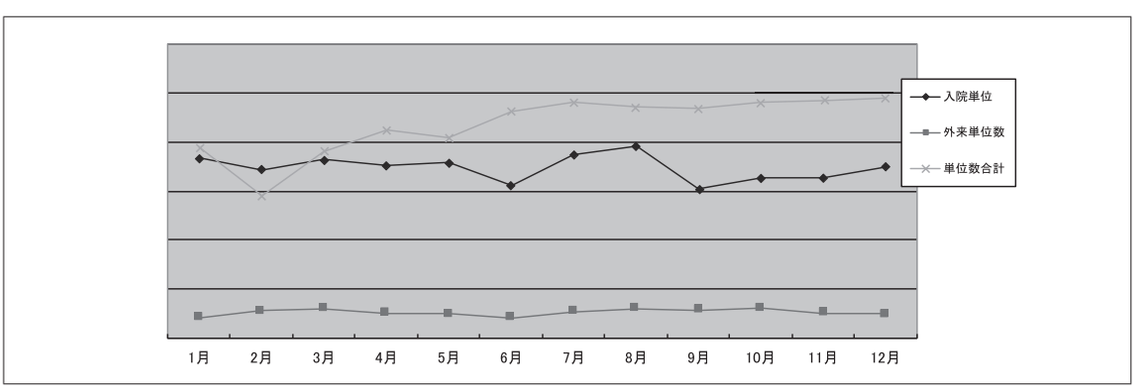
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
スタッフ実働人数	6	6	6	8	7.5	7	6	7	6	6	6	6

4月に2名入職、5月中旬から1名病欠（8月より復職）
7月から1名育休、8月から1名産休育休

2. 実績

＜作業療法単位数＞

2024年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計単位数	平均
入院単位	1,835	1,717	1,824	1,761	1,789	1,555	1,870	1,959	1,524	1,635	1,634	1,753	20,856	1,738.0
外来単位数	207	283	302	259	250	210	275	301	286	308	257	249	3,187	265.6
単位数合計	2,042	2,000	2,126	2,020	2,039	1,765	2,145	2,260	1,810	1,943	1,891	2,002	24,043	2,003.6
スタッフ実働人数	6	6	6	8	7.5	7	6	7	6	6	6	6	77.5	6.5
2023年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
入院単位	1,046	932	1,114	753	782	878	742	938	864	938	837	973	10,797	899.8
外来単位数	223	233	268	277	244	258	266	313	241	237	285	280	3,125	260.4
前年度単位合計	1,949	1,453	1,911	2,127	2,044	2,314	2,411	2,359	2,342	2,400	2,424	2,449	26,183	2,181.9
2023スタッフ人数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6		



＜実習生受け入れ＞

	期間	学年
大阪公立大学	2/19 ～ 3/1	2年
大阪医療福祉専門学校	5/20 ～ 7/27	4年
	8/26 ～ 8/31	2年
大阪医専	2/5 ～ 2/9	1年
関西福祉科学大学	7/16 ～ 8/2	4年
奈良学園大学	8/26 ～ 8/30	3年

薬剤部 98
放射線科 102
臨床検査 104
リハビリ 108
臨床心理 114
臨床工学 116
栄養科 121
治験センター 124
医療福祉 125
病診連携 129
健診センター 140
情報システム 142
保育室 144
がん相談 146
医療安全 150
感染制御 155
臨床腫瘍 159

【言語聴覚療法】

1. メンバー構成　　単位：名

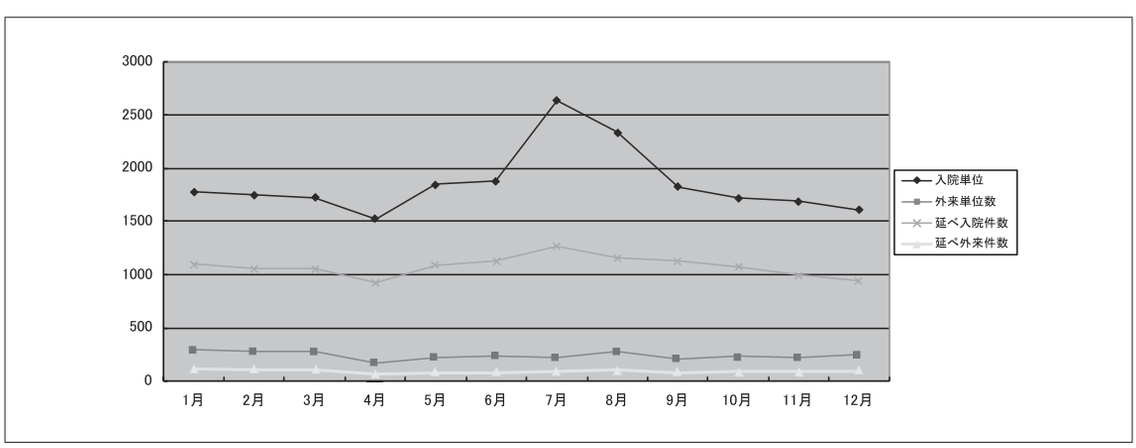
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
6	6	6	8	8(+1)	8	8	8	8	8	7	7

4月　　2名入職
4月25日　　育児休暇より1名復帰後、時短勤務
5月　　神戸病院より1名応援
7月末　　1名退職
8月　　1名入職
10月末　　1名退職

2. 実績

＜言語療法単位数＞

2024年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計単位数	平均
入院単位	1,778	1,750	1,723	1,521	1,849	1,874	2,635	2,339	1,829	1,718	1,692	1,611	22,319	1,859.9
外来単位数	295	281	282	168	218	230	223	275	204	231	223	256	2,886	240.5
延べ入院件数	1,094	1,057	1,052	925	1,093	1,128	1,266	1,152	1,124	1,072	994	944	12,901	1,075.1
延べ外来件数	114	111	107	65	82	80	87	104	76	84	86	95	1,091	90.9
スタッフ実働数	6	6	6	6.1	7.5	7.1	7.4	7.7	7.7	7.7	6.7	6.7	82.6	6.9



＜実習生受け入れ＞

なし

【心臓リハビリテーション】

1. 概要

循環器内科・心臓血管外科患者の増加により、心臓リハビリテーション対象患者も大きく増加しました。ICU からの早期介入は引き続き取り組めています。

外来患者の増加はなく昨年からの維持の患者さまが多くなっています。今後は外来患者を増加できるよう、医師への働きかけも行っていきます。

2. メンバー構成

循環器内科医師：　松尾浩志、高橋直也、高橋圭、田辺悠馬、熊田博斗
心臓血管外科医師：薦岡成年、小島三郎、春日健介
理学療法士：　片田理恵、麻野智幹、明見あすか、船津和幸
臨床検査技師：　戸野川始、桐原恵利佳

3. 実績

＜業務量＞

入院	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	平均	合計
患者数	719	706	847	812	777	704	502	496	435	498	536	575	633.9	7,607
単位数	1,114	1,121	1,258	1,156	1,067	1022	767	723	678	770	837	852	947.1	11,365

外来	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	平均	合計
患者数	62	65	55	49	67	65	73	83	70	57	38	31	59.6	715
単位数	108	98	80	75	106	104	123	132	126	107	71	60	99.21	1,190

入外合計	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	平均	合計
患者数	781	771	902	861	844	769	575	579	505	555	574	606	693.5	8,322
単位数	1,222	1,219	1,338	1,231	1,173	1,126	890	855	804	877	908	912	1,046.3	12,555

4. 今後の目標

・術後リハビリテーションの充実、外来運動療法の積極的な実施
・外来患者の個別面談の実施
・他院からの外来心臓リハビリ患者の積極的な受け入れ

35）臨床心理科

臨床心理士　朴　祐希

薬剤部　98
放射線科　102
臨床検査　104
リハビリ　108
臨床心理　114
臨床工学　116
栄養科　121
治験セン　124
医療福祉　125
病診連携　129
健診セン　140
情報シス　142
保育室　144
がん相談　146
医療安全　150
感染制御　155
臨床腫瘍　159

1. 概要

当院における心理士の役割は、治療に来られる患者さまの心に寄り添い、支えることです。人が病気やけがを患うと不安や混乱、苦しみや痛みなどさまざまな感情・感覚が生じ、それらが治療の妨げになることも少なくありません。それらを少しでも軽減し、患者さまが心身ともに穏やかに過ごせるようサポートすることを私たちは目指しています。

当科では４月から新たに１名の心理士を迎えることになりました。新たな力とともに、公認心理師の実習生の受け入れ、外来での新たな検査の導入など、新規業務を積極的に受け入れることができた１年となりました。

マンパワーが増えたことで、今後は患者さまだけでなく、職員の心身の健康も維持し、離職率の低下、医療の質の向上に寄与できるよう、職員相談にも幅広く対応していきたいと考えています。

2. メンバー構成

片上徹也　（精神保健指定医）
朴祐希　　（臨床心理士・公認心理師）
宮坂なつ花（臨床心理士・公認心理師）
藤原恭子　（臨床心理士・公認心理師）
田原一樹　（公認心理師）

3. 実績

【外来業務】

(1) 心理外来（小児科・その他の診療科）

小児科領域では主に心身症や発達障害などの患者さまを対象に、医師の指示のもと心理検査やカウンセリング、プレイセラピーなどの心理治療を行っています。他の診療科においても、身体疾患に伴う心理的な不調をきたしている患者さまに対応しています。また、8月からは発達検査を心理外来でも実施するようになりました。認知機能検査の需要も増加しており、心理外来ではさまざまな検査を行っております。

(2) 糖尿病外来

糖尿病ケアチームとして、他職種とともに患者さまの血糖管理や治療を支えるための精神的なサポートを行っています。主には、当院の糖尿病外来に通院中の患者さまに対して、糖尿病とともに生きる不安や心理的な負担を抱えている方へカウンセリングを、また糖尿病を持つご高齢の患者さまには医師の指示のもと、認知機能検査を実施させていただいています。そして、それらの介入を通じて患者さま一人一人に合わせた支援を目指し、チームスタッフとも連携しています。

【入院業務】

(1) 診療科を問わず入院患者さまやそのご家族に対して、カウンセリングなどの心理的ケアを実施しています。

(2) 緩和ケアチーム・糖尿病ケアチーム・精神科リエゾンチーム・心臓外科リハビリカンファレンス・ICU カンファレンスに参加し、医師や看護師をはじめとする他職種と連携・協力しながら、患者さまをサポートするチーム医療を実践しています。

			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
外来	面談	小児科	71	60	61	63	60	64	64	59	62	62	57	60	743
		糖尿病外来	2	2	2	1	2	2	3	2	3	3	5	5	32
		緩和ケア	0	0	1	1	1	2	1	1	4	5	3	3	22
		その他	4	3	6	3	2	5	6	4	4	5	3	3	48
	検査	心理検査	0	0	1	1	2	0	1	2	3	2	0	0	12
		発達検査	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	7	6	19
		その他検査	0	0	0	0	0	1	3	1	3	4	3	5	20
	合計		77	65	71	69	67	74	78	70	81	84	78	82	896
入院	面談	内科系	12	12	16	14	8	10	2	0	5	6	10	2	97
		外科系	47	32	36	27	26	15	15	19	19	24	16	20	296
		小児科・婦人科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		糖尿病	3	1	6	4	12	5	7	7	8	4	5	5	67
		緩和ケア	11	1	1	9	16	14	0	0	2	0	2	7	63
		リエゾンフォロー	2	10	15	16	2	6	4	2	2	7	8	5	79
	検査		5	6	4	5	4	5	4	8	3	5	5	7	61
	合計		80	62	78	75	68	55	32	36	39	46	46	46	663

4. 今後の目標

私たちは、生活の中で困難さを抱え相談に来られた方一人一人と丁寧に向き合い、一緒に悩むことで、皆様が日々を少しでも過ごしやすくなることを目標にしています。

昨年は新たな業務を取り入れ、これまであまり関わる機会のなかった患者さまともお会いできるようになりました。今後も多くの方のお力になれるよう、今年度は学会発表などの院外活動にも積極的に取り組み、個々の資質の向上に努めたいと考えています。

36）臨床工学科

臨床工学科技士長　藤田　和睦

薬剤部　98
放射線科　102
臨床検査　104
リハビリ　108
臨床心理　114
臨床工学　116
栄養科　121
治験セン　124
医療福祉　125
病診連携　129
健診セン　140
情報シス　142
保育室　144
がん相談　146
医療安全　150
感染制御　155
臨床腫瘍　159

1. 概要

・2024 年 1 月より病床が 427 床となり、医療機器に関連する対応が増加しました。スタッフ数は 2023 年 12 月時点 25 名で、2024 年の同月時点では 31 名（6 名増）となりました。人員を増加した主な目的は、心臓カテーテル業務の並列開始、ロボット・ナビゲーションなど手術業務の拡大、ペースメーカー業務の充実です。

・臨床工学科の品質管理指標として中央貸出管理医療機器の稼働率、および医療安全のインシデント件数を設定し、これら指標をもとに対応すべき課題を抽出し、改善を図る仕組みを構築しました。

・医療機器の保守対応の充実を図るため、人工呼吸器およびフットポンプの講習会へ参加し、認定取得を行いました。

・2023 年の台風によるキュービクル破損および南館増築により、2024 年に入り計画停電を数回実施しました。停電時、臨床工学科では医療機器および設備の対応にあたりました。

・透析室では病院設備給水ポンプの不良があり、幾度と RO 装置のトラブルに見舞われました。改修が行われ、以降の供給トラブルは発生してません。

・タスクシフトに必要な臨床工学技士告示研修の受講を随時行い、スコープオペレータなど業務の拡大および臨床工学技士の実習受け入れを行う上で必要な準備に努めました。

・グループ内の臨床工学部会の活動として各業務の WG にスタッフが参加し、情報共有、業務の標準化、スキルアップ、質改善の取り組みを行いました。

・病院の増改築工事により、12 月末 ME センターの仮移設を行いました。

・認定士の取得を推進し、知識および安全な体制の構築を図りました。

・臨床実習の受け入れを継続するとともに、適宜面談し実習の質向上を図りました。

2. メンバー構成

役　職	氏　名
技士長	藤田　和睦
係長	藤村　篤志
係長	杉本　拓弥
副主任	向井　砂帆
副主任	玉城　賞
副主任	長谷川　弘将
副主任	今堀　泰一
副主任	三原　寿之
	河野　遥
	吉村　有梨奈
副主任	矢野　友規
	西村　宥哉

役　職	氏　名
	東内　燿平
	前田　遼
	山谷　和佳
	加藤　由希子
	中之　花
	尾﨑　大輝
	吉岡　水輝
	平野　涼寧
	柴垣　優輝
	川原田　直樹
	市川　詩乃
	山本　健心

役　職	氏　名
	末次　円香
	稲田　恵理
	工藤　歩香
	今村　芙紀
	矢野　佑紀
	岸田　一格
	本間　梨音

2024年12月時点

3. 実績

≪ 2024 年臨床工学科業務量件数≫

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
心臓カテーテル													
CAG	35	54	38	58	43	44	42	25	34	27	40	43	483
右心カテ	1	1	0	2	1	0	0	0	1	1	0	0	7
PCI	66	73	65	84	79	59	50	74	47	53	54	57	761
下肢アンギオ	6	8	8	3	3	9	10	7	0	1	10	8	73
PTA	16	23	21	24	28	20	19	32	7	19	14	26	249
TPM	3	6	4	6	6	5	8	6	8	6	4	8	70
PPM	0	3	6	7	8	2	3	2	5	5	1	3	45
その他（PTAV、PTMC）	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
DSA													
脳アンギオ	0	1	4	1	1	2	3	0	1	0	0	2	15
腹部アンギオ	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	5
シャント造影	0	1	2	2	0	1	1	1	1	2	0	0	11
血液浄化													
HD/HDF/ECUM（外来）	817	748	748	775	751	652	820	704	611	669	668	69	8,032
HD/HDF/ECUM（入院）	282	456	412	349	419	360	399	418	291	218	296	388	4,288
on-lineHDF	122	106	117	121	127	115	162	132	157	277	300	322	2,058
i-HDF	283	231	246	266	251	226	252	276	220	178	61	0	2,490
病棟透析	20	23	15	42	29	9	20	47	30	13	17	13	278
CRRT	47	51	87	69	60	62	40	58	48	21	31	39	613
PMX	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
GCAP	0	0	0	0	2	6	0	0	0	0	0	0	8
CART	0	0	1	0	2	3	1	2	1	2	1	3	16
血漿交換	4	3	0	0	0	4	5	3	0	0	0	3	22
血漿吸着	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
レオカーナ	2	9	1	0	0	0	4	11	0	0	0	0	27
手術													
人工心肺（開胸）	8	4	12	9	8	8	10	6	8	8	7	7	95
人工心肺不使用（開胸）	0	0	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	4
人工血管置換術（開腹等）	3	1	3	3	2	1	4	1	2	0	3	1	24
自己血回収（単独）	8	9	16	13	12	12	13	10	9	8	11	12	133
ダビンチ	8	9	9	8	11	10	13	9	13	10	12	13	125
ナビゲーション	2	2	3	4	1	3	4	2	5	2	1	4	33
MEP	6	7	8	9	5	8	10	6	9	7	3	13	91
鏡視下手術	42	91	82	90	72	66	80	75	88	92	64	78	920
TEVAR	2	4	1	2	4	9	3	4	1	2	4	5	41
EVAR	2	6	9	5	8	7	5	2	9	6	8	8	75
補助循環（延べ件数）													
ECMO	72	77	40	27	28	0	13	57	22	5	2	13	356
IABP	4	11	31	32	20	6	9	17	6	11	11	12	170
IMPELLA	0	3	4	1	20	4	0	0	0	10	0	0	42
ペースメーカー													
外来	17	19	17	33	30	22	19	16	33	16	24	31	277
入院	1	4	6	7	6	1	4	2	1	5	3	5	45
遠隔モニタリング	54	84	123	103	91	86	78	71	88	73	91	127	1,069
消化器内視鏡検査													
上部消化管内視鏡検査	414	428	460	433	481	454	475	462	422	480	424	385	5,318
下部消化管内視鏡検査	162	198	240	251	241	233	248	209	181	241	221	227	2,652

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
小腸内視鏡検査	0	0	1	1	2	0	2	0	0	2	1	0	9
止血術	4	9	4	7	18	9	10	13	8	11	6	8	107
EVL/EIS	2	4	1	2	0	3	2	10	6	1	2	2	35
拡張術	0	3	4	0	0	0	1	1	0	1	0	0	10
EMR・ポリペクトミー	54	67	74	105	85	59	94	78	78	93	94	106	987
ESD	10	13	11	7	6	12	15	14	3	9	11	7	118
ステント	1	2	5	0	4	5	7	5	3	3	8	8	51
イレウス管（スコープ使用）	4	1	6	2	2	1	6	2	3	1	4	2	34
異物除去	2	0	1	2	1	1	1	1	0	0	3	0	12
OTSC	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3
胃瘻造設	2	2	3	3	2	5	6	5	3	3	3	4	41
EUS（観察のみ）	4	5	5	6	4	5	5	10	6	6	3	7	66
EUS（観察以外）	3	3	0	1	2	3	0	3	5	6	1	6	33
胆膵系処置													
ERCP	29	32	31	34	47	45	41	49	33	40	32	23	436
EST/EPBD	10	13	14	18	17	9	9	16	12	20	8	4	150
胆管メタリックステント	1	1	2	1	4	2	4	7	2	3	3	4	34
チューブステント	15	21	26	27	33	28	32	38	21	34	26	15	316
ELT	4	3	6	5	2	2	4	3	7	2	3	1	42
バスケット／バルーン採石	13	18	17	22	26	23	23	24	19	17	23	12	237
擦過細胞診	4	1	1	7	6	1	7	7	1	3	2	3	43
胆管内内視鏡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
胆管内結石破石術	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
気管支鏡													
BF	10	14	13	8	4	6	8	6	12	10	14	6	111
BAL	0	1	1	2	0	0	1	0	0	1	1	0	7
EBUS-GS	1	5	4	5	1	5	4	1	7	7	13	3	56
EBUS-TBNA	0	0	1	0	0	0	2	1	0	1	1	1	7
保守点検													
輸液ポンプ	515	554	560	517	679	589	509	600	502	438	613	648	6,724
シリンジポンプ	292	255	285	247	314	297	252	290	246	274	277	316	3,345
除細動器	1,005	939	979	993	999	935	939	1,008	920	990	970	1,001	11,678
低圧持続吸引器	57	46	65	77	71	60	115	63	65	59	87	71	836
人工呼吸器	642	578	700	727	714	501	1,013	1,287	1,165	1,182	1,265	1,307	11,081
生体監視モニター	6,364	6,297	6,476	6,326	6,683	7,006	7,316	7,130	6,536	7,503	7,461	7,765	82,863
血液浄化装置	1,408	1,526	1,562	1,480	1,471	1,363	1,479	1,593	1,175	1,196	1,272	1,401	16,926
内視鏡機器	1,692	1,819	1,903	1,948	2,009	1,967	2,104	1,984	1,793	2,003	1,781	1,782	22,785
人工呼吸関連（延べ件数）													
IPPV	603	597	665	529	484	313	310	332	300	219	236	213	4,801
NPPV	195	206	201	360	329	207	328	338	234	248	278	259	3,183
NHF	420	381	459	490	473	483	448	401	350	408	434	554	5,301
搬送用人工呼吸器	3	10	12	8	10	18	17	12	9	12	12	19	142
在宅人工呼吸器	0	0	0	0	1	0	2	5	0	1	0	0	9
救急車での人工呼吸器	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
呼吸療法													
RST										131	130	137	398
救急車対応													
救急車同乗	0	1	3	0	2	0	0	0	0	0	0	1	7

薬剤部 98
放射線科 102
臨床検査 104
リハビリ 108
臨床心理 114
臨床工学 116
栄養科 121
治験セン 124
医療福祉 125
病診連携 129
健診セン 140
情報シス 142
保育室 144
がん相談 146
医療安全 150
感染制御 155
臨床腫瘍 159

4. 今後の目標

現在携わっている業務についてリーダーを設定し、教育推進、情報の集約、対応評価、各業務における目標を決定することで、各業務の人員やスキルの安定化を図ります。

＜血液透析＞

・i-HDF や on-line HDF 治療の増加により、引き続き透析液（超純粋透析液）水質管理を行ないます。課題としては、超純粋透析液使用のため、ET 測定頻度が増加し、ET 測定器の購入を検討します。
・エコーを使用したシャント評価や穿刺ミスの低減を図り医療の質向上を図ります。
・一部機器の老朽化に伴い、RO 装置および透析監視装置の更新を進めます。今後、ICU（CCU）および HCU の増床から特殊透析の増加が見込まれる為、機器の増設も検討します。

＜心臓カテーテル＞

2025 年より科内の方針が決定し、心臓カテーテル業務が安定して対応できるよう、集中的に教育を図るスタッフを決め基礎から応用までスキルアップし、まずは熟練メンバーの増員を計っていきます。

＜内視鏡＞

・内視鏡治療介助に必要な知識の底上げを行ないます。看護師も携わる為、どのような教育を行うとより安全な治療介助が行えるかを検討します。
・オンコールで対応できるスタッフの育成を行います。
・スコープ修理費を抑え、よりコスト面を意識し病院に貢献します。

＜心臓外科＞

更なる人工心肺使用症例数の増加、緊急手術、重症症例の増加や低侵襲手術の導入など心臓血管外科手術の増加が予想されます。また 2025 年は TAVI も開始となる予定です。それらに私たちは安全で安定した医療を提供できるよう強化を図ります。

＜手術（整形・脳外・Davinci）＞

業務件数は増加傾向にあります。それに伴い手術室業務に対応する必要がある曜日が増加し、以前より人員を必要としています。そのような背景があるため、手術室業務に対応可能な人員を増加させることと、各人が業務に十分に習熟することにより業務負担を低減させることを目標とします。

＜ラパロ＞

2025 年 1 月より業務開始となります。当面は週 2 回で対応します。告示研修受講完了者より選抜し、対応可能なスタッフの育成を図ります。

＜ペースメーカー＞

・外来、MRI、OP のチェックができる人材の育成をします。

・遠隔モニタリングの担当患者数を分担し、業務負担の軽減を図ります。

＜ ICU/CCU ＞

増改築により ICU は 8 床から 10 床となり、新たに CCU が 10 床増設され、業務量の大幅な増加が見込まれます。様々な経験を通してスタッフの全体的なスキルアップを図り、安全な医療を提供できるよう指導・教育を行っていきます。

＜ HCU ＞

増床に伴う医療機器需要増加を想定し、様々な対応をしていきます。

＜ ME/ 呼吸リハ＞

・ME 中央管理機器の稼働率が 90％以上を常に越えており点検が滞らないようにし、安全に機器を使用していただける環境を作ります。

・2024 年 11 月より呼吸リハビリが再開しました。リハビリ対応出来るスタッフを育成し、病態や呼吸器等の知識･対応技術の習得に励み、ME 業務対応のクオリティを上げていきます。

・医療機器の管理を強化し、院内リソースの適正を図ります。



薬剤部 98
放射線科 102
臨床検査 104
リハビリ 108
臨床心理 114
臨床工学 116
栄養科 121
治験セン 124
医療福祉 125
病診連携 129
健診セン 140
情報シス 142
保育室 144
がん相談 146
医療安全 150
感染制御 155
臨床腫瘍 159

37）栄養科

栄養科室長　小山　洋史

1. 概要

2024 年は診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬の 3 つが同時改定される「トリプル改定」の中で例年以上に多くの栄養関連項目が評価されました。

当院に関係するものとして栄養管理体制基準の明確化による入院基本料の増額、急性期リハビリテーション、栄養管理および口腔管理連携に対する加算等、今回の改定に沿う形で質の高い栄養管理を提供するために他職種連携や専門分野での知識、技術の向上が不可欠となりました。また､調理面でも増床に伴う食数の増加や食事形態の調整が必要な患者さまの入院が多く、調理面でも柔軟な対応が求められる事が多い一年でした。

2. メンバー構成

2024 年 1 月 1 日～ 2024 年 12 月 31 日

管理栄養士　10 名（栄養サポートチーム専従内 1 名）

調理師　13 名

常勤調理補助　1 名

調理補助　20 名

3. 実績

≪実習生受け入れ≫

・武庫川女子大学　2024年6月10日～6月22日　2名

・大阪松蔭女子大学　2024年8月19日～8月23日　4名

2024年8月26日～8月30日　4名

≪食数≫　2024 年 1 月 1 日～ 12 月 31 日

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
一般食	14,163	13,283	14,425	14,400	14,461	13,031	14,605	14,461	14,624	14,867	14,903	14,912	172,135	14,345
経管栄養	33,274	3,023	2,978	2,824	2,773	2,097	2,587	2,665	1,869	2,465	2,825	2,779	62,159	5,180
特別食	10,529	11,855	11,623	12,209	13,804	13,315	12,854	14,722	12,919	12,867	12,961	12,367	152,025	12,669
特別食非加算	1,346	1,706	1,928	2,142	2,790	1,789	1,131	2,048	2,382	2,007	1,887	1,808	22,964	1,914
職員食	7,698	7,534	7,750	7,926	7,862	8,097	8,642	8,485	7,760	8,448	8,042	8,515	96,759	8,063
保育所	637	541	818	480	415	429	521	729	561	686	648	582	7,047	587
病児後保育	30	98	14	87	103	108	114	77	88	94	85	128	1,026	86
付き添い食	4	12	6	57	5	40	60	91	31	17	35	77	435	36
合計	67,681	38,052	39,542	40,125	42,213	38,906	40,514	43,278	40,234	41,451	41,386	41,168	514,550	42,879

≪病院食内訳≫　　2024年1月1日～12月31日

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
常食	3,350	3,205	3,625	3,787	4,485	3,912	4,113	4,270	3,941	4,908	4,829	4,510	48,935	4,078
軟菜食	4,600	4,422	4,276	4,514	4,264	4,077	4,203	3,776	4,333	3,508	3,493	3,814	49,280	4,107
極軟菜食	4,935	4,844	5,693	4,843	4,476	3,563	4,171	4,911	4,886	4,398	3,988	5,095	55,803	4,650
ペースト食	1,707	1,468	1,858	1,316	1,636	1,495	1,420	1,311	1,628	2,036	1,551	1,625	19,051	1,588
流動食	317	213	503	264	168	257	260	327	414	370	345	315	3,753	313
学童食	9	12	75	50	16	58	30	53	11	19	58	60	451	38
幼児食	8	30	78	50	7	48	24	16	30	23	24	54	392	33
離乳食	0	0	0	0	0	3	0	8	0	5	3	0	19	2
糖尿食	1,551	2,045	2,480	2,554	3,468	3,058	3,093	3,258	2,924	2,812	3,027	3,201	33,471	2,789
心臓食	4,994	5,319	4,140	5,723	6,057	5,339	4,576	5,141	3,888	4,337	5,146	5,636	60,296	5,025
高血圧食	1,601	1,358	933	1,534	1,642	1,789	1,535	1,537	1,649	1,324	1,132	1,208	17,242	1,437
腎臓食	1,364	931	1,099	604	1,038	1,287	938	1,503	1,208	846	953	1,540	13,311	1,109
透析食	579	949	963	1,014	748	766	675	610	363	372	533	699	8,271	689
糖尿透析食	390	1,145	660	778	894	653	547	1,358	1,116	808	868	918	10,135	845
高脂血症食	51	161	137	98	114	114	17	163	169	37	152	90	1,303	109
低脂肪食	406	427	434	399	498	492	694	602	496	727	580	474	6,229	519
肝臓食	191	315	346	92	150	306	184	194	222	216	362	222	2,800	233
肝不全食	53	77	86	161	58	72	56	47	29	109	17	259	1,024	85
貧血食	93	37	0	0	9	80	183	63	73	55	6	34	633	53
低残渣食	522	442	302	305	560	444	595	636	755	713	673	650	6,597	550
潰瘍食	272	162	10	140	217	150	183	105	100	97	133	56	1,625	135
胃切後食	103	169	72	68	18	51	97	190	163	111	63	43	1,148	96
クローン病食	0	0	0	5	0	13	22	0	4	28	4	0	76	6
ケモ食	351	68	126	236	99	74	283	186	174	242	110	84	2,033	169
COPD食	180	94	45	97	40	0	53	99	39	21	121	1	790	66
注腸検査食	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	8	0	11	1
顎間固定食	19	28	30	55	34	15	14	85	51	53	93	29	506	42
訓練食	145	238	61	243	281	264	303	292	295	260	216	204	2,802	234
濃厚流動食	3,327	3,023	2,978	2,825	2,771	2,093	2,588	2,664	1,874	2,464	2,825	2,779	32,211	2,684
その他(単品食等)	1,484	1,398	1,652	1,570	1,539	1,635	2,082	1,817	1,611	2,024	2,105	1,695	20,612	1,718
合計	32,602	32,580	32,662	33,325	35,287	32,108	32,942	35,222	32,446	32,923	33,418	35,295	400,810	33,401

薬剤部 98
放射線科 102
臨床検査 104
リハビリ 108
臨床心理 114
臨床工学 116
栄養科 121
治験センター 124
医療福祉 125
病診連携 129
健診センター 140
情報システム 142
保育室 144
がん相談 146
医療安全 150
感染制御 155
臨床腫瘍 159

≪栄養指導件数≫　　2024年1月1日～12月31日

栄養指導件数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
入院初回	230	223	214	236	279	283	247	246	220	198	235	225	2,836	236
入院2回目	43	56	75	41	55	52	56	31	41	57	61	54	622	52
外来初回	19	16	26	21	33	34	28	19	41	48	31	28	344	29
外来2回目	79	90	81	87	118	149	115	104	101	137	169	111	1,341	112
集団	0	0	0	1	2	0	0	2	0	0	0	2	7	1
外来化学療法	3	3	4	3	3	4	2	3	4	3	5	4	41	3
合計	374	388	400	389	490	522	448	405	407	443	501	424	5,191	433

≪その他の業務≫　　2024年1月1日～12月31日

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
早期栄養介入加算(ICU)	119	103	129	76	119	98	122	114	93	135	178	170	1,456	121
早期栄養介入加算(HCU)	374	342	287	309	334	362	421	411	408	424	365	446	4,483	374
栄養管理計画書	3,385	3,222	3,343	3,300	3,410	3,207	453	3,480	3,252	3,470	3,358	3,593	37,473	3,123
周術期栄養介入加算	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	11	1
個別食時加算	29	9	3	21	15	15	9	8	2	2	6	11	130	11
合計	3,908	3,677	3,763	3,707	3,879	3,683	1,006	4,014	3,756	4,032	3,908	4,220	43,553	3,629

4. 今後の目標

2025年は段階的ではありますが、病床の増床が予定されています。それに伴い現在よりも様々な病態の患者さまの入院が予想され、管理栄養士、調理師ともに人員の確保、教育が急務となります。増床後も安心・安全な食事提供を行い、急性期病院として質の高い栄養管理ができるよう業務を進めてまいります。

38）治験センター

治験センター長　大里　恭章

薬剤部　98
放射線科　102
臨床検査　104
リハビリ　108
臨床心理　114
臨床工学　116
栄養科　121
治験セン　124
医療福祉　125
病診連携　129
健診セン　140
情報シス　142
保育室　144
がん相談　146
医療安全　150
感染制御　155
臨床腫瘍　159

1. 概要

2024 年は、当センターにとって大きな転換期となりました。まず、職員数を 3 名から 4 名に増員し、治験を実施する体制を一層強化いたしました。この増員により、これまで以上にスムーズで効率的な治験業務の遂行が可能となりました。さらに、12 月には増築された新棟に移転し、より充実した環境での業務遂行が可能になりました。新しい環境は職員のモチベーションを高め、より質の高い治験業務の実現に繋がると確信しております。また、集中治療科での治験を開始し、治験を実施する診療科を拡大しました。これにより、多様な治療法に対するデータを収集し、より幅広い患者さまへ治験の機会を提供できるようになりました。

グループ全体では、新型コロナウイルス陽性者を対象とした他に類を見ない大規模研究を進めており、当院もその一翼を担い順調に進行しております。この研究は、抗ウイルス薬を用いた COVID-19 診療に関するエビデンス構築を目指しています。

2. メンバー構成

薬剤本部長兼治験センター長：大里　恭章（薬剤師）
副センター長　：元田　健太郎（臨床検査技師）
専任CRC　：加藤　美和（看護師）
専任CRC　：東福　すみれ（看護師）
専任CRC　：澤田　梓歩子（事務員）

3. 実績

【受託治験】
①中等度から重度の慢性閉塞性肺疾患（サノフィ株式会社）
②動脈硬化性心血管疾患、慢性腎臓病、全身性炎症（ノボ ノルディスク ファーマ株式会社）
③心房細動（バイエル薬品株式会社）
④心血管疾患の既往を有する肥満症（ノボ ノルディスク ファーマ株式会社）
⑤肥満症（ノボ ノルディスク ファーマ株式会社）
⑥全身性の炎症を伴う心不全（ノボ ノルディスク ファーマ株式会社）
⑦持続的血液浄化療法（ニプロ株式会社）

4. 今後の目標

当センターでは、持続可能な治験実施体制の構築を目指します。具体的には、新規職員への教育体制を強化し、業務スキルの早期向上を図ります。これにより、チーム全体の業務効率のさらなる向上と質の高い治験実施体制の構築を目指します。また、当院の規模拡大に伴い、治験・臨床研究の実施体制もさらに充実を図ります。新たな診療科での治験実施を視野に入れ、院内での連携強化を進めるとともに、より多くの患者さまに治験参加の機会を提供できるよう、体制を整備してまいります。

当センターは、地域医療への貢献を続けながら、治験や臨床研究の活動を通じて医療の進歩に尽力してまいります。2025 年も変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

39）医療福祉相談室（MSW：医療ソーシャルワーカー）

認定医療ソーシャルワーカー　三谷　勇一

1. 概要

当院の退院支援部門は、科学的根拠に基づく介入（EBP：エビデンスベーストプラックティス）を実践しています。ケアマネジメントという手法を背景に、初回面談（インテーク）、事前評価（アセスメント）、介入（インターベンション）、事後評価（モニタリング）、終結（ターミネーション）、そして、効果測定（エフェクトメジャーメント）という一連の流れに則った面談を実施しております。新人や経験の浅いMSWであっても、自然とEBPに乗っ取った介入ができるよう「やお徳モデル」を開発し、マニュアル化、ワードパレット化することで、卓越した技を持っていなくとも、質の高い介入ができる業務フローを開発しました。そのため、標準化された質の担保が維持されています。その効果は、JCI（国際的評価機構）の承認をクリアする過程で、証明することができました。急性期病院としての役割を果たすべく、EBPに乗っ取り、自己決定を支えた速やかな居場所の確保を提供しています。

本年度の新しい取り組みとして、2024年5月18日、台湾からの視察が有り、大学教員、大学院生、医療従事者が来日され、日本の医療システムの現状、地域包括ケアシステム、介護老人保健施設、サービス付高齢者向け住宅の仕組みや運営について、見学していただき、国際交流を行いました。また、2024年8月3日がん相談支援センターを引っ越し、3番窓口から27番窓口に移転しました。これらの取組みは、学会発表1演題となりました。

2. メンバー構成

病棟専任社会福祉士10名（算定加算：入退院支援加算1、入院時支援加算1）

三谷勇一（ICU・HCU）、中納浩子（4東）、伊藤貴代（5西）
木村千恵（5東）、井本裕美（6西）、古山有希（6東）、五十嵐健太（7東）
門田翔太（7西）、柿沼和絵（7西）、竹内里咲（8東）、影山雄紀（8西）

退院支援専従看護師　：加藤和代
入院時支援専任看護師：竹内裕子、吉田暁美、辻井千穂、西村なおみ

人事異動

4月入職1名　竹内里咲
9月入職1名　柿沼和絵

委員会活動等

患者ケア委員会	三谷	患者アセスメント委員会	三谷	業務改善委員会	門田
QI会議	三谷	運営会議・広報委員会	門田	放射線治療委員会	三谷
QI会議	門田	がん緩和支援委員会	三谷	Wide　Indicator	三谷
未収金委員会	伊藤	地域医療担当者会議	五十嵐	病床管理委員会	影山
入退院支援会議	三谷	オンコロジー委員会	三谷	JMIP委員会	三谷

認定資格等

認定社会福祉士（医療分野）	三谷	認定スーパーバイザー	三谷
認定医療ソーシャルワーカー	三谷	救急認定ソーシャルワーカー	三谷
認定がん専門相談員	三谷	入院時重症患者対応メディエーター	三谷
公認心理師	三谷・門田	職場適応援助者	三谷
精神保健福祉士	伊藤	障害者職業生活相談員	三谷
社会福祉士実習指導者	三谷・門田	介護福祉士	井本
地域緩和ケア連携調整員	三谷・門田		
認知症サポーター	三谷・門田		

3. 実績

1）退院支援実績

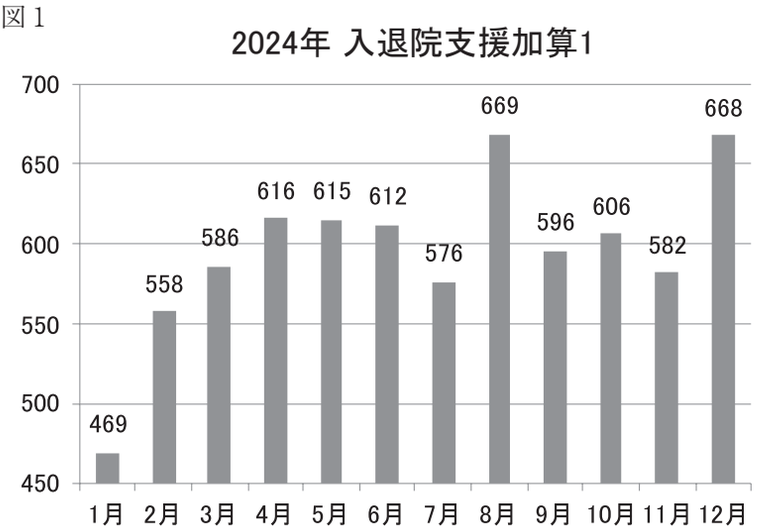
2024 年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1. 他施設へ		172	177	202	198	207	191	188	193	216	236	211	216	2,407
内、グループ内施設へ		18	9	13	20	12	18	17	16	17	17	18	42	217
内訳	① 医療機関	104	105	113	105	106	111	113	101	124	133	116	138	1,369
	内、グループ内施設へ	12	7	8	7	7	8	8	7	10	9	9	28	120
	② 老健施設	11	8	17	17	10	8	8	13	11	13	11	13	140
	内、グループ内施設へ	4	2	3	11	5	6	5	7	5	6	6	11	71
	③ 老人ホーム等	57	64	69	75	89	72	66	77	77	88	80	65	879
	内、グループ内施設へ	2	0	2	2	0	4	4	2	2	2	3	3	26
	④ その他	0	0	3	1	2	0	1	2	4	2	4	0	19
	内、グループ内施設へ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2. 在宅診療へ		35	48	43	42	43	47	41	52	40	43	33	38	505
内訳	グループ内事業所	5	4	5	4	8	6	5	7	2	3	4	1	54
	（再掲）内、新規登録	3	1	3	3	4	2	4	3	4	0	1	2	30
	グループ外事業所	30	44	38	38	35	41	36	45	38	40	29	37	451
3. 死亡		81	60	65	50	61	46	73	47	51	47	57	62	700
4. その他（軽快退院を含む）		575	644	635	664	679	687	684	708	594	675	640	773	7,958
1、2、3、4 の合計		863	929	945	954	990	971	986	1,000	901	1,001	941	1,089	11,570

2）入退院支援加算 1（退院支援計画書）算定実績

昨年の 5,649 件から増加し、7,148 件となりました。

薬剤部 98
放射線科 102
臨床検査 104
リハビリ 108
臨床心理 114
臨床工学 116
栄養科 121
治験セン 124
医療福祉 125
病診連携 129
健診セン 140
情報シス 142
保育室 144
がん相談 146
医療安全 150
感染制御 155
臨床腫瘍 159

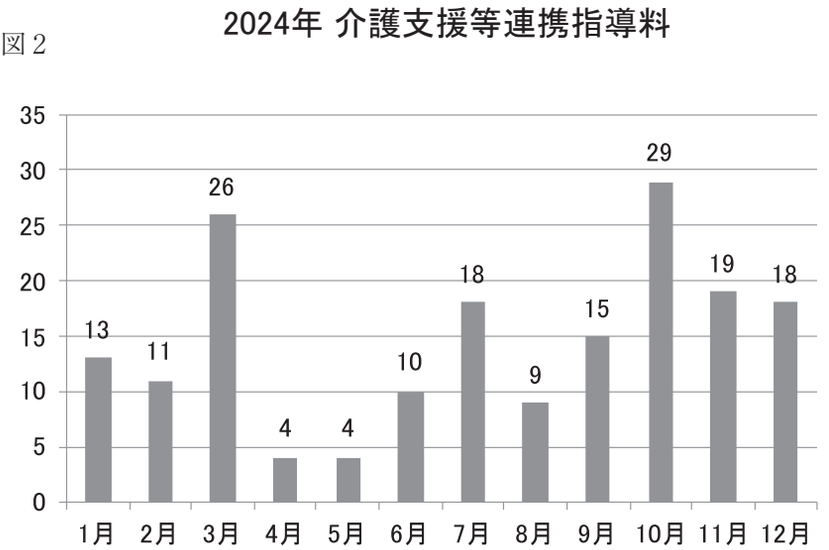
図 1



3）介護支援等連携指導料など

施設基準として年間 63 件以上の算定が必要となります。2024 年は 176 件で有意に条件を満たしましたが、昨年の 607 件を下回っています。退院時共同指導料 2 は、212 件と昨年の 206 件より増加しました。地域連携診療計画加算は 180 件と、昨年の 189 件より下回りました。また、入院時支援加算 1 は、昨年の 464 件から増加し、696 件でした。入院時支援加算 2 は、昨年の 10 件から増加し、17 件でした。

図 2



4）相談援助実習（指導者：三谷、門田）合計 0 名

本年度は実習生の受け容れをしませんでした。

5）研修・部会参加

7/10　徳洲会 MSW 部会本部会議（大阪本部にて）　三谷

11/29　徳洲会 MSW 部会（松原徳洲会にて）　三谷

4. 今後の課題と目標

2025 年問題とは、人口の約 30％が 65 歳以上となり、高齢化社会がますます進行することにより、医療費や介護費の増大、労働力不足、社会保障制度の持続可能性の確保などが課題となることを指します。そのような中、ソーシャルワーカー個々人の技量アップを目指します。医事部門チャレンジコンテストにエントリーし、データに基づいた徳洲会の課題の探索を実施する予定です。データを元に、EBP（エビデンスベーストプラックティス）を目指し、経験の浅いスタッフでも質の高い介入ができる仕組み作りが求められます。

薬剤部 98
放射線科 102
臨床検査 104
リハビリ 108
臨床心理 114
臨床工学 116
栄養科 121
治験セン 124
医療福祉 125
病診連携 129
健診セン 140
情報シス 142
保育室 144
がん相談 146
医療安全 150
感染制御 155
臨床腫瘍 159

40）病診連携室

病診連携室課長補佐　児島　和人

1. 概要

患者さまが安心して安全に医療を受けられるよう中河内地区の急性期医療の中核施設として、また大阪府の地域医療支援病院・がん拠点病院として、その役割を果たすべく地域の医療機関と紹介・逆紹介の連携を活発且つ密接におこなっており、当院へ積極的に紹介いただけるよう常に迅速且つ正確に対応させていただくことを心がけております。

また、地域の皆様にも幅広く医療をご理解いただき、積極的に予防医療へも関心を持っていただけるよう定期的に医療講座を開講し、がん教育の一環として、八尾市および中河内医療圏の小中学校・高校で児童・生徒さま向けの医療講演もおこない、予防医療の啓蒙活動にも努めております。

今後も最善の地域医療の実現を目指し、今まで以上に地域に根ざした医療機関として貢献できるよう職員一同切磋琢磨していく所存です。

2. メンバー構成

病診連携室長：木村拓也　副院長・外科統括部長（肝臓外科・小児外科）

事務：児島和人・中道睦代・立川陽子・出口やよい・山中隆史

3. 実績

「中河内医療連携の会」（病診連携の会）

地域の連携医、連携施設との勉強会・情報交換会を開催

2024 年 2 月 17 日（土）「 中河内医療連携の会 」

会場：シェラトン都ホテル大阪／（共催）第一三共株式会社

一般演題1　座長　北田内科・呼吸器内科　院長　北田清悟先生

「当院における重症COVID-19肺炎治療　～人工呼吸管理からECMOまで～」

演者　八尾徳洲会総合病院　集中治療科　部長　緒方嘉隆

一般演題2　座長　ほりもと内科消化器クリニック　院長　堀元隆二先生

「当院におけるロボット支援下手術」

演者　八尾徳洲会総合病院　副院長・外科統括部長　木村拓也

一般演題3　座長　白岩内科医院　院長　白岩俊彦先生

「最新の2型糖尿病治療とチーム連携」

演者　八尾徳洲会総合病院　糖尿病代謝内科　部長　石橋里江子

特別演題　　座長　八尾徳洲会総合病院　循環器科　部長　松尾浩志
「かかりつけ医による心房細動診療～未来を見据えたトータルケアマネジメント～」
演者　たちばな台クリニック　院長　山嵜継敬　先生

講演会終了後　　当院医師と連携医の先生方との情報交換会開催

《当院主催の主な公開医療講座》

職種	対象者	演　題	講　師	開催日	開催場所
医師	一般	腎臓病について 腎機能が悪いと言われたら・・・	腎臓内科　医長　森　ちさこ	6月25日	オンライン講座
		腎臓病について	腎臓内科　医長　森　ちさこ	12月24日	オンライン講座
看護師	一般	疲れが続くと病気に！	認定看護管理者　澁谷　豊克	1月9日	オンライン講座
		せまりくる！？　トコジラミ	感染制御部　部長　澁谷　豊克	1月9日	オンライン講座
		はじめよう、人生会議 ～もしものときのために～	クリティカルケア認定看護師 藤原　麻友美	1月23日	オンライン講座
		脳卒中	クリティカルケア認定看護師 主任　鹿山　美穂	1月30日	オンライン講座
		冷え性！あなたのタイプは？	認定看護管理者　澁谷　豊克	2月6日	オンライン講座
		災害に対するご家庭での備え	認定看護管理者　澁谷　豊克	2月6日	オンライン講座
		めまいのお話	クリティカルケア認定看護師 主任　鹿山　美穂	2月13日	オンライン講座
		八尾徳洲会介護福祉施設の紹介	八尾徳洲苑　総師長　武田　郁子 ラフィーネの郷　施設長　上田　あゆみ	2月26日	オンライン講座
		お口の中を大切に 抗がん剤投与中のお口ケア	がん化学療法看護認定看護師 苗代 啓子	2月29日	オンライン講座
		安全な手術のために ～患者さんに知っておいてほしいこと～	手術看護認定看護師　村野　尚久	3月11日	オンライン講座
		病院で感染しないためには！	感染制御部　部長　澁谷　豊克	3月12日	オンライン講座
		花粉症の季節到来！	認定看護管理者　澁谷　豊克	3月12日	オンライン講座
		透析ってなぁに。 ちょっとのぞいてみませんか	透析室　看護師長　栗田　美貴	3月18日	オンライン講座
		床ずれのはなし	皮膚・排泄ケア認定看護師 河畑　美香	3月19日	オンライン講座
		がんと栄養	がん薬物療法看護認定看護師 上田　晴香	3月29日	オンライン講座
		生活習慣改善10ヶ条【運動】	認定看護管理者　澁谷　豊克	4月11日	オンライン講座
		生活習慣改善10ヶ条【たばこ】	認定看護管理者　澁谷　豊克	4月11日	オンライン講座
		尿漏れのはなし	皮膚・排泄ケア認定看護師 河畑　美香	4月15日	オンライン講座
		人食いバクテリアって！？	感染管理認定看護師　萩原　美香	4月23日	オンライン講座
		生活習慣改善10ヶ条【食事（塩分）】	認定看護管理者　澁谷　豊克	5月14日	オンライン講座
		ダニによる病気　疥癬とは？	感染制御部　部長　澁谷　豊克	5月14日	オンライン講座
		放射線治療について	がん化学療法看護認定看護師 苗代　啓子	5月30日	オンライン講座
		放射線治療について	がん化学療法看護認定看護師 苗代　啓子	6月17日	オンライン講座

薬剤部　98
放射線科　102
臨床検査　104
リハビリ　108
臨床心理　114
臨床工学　116
栄養科　121
治験センター　124
医療福祉　125
病診連携　129
健診センター　140
情報システム　142
保育室　144
がん相談　146
医療安全　150
感染制御　155
臨床腫瘍　159

職種	対象者	演　題	講　師	開催日	開催場所
看護師	一般	生活習慣改善 10 ケ条【食事（脂質）】	認定看護管理者　澁谷　豊克	6 月 18 日	オンライン講座
		大人も子供もかかる溶連菌感染症	感染制御部　部長　澁谷　豊克	6 月 18 日	オンライン講座
		生活習慣改善 10 ケ条【食事(肉より魚)】	認定看護管理者　澁谷　豊克	7 月 9 日	オンライン講座
		足のはなし	皮膚・排泄ケア認定看護師 河畑　美香	7 月 18 日	オンライン講座
		安全な手術のために ～患者さんに覚えておいてほしいこと～	手術看護認定看護師　村野　尚久	7 月 30 日	オンライン講座
		大人の RS ウイルス感染症	感染制御部　部長　澁谷　豊克	7 月 30 日	オンライン講座
		熱中症と予防について	クリティカルケア認定看護師 藤原　麻友美	8 月 5 日	オンライン講座
		生活習慣改善 10 ケ条【食事（野菜）】	認定看護管理者　澁谷　豊克	8 月 6 日	オンライン講座
		変形性関節症とは	認定看護管理者　澁谷　豊克	8 月 6 日	オンライン講座
		腫瘍マーカとは	がん薬物療法看護認定看護師 上田　晴香	8 月 30 日	オンライン講座
		HIV 感染からエイズ発症まで	感染制御部　部長　澁谷　豊克	9 月 10 日	オンライン講座
		日焼けと皮膚病	認定看護管理者　澁谷　豊克	9 月 10 日	オンライン講座
		遺伝子とがんの関係 ～がんは遺伝と関係あるの？～	がん化学療法看護認定看護師 苗代　啓子	9 月 30 日	オンライン講座
		鼻の病気	認定看護管理者　澁谷　豊克	10 月 29 日	オンライン講座
		耳の病気	認定看護管理者　澁谷　豊克	10 月 29 日	オンライン講座
		生活習慣改善 10 ケ条【飲酒】	認定看護管理者　澁谷　豊克	11 月 12 日	オンライン講座
		肺炎	感染制御部　部長　澁谷　豊克	11 月 12 日	オンライン講座
		手術よもやま話 ～種々雑多な話～	手術看護認定看護師　村野尚久	11 月 18 日	オンライン講座
		抗がん剤治療を支える 支持療法を知っていますか？	がん薬物療法看護認定看護師 上田　晴香	11 月 29 日	オンライン講座
		冬場に急増！『ヒートショック』	認定看護管理者　澁谷　豊克	12 月 17 日	オンライン講座
		眼の病気・・・ 感染症・白内障を中心に	感染制御部　部長　澁谷　豊克	12 月 17 日	オンライン講座
		救命処置と AED の使い方	クリティカルケア認定看護師 藤原　麻友美	12 月 26 日	オンライン講座
		がんに負けない！体を動かそう	がん化学療法看護認定看護師 苗代　啓子	12 月 27 日	オンライン講座
臨床検査技師	一般	耳鳴り ～鼻すすりは耳に悪いって知っていますか?～	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	1 月 15 日	オンライン講座
		夜間頻尿	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	1 月 29 日	オンライン講座

職種	対象者	演題	講師	開催日	開催場所
臨床検査技師	一般	水・・飲みすぎてませんか？ 心不全予防～日常生活のポイント～	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	2月26日	オンライン講座
		いびきと隠れ脳梗塞 ～前触れサインを見逃すな～	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	3月22日	オンライン講座
		良い睡眠、悪い睡眠	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	3月29日	オンライン講座
		睡眠障害	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	4月9日	オンライン講座
		耳鳴り ～鼻すすりは耳に悪いって知っていますか?～	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	4月23日	オンライン講座
		夜間頻尿	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	5月20日	オンライン講座
		水・・飲みすぎてませんか？ 心不全予防～日常生活のポイント～	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	5月28日	オンライン講座
		いびきと隠れ脳梗塞 ～前触れサインを見逃すな～	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	6月10日	オンライン講座
		良い睡眠、悪い睡眠	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	7月9日	オンライン講座
		睡眠障害	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	7月22日	オンライン講座
		耳鳴り ～鼻すすりは耳に悪いって知っていますか?～	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	8月5日	オンライン講座
		夜間頻尿	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	8月19日	オンライン講座
		水・・飲みすぎてませんか？ 心不全予防～日常生活のポイント～	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	9月9日	オンライン講座
		いびきと隠れ脳梗塞 ～前触れサインを見逃すな～	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	9月30日	オンライン講座
		耳鳴り ～鼻すすりは耳に悪いって知っていますか?～	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	10月15日	オンライン講座
		「結石」のおはなし	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	10月25日	オンライン講座
		夜間頻尿	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	11月5日	オンライン講座
		心不全予防 ～日常生活のポイント～	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	11月22日	オンライン講座
ソーシャルワーカー	一般	マインドフルネスタッピング 自分で自分を癒やしたい。	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	1月23日	オンライン講座
		終活のすすめ：相続編	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	1月25日	オンライン講座
		生命保険の活用法：中級編	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	2月8日	オンライン講座
		自律神経の乱れによる体調不良を防ぐ方法 アクセプタンス&コミットメントセラピー	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	2月27日	オンライン講座
		生存保障タイプの保険 個人年金保険と変額保険	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	3月19日	オンライン講座
		子どものためのマインドフルネス 大人がやっても効果的	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	4月16日	オンライン講座
		介護保険の概要：初級から中級まで	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	4月18日	オンライン講座

薬剤部　98
放射線科　102
臨床検査　104
リハビリ　108
臨床心理　114
臨床工学　116
栄養科　121
治験セン　124
医療福祉　125
病診連携　129
健診セン　140
情報シス　142
保育室　144
がん相談　146
医療安全　150
感染制御　155
臨床腫瘍　159

職種	対象者	演題	講師	開催日	開催場所
ソーシャルワーカー	一般	障害者サービスと手帳	認定医療ソーシャルワーカー／公認心理師　三谷　勇一	5月20日	オンライン講座
		損害保険と保険の仕組み：中級編	認定医療ソーシャルワーカー／公認心理師　三谷　勇一	5月31日	オンライン講座
		終活のススメ：相続中級編	認定医療ソーシャルワーカー／公認心理師　三谷　勇一	6月13日	オンライン講座
		医療保険と病床の種類	認定医療ソーシャルワーカー／公認心理師　三谷　勇一	6月21日	オンライン講座
		心を落ち着ける！ボディースキャン	認定医療ソーシャルワーカー／公認心理師　三谷　勇一	7月16日	オンライン講座
		終活のススメ：相続上級編	認定医療ソーシャルワーカー／公認心理師　三谷　勇一	7月18日	オンライン講座
		保険と共済：中級編	認定医療ソーシャルワーカー／公認心理師　三谷　勇一	8月20日	オンライン講座
		呼吸に注意を払いたい！マインドフルネス	認定医療ソーシャルワーカー／公認心理師　三谷　勇一	8月27日	オンライン講座
		障害者総合支援法で利用できるサービス	認定医療ソーシャルワーカー／公認心理師　三谷　勇一	9月9日	オンライン講座
		中河内合同がんサロンの歴史	認定医療ソーシャルワーカー／公認心理師　三谷　勇一	9月19日	オンライン講座
		やお徳サロンに参加したい！	認定医療ソーシャルワーカー／公認心理師　三谷　勇一	10月7日	オンライン講座
		ココロを落ち着かせる瞑想	認定医療ソーシャルワーカー／公認心理師　三谷　勇一	10月28日	オンライン講座
		年金の３つの仕組み老齢・障害・遺族を上手に活用する方法	認定医療ソーシャルワーカー／公認心理師　三谷　勇一	11月5日	オンライン講座
		民間保険を知ろう！第三分野の保険と税	認定医療ソーシャルワーカー／公認心理師　三谷　勇一	11月21日	オンライン講座
		相続のルールと遺言の書き方	認定医療ソーシャルワーカー／公認心理師　三谷　勇一	12月17日	オンライン講座
		自分の頭を整理したい：自分でできる認知再構成法とコラム法	認定医療ソーシャルワーカー／公認心理師　三谷　勇一	12月24日	オンライン講座
保健師	一般	血圧を上げる話、下げる話	保健師　主任　酒井　菜穂子	5月30日	オンライン講座
理学療法士	一般	骨折予防～家で転倒しないコツ！～	理学療法士　服部　玄徳	1月30日	オンライン講座
		今日から実践！！腰痛予防体操	理学療法士　服部　玄徳	2月27日	オンライン講座
		骨折予防～家で転倒しないコツ！～	理学療法士　服部　玄徳	3月19日	オンライン講座
		今日から実践！！腰痛予防体操	理学療法士　服部　玄徳	4月23日	オンライン講座
		骨折予防～家で転倒しないコツ！～	理学療法士　服部　玄徳	6月25日	オンライン講座
		今日から実践！！腰痛予防体操	理学療法士　服部　玄徳	7月9日	オンライン講座
		骨折予防～家で転倒しないコツ！～	理学療法士　服部　玄徳	8月6日	オンライン講座
		介護予防～転ばないための工夫と運動療法～	理学療法士　服部　玄徳	10月29日	オンライン講座

職種	対象者	演題	講師	開催日	開催場所
理学療法士	一般	今日から実践!! 腰痛予防体操	理学療法士　服部　玄徳	11月5日	オンライン講座
臨床心理士	一般	心のメンテナンスをしよう	臨床心理士　髙橋　恭子	3月25日	オンライン講座

《糖尿病教室医療講演》

職種	対象者	演題	講師	開催日	開催場所
医師	糖尿病教室	糖尿病と歯周病	歯科口腔外科　部長 占部　一彦　医師	1月16日	オンライン講座＋院内開催
栄養士		糖尿病の食事療法～総集編～	管理栄養士　八木　楓子	1月16日	オンライン講座＋院内開催
薬剤師		血糖値　測ってみよう、考えてみよう	薬剤師　坂野　千賀	3月15日	オンライン講座＋院内開催
ソーシャルワーカー		小児から成人を対象とした 社会資源の活用法	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	3月15日	オンライン講座＋院内開催
医師		糖尿病性網膜症	眼科　医師　山田　真弘	4月19日	オンライン講座＋院内開催
栄養士		糖尿病食事療法の基礎・応用	管理栄養士　佐藤　友亮	4月19日	オンライン講座＋院内開催
薬剤師		糖尿病の薬について	薬剤師　栗野　大輔	5月27日	オンライン講座＋院内開催
理学療法士		運動療法の基本 有酸素運動とレジスタンス運動について	理学療法士　服部　玄徳	5月27日	オンライン講座＋院内開催
臨床検査技師		検査データについて ～糖尿病連携手帳に沿って～	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	6月21日	オンライン講座＋院内開催
医師		災害への備え	総合診療部長　研修委員長 髙原　良典	6月21日	オンライン講座＋院内開催
医師		スティグマとアドボカシー　Part2	糖尿病代謝内科　医師　植田　秀樹	7月19日	オンライン講座＋院内開催
臨床心理士		こころの健康と糖尿病	臨床心理士　髙橋　恭子	7月19日	オンライン講座＋院内開催
栄養士		運動と食事療法	管理栄養士　八坂　陽菜	9月20日	オンライン講座＋院内開催
理学療法士		運動療法実践編：有酸素運動 ～脂肪を燃やして血糖値を下げよう!～	理学療法士　服部　玄徳	9月20日	オンライン講座＋院内開催
薬剤師		糖尿病と生活習慣病の薬 （高血圧　脂質異常症）	薬剤師　栗野　大輔	10月18日	オンライン講座＋院内開催
保健師		おうちでできる足のお手入れ	保健師　藤井　安希子	10月18日	オンライン講座＋院内開催
医師		糖尿病関連腎臓病	糖尿病代謝内科　医師　羽鳥　広隆	11月15日	オンライン講座＋院内開催
臨床検査技師		糖尿病合併症について	臨床検査技師　松村　知里	11月15日	オンライン講座＋院内開催
診療看護師		高齢者の上手な糖尿病のつきあい方	診療看護師　高橋　博之	12月20日	オンライン講座＋院内開催
理学療法士		運動療法実践編：レジスタンス運動 ～今日から始める健康貯“筋”～	理学療法士　西田　知哉	12月20日	オンライン講座＋院内開催

薬剤部　98
放射線科　102
臨床検査　104
リハビリ　108
臨床心理　114
臨床工学　116
栄養科　121
治験セン　124
医療福祉　125
病診連携　129
健診セン　140
情報シス　142
保育室　144
がん相談　146
医療安全　150
感染制御　155
臨床腫瘍　159

《医療従事者向けオンライン医療講演》

職種	対象者	演題	講師	開催日	開催場所
検査技師	医療従事者向け	学術発表で求められる倫理審査について	治験センター　副センター長 元田　健太郎	1月12日	オンライン講座
事務		苦情等に対する対応要領（第二弾）	医療安全管理部　相談役 衛藤　隆一	2月9日	オンライン講座
臨床工学技士		当院で取り扱っているME機器について	臨床工学科　係長　藤村　篤志	3月8日	オンライン講座
診療看護師		医師の働き方改革で注目の診療看護師（NP）制度と当院での活動内容	診療看護師　髙橋　博之	4月12日	オンライン講座
臨床検査技師		貧血のおはなし ～今更、ひとにきけないこんなこと～	臨床検査科　山中　ひろみ	5月10日	オンライン講座
理学療法士		心臓リハビリテーション	リハビリテーション科　理学療法士 片田　理恵	6月14日	オンライン講座
管理栄養士		医療現場における管理栄養士の役割 栄養管理とチーム医療について	栄養科　管理栄養士　齊藤　朝美	8月23日	オンライン講座
薬剤師		脂肪乳剤とTPN	薬剤部　部長　大里　恭章	9月13日	オンライン講座
看護師		中河内医療ネットワーク	看護部　副看護部長　澁谷　豊克	10月11日	オンライン講座
放射線技師		放射線治療について	放射線科　副技師長　村尾　信義	11月8日	オンライン講座
医師		八尾徳洲会病院 放射線治療再開について	放射線治療門　医長　梶谷　千香枝	12月13日	オンライン講座

《依頼講演（特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷)》

職種	対象者	演題	講師	開催日	開催場所
臨床検査技師	一般	良い睡眠、悪い睡眠	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	2月16日	久宝寺コミュニティセンター
保健師		心不全を予防しよう！	保健師　大谷　康仁	7月26日	久宝寺コミュニティセンター
久宝寺愛の郷		「腸活」のおはなし	特別養護老人ホーム　久宝寺愛の郷 施設長　木口　良章	10月21日	久宝寺コミュニティセンター

《依頼講演（八尾市立学校)》

職種	対象者	演題	講師	開催日	開催場所
医師	がん教育	がん教育 八尾市立八尾中学校	外科・肝臓外科・乳腺外科・小児外科 医学博士　河島　茉澄	7月2日	八尾市立八尾中学校
看護師			看護師　今西　真奈美		
医師	がん教育	がん教育 大阪府立八尾北高等学校	肝臓外科　医員　豊田　甲子男	7月5日	大阪府立八尾北高等学校
看護師			看護師　今西　真奈美		
医師	がん教育	がん教育 大阪市立加美南中学校	肝臓外科　医員　豊田　甲子男	11月1日	大阪市立加美南中学校
看護師			看護師　今西　真奈美		

職種	対象者	演題	講師	開催日	開催場所
医師	がん教育	がん教育 八尾市立高美中学校	肝臓外科　医長　藤井　貴子	11月22日	八尾市立高美中学校
看護師			看護師　今西　真奈美		

《世界糖尿病デー》

職種	対象者	演題	講師	開催日	開催場所
医療スタッフ	世界糖尿病デー	【イベント内容】糖尿病専門医による個別相談／保健師による歯周病リスクチェック／理学療法士による運動相談／InBody（体組成 - 脂肪や筋肉バランスの測定）／薬剤師による血糖測定（SMBG 体験）／管理栄養士による栄養相談／検査技師による自律神経チェック／糖尿病川柳など	世界糖尿病デー　in YAOTOKU	11月14日	1階　エントランス

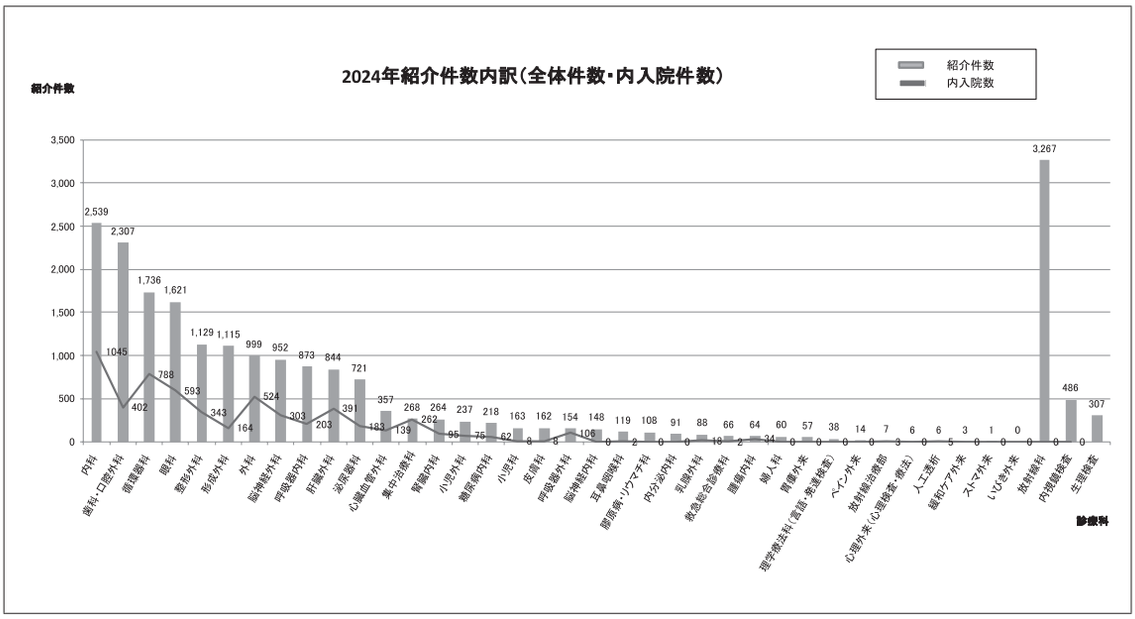
薬剤部　98
放射線科　102
臨床検査　104
リハビリ　108
臨床心理　114
臨床工学　116
栄養科　121
治験センター　124
医療福祉　125
病診連携　129
健診センター　140
情報システム　142
保育室　144
がん相談　146
医療安全　150
感染制御　155
臨床腫瘍　159

《各科紹介件数（内入院数）》

紹介件数（上段） 内入院数（下段）	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
内科	188	161	176	219	211	231	240	210	213	231	218	241	2,539
	74	75	71	86	87	101	93	87	96	102	79	94	1,045
歯科・口腔外科	176	201	196	201	204	161	238	198	177	210	182	163	2,307
	30	36	25	26	28	29	40	38	37	42	33	38	402
循環器科	145	150	154	170	154	149	145	152	105	149	131	132	1,736
	71	72	68	80	71	58	60	75	47	65	59	62	788
眼科	127	135	131	156	135	159	145	104	122	127	141	139	1,621
	32	50	41	59	54	61	61	33	47	43	49	63	593
整形外科	112	65	68	83	86	83	86	99	106	118	119	104	1,129
	35	17	24	25	29	25	27	25	35	35	34	32	343
形成外科	104	92	96	103	92	82	100	83	83	98	87	95	1,115
	18	12	10	11	16	15	14	19	7	12	17	13	164
創傷治療センター		2	1	3	2		2	1		3			14
													0
外科	70	72	73	77	107	65	81	84	77	101	83	109	999
	33	37	41	40	55	38	44	43	43	50	42	58	524
脳神経外科	61	59	75	85	77	75	73	76	77	102	101	91	952
	16	21	22	31	29	22	22	19	26	33	33	29	303
呼吸器内科	62	70	75	70	80	67	67	60	47	91	98	86	873
	15	15	20	12	12	11	23	10	10	22	23	30	203
肝臓外科	69	69	62	88	76	67	65	65	75	76	68	64	844
	30	32	29	34	26	39	29	41	35	33	35	28	391
泌尿器科	55	56	63	50	55	67	72	68	51	58	67	59	721
	16	16	22	15	16	16	18	18	9	13	13	11	183
心臓血管外科	24	24	43	40	33	30	24	29	27	25	24	34	357
	11	11	15	18	13	9	10	15	5	8	11	13	139
集中治療科	26	26	25	18	27	25	29	17	11	9	18	37	268
	26	25	25	17	27	23	29	17	11	8	18	36	262
腎臓内科	25	24	21	37	19	19	10	22	16	27	26	18	264
	13	14	8	6	9	2	4	10	4	13	4	8	95
小児外科	10	18	21	19	14	27	17	26	13	25	21	26	237
	4	9	6	8	4	4	5	9	4	3	8	11	75
糖尿病内科	16	17	11	16	19	18	16	19	20	30	23	13	218
	3	3	1		5	6	6	4	7	11	9	7	62
小児科	6	8	14	4	6	23	17	14	21	18	15	17	163
						3		1	1	1		2	8
皮膚科	6	1	5	6	17	15	13	16	23	22	15	23	162
					1	1	1			2	1	2	8
呼吸器外科	14	9	13	21	10	16	15	12	14	7	14	9	154
	11	8	10	13	5	8	11	8	7	5	12	8	106
脳神経内科	21	9	14	12	10	12	15	11	9	12	12	11	148
													0
耳鼻咽喉科	8	10	9	9	8	12	15	3	10	13	10	12	119
		1				1							2
膠原病リウマチ外来	6	11	9	11	6	10	10	7	8	11	11	8	108
													0
内分泌内科	6	9	5	7	5	8	9	6	10	15	8	3	91
													0
乳腺外科	3	9	5	5	7	8	6	8	7	14	10	6	88
		2	1	1	2	1	2	1	1	2	4	1	18
救急総合診療科	7	5	3	5	5	5	4	6	7	8	5	6	66
									1	1			2
腫瘍内科	4	8	2	1	4	2	5	9	8	7	4	10	64
	2	4			2	1	3	5	5	5	1	6	34
婦人科	1	1	4	7	4	8	6	10	6	4	3	6	60
													0
胃瘻外来	5	3	4	6	7	6	2	3	5	6	5	5	57
													0
理学診療科 （言語・発達検査）	2	4	2	5	3	4	4	7	1	1	3	2	38
													0
ペイン外来	1		1	1	2	1	2	1	1	1		3	14
													0
放射線治療部	1								1		1	4	7
												3	3
心理外来 （心理検査・療法）	2		1							1		2	6
													0
人工透析			1				2		1		2		6
			1				2		1		1		5
緩和ケア外来											1	2	3
													0
ストマ外来											1		1
													0
いびき外来													0
													0
放射線科	252	283	307	324	268	272	268	210	291	298	273	221	3,267
内視鏡検査	34	37	47	44	45	53	56	30	38	36	42	24	486
生理検査	12	23	22	27	34	23	34	15	24	23	37	33	307
その他													0
紹介件数合計	1,661	1,671	1,759	1,930	1,832	1,803	1,893	1,681	1,705	1,977	1,879	1,818	21,609
内入院数合計	440	460	440	482	491	474	504	478	439	509	486	555	5,758

薬剤部 98
放射線科 102
臨床検査 104
リハビリ 108
臨床心理 114
臨床工学 116
栄養科 121
治験センター 124
医療福祉 125
病診連携 129
健診センター 140
情報システム 142
保育室 144
がん相談 146
医療安全 150
感染制御 155
臨床腫瘍 159

《各診療科紹介件数内訳（全体件数・内入院数）》



科 / 項目	内科	歯科・口腔外科	循環器科	眼科	整形外科	形成外科	外科	脳神経外科	呼吸器内科	肝臓外科	泌尿器科	心臓血管外科	集中治療科	腎臓内科	小児外科	糖尿病内科	小児科	皮膚科	呼吸器外科	脳神経内科
紹介件数	2,539	2,307	1,736	1,621	1,129	1,129	999	952	873	844	721	357	268	264	237	218	163	162	154	148
内入院数	1,045	402	788	593	343	164	524	303	203	391	183	139	264	95	75	62	8	8	106	

科 / 項目	耳鼻咽喉科	膠原病・リウマチ科	内分泌内科	乳腺外科	救急総合診療科	腫瘍内科	婦人科	胃腸外来	理学療法科（言語・発達検査）	ペイン外来	放射線治療部	心理外来	人工透析	緩和ケア外来	ストマ外来	いびき外来	放射線科	内視鏡検査	生理検査	その他	合 計
紹介件数	119	108	91	88	66	64	60	57	38	14	7	6	6	3	1		3,267	486	307		21,609
内入院数	2			18		34					3		5								5,758

※創傷治療センターは形成外科に含まれます。

《検査紹介件数》

	放射線科	内視鏡	生理検査	合計
1月	252	34	12	298
2月	283	37	23	343
3月	307	47	22	376
4月	324	44	27	395
5月	268	45	34	347
6月	272	53	23	348
7月	268	56	34	358
8月	210	30	15	255
9月	291	38	24	353
10月	298	36	23	357
11月	273	42	37	352
12月	221	24	33	278
合計	3,267	486	307	4,060

主な検査項目

・放射線科

MRI	CT	DSA
RI	インプラントCT	CT（冠動脈）
単純撮影	マンモグラフィー	骨密度

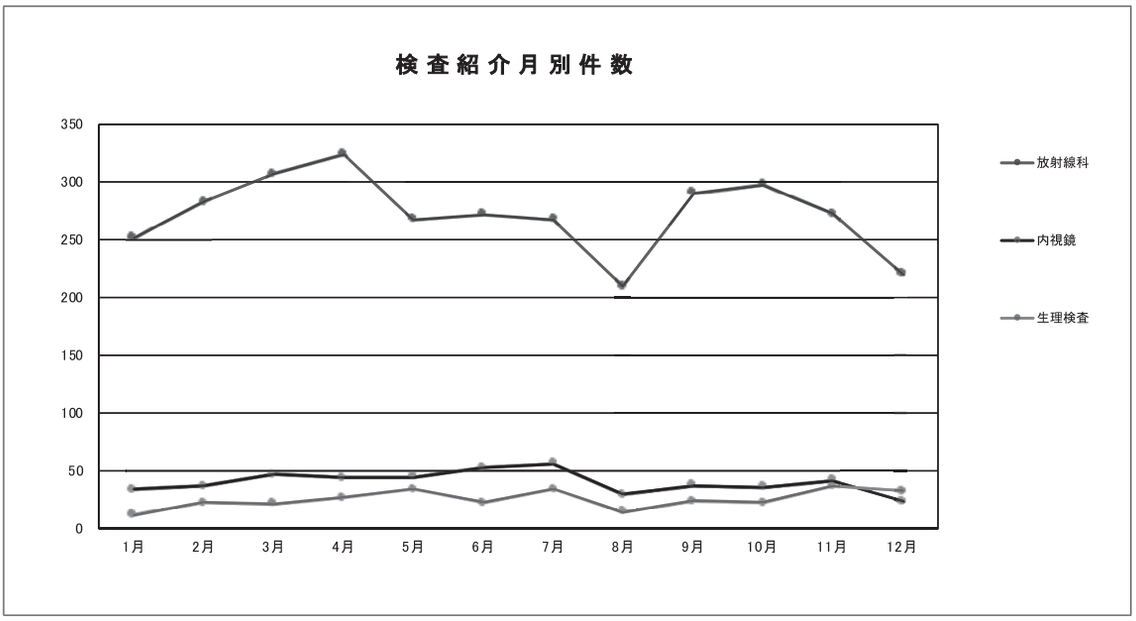
・内視鏡

GIF	CF

・生理検査

腹部エコー	心エコー	末梢血管エコー
甲状腺エコー	頚動脈エコー	乳腺エコー
トレッドミル	心電図	ホルター心電図
呼吸機能	脳波検査	肺機能
COVID-19 検査		

《検査紹介月別件数》



4. 今後の目標

中河内地区の医療を担うべく、地域の登録医の先生方をはじめ広域の医療機関まで広範囲にわたり、検査・外来・救急・入院に至るまで、あらゆる医療ニーズに迅速かつ円滑に対応し、患者さまが安全かつ安心に継続性のある適切な医療を受けられるよう信頼される医療機関として努力してまいります。

さらに地域の皆様へ様々な情報の発信をおこない、公開医療講座や地域の団体や自治会等からの依頼講演も積極的に開催し、幅広く医療を理解いただき、予防医療の啓蒙活動もすすめてまいります。

また地域医療支援病院として、連携医の先生方の開放病床の積極的な共同利用の促進や定期的に医療連携の会を開催し、勉強会や情報交換会を通じて連携の強化をはかってまいります。

41）健診センター

健診センター長　上野　靖

薬剤部　98
放射線科　102
臨床検査　104
リハビリ　108
臨床心理　114
臨床工学　116
栄養科　121
治験セン　124
医療福祉　125
病診連携　129
健診セン　140
情報シス　142
保育室　144
がん相談　146
医療安全　150
感染制御　155
臨床腫瘍　159

1. 概要

2024 年 12 月に健診センターは当院敷地内の南棟に移転しました。健診内容、サービスは変わらず提供させて頂き、今回新たに健診センター内で婦人科健診もおこなえるようになりました。できるだけ受診者さまの負担無く健診を受けて頂けるよう努めてまいります。

当院健診センターは、八尾市推奨の肺がん検診（胸部 X 線）、胃がん検診（バリウム検査）、乳がん検診（マンモグラフィー）、大腸がん検診（便潜血検査）、子宮がん検診を施行できる八尾市では唯一の認定施設です。毎年多くの八尾市民の方にご利用頂き､ありがとうございます。

受診者さまには、コロナ後もマスク着用と来院時間を細かく設定させて頂き、感染防止に努めています。受診者さまのご協力のもと、これまで感染が拡大せず健診業務をおこなえた事に感謝申し上げます。まだまだこのような状態が続きますが、ご協力お願いしたいと思います。

健診センター内での腹部超音波検査や女性技師による乳腺超音波検査もおこなっており、時間短縮と快適さを提供できる環境が少しずつ整備されました。今後もサービス向上を目指していきます。

腹部超音波検査で要精密検査と判定された受診者さまのための専門医師によるドック精査外来や、総合病院に併設されている健診センターの強みを生かした疾患の早期発見・早期治療のバックアップ体制にも力を入れてまいります。

予約業務に関しては、例年と同様に毎年受診して頂いている企業様への事前予約を行い、個人受診者様にもスムーズにご予約頂けるように試みています。しかしながら、人間ドックコースで胃内視鏡検査を希望される受診者さまの予約枠が、予約開始から数ヶ月後には埋まってしまいました。これまでも検査枠を増やしてきましたが、受診者さまのご希望に添えるよう今後も、更なる業務改善をしてまいります。

2. メンバー構成

常勤医師 1 名、常勤看護師 6 名、常勤診療放射線技師 1 名、常勤事務員 7 名、非常勤医師 2 名、非常勤看護師 3 名、非常勤臨床検査技師 1 名

3. 実績

2024 年	ドック	企業	バス健診	合計
1 月	529	1,224		1,753
2 月	563	1,602		2,165
3 月	587	1,026		1,613
4 月	585	684	51	1,320
5 月	592	820	1,468	2,880
6 月	614	1,011		1,625
7 月	670	1,199	55	1,924
8 月	569	1,693		2,262
9 月	588	991		1,579
10 月	758	915	61	1,734
11 月	602	973		1,575
12 月	543	882		1,425
合計	7,200	13,020	1,635	21,855

4. 今後の目標

今後、新しい健診センター内で内視鏡検査や頚部血管エコー検査等をおこなっていく予定です。多くの検査ができるように医療機器の整備やスタッフの教育、検査体制の構築をおこないます。健診検査を少しでも早く終え、迅速な検査結果の返却に努めます。受診者さまのニーズに応えられるような検査枠の拡充やオプションを充実させてまいります。また、総合病院併設の健診センターの利点を生かし、呼吸器疾患や消化器疾患・脳疾患など、専門医師と連携して速やかに精密検査できる体制を作り、早期治療に取り掛かれるように努めてまいります。

42）情報システム管理室

システム管理室　久保　準人

薬剤部　98
放射線科　102
臨床検査　104
リハビリ　108
臨床心理　114
臨床工学　116
栄養科　121
治験セン　124
医療福祉　125
病診連携　129
健診セン　140
情報シス　142
保育室　144
がん相談　146
医療安全　150
感染制御　155
臨床腫瘍　159

1. 概要

A）人員について

2024 年 1 月時点では 3 名在籍していたが 5 月に 1 名が退職。

7 月に中途採用で 1 名入職。

B）院内電子カルテ端末の経年劣化による故障の頻発

電子カルテ端末で利用している端末の中でも特に古いものについては 10 年以上経過しており、端末自体のスペックの低さから電子カルテ利用時に遅延等が散見されました。また経年劣化に伴う故障が頻発したため、端末の修理、入れ替えをおこないました。

2024 年	2023 年	2022 年	2021 年	2020 年	2019 年
119 台	237 台	198 台	188 台	138 台	70 台

C）マニュアルの整備

マニュアルの整備は一通り完了しました。今後は都度必要と判断した際にマニュアルを作成・共有していく予定です。

D）セキュリティについて

TIS（徳洲会インフォメーションシステム）からの指示により、ウイルス対策ソフトを ESET から Symantec へ変更しました。この変更に伴い、windows7 端末は Symantec が適用範囲外だった為 windows10 以上へのアップグレードが必要となりました。（総数約 200 台の交換が必要）

随時交換を行っていますが台数が多い事、費用の問題もあり、数年かけて対応していく予定です。

E）課題について

情報システム管理室としての業務は電子カルテ保守・運用やベンダーコントロール、院内の PC 操作に対してのヘルプデスク業務などが含まれますが、情報発信や電子カルテシステムの改善なども重要な業務であると感じています。日々の業務に追われ自ら発信することが出来ていないため、更に各科との連携を高め、利便性を高めたシステムの運用を目指していきます。

2. メンバー構成

システム管理者：久保　準人・松本　巧・萬田　恭平

システム委員　：22 名（医局、看護部、臨床工学科、栄養科、放射線科、薬剤部、理学療法室、検査室、総務部、医事課、医局秘書）

3. 実績

・案件数（システム作業依頼件数）

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月
63 件	67 件	70 件	89 件	68 件	74 件
7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
79 件	97 件	78 件	63 件	71 件	73 件
年間合計					892 件

・主な内訳

・電子カルテクライアント機器メンテナンス対応（PC、プリンター、ネットワーク）

・電子カルテサーバー保守・運用　（メンテナンス対応）

・病院関連システムメンテナンス（データ更新、保守作業、修理対応）

・ベンダーコントロール業務（各部門システムベンダーとの折衝業務）

・PC 関連　院内ヘルプデスク対応

・電子カルテ操作教育

・部門検査機器導入　関連システム接続対応

・ホームページ関連

4. 今後の目標

院内の電子カルテ端末並びに機器の保守を行うだけでなく、様々なシステムを誰もが気軽に簡単に利用できるよう情報発信を行い、日々変わっていく最新のシステムを院内で認知されるように努めることが目標です。院内イントラの整備などによって、各科での情報共有手段が不足している状況を改善し、各科での利便性を高めることについても取り組んでいきます。

また、セキュリティに関してもウィルス感染や個人情報の流出を防ぐため対策を講じ、安心して利用できる環境の構築を目指していきます。

システム管理室の人員は増えましたが、経験が浅い職員が多いため、各案件の業務効率が低下しているのが現状です。各々経験を積み、各案件の業務効率化を図っていきます。

43）保育室

保育室係長　河野　美加

薬剤部　98
放射線科　102
臨床検査　104
リハビリ　108
臨床心理　114
臨床工学　116
栄養科　121
治験センター　124
医療福祉　125
病診連携　129
健診センター　140
情報システム　142
保育室　144
がん相談　146
医療安全　150
感染制御　155
臨床腫瘍　159

1. 概要

2024年は4月に新卒の保育士が1名入職しましたが、他園に通園している2重保育の子ども達も増え、産休明けや新規の子ども達の入室も多く、保育士の確保を余儀なくされました。また、2024年のQI指標に『年休消化率（リフレッシュ休暇含む）向上』を掲げ目指す事となり毎月の保育士必要人数と実際の勤務表上の人数の月平均の差を提出し、保育士の確保を働きかけ、8月に1名中途採用しました。結果リフレッシュ休暇を全保育士が消化することができました。

病児保育室では、主に手足口病・マイコプラズマ感染症が例年の時期より早く流行し、低年齢から小学生までと年齢も様々でした。また、11月中旬よりインフルエンザが増加傾向で、入室児がインフルエンザ感染児だけで定員に達してしまう事もありました。この時期、エンジェル保育室でもインフルエンザ感染症がアウトブレイクし、保育士も数名感染しました。感染症対策を適切におこない、安心してお子さまを預けていただけるよう取り組んでまいります。

2. メンバー構成

エンジェル保育室	《キリン組》	荻	長谷川	竹田	
（院内保育室）	《リス組》	中西	木下	吉原	
	《アヒル組》	河野	幸嶋	中村	
	《ヒヨコ組》	曽我	大岩	田中	中谷（8月入職）
	《フリー》	小林			
モコモコ保育室		永田	今岡	奥村	
（病児保育室）					

3. 実績

《エンジェル保育室年齢別登室園児数》

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
登室数	0歳児	280	243	327	37	57	63	112	134	160	234	213	193	2,053
	1･2歳児	283	238	279	305	287	281	343	331	322	385	362	340	3,756
	3歳児	57	51	52	67	66	63	94	91	85	90	88	79	883
	4歳児	120	121	144	76	100	102	97	76	87	85	80	86	1,174
	5歳児	49	31	34	154	144	149	152	128	143	165	150	132	1,431
	学童保育	16	16	23	21	21	16	12	26	16	12	10	14	203
	合計	805	700	859	660	675	674	810	786	813	971	903	844	9,500
	一時預かり保育		2	1	1				3			1	2	10
	半日預かり保育			1					1	2		1	3	8

《病児・病後児保育室運営状況》

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
開室日数	15	19	19	21	21	20	22	20	19	22	20	20	238
利用者数	53	86	50	83	97	98	101	70	81	89	82	114	1,004
一日平均利用者	3.5	4.5	2.6	4	4.6	4.9	4.6	3.5	4.3	4	4.1	5.7	4.2
保育士数	39	56	41	58	59	59	64	47	53	61	51	59	647
一日平均保育士数	2.6	2.9	2.2	2.8	2.8	3	3	2.4	2.8	2.8	2.6	3	2.7
診察結果待ち数	9	11	7	7	6	10	18	12	8	6	6	20	120
意見書利用数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

《研　修》

7月13日　管理者研修
7月14・15日　第34回全国病児保育研究大会（in金沢）
9月21日　全国病児保育協議会　大阪支部会
11月 2日　河内地域感染管理ネットワーク講習会
★3ヶ月に1回保育士研修（勉強会）を保育室にて実施

《行　事》

2月 2日　節分
3月 1日　ひなまつり
16日　お別れ会
4月16・23日　春の健康診断
5月 2日　こどもの日
9日　春の遠足（青山第一公園）
6月10日　時の記念日
7月 5日　七夕
21日　お楽しみ会
9月 2〜 7日　個人懇談
10月 8日　秋の遠足（キッズプラザ）
11月 1日　QI大会
11月 5・18日　秋の健康診断・インフルエンザ予防注射
12月17日　クリスマス会（保育室にて）
★毎月身体測定・避難訓練・誕生会　月2回幼児教育（英語ECC）
★4月・8月　感染制御部による感染対策指導

4. 今後の目標

・感染症拡大防止に努める
・保育士の確保
・保育士の研修参加を強化する

44）がん相談支援センター

認定がん専門相談員　三谷　勇一

薬剤部　98
放射線科　102
臨床検査　104
リハビリ　108
臨床心理　114
臨床工学　116
栄養科　121
治験セン　124
医療福祉　125
病診連携　129
健診セン　140
情報シス　142
保育室　144
がん相談　146
医療安全　150
感染制御　155
臨床腫瘍　159

1. 概要

2024 年は、新型コロナウイルス感染症の影響のため中止していた院内のがん患者サロンの再開に至りました。現地開催と WEB 開催を同時開催とするハイブリットでの開催となり、テーマとして、2 月は「笑いヨガ」、4 月は「調理実習」、6 月は「乳房パッド」、8 月は「折花」、10 月は「認知行動療法とヨガ」とコロナ前からの企画を再開しました。さらに新企画として、12 月には、「キャンサーケアヨガ」を企画しました。

また、2 次医療圏単位での合同サロンは、対面式での開催となりました。第 6 回中河内圏域合同がんサロンのテーマは「今のカラダとココロに寄り添う時間をつくってみませんか」とし、「患者体験談」、「キャンサーケアヨガ」、「患者さん同士のおしゃべり会」を企画しました。

地域貢献として、国立がん研究センターがん対策研究所からの依頼により、「がん相談教育ネットワーク事業　相談対応の質保証（QA）研修」のファシリテーターとして、Ⅲ群研修の運営に携わりました。同様に、「がん相談教育ネットワーク事業　情報支援研修地域版（半日）」においてもファシリテーターとして、Ⅲ群研修の運営に携わりました。

1/27 には、中河内医療圏がん診療ネットワーク協議会シンポジウムとして，甲状腺がんに罹患した河内家菊水丸氏に登壇いただき、その体験談を語ってもらいました。

3/7 には、院内緩和ケア研修会症例検討会において、当院の池下麻酔科医と共に症例検討を行いました。

8/3 には、がん相談支援センターが引っ越ししました。当初 3 番窓口だったものが 27 番窓口に変更となり、院内 1 階の中央に位置する事となりました。

9/6 には、がん拠点病院訪問として、大阪国際がんセンター、市立東大阪医療センター、患者会代表の方々の視察に対し、当院のがん診療の状況を説明しました。

2. メンバー構成

委員長：医　師　　村上　修（外科部長）
委　員：社会福祉士　三谷　勇一（両立支援コーディネーター）
（認定がん専門相談員：国立がん研究センター）

3. 実績

（1）研修参加・部会活動

1/17　第4回中河内がん相談支援センター部会（WEB開催）
1/20　令和5年度大阪府がん拠点病院がん相談支援センター相談員研修会
アピアランスケアStep up編（Ⅲ群研修）（大阪国際がんセンター）
1/23　がん相談員のためのこれからのIT技術革新に備えるワークショップ
DX, Chat-GPT（Ⅳ群研修）
1/27　中河内医療圏がん診療ネットワーク協議会シンポジウム
3/1　大阪府がん診療連携協議会相談支援センター部会（WEB開催）

3/7　院内緩和ケア研修会症例検討会主催
4/18　第1回中河内がん相談支援センター部会（WEB開催）
6/29　「がん相談教育ネットワーク事業　相談対応の質保証（QA）研修」ファシリテーター拝命（Ⅲ群研修）
7/8　大阪府がん相談支援センター部会（大阪国際がんセンター）
8/3　がん相談支援センターの引っ越し
8/10　当院におけるPEACE研修会の開催
8/23　第2回中河内がん相談支援センター部会（WEB開催）
9/6　がん拠点病院訪問
9/7　「がん相談教育ネットワーク事業　情報支援研修地域版（半日）」ファシリテーター拝命（Ⅲ群研修）
10/11　第6回中河内合同がんサロン（現地開催）キャンサーケアヨガ
11/7　院内緩和ケア研修会
12/5　中河内がん相談支援センター部会　産業保健センター合同勉強会

(2) がん患者サロン（やお徳サロン）の開催

開催計画：6 回程度／年　時：第 2 火曜日 14:00-15:00　場所：当院会議室にて

第 1 回令和 6 年 2 月 13 日（火）（外部講師　株式会社元気な介護）
笑いヨガってなんですか？～さぁみんなで、わっはっはぁ～
第 2 回令和 6 年 4 月 9 日（火）（当院調理師）
食べたいを支えたい！吐き気があるときの簡単料理
第 3 回令和 6 年 6 月 11 日（火）（外部講師　magic　ring）
ミニチャームを作ろう！～乳房パッドは魔法の輪！～
第 4 回令和 6 年 8 月 13 日（火）（外部講師　Galactic　Agency）
ミニチャームを作ろう！折花と香りで癒されたい！
第 5 回令和 6 年 10 月 8 日（火）（外部講師　ワンモア八尾）
認知行動療法とヨガ
第 6 回令和 6 年 12 月 10 日（火）（外部講師　ヨガインストラクター）
レッツ！キャンサーケアヨガ

（4）がん相談支援センター相談延べ件数の表

2024年相談内容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数
治療	2	0	0	0	4	5	2	5	2	9	2	9	40
←手術	1	0	0	0	2	3	2	3	2	5	1	0	19
←放射線	1	0	0	0	2	4	2	1	1	4	0	3	18
←薬物	2	0	0	0	2	1	2	3	2	7	2	7	28
←免疫	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
←ゲノム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	3
←その他	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	4
検査	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	4
症状	0	1	0	1	6	2	3	0	1	0	2	3	19
←妊生殖	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
←アピアランス	0	0	0	1	1	0	1	0	1	0	1	0	5
←晩期合併	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
←長期フォロ	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	3
←その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
セカンドオピニオン（一般）	0	0	1	1	1	4	2	1	0	1	2	0	13
セカンドオピニオン（受入）	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
セカンドオピニオン（紹介）	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	3
治療実績	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨床試験	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受診・入院	4	0	0	1	0	1	3	5	5	0	0	2	21
転院	2	3	2	4	6	2	3	2	4	7	2	3	40
医療機関紹介	10	12	3	4	7	3	4	3	7	9	4	5	71
予防・検診	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
在宅医療	12	11	5	7	11	13	12	12	10	9	7	6	115
緩和・ホスピス	12	10	5	13	18	19	18	12	8	8	10	16	149
ADL・服薬	8	1	3	4	8	12	10	9	4	7	2	4	72
介護、看護、養育	9	1	3	4	10	12	7	11	6	10	3	6	82
←介護	8	1	3	4	7	11	7	11	6	10	3	6	77
←看護	4	1	0	3	8	11	5	9	2	6	1	5	55
←養育	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	4
社会	0	0	0	0	0	0	0	2	0	4	1	2	9
←就労	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3	1	2	8
←仕事と両立	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	2	5
←就学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
←学業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
費用	6	0	0	1	3	0	4	5	7	11	2	9	48
←介護保険	5	0	0	1	3	0	3	5	5	9	1	5	37
←傷病手当	0	0	0	0	0	0	0	2	0	4	1	2	9
←その他	0	0	0	0	2	0	1	2	2	2	0	6	15
補完	0	0	0	0	2	1	0	0	0	1	0	1	5
生きがい	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	1	2	7
苦痛	3	2	0	1	3	2	3	2	2	3	2	6	29
告知	0	1	0	1	0	2	2	2	0	1	0	0	9
医療者とのコミュニケーション	2	0	0	3	0	6	2	1	5	1	0	4	24
患者･家族間のコミュニケーション	0	0	1	0	0	0	0	2	2	1	0	2	8
友人･知人･職場のコミュニケーション	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	3
患者会	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	1	3	8
グリーフケア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	2	1	7

薬剤部 98
放射線科 102
臨床検査 104
リハビリ 108
臨床心理 114
臨床工学 116
栄養科 121
治験セン 124
医療福祉 125
病診連携 129
健診セン 140
情報シス 142
保育室 144
がん相談 146
医療安全 150
感染制御 155
臨床腫瘍 159

4. 今後の目標

がんサロンの開催においては、隔月開催だったものを毎月開催とします。これまで、がんサロンへ継続的に参加して下さった方が、円滑に参加できるようにするため、認知行動療法を取り入れた試みを検討中です。また、患者家族会である一般社団法人 Mon ami、あけぼの大阪、ETHICAL SEED との連携を強化し、定期的な患者家族会の継続開催とともに、継続的な「やお徳サロン」の運営にも尽力します。

さらには、院内で開催される予定のやお徳サロンの開催計画について、1 月 14 日『香りで整える：アロマと食欲（アロマテラピーサロン雪桜)』、3 月 11 日『レッツ！キャンサーケアヨガ』､4 月 8 日『食べたいを支えたい！吐き気があるときの簡単料理』､5 月 13 日『笑いヨガってなんですか？～さぁみんなで、わっはっはぁ～』、6 月 10 日『ミニチャームを作ろう！～乳房パッドは魔法の輪！～』、7 月 8 日『レッツ！キャンサーケアヨガ』、8 月 12 日『折花と香りで癒されたい！』、9 月 9 日『ハンドトリートメント（Galactic Agency)』、10 月 14 日『認知行動療法とヨガ』、11 月 11 日『笑いヨガってなんですか？～さぁみんなで、わっはっはぁ～』、12 月 9 日『ヨガを体験しよう（ETHICAL SEED)』を企画しています。

45）医療安全管理部

医療安全管理者　糸永　美千代

薬剤部　98
放射線科　102
臨床検査　104
リハビリ　108
臨床心理　114
臨床工学　116
栄養科　121
治験セン　124
医療福祉　125
病診連携　129
健診セン　140
情報シス　142
保育室　144
がん相談　146
医療安全　150
感染制御　155
臨床腫瘍　159

1. 概要

各部署でインシデント・アクシデントを振り返り、再発防止ができるよう部署責任者とセーフティーマネージャーを中心に医療安全対策カンファレンスを実施し、対策の検討をしています。さらに、患者影響度の高い事例に関しては、根本原因を見つけ出し具体的な対策を立案、実行できるように根本原因分析（RCA 分析）を行っています。

2. メンバー構成

医療安全管理部長　兼任医師	1名
医療安全管理者　専従看護師	1名
患者支援・相談窓口担当職員	2名
事務局	1名
相談役（主業務：警察事案対応）	1名

3. 実績

①医療安全管理活動

（1）インシデント・アクシデント報告システム

報告総数は例年 2,500 件前後で推移しており、報告数は少しずつ増加傾向にあります。エラー発生率を事例別に見ると（表 1）自己転倒、薬剤エラー、ドレーン・チューブ抜去が多くあがっていました。転倒は前年と比べ 3%増加していますが、低床ベッドの導入、転倒転落予防フローチャートの導入、リスクを再評価することで次年度の発生数減少を目指しています。次に事例件数を月別に比較してみると 7.2 ～ 9.3%であり著しい変化はありませんでした。次に事故レベル別に見てみると（表 2）治療や処置を必要としなかった Lv2 以下が 88%を占めていました。レベル 0 の報告数を増やすこととし、全体の 20%以上を目標としていましたが結果は 5.5%でした（前年度 4.5%）。研修医からの報告はレベル 0 が多く提出されていますが、他部署はアクシデント報告が主となっています。

Lv3b 以上は 50 件（12.02%）のレポート報告がありましたが、5 件は重複した報告であり実数は 45 件の発生でした。また、そのうち 20 件は転倒による骨折でした。

表１　事例の内容と月別報告書　対象期間：2024.1.1 ～ 12.31

月	薬剤	輸血	治療・処置	医療機器等	ドレーン・チューブ	検査	療養上の世話	転倒・転落	その他	合計	月別報告数
1	35	2	5	2	30	14	30	69	17	204	8.0%
2	40	6	5	4	12	18	23	48	26	182	7.2%
3	43	2	11	11	32	9	36	53	24	221	8.7%
4	58	1	13	7	18	28	32	31	20	208	8.1%
5	72	5	9	7	28	30	20	43	21	235	9.2%
6	59	3	16	8	16	28	27	25	21	203	8.0%
7	60	2	5	13	16	24	32	35	26	213	8.4%
8	48	1	9	13	22	24	26	54	31	228	9.0%
9	52	3	16	6	14	13	33	43	21	201	7.9%
10	42	4	11	17	20	24	26	37	38	219	8.6%
11	41	3	9	7	27	18	23	36	36	200	8.0%
12	47	4	12	8	28	18	36	36	36	225	8.9%
合計	597	36	121	103	263	248	344	510	317	2,539	
概要別割合	23.5%	1.4%	4.8%	4.1%	10.4%	9.8%	13.5%	13.5%	12.4%		

表２　事故レベル 事例実件数：2,539　対象期間：2024.1.1 ～ 12.31

Lv0	Lv1	Lv2	Lv3a	Lv3b	Lv4a	Lv4b	Lv5	合計
141	1,030	1,066	252	47	0	2	1	2,539
5.50%	40.50%	42.00%	10.00%	1.90%	0.00%	0.08%	0.04%	

(2) 医療安全管理委員会

毎月　第４月曜日に開催　(1 月～ 12 月、延 12 回)

病院における高度な医療の提供に不可欠である安全管理体制を確保するために、病院のあらゆる部門や診療科を統合し、組織横断的に安全な医療を提供することを目的としています。医療安全管理におけるリスクと現状の分析、発生した有害事象の分析、再発防止策の検討、啓発を行っています。

(3) セーフティーマネージャー会議

医療安全管理委員会に先行して、毎月１回開催（1 月～ 12 月、延 12 回）

医療安全管理委員会の下部組織として患者の安全、安心に貢献することを目的とし、医療事故の防止、医療の質管理を組織横断的に行うため、院内ラウンドや医療安全対策カンファレンスを実施しています。RCA 分析した情報の共有や半年後の評価を実施しており、同部署での警鐘事例は発生していません。

薬剤部 98
放射線科 102
臨床検査 104
リハビリ 108
臨床心理 114
臨床工学 116
栄養科 121
治験セン 124
医療福祉 125
病診連携 129
健診セン 140
情報シス 142
保育室 144
がん相談 146
医療安全 150
感染制御 155
臨床腫瘍 159

(4) 医療安全全体研修

医療安全管理部主催で年間２回開催

１月は個人情報保護と医療安全、画像診断、病理診断報告書の患者への未伝達を防止する取り組みについてｅラーニングで開催し､延べ777名の受講で受講率は86％でした。

７月は患者安全について～実践と現状～について講義＋ｅラーニングで開催し、延べ840名の受講で受講率は84％でした。

(5) 医療安全部会参加

医療安全管理部会　会議

（年４回、関西・大阪ブロックの医療安全管理者が参加して安全対策や近況等の共有）

医療安全管理部会　全国担当者研修会

(6) 医療安全関連活動への参画

日本医療機能評価機構認定病院（会員）

医療事故紛争対応研究会（会員）

日本医療リスクマネジメント学会（会員）

近畿厚生局　医療安全セミナー参加

大阪府看護協会府東支部　医療安全管理者交流会

②院内安全パトロールの継続実施

院内や病院周辺における様々な事案（トラブルなど）を発見し対応するために､午前･午後（1日2回）のパトロールを実施しています。

これまでも、パトロール中にスタッフと患者（その家族など）のトラブルを発見して早期に解決したり、スタッフからの相談に対応するなどしています。

現在までに、不法侵入者によるスタッフへの暴力事案や盗難被害などの発生はありませんので、今後もパトロールを継続していきます。

③患者相談窓口活動と相談支援業務

(1) 患者相談窓口活動

患者相談窓口は医療に関する患者・家族などの苦情や心配に迅速に対応し、医療の情報提供等を通して、患者さまとの信頼関係を築いて行く窓口として設置され、体制は医療安全管理部所属の事務員と臨床検査技師が主に担当しています。

業務内容は主に案内・相談・介助・その他に分類でき、詳細を下記に示します。

2024年八尾パルス（相談等）業務実績（件数40,092対象期間1／4～12／30）

案内												相談		介助				
予約診（再来機）	入院患者	再診	紹介受付	バス乗場	駐車券	職員面会	文書受付	初回	健診センタ	会計（返戻等）	その他の院内施設	医療相談	苦情相談	車椅子	視・聾・聴	その他	その他	総合計
7,832	2,387	3,088	2,806	1,630	1,443	1,071	708	1,015	653	605	6,711	3,440	416	3,943			2,344	40,092
19.5%	6.0%	7.7%	7.0%	4.1%	3.6%	2.7%	1.8%	2.5%	1.6%	1.5%	16.7%	8.6%	1.0%	9.8%			5.8%	100%
74.7%												9.6%		9.8%			5.8%	100%

案内業務は全体の約 75％を占め、前年同様でした。紹介窓口と総合受付が離れた所にあり、表示も不明瞭で分かりにくいという実態があり、今後の課題です。

相談業務は全体の 9.6％であり、内容は受診科に関すること、自身の疾患や検査方法、検査データー、治療費に関すること、転院先の相談、セカンドオピニオンの他に発熱しているが診てもらえるのか？など相談内容は多岐にわたっています。その都度、関係部署と連絡を取りながら対応してまいりました。2024 年は、病院の工事に伴い、駐車場の入り口の閉鎖・駐車場の縮小・無料化等があり、駐車場・駐車券に関するお問い合わせ、部署ごとに工事をしていたため部署の移動により移動場所のお問い合わせが多数ありました。

介助業務は全体の 9.8％ですが、車いす患者の窓口までの移送や、筆談援助、電話をかける、タクシー呼び出しなどの介助が多くなっています。また、車イスが足りなくなり院内を探す事が月の半数以上となり、車イスを増加するとともに車イス管理表を作成し、12 月から管理しています。

(2) 皆様の声

「皆様の声」は 171 枚（182 件）で､それらに対する回答を 1 ヶ月毎に掲示しています。施設等への要望が 47.0％と最も多く､「病院への電話が繋がらない」という意見を多く頂いています。色々な事に関してのお問い合わせが多く、時間帯によっては繋がりにくくなっている現状であることは確かです。状況改善する為、回線を増やし電話交換手の人員も増員しました。また、コンビニ前の飲食用のテーブル・椅子を増やしてほしい、各病棟のデイルームの椅子の数を増やしてほしいという声を多く頂きました。コンビニ前は通路ですので、増やす事は避難時に障害となる為できかねます。9 階レストランも 2023 年 12 月 18 日より再開しています。飲食につきましては、レストランのご利用をお願いできたらと思います。12 月から面会も予約なしで可能となった為、デイルームの椅子等も増やしています。清掃不十分という指摘のあった病棟では、清掃回数を増やすなどさらなる清掃の充実を申し出ているところです。次いで接遇に関する苦情が 16％と昨年より 5％減少しています。外来部門の受付事務への意見が多く、職員ひとり

一人が自覚をもって対応することの必要性が示唆されています。感謝のお言葉は、4%の増加傾向が見られます。

今後も事例を職員間で共有することが大切であり、これからも皆様の声に真摯に耳を傾け、ご要望に応えるよう努力し、皆様に愛される病院を目指してまいります。

2024年1月から12月分の皆様の声分類

	①感謝	②接遇	③要望等	④その他	合計
医局	11	3	1		15
看護部	23	9	35	3	70
医事課		5	5		10
薬剤部			2		2
総務／資材	1	1	34		36
栄養科	2		4	1	7
検査科		1	1		2
手術室			1		1
耳鼻咽喉科				1	1
医療安全管理部		2			2
リハビリ	1				1
放射線科	1				1
MSW			1		1
健診センター	1	2			3
眼科			1		1
小児科				1	1
掲示不可		6		22	28
合計	40	29	85	28	182
	22%	16%	47%	15%	100%

4. 今後の目標

今後も転倒転落のリスク評価を毎日継続して行い転倒転落予防チャートに沿って入院3日目に評価します。その上で対策の見直しをおこない、転倒転落の発生数を減少できればと思っております。またLV3b以上は根本原因分析を行い、カンファレンスや会議で共有し、再発防止を意識する職員が増えてきています。引き続き、対策や評価を病院全体で共有することで、院内ルールの整備を図り、さらに患者影響度を下げていきたいと思っております。

薬剤部 98
放射線科 102
臨床検査 104
リハビリ 108
臨床心理 114
臨床工学 116
栄養科 121
治験センン 124
医療福祉 125
病診連携 129
健診センン 140
情報シス 142
保育室 144
がん相談 146
医療安全 150
感染制御 155
臨床腫瘍 159

46）感染制御部

感染制御部　統括部長　石原　英樹
部長　澁谷　豊克

1. 概要

【八尾徳洲会総合病院　感染管理指針】

感染管理のための基本的考え方

当院は、徳洲会の基本理念に基づき、医療関連感染を未然に防ぐことを第一として取り組み、感染症患者発生の際には拡大防止のため、原因の速やかな特定と科学的根拠に基づく対策の実施により制御、終息を図ります。職員は、この目標を達成するため、感染管理指針及び院内感染管理マニュアルにのっとった医療を患者様とそのご家族様に提供できるように取り組みます。

第 1. 感染管理体制の充実を図ります。

院内感染対策委員会を設置し、医療関連感染対策の推進を図ります。病院長直下に感染制御部を設置することで、組織的に医療関連感染対策を実施する体制を整え感染を制御し管理していきます。また、チーム医療として感染制御チーム、抗菌薬適正使用支援チームを設置し、医療関連感染防止に係る対策の推進､薬剤耐性菌対策として抗菌薬の適正使用の推進を図ります。

第 2. 職員に対して教育、研修を実施します。

医療関連感染対策のための基本的考え方及び具体的方策について、職員に周知徹底を行います。個々の職員の医療関連感染に対する意識を高め、業務を遂行する上での知識・技術の向上を図ります。病院全体に共通する医療関連感染に関する内容について、定期的に研修会を開催します。

第 3. 感染症の監視と発生時の迅速な対応を実施します。

日常的に院内における感染症の発生状況を把握するシステムを有し、医療関連感染症の発生又はその兆候を察知したときは、迅速かつ適切に対応します。

第 4. 他の医療機関等との連携体制を推進していきます。

他の医療機関と合同で、定期的に医療関連感染対策に関するカンファレンスを行います。また、河内地域のネットワークに参画し、地域における医療・介護・福祉・保育の感染制御を支援します。

第 5. 新興感染症に対応できる体制を構築します。

保健所、医師会と連携し、他の医療機関と合同で新興感染症等の発生を想定した訓練を実施します。また、新興感染症の発生時等には都道府県等の要請を受けて感染症患者を受け入れる体制を構築します。

2. メンバー構成

・院内感染対策委員会

病院長、看護部長、事務部長、薬剤部長、検査技師長、その他部門長

職種：医師、看護師、事務員、臨床検査技師、薬剤師、管理栄養士、臨床工学技士、
理学療法士、診療放射線技師、歯科衛生士、保育士、委託業者（清掃、リネン、中材）

薬剤部 98
放射線科 102
臨床検査 104
リハビリ 108
臨床心理 114
臨床工学 116
栄養科 121
治験セン 124
医療福祉 125
病診連携 129
健診セン 140
情報シス 142
保育室 144
がん相談 146
医療安全 150
感染制御 155
臨床腫瘍 159

・感染制御部

専従配置：看護師 1 名（感染管理認定看護師、第一種衛生管理者）
事務員 1 名（感染管理実務担当者）

専任配置：医師 3 名（ICD：2 名）、薬剤師 4 名（感染制御認定薬剤師・抗菌化学療法認定薬剤師：1 名）
臨床検査技師 2 名、看護師 3 名（感染管理特定認定看護師：2 名）

・ICT（感染制御チーム）

職種：医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師、管理栄養士、調理師、臨床工学技士、理学療法士、診療放射線技師、事務員

・AST（抗菌薬適正使用支援チーム）

職種：薬剤師、医師、臨床検査技師、看護師、診療放射線技師

3. 実績

項目	内容
感染管理システム 地域連携	①河内地域感染管理ネットワーク（行政、医療、介護、福祉、保育）の開催（毎月） ②中河内感染防止対策協議会への参画（施設名：順不同） 【カンファレンス連携施設】 八尾市保健所　八尾市医師会 東大阪徳洲会病院　東朋八尾病院　貴島病院本院　八尾こころのホスピタル 北田内科・呼吸器内科　松田クリニック　しろばとクリニック 浅井クリニック　吉田クリニック　ほりい内科・整形外科クリニック 吉崎クリニック　中谷クリニック　中垣内科皮膚科　松本クリニック 【加算 1 相互ラウンド連携施設】 若草第一病院　東大阪医療センター 【加算 2/ 加算 3 ラウンド連携施設】 東大阪徳洲会病院　東朋八尾病院　貴島病院本院 ③ 2024 年度新興感染症訓練開催
感染管理教育	①院内感染対策講習会開催：年 2 回　不参加者への e-ラーニング 第 1 回参加率：100%　　第 2 回参加率：100% ②新人研修・中途採用者研修（随時） ③ PPE 着脱訓練
Surveillance	①耐性菌、監視対象菌、監視対象ウイルス ②厚生労働省（JANIS）：検査部門、手術部位部門、ICU 部門、全入院部門 ③日本環境感染学会（JHAIS）：SSI 部門 ④日本看護協会（DiNQL）：デバイス ⑤感染対策連携共通プラットホーム（J-SIPHE）：手指衛生、デバイス、抗菌薬 ⑥徳洲会グループ：手指衛生、耐性菌、インフルエンザ、ノロウイルス、COVID-19 ⑦エピネット：血液・体液曝露
感染防止技術	①手指衛生キャンペーン開催 ② PICC・CVC 固定交換方法マニュアル・動画作成 ③ PPE 着脱訓練・手指衛生実施テスト・N95 マスクフィットテスト
職業感染対策	①入職時健診抗体価検査 HBV、HCV、麻疹、風しん、水痘、ムンプス、T-SPOT ②職員ワクチン接種 HBV、麻疹、風しん、水痘、ムンプス、インフルエンザ、COVID-19 ③血液・体液曝露対策 ④結核曝露対策
ファシィリティ・マネジメント	①栄養科職員のノロウイルス検査の実施 ②空調、水道管理 ③ゾーニングの見直し、工事リスクアセスメント ④陰圧室の差圧モニタリング

【リスクアセスメント】

項目	発生リスク	患者・訪問者職員に対するリスク	組織的対策の必要性	準備状況	スコア
血液・体液曝露（HIV 含む）	4	3	4	2	13
結核	4	3	3	2	12
手指衛生	3	3	3	2	11
CABSI	3	3	3	2	11
COVID-19	3	2	3	2	10
MRSA	3	3	2	2	10
SSI	2	3	3	2	10
CAUTI	2	2	2	2	8
ASP	2	2	2	2	8
CD トキシン	2	2	2	2	8
VAP	2	2	2	2	8
インフルエンザ	2	2	2	1	7

点数表

発生リスク	患者・訪問者職員に対するリスク	組織的対策の必要性	準備状況	スコア
1. なし	1. なし	1. なし	1. 良好	最大値　15 点
2. 低い	2. 一時的	2. 低い	2. 中等度	最小値　4 点
3. 中等度	3. 多大・永久的	3. 中等度	3. 不十分	
4. 高い	4. 致命的	4. 高い		

【成果指標】

2024 年度に特定した課題と優先順位と結果

順位	課題	成果指標	2023年結果値	目標値	2024年結果値	対策
1	血液・体液曝露	血液・体液曝露件数	12件	10件	15件	入職者に対する血液・体液曝露研修 新人職員への安全装置作動の実技練習 既卒者への安全装置作動の実技練習 入職時の抗体価(HIV)チェック
2	結核	職員LTBI件数	1件	0件	0件	肺炎患者に対する抗酸菌検査の実施 防護具の適正使用 職員の接触者検診の実施

順位	課題	成果指標	2023年結果値	目標値	2024年結果値	対策
3	手指衛生	手指衛生実施率	65.8%	80%	71.1%	患者接触前に焦点をあてた実施率調査と即時フィードバックの実施 各部門(医師は診療科毎)に実施率のフィードバック 手指衛生キャンペーンの実施 ①手指衛生ポスター大会 ②手指衛生直接間接・観察者の育成 ③院内保育室での手洗い教室 ④アロマによるハンドケア講習 ⑤患者の手指衛生意識調査

【感染症件数】

	疾患名	入院	外来	合計
2類感染症	TB（LTBI含む）	14	9	23
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1	1	2
4類感染症	レジオネラ症	1	0	1
5類感染症	CRE（保菌含む）	36	3	39
	MDRP	1	11	12
	VRE	1	0	1
	アメーバ赤痢	1	0	1
	インフルエンザA	97	827	924
	インフルエンザB	4	205	209
	感染性胃腸炎（ノロウイルス）	2	22	24
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4	0	4
	新型コロナウイルス感染症	502	1,547	2,049
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2	0	2
	侵襲性肺炎球菌感染症	5	0	5
	水痘	4	3	7
	梅毒	3	6	9
	マイコプラズマ肺炎	11	1	12
	流行性耳下腺炎	0	1	1
その他	HIV	3	0	3

4. 今後の目標

2026年4月、感染症外来・感染症病棟を開設の予定です。そのため、行政と密に連携し大規模な新興感染症訓練を行い、新興感染症を含め、あらゆる感染症に対応できる医療機関の構築を目指します。

薬剤部 98
放射線科 102
臨床検査 104
リハビリ 108
臨床心理 114
臨床工学 116
栄養科 121
治験セン 124
医療福祉 125
病診連携 129
健診セン 140
情報シス 142
保育室 144
がん相談 146
医療安全 150
感染制御 155
臨床腫瘍 159

47）臨床腫瘍センター

臨床腫瘍センター副センター長　山本　倫数

1. 概要

当センターには、がん薬物療法に関わる専門資格、認定資格を取得したスタッフが常駐し、各科臨床医、看護師、管理栄養士ら協力のもと、その専門性を活かして安全かつ質の高いチーム医療を展開しています。

また、院内全体のがん化学療法を安全・適切に行えるよう、がん化学療法看護認定看護師、がん専門薬剤師の育成に積極的に取り組み、地域の保険薬局とのトレーシングレポートを用いた連携強化にも取り組んでいます。

2. メンバー構成

センター長：瓜生　恭章（呼吸器内科・腫瘍内科日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医）
副センター長：金丸　知寛（泌尿器科）、山本倫数（薬剤部日本医療薬学会がん専門薬剤師）
外　　科：垣本　佳士
肝 臓 外 科：木村　拓也
脳 神 経 外 科：吉村　政樹
薬　剤　部：濱田　達志（日本医療薬学会がん専門薬剤師）
看　護　部：苗代　啓子（がん化学療法看護認定看護師）
　　：上田　晴香（がん薬物療法看護認定看護師）
栄　養　科：佐藤　友亮
医　事　課：片山　由貴、吉本　祐史

3. 実績

2024 年のがん化学療法施行件数は年間 2,990 件（外来：2,735 件、入院：255 件）、生物学的製剤の施行件数は年間 640 件となっています。癌種別では前年度と同様に肺癌の化学療法が約 23％と最も多く、次いで肝胆膵癌が約 22％、大腸癌が約 19％となっています。

《がん化学療法・生物学的製剤 施行件数（2024 年 1 月～ 12 月）》

	,	2024/1		2024/2		2024/3		2024/4		2024/5		2024/6		2024/7		2024/8		2024/9		2024/10		2024/11		2024/12		合 計	
		外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院
がん化学療法施行件数（癌種別）	肺癌	51	18	56	13	43	17	55	8	60	6	46	7	47	7	53	13	41	11	62	5	45	8	65	11	624	124
	大腸癌	48	2	48	2	40	1	41	1	47	0	39	0	46	1	41	0	42	0	47	0	46	1	45	0	530	8
	胃癌	24	1	27	0	30	0	27	0	30	0	23	0	24	0	24	0	23	1	26	0	21	2	25	1	304	5
	乳癌	8	0	10	0	22	0	13	0	15	0	15	0	14	0	23	0	19	0	23	1	13	0	16	1	191	2
	肝･胆･膵	57	0	56	3	48	0	48	3	48	5	55	1	58	1	53	2	49	2	52	3	44	2	46	1	614	23
	食道癌	1	5	1	5	1	4	1	0	1	0	1	0	1	6	1	5	2	1	4	0	2	0	1	0	17	26
	泌尿器癌	23	5	20	1	18	0	26	0	26	0	25	3	27	4	23	2	25	5	28	3	23	0	28	1	292	24
	造血器腫瘍	10	9	8	3	9	1	14	3	8	2	12	0	8	3	7	1	5	6	8	2	4	4	6	5	99	39
	婦人科癌	2	0	3	0	3	1	3	1	8	0	9	0	7	0	8	0	7	0	4	0	3	0	3	2	60	4
	その他	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	4	0
	合 計	224	40	229	27	214	24	229	16	244	13	225	11	232	22	233	23	214	26	254	14	202	17	235	22	2,735	255

（診療科別）	内科	18	0	11	1	17	0	18	3	13	1	16	0	10	0	11	0	7	2	23	2	18	1	31	4	193	14
	腫瘍内科	47	29	59	16	42	20	59	9	69	7	55	7	56	11	64	14	50	15	57	5	36	11	47	11	641	155
	外科	76	6	70	5	69	4	61	1	64	0	57	0	69	6	60	5	61	2	77	0	68	2	63	1	795	32
	乳腺外科	5	0	8	0	17	0	11	0	13	0	12	0	8	0	16	0	15	0	16	1	9	0	14	2	144	3
	肝臓外科	55	0	61	4	51	0	54	3	59	5	61	1	62	1	59	2	55	2	53	3	47	3	52	1	669	25
	泌尿器科	23	5	20	1	18	0	26	0	26	0	24	3	27	4	23	2	25	5	28	3	23	0	28	2	291	25
	脳神経外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	婦人科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	2	1
	合 計	224	40	229	27	214	24	229	16	244	13	225	11	232	22	233	23	214	26	254	14	202	17	235	22	2,735	255

生物学的製剤	膠原病･リウマチ	47	0	47	0	38	1	42	0	55	0	47	0	46	0	55	0	29	0	58	0	54	0	55	0	573	1
	炎症性腸疾患	8	0	4	0	6	0	4	0	6	0	7	0	6	0	7	0	2	0	5	0	7	0	4	0	66	0
	合 計	55	0	51	0	44	1	46	0	61	0	54	0	52	0	62	0	31	0	63	0	61	0	59	0	639	1

実習生受け入れ

日本医療薬学会　地域薬学ケア専門薬剤師（がん）：1 名（アイン薬局八尾店）

4. 今後の目標

患者さまに安全かつ質の高いがん化学療法を受けていただけるよう、診療科・職種の枠組みを超えて免疫関連有害事象などの早期発見を目的としたチーム医療を実践できるよう努めます。

また、緩和ケアチームと連携して患者様の生活面や精神面の支援を行い、トレーシングレポートや ePRO（電子的患者報告アウトカム）システムを用いて地域の保険薬局との連携強化を図ります。

薬剤部 98
放射線科 102
臨床検査 104
リハビリ 108
臨床心理 114
臨床工学 116
栄養科 121
治験センター 124
医療福祉 125
病診連携 129
健診センター 140
情報システム 142
保育室 144
がん相談 146
医療安全 150
感染制御 155
臨床腫瘍 159

看　護　部

―― 2024年 ――

48） 4階東　5階西　164
5階東　6階西　165
6階東　7階西　166
7階東　8階西　167
8階東　ＩＣＵ　168
ＨＣＵ　169
外来・ＥＲ　170
手術室　透析室　171
入退院支援　保健指導　172

48）看護部

看護部長　小原　真栄美

4階東 164
5階西 164
5階東 165
6階西 165
6階東 166
7階西 166
7階東 167
8階西 167
8階東 168
ICU 168
HCU 169
外来・ER 170
手術室 171
透析室 171
入退支援 172
保健指導 172

1. 概要

急性期病院において質の高い医療の提供をするうえで、看護の果たす役割は重要であり、その役割を担う人材の育成が不可欠です。看護部では以下の目標を掲げ取り組んでいます。

1. 急性期病院の役割認識と地域医療への貢献
2. 自分で考え行動し、責任を持つ看護実践
3. 地域貢献に繋がる人材育成、キャリア開発と支援

地域の方々が安心して受診していただける病院として看護の質の向上を目指します。

4階東病棟　脳神経外科／脳神経内科／眼科



当病棟は、脳神経外科・脳神経内科・眼科の患者さまを受け入れている45床の病棟です。突然発症する脳卒中で急性期治療が必要な患者さま、脊椎脊髄疾患の患者さま、神経難病の患者さま、眼科手術が必要な患者さまの看護を行っています。平均在院日数は16.2日。12月までの総入院患者数は1,398名。疾患による高次脳機能障害や、認知症、せん妄症状を呈する患者さまや、栄養管理のため鼻腔チューブを挿入している患者さまが多く入院しています。カテーテル治療件数の増加により、緊急カテーテル治療後の患者さまのスムーズな受け入れ、予定治療患者さまの受け入れを充実するため在院日数の低減を目標に取り組んでいます。治療に必要な鼻腔チューブの抜去予防に、身体抑制を行うケースも少なくありません。日々のカンファレンスで、身体抑制の必要性を確認し、不要となった患者さまは速やかに中止します。医師やリハビリスタッフとのカンファレンスに参加することで、リハビリテーションの進捗を確認できる機会があります。また、主治医と家族の面談に看護師が同席することで、患者さまやそのご家族の思いを聞き意思決定支援を行っています。入院後早期にリハビリテーションが開始され、栄養管理や薬剤管理の他、精神科医師によるリエゾンチームの介入など多職種と協働しながら、患者さまのADLの獲得、社会復帰を目指した支援を行っています。

今後も切れることのない支援と質の高い安全な看護の提供ができるよう努めていきます。

5階西病棟　一般内科／婦人科／眼科／小児領域全ての診療科

当病棟は、41床レディースフロア病棟です。一般内科、眼科、婦人科外来部門、15歳以下の小児を対象とし、全診療科の患児を男女問わず受け入れを行っています。

平均患者数：36名／月、平均在院日数14日／月。一般内科では主に、誤嚥性肺炎や尿路感染症、慢性心不全の高齢患者さまが大半を占めています。高齢患者さまが退院後、より良い環境下で生活できるよう入院時から、患者さまとご家族の意向や気持ちに寄り添いながら退院支援活動に取り組んでいます。眼科では白内障、硝子体、網膜剥離の手術目的患者の受け入れを

行い、緊急手術となる患者さまの受け入れも行っています。婦人科外来では、人間ドック以外での癌検診や子宮頚癌ワクチン接種の対応を行なっています。15歳以下の小児領域の患児の受け入れは、診療科問わず患児と保護者の方が安心で安全な療養環境を提供できるよう取り組み、受け入れを行っています。女性や小児であるといった選別で受け入れを行う為、診療区域は多岐に渡り、他病棟とは違う特徴を持つ病棟です。その為、日々広い視野での知識や看護を意識し、優しさと温かさを持ち患者さまやご家族の環境にも配慮した看護の提供を目指しています。

5階東病棟　循環器／心臓血管外科



当病棟は、循環器科・心臓血管外科病棟です。

心筋梗塞・狭心症・冠状動脈硬化症・心不全に対するカテーテル検査・治療だけで無く、形成外科による創傷ケアセンターと協力しながら下肢閉塞性動脈硬化症、重症虚血肢に対するカテーテル検査治療も行っています。同時に、心臓血管外科周術期の患者さまも多く受け入れている急性期病棟です。2021年に開設された心臓血管センターも2022年には心臓ホットラインが設置され24時間365日断ることなく、八尾市内だけでなく中河内医療圏の循環器病に関する救急を受け入れ地域医療に貢献しています。そのため緊急入院患者も多く受け入れており、ひとりでも多くの患者さまを受け入れられるよう、心臓・呼吸リハビリテーション・MSW・臨床心理士などの多職種と連携を図り、早期離床・早期退院を目指しています。同時に、多職種で協働し、患者さまとそのご家族に安心・安全な療養環境が提供できるよう努めており、今後も継続してまいります。

2024年は、平均入院患者数：142.6名／月、平均退院患者数：164．8名／月、平均在院日数：7.89日でした。DPCによる入院疾患上位に位置している心不全は、入退院を繰り返すことが往々にしてあります。当院では心不全手帳を導入し、日常生活における自己管理を実践していただけるよう入院中から退院指導に取り組んでいます。また、退院後は外来にて保健師も介入し、生活指導を継続して行っています。そのため、再入院率は全国平均35％に対し当院での2024年の平均は12.8％でした。少しでも地域でその人らしく、1日でも長く生活ができるように、今後も外来と連携し再入院率低減を目指してまいります。

6階西病棟　整形外科／耳鼻咽喉科

当病棟は、整形外科、耳鼻咽喉科疾患を主に受け入れている急性期病棟です。疾患の特性として、骨折整復手術、人工関節手術、脊椎手術を中心に行っています。2024年は入院患者数877人／年、うち緊急入院患者数492人／年と半数以上が緊急入院であり、その殆どは、転倒を契機とした大腿骨近位部骨折の患者さまです。大腿骨近位部骨折に対しては、骨折リエゾンサービスを開始し、多職種連携で骨折のリスク評価や骨粗鬆症の治療、転倒予防を行い二次骨折の予防を行いました。全症例の手術件数は886件／年と前年に比べ約20人／年多くの手術

4階東 164
5階西 164
5階東 165
6階西 165
6階東 166
7階西 166
7階東 167
8階西 167
8階東 168
ICU 168
HCU 169
外来･ER 170
手術室 171
透析室 171
入退支援 172
保健指導 172



が行われ、周手術期医療・看護を提供しました。安全安心な専門的医療の提供、かつ地域や社会への早期復帰を目指して、医師・看護師・理学療法士･医療ソーシャルワーカーなど各職種が連携し、入院から退院まで継続した介入を行い、早期退院を目指しました。整形外科病棟は高齢患者さまが多く、喪失した機能の回復には一定の期間が必要になります。急性期治療後も、患者さまやそのご家族が安心して療養を継続でき社会生活を過ごせるために、病院・療養施設・地域が途切れることなく介入できるよう連携をさらに強化していく必要があります。2025 年は、骨折リエゾンサービスの推進、退院後すぐに介護が介入できるように介護申請の案内を積極的に行い、また、クリニカルパスの活用により職種それぞれが専門性を発揮し協働、患者さまやそのご家族が安心と満足感の得られる急性期医療を提供していきたいと考えます。

6 階東病棟　形成外科／泌尿器科／歯科・口腔外科／眼科



当病棟は形成外科・泌尿器科・口腔外科・眼科と腎臓内科の混合病棟です。周手術期を中心とした外科病棟で、2024 年の入院は 1,783 名　退院 1,660 名　手術 1,170 件でした。

形成外科では、陰圧閉鎖療法など創部管理のため大学病院や地方からも来院される患者さまも多く、既往には糖尿病や腎不全などの慢性疾患をもつ患者さまも多くいらっしゃいます。泌尿器科では化学療法や放射線治療のほか、人工肛門造設などのボディーイメージの変容による精神的サポートなど、周術期看護だけでなく、幅広い知識が必要です。腎臓内科では、ライフバランスを考え、就寝中に透析ができる、腹膜透析を選択する患者さまも増えています。医師､看護師だけでなく医療ソーシャルワーカーをはじめその他のメディカルスタッフ、患者さまと一緒に退院後のライフスタイルを考え、退院後も自分らしい生活が送れるように医療・看護の提供をおこなっていけるよう、今後も努力し続けてまいります。



7 階西病棟　消化器内科

当病棟は、消化器内科を中心とした混合内科病棟です。病床数 45 床、2024 年総入院数 1111 名、退院患者数 1299 名、平均在院日数 13.5 日でした。

当病棟は、胆嚢炎・胆管炎・胃潰瘍・ポリープ切除等、内視鏡的治療を必要とする患者の受け入れとともに、誤嚥性肺炎・尿路感染など一般内科患者さまや、術前・抗がん剤治療・放射線治療を受ける患者さまの受け入れも行っています。

高齢化社会であり退院困難患者さまも増加傾向であるため、入院早期から退院支援活動を意識し、患者さまやそのご家族との関わりの必要性について指導教育を行っています。また内視鏡室・放射線治療室スタッフや医療ソーシャルワーカーとの連携も重要であり、患者さまの必要な情報を正確に伝達するよう心がけています。高齢患者は、入院によりADL低下や認知機能の低下が起こるリスクは高く、残存機能の維持を意識し、定期的に身体抑制・退院支援等のカンファレンスを行い、患者さま個々に応じた対策・対応が行えることをめざし日々、安心・安全な看護と療養環境を提供できるよう、スタッフ一人一人のスキルに応じた教育・接遇指導を行いながら取り組みを継続してまいります。

7階東病棟　外科／肝臓外科



当病棟は消化器外科・肝臓外科・呼吸器外科・乳腺外科の周手術期の患者さまを中心とした44床の高度急性期病棟です。胃がん、大腸がん、肝臓がん、肺がん、乳がんなどのがん手術や、鼠径ヘルニア、盲腸炎、胆嚢炎・胆管炎、気胸などの手術患者さまを受け入れています。2024年の新入院患者数1,487人、退院患者数1,586人、平均入院患者数42.4人/月、平均在院日数10.3日でした。

日本の平均寿命は男性が81.1歳、女性が87.1歳となり、7東に入院され手術を受ける患者年齢の中央値も74.3歳と高齢化しています。このため、認知症ケアやせん妄予防・廃用症候群の予防に力を入れ、入院時のADL（Activities of Daily Living: 日常生活動作）の状態を維持したまま退院することができるように努めています。また、特定看護師や臨床スキンケア看護師の育成を行っており、専門性の高い看護が行えるように看護師の教育を進めています。

今後は現在使用しているクリニカルパスを見直し、治療や検査のスケジュールをよりわかりやすくし患者さまが安心して治療に臨めるように整えてまいります。

8階西病棟　呼吸器外科・内科

当病棟は呼吸器内科を主とした45床の一般内科病棟です。呼吸器感染症､肺癌､気管支喘息､COPD､肺線維症（間質性肺炎）など、あらゆる呼吸器疾患患者を受け入れているため、急性期から慢性期・終末期に至るまでの看護を行なっています。

当病棟では、高齢患者さまが半数以上を占めており、安全に治療を受けるためにやむを得ず抑制を必要とする場面があります。また、転倒転落リスクの高い患者さまも多いため、毎日、抑制解除カンファレンスや転倒転落予防カンファレンスを行なっています。カンファレンスを通じ、日々の看護を振り返る場を作り、よりよい看護の提供ができるよう努めています。

2024年の当病棟における入院患者数は721件／年、退院患者数は837件／年、平均在院日数は約20.6日でした。

高齢患者さまは、入院を契機に認知機能・ADL・嚥下機能などが低下しやすいため、在院日数が長期化する傾向にあり、また呼吸器疾患患者さまは、慢性症状を持って帰る患者さまが

4階東 164
5階西 164
5階東 165
6階西 165
6階東 166
7階西 166
7階東 167
8階西 167
8階東 168
ICU 168
HCU 169
外来･ER 170
手術室 171
透析室 171
入退支援 172
保健指導 172

多数いらっしゃいます。今後も、看護師ひとりひとりが、患者さまの医療上、ADL・IADL からの生活上の課題を統合的にアセスメントする力を向上できるよう取り組んでまいります。患者さまとそのご家族が安心して退院できるよう、意思決定支援、他職種連携を強化し、入院直後から退院支援及び退院調整を行ない、在院日数短縮を図ることが次年度への課題です。

引き続き患者さまとそのご家族が安心できる質の高い医療・看護が提供できるよう日々努力してまいります。

8階東病棟　呼吸器疾患／腎臓内科／糖尿病教育／腫瘍内科



当病棟は腫瘍内科、呼吸器内科、腎臓内科、糖尿病教育入院の患者さまを多く受け入れ、化学療法や放射線治療を受ける患者さま、クリティカル期を脱した人工呼吸ケアが必要な患者等への看護を提供しています。がん化学療法看護認定看護師 2 名が勤務する臨床腫瘍センターへの応援勤務を通して化学療法についての学びを深めています。

当病棟は 2024 年 1 月 15 日より病床数 39 床から 45 床へ増床となり、2024 年の入院数は 634 件、転入数 304 件、退院数は 849 件でした。病床数が増床しても平均在院日数は 21.8 日で、前年度と同様でした。長期的な治療を要する患者さまもいる中、6 月から開始した白内障手術目的の眼科患者さまの受け入れが、在院日数の増加に至らなかったと考えます。次年度は、在院日数短縮ができるよう白内障以外の眼科患者さま受け入れ増加を目指します。

今年度は COVID-19 クラスター発生があり、入院が長引いてしまう患者さまもいらっしゃいました。二度とクラスター発生させないよう感染対策の周知徹底に努めています。

長期的な治療を要する患者さまおよびご家族さまが安心して退院後を過ごすための意思決定支援、退院支援の強化などを入退院支援部門・他職種と協働して取り組みます。また、疼痛ケアを含めたがん看護、糖尿病看護、人工呼吸ケアの向上、身体拘束低減・褥瘡新規発生低減を目指しながら、患者さまとそのご家族に寄り添う『心に届く看護』が提供できるよう看護の質向上に取り組んでまいります。

ICU

ICU は重篤な急性臓器機能不全状態にある患者さまを対象とし、多職種連携のもとに高度かつ専門的なチーム医療を提供する部署です。（定床：8 床）

重症な内科救急患者さま、侵襲度の高い術後患者さまを 24 時間体制で受け入れています。より質の高い集中治療の提供のため、特殊モニタリング装置などの新規機器の導入を積極的に行っています。呼吸モニタリングとして EIT 装置を導入し、綿密な呼吸管理を実践しています。

また、1 日 1 回多職種カンファレンスを継続しており、多職種協働を図っています。

心臓血管外科・脳神経外科の術後に加え、緊急手術患者さまも増加しており、患者さまの重症度が年々高くなっています。

また、重症呼吸不全・循環不全患者への ECMO 管理についても多く対応しました。

今後は、集中治療に対応できる医師や看護師を増員配置し、増床対応の予定です。さらにより質の高い医療・看護の提供を行い、患者の早期回復支援につなげられるようにしてきたいと考えています。集中治療を安全で効果的に提供するために必要な安全文化と診療ガイドライン等に基づいた医療提供体制の構築に向けた取り組みを引き続き行ってまいります。

HCU

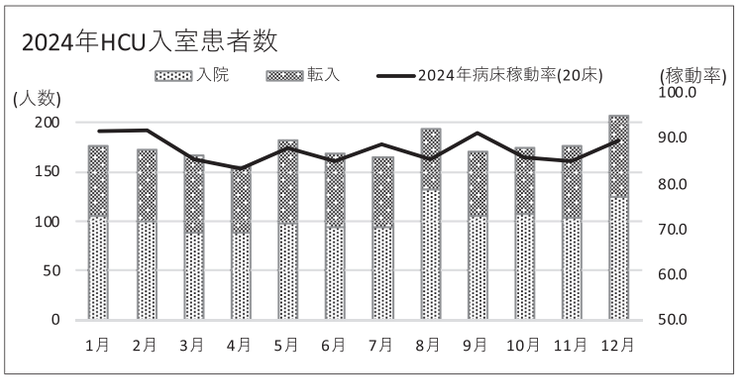
HCU（High Care Unit）は、ICUと一般病棟の間に位置する20床の高度治療室です。一般病棟では管理が困難な重症度の高い患者さま、病状の不安定な患者さまを対象とし、またICUから一般病棟への段階的な治療･看護の提供の場としての役割も担っています。主な診療科は、内科、脳神経外科、呼吸器内科、循環器、心臓血管外科、整形外科など多岐にわたり、ERからの緊急入院や手術後の看護といった高度急性期を担う部門です。

新たな取組みとしては、新規褥瘡発生率の低減に向けたマットレス選択の適正評価やスキンケアの標準化を図り、発生率の低減に繋げることができました。また、病状が変化しやすい患者さまへ安全できめ細やかな看護が提供できるよう、昼前カンファレンスを追加開催しチーム間での情報共有やケアの方向性の統一を行いました。

入室患者数は2,098名/年（緊急入院：1241名、転入：857名）で、救急応需件数の増加に伴い年々増加しています。高度治療室として適時適切に患者さまを受入れ、安全で安心な急性期医療を提供できるよう、認定看護師や特定行為看護師などスペシャリストの育成とスキルアップに取り組んでいます。

《2024年 HCU 入室・転入・平均患者数・看護必要度》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
入院	106	100	89	89	98	94	94	132	105	107	103	124	1241	103.42
転入	69	72	77	66	83	74	70	61	65	66	72	82	857	71.42
入院+転入	175	172	166	155	181	168	164	193	170	173	175	206	2,098	174.83
軽快退院	0	1	3	2	3	2	3	3	3	8	2	5	35	2.92
施設'(転医)退院	1	1	2	1	1	0	2	0	1	1	1	1	12	1.00
死亡退院	9	2	4	4	6	6	7	3	4	1	2	5	53	4.42
退院	10	4	9	7	10	8	12	6	8	10	5	11	100	8.33
転出	162	171	157	145	174	160	149	190	158	167	170	195	1,998	166.50
人工呼吸器(1日平均)	8.0	9.0	8.0	8.6	6.5	3.9	5.2	4.3	4.7	3.2	3.3			5.88
手術件数	90	81	82	92	109	102	89	112	96	80	92			93.18
2024年病床稼動率(20床)	91.4	91.7	85.2	83.3	87.7	84.8	88.7	85.3	91.0	85.6	85.0	89.3		87.42
2024病床利用率(20床)	89.8	91.0	85.3	82.5	86.1	83.5	86.8	84.4	89.7	84.1	84.0	87.5		86.22
平均在院日数	3.4	3.3	3.5	10.3	9.8	9.8	10.2	7.6						7.23
平均在院日数(BI)	557	528	528	3.4	3.1	3.2	3.5	2.8	3.4	3.2	3.1			148.97
延べ患者数	18.0	18.2	17.3	493	534	501	538	523	538	521.0	505	543		395.79
平均患者数	89.4	87.6	85.2	16.4	17.2	16.7	17.4	16.9	17.9	16.8	16.8	17.5		34.66
看護必要度	99.8	98.5	100.9	91.2	89.3	85.7	77.3	81.3						90.5
MIX稼動率(20床+16床)	99.8	98.5	100.9	100.8	100.0	100.1	100.3	100.2	99.6	101.3	99.6	101.8		100.2
2024年度20床運用率	58.1	65.5	29.0	13.3	38.7	23.3	41.9	25.8	56.7	22.6	26.6	38.7		36.68
2024残業時間(1人あたりの平均)	19.59	21.8	20.0	21.6	21.2	16.0	17.5	17.5	18.3		17.0			19.05
必要度①(15%以上)						45.2	38.9	40.1	36.9	34.1	36.8			38.7
必要度②(80%以上)						93.8	86.3	88.4	90.2	88.3	92.8			90.0



外来・ER

当院外来は『診療部門』、『検査･治療部門』、『予防医療部門』の３つの部門に分かれています。

『診療部門』

2024 年度は下記の２点に重点をおき、取り組みを行いました。

1)病院戦略である患者満足度の向上

外来患者の満足度の向上に取り組みました。患者満足度調査で看護師の患者さまへの配慮に対する満足度が低いため、待ち時間に対する配慮に焦点をおき、対策を検討し実践を行いました。今後も患者満足度が向上するように働きかけていきます。

2)外来転倒件数０件

転倒リスク評価を行い、転倒リスクのある患者さまには赤札の装着にご協力頂いています。赤札装着の介入が看護師だけでは不十分なため、医事課、検査科、放射線科の職員にも協力を頂き、介入件数は平均 300 件 / 月に増加しました。その後転倒は平均１件 / 月で減少はみられているので、今後も継続し評価を行っていきます。

・『検査・治療部門』

検査待ち時間の短縮とクレーム件数の減少を目的に、接遇強化、検査の予約枠の変更などを行いました。結果、待ち時間短縮には繋がりませんでしたが（平均 50 分～ 100 分）、クレーム件数の減少に繋がり、患者さまよりこの病院で検査を受けたいなどの声を聞くことができました。次年度は内視鏡技師免許取得者を中心に教育面・技術面にも力を入れ、患者さまに安全安楽に検査・治療を受けていただけるように努めます。

・『予防医療部門』は「保健指導」として別に記載

ER は、救急医療が逼迫している昨今で、中河内二次医療圏の救急医療確立は当院の使命であると思われます。救急ホットラインに加え脳卒中ホットライン、循環器ホットラインは確実にその依頼件数を伸ばしており、救急隊にも周知されるものとなりました。2024 年は 10,000 件を超える救急受け入れを行い月平均 900 件、一日平均 40 件近い救急受け入れを行いました。中河内地域以外にも大阪市、堺市などの救急受け入れ依頼があることも少なくありません。地域の救急医療に貢献することはもとより、隣接する地域の救急医療にも協力できるよう、医師を始め看護師、その他のメディカルスタッフで協働しています。ER が担当するのは救急受け入れだけではなく血管内治療（IVR）や緊急内視鏡的侵襲処置にも携わっ

4階東 164
5階西 164
5階東 165
6階西 165
6階東 166
7階西 166
7階東 167
8階西 167
8階東 168
ICU 168
HCU 169
外来･ER 170
手術室 171
透析室 171
入退支援 172
保健指導 172

ており、看護師は多岐にわたるスキルの獲得に日々邁進しています。

様々な疾病や新たな感染症など救急医療が担う役割は非常に重要で、地域住民の安心と安全を確保するために今後も努力を続けていく所存です。

手術室

手術室は現在8室稼働しています。2024年の手術件数は、6,565件（内緊急手術342件）で昨年とほぼ同件数でした。手術支援ロボットにおいては、ダヴィンチに加え、脊椎手術に特化した“Mazor X”という手術支援ロボットも導入し、現在“Saroa”の導入準備を進めています。患者さまへより低侵襲で安全な手術を提供できるよう、多職種で協働し体制を構築しています。

4月より、医師・薬剤師・手術室看護師が協働した「疼痛管理チーム」を発足、活動を開始しました。主治医や病棟看護師とも連携をとり、患者さま個々人に適した手術後の疼痛管理を行い、苦痛緩和・離床促進を図っていけるよう関わっています。また、現在週2日入院前支援外来を行っていますが、来年より“手術前支援外来”として独立し、外来枠を拡大していく予定です。超高齢社会の中、手術を受けられる患者さまの高齢化も進み、患者さまを取り巻く環境も変化しています。安全に安心して手術を受けていただけるよう、周術期（手術前～手術後）の看護提供に向け、職員教育ならびに体制整備に努めます。

透析室

透析センターは一般フロア39床と個室1床があり、外来通院患者さまと近隣透析施設より当院での治療を受ける患者さまを午前と午後の2クール体制で受け入れています。

2024年末の外来登録患者数は54名（昨年61名）、のべ転入患者総数は520名（昨年544名）、透析導入患者数は41名（昨年56名）と減少しました。腹膜透析患者数は7名（昨年6名）でした。

2024年は、昨年の台風を契機とした停電の経験を元に、9月台風接近に備えて透析日の変更を行ない、リスク回避につとめました。結果、様々な課題が明らかになりましたが、透析を安全に施行する当初の目的は達成できました。引き続き、災害発生時の透析センター運用について取り組みを強化していきます。

また、高齢で透析導入する患者さまが増え、ご家族を含めた患者さまとの関わりの時間を大切にし、様々な合併症を持つ患者さまを密に観察し、異常の早期発見につとめています。

さらに、シャント作成困難な、長期留置透析カテーテルの外来患者さまもおられ、カテーテル管理についての勉強会をし、挿入部のケア・管理などの透析ケアを実践しています。

新たな患者さまを受けいれるために、腹膜透析患者さまの導入も積極的にすすめていきます。

《透析患者数》　2024.1.1 ～ 2024.12.31

2024年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
外来患者数	62	61	61	60	57	55	59	53	53	52	53	54	680	57
登録患者数	91	104	99	95	94	92	90	92	87	79	84	94	1,100	92
新規登録患者数	7	8	10	2	11	5	4	5	2	4	3	4	65	5
転入合計	45	53	40	43	53	44	45	49	31	29	42	46	520	43
死亡合計	5	7	4	4	10	5	3	2	3	2	1	6	52	4

導入患者数　41　名　（うち当院通院患者　6名）
腹膜透析患者数　7　名

4階東 164
5階西 164
5階東 165
6階西 165
6階東 166
7階西 166
7階東 167
8階西 167
8階東 168
ICU 168
HCU 169
外来・ER 170
手術室 171
透析室 171
入退支援 172
保健指導 172

入退院支援

当院は急性期医療を提供することが使命であり、救急患者を受入れるには当然ながら空きベッドの確保が必要です。我々入退院支援看護師は、①患者さまが安全・安心な入院生活を送ることができ、②住み慣れた地域での生活へスムーズに戻れることを目的として、入院前もしくは入院早期から患者さまとそのご家族に関わっています。

事前に予約をとって入院する患者さまには、入院生活や治療に関する説明・オリエンテーションを行い、患者特性や治療に応じて、手術室看護師・薬剤師・管理栄養士・医療相談員などと連携をとっています。入院前に確認した患者さまの情報は、退院に向けた切れ目のない支援のため、入院予定の病棟や医療相談員と情報を共有し、入院前から退院支援を開始できる体制を構築しています。2024年の入院前支援件数は、前年より267件増加した856件でした。2025年1月20日には、外来エリアで入退院支援が効率的に実施できる入退院支援センターを開設しました。これにより入院前支援では予約制を廃止し、より早期に介入・支援できる体制になりました。

また、病棟や医療相談員との連携を強化すべく、入退院支援看護師の病棟担当制を開始しました。入院前支援業務と並行しながら、退院支援カンファレンスの参加や退院前カンファレンスの実施、当院訪問診療の調整や同行なども行っています。2024年の退院支援カンファレンスは前年度より1,977件増加した8,229件であり、退院困難な要因をもつ患者さまが増えました。2024年12月には月間退院数として過去最高の1,089件でした、それでもベッドは満床のため救急のお断りが発生しました。

次の課題は、①入院前に確認した情報を今より確実に病棟での看護や退院支援へ活かすシステム作り、②意思決定支援のさらなる推進、③他職種や地域関係者とのより強い連携推進です。

保健指導

現在6名の保健師で、健診センターにおける特定健診受診者さまへの結果説明および特定保健指導、外来における保健指導、禁煙指導、小児科予防接種指導、糖尿病ケアチームによる外来及び病棟における患者支援（診察サポート、患者さまのセルフケア支援、フットケア、透析予防指導、合併症検査パス、注射薬のローテーション指導など）を他職種と連携しながら行っています。2024年、外来では外来看護師・病棟看護師と協働し、心不全再入院予防教育の運用や評価基準の再検討を、糖尿病外来では当院1例目のインスリンポンプ療法導入支援を特定看護師・病棟看護師と協働しながら行うことができました。また、特定保健指導は第4期改定にあたり支援方法やシステムに見直しがありましたが、スムーズに運用することができました。また、電子カルテやExcelで行っていた外来準備、記録、事後処置、業務報告、請求作業などを可能な限りマクロ化し、エラーの削減と大幅な業務時間の効率化を実施することができました。今年度の保健指導件数は、3,913件／年で昨年に比べ1.16倍に増加しました。領域では糖尿病外来が最も多く2,356件（60.2%）、健診利用者への結果説明、特定保健指導が995件（25.4%）でした。

2025年は、特定保健指導において八尾市国保との新規契約、外来において心不全再入院予防教育が開始となります。安全に、質の高い支援を可能な限り、負担を増やすことなく提供できるよう、準備を進めてまいります。

《保健指導の領域件数》

領域		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
外来	内科外来	7	1	6	11	15	0	0	8	6	4	15	15	88
	小児科外来	10	15	14	9	8	9	11	13	7	13	10	10	129
	糖尿病外来	163	189	170	227	192	207	212	196	246	188	183	183	2,356
	その他	7	11	3	12	6	5	12	15	11	20	6	6	114
病棟	糖尿病ケアチーム	1	5	4	13	9	6	15	7	6	7	21	21	115
	ラウンド	5	5	12	4	4	1	4	0	1	1	1	1	39
	その他	0	0	0	1	0	1	3	2	0	0	0	0	7
健診	健診結果説明・保健指導	43	33	35	38	49	59	35	34	68	51	40	40	525
	特定保健指導	35	35	37	39	36	49	26	35	36	42	50	50	470
その他	電話・メール支援・相談	5	3	6	13	4	2	2	10	10	4	11	0	70
合計		276	297	287	367	323	339	320	320	391	330	337	326	3,913

2. メンバー構成

看護部副看護部長：髙橋章恵
5階西病棟看護主任：眞砂美貴
6階西病棟看護師長：乾恵美
7階西病棟看護主任：尾崎芽紅美
8階西病棟看護主任：秋田裕香里
ICU 看護師長：村中烈子
外来看護師長：宮本千代美
手術室副看護部長：柴山智賀子
入退院支援看護師長：竹内裕子
4階東病棟看護主任：毛頭悦子
5階東病棟看護師長：小見山理恵
6階東病棟看護主任：田中恵
7階東病棟看護師長：坂本景子
8階東病棟看護師長：井本ユミ
HCU 副看護部長：中島麻由美
ER 看護師長：山本真紀
透析室看護師長：栗田美貴
保健師主任：酒井菜穂子

3. 教育実績

実習受入れ一覧

学校名	科目	期間	学生数	実習場所
奈良学園大学	老年看護学(慢性期)	10月7日～10月25日	11名	4東、8東
	老年看護学（回復期）	10月28日～11月15日	5名	5東、6西
	小児看護学	12月9日～12月12日	4名	5西
	老年看護学（急性期）	1月6日～1月24日	7名	4東、5東、7東
	老年看護学	1月27日～1月31日	6名	7西、8東
	小児看護学	1月6日～1月9日	3名	5西
	小児看護学	2月3日～2月6日	4名	5西
	老年看護学（急性期）	2月3日～2月21日	9名	4東、5東、7東
	老年看護学（終末期）	2月25日～3月1日	4名	7東、8東

学校名	科目	期間	学生数	実習場所
小阪病院看護専門学校	成人・老年看護学	5月9日～5月21日	5名	6西、8東
	成人・老年看護学	5月30日～6月11日	6名	4東、7東
	小児看護学	6月3日～6月5日	2名	5西
	小児看護学	6月10日～6月12日	2名	5西
	成人・老年看護学	6月20日～7月2日	6名	7西、8東
	小児看護学	9月24日～9月26日	2名	5西
	成人･老年看護学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	9月26日～10月8日	6名	5東、7東
	小児看護学	9月30日～10月2日	3名	5西
	小児看護学	10月15日～10月17日	3名	5西
	成人・老年看護学	10月17日～10月29日	6名	6東、7西
	小児看護学	10月21日～10月23日	2名	5西
	統合	11月18日～11月29日	10名	4東、5東、7東、8西
アナン学園高等学校	成人看護学（急性期）	6月24日～7月3日	3名	7東
	小児看護学	7月29日～8月1日	2名	5西
	基礎看護学Ⅲ	9月2日～9月13日	3名	8西
	統合	9月24日～10月3日	6名	4東、7西
	老年看護学	11月25日～12月4日	4名	5西、6西
	基礎看護学Ⅰ	1月9日～1月10日	6名	6西、8西
錦秀会看護専門学校	小児看護学	5月7日～5月10日	3名	5西
	小児看護学	5月13日～5月17日	2名	5西
	小児看護学	5月20日～5月24日	3名	5西
	小児看護学	5月27日～5月31日	2名	5西
	小児看護学	6月17日～6月21日	3名	5西
	小児看護学	6月24日～6月28日	3名	5西
	小児看護学	7月1日～7月5日	3名	5西
	小児看護学	7月8日～7月12日	2名	5西
	小児看護学	7月16日～7月19日	3名	5西
	小児看護学	7月22日～7月26日	3名	5西
東亜看護専門学校	老年看護学	7月10日～7月11日	2名	6東
	老年看護学	7月17日～7月18日	2名	6東
	成人看護学	8月14日～8月15日	3名	4東
	成人看護学	8月21日～8月22日	2名	4東
	基礎看護学	8月21日～8月22日	3名	6西
	統合	9月25日～9月26日	3名	6西
	統合	10月16日～10月17日	2名	6西

4階東 164
5階西 164
5階東 165
6階西 165
6階東 166
7階西 166
7階東 167
8階西 167
8階東 168
ICU 168
HCU 169
外来･ER 170
手術室 171
透析室 171
入退支援 172
保健指導 172

院内研修

《レベルⅠ》

研修日	研修名
4月	看護技術Ⅰ　酸素療法・吸引・吸入
5月	看護記録　電子カルテ操作編
	看護技術Ⅰ　採血・末梢静脈路確保・輸液ポンプ
	メンタルヘルスケア研修
6月	①食事介助②看護記録（正しい記録の書き方）
	看護技術Ⅲ（膀胱留置カテーテル）
7月	医療安全研修Ⅰ（KYT・インシデントレポートの書き方）
	DVT予防について
8月	物品管理とコスト意識
	RCA研修Ⅰ
9月	感染管理（振り返り）
	卒後6ヵ月リフレクション
10月	RCA研修Ⅱ（フィッシュボーン）
	BLSスキルテスト・個人目標管理
	多重課題リフレクション
11月	看護技術Ⅴ（クリティカルシンキング）
	①終末期のケア②看護技術Ⅵ
	RCA研修Ⅲ（なぜなぜ分析）
12月	RCA研修Ⅳ（まとめ）
	看護を語るナラティブ
1月	医療安全研修Ⅱ（事例発表）
	自身のキャリアデザインを考える
2月	倫理研修
	「振り返りレポート発表会」
3月	卒後1年の振り返り

《レベルⅡ》

研修日	研修名
6月	二次救命処置研修（急変時対応）
1月	チューター研修（チューターになる準備）①
	チューター研修（チューターになる準備）②

《レベルⅡ・Ⅲ》

研修日	研修名
7月	急変キャッチトレーニング
	急変キャッチトレーニング研修Ⅱ
10月	個人目標管理
12月	入退院支援研修（退院調整・退院支援カンファレンス）

《レベルⅡ以上》

研修日	研修名
7月	ホスピタリティー研修②
	DVT予防について
	ホスピタリティー研修③
8月	メンバーシップ研修①
	メンバーシップ研修②
10月	ホスピタリティー研修④
	ホスピタリティー研修⑤
11月	メンバーシップ研修③
	メンバーシップ研修④

《レベルⅢ》

研修日	研修名
6月	医療安全(RCA)研修
9月	リーダーシップ研修初級編②
11月	リーダーシップ研修初級編③
12月	医療安全(RCA)研修

《レベルⅢ・Ⅳ》

研修日	研修名
9月	リーダーシップ研修中級編①
	リーダーシップ研修中級編②
11月	リーダーシップ研修中級編③

《レベルⅣ・Ⅴ》

研修日	研修名
7月	急変キャッチトレーニング
8月	急変キャッチトレーニングⅡ

《レベルⅣ・Ⅴ・管理者》

研修日	研修名
6月	入退院支援（退院支援･退院支援カンファレンス）
	医療安全（医療事故発生時の対応）

《レベルⅣ以上》

研修日	研修名
7月	感染管理Ⅰ−①（アウトブレイクのラインリスト）

《トピックス》

研修日	研修名
6月	ロジカルシンキングⅠ
	せん妄教育②
8月	ロジカルシンキングⅡ
10月	ロジカルシンキングⅢ
11月	疾患の基礎（誤嚥性肺炎）
	疾患の基礎（喘息）
	疾患の基礎（尿路感染）
	認知症高齢者看護
12月	ロジカルシンキングⅣ
2月	ロジカルシンキングⅤ

《スキルアップ》

研修日	研修名
5月	皮膚･排泄ケア
	BLS指導者養成研修①
	BLS指導者養成研修②
6月	小児BLS指導者養成研修①
	小児BLS指導者養成研修②
7月	呼吸のフィジカルアセスメント
8月	皮膚･排泄ケア（褥瘡）Ⅱ
9月	身体診察･問診
	皮膚･排泄ケア（褥瘡）Ⅲ
	二次救命処置研修（更新）
	レベルⅣ以上　感染管理Ⅱ−①
10月	皮膚･排泄ケア（褥瘡ステップアップⅠ
	臨床推論「概論」
11月	レベルⅣ以上　感染管理Ⅱ−②
	皮膚･排泄ケア（褥瘡ステップアップⅡ
	二次救命処置研修（更新）
12月	皮膚･排泄ケア（褥瘡ステップアップⅢ
	レベルⅣ以上　感染管理Ⅱ−②

《看護補助者》

研修日	研修名
5月	看護補助者研修ラダーレベルⅠ
	看護補助者研修ラダーレベルⅡ
6月	看護補助者研修ラダーレベルⅢ

4階東　164
5階西　164
5階東　165
6階西　165
6階東　166
7階西　166
7階東　167
8階西　167
8階東　168
ICU　168
HCU　169
外来･ER　170
手術室　171
透析室　171
入退支援　172
保健指導　172

院外研修

《看護協会　短期研修》

研修日	研修コース名
6月	スタッフの自律と成長を促す対話 ～1on1の活用～
	共に育つための教育の基本的知識
	病院・施設から地域医療へつなぐ 入退院支援・退院調整の基礎知識
	正しくスッキリ伝える文章術 ～小論文のプロによる速攻ビフォーアフター～ 【完全オンライン：ライブ配信型】
	診て聴いて触って実践に活かすフィジカルアセスメント 【講義編】【完全オンライン：ライブ配信型】
	【診療報酬に関連した研修】 看護補助者の活用推進のための看護管理者研修①
7月	感染管理の基礎知識
	災害看護における初期医療支援活動①
	摂食・嚥下障害のある患者の看護 ★【完全オンライン：ライブ配信型】
	診て聴いて触って実践に活かすフィジカルアセスメント 【演習編①-1】
	【診療報酬に関連した研修】ストーマ・瘻孔のスキンケア
	臨地実習指導者①②
	【診療報酬に関連した研修】 eラーニング活用型医療安全管理者養成研修 【集合研修12/12（木）】
	【セカンドレベル公開講座】 人事労務管理・ストレス・マネジメント
8月	より良い意思決定に向けたナッジの活用 ～看護現場における課題解決の一方法～【完全オンライン】
	がん放射線治療の最前線【完全オンライン：ライブ配信型】
	悩んだらやってみよう！心をしなやかにして働く方法
	実践に活かす輸液管理の基礎知識 ～安全に実施するために看護師が知っておくべきこと～
	コーチング・コミュニケーション①
	明日から人材育成に活用できる!! 6ステップモデルを用いた「経験学習支援」のコツ
	認知症高齢者の看護実践に必要な知識①
9月	がん薬物療法を受ける患者の支援 【完全オンライン：ライブ配信型】
	災害看護における初期医療支援活動②
	認知症患者のケア ～認知症患者が安心して医療を受けられるケアを考える～ 【完全オンライン：ライブ配信型】
	看護に活かす臨床推論
	自分らしく看護師として働き続けるためのエッセンス
	共に育つための教育の基本的知識～教育方法～
	多職種協働とコンフリクトマネジメント ～組織内のアサーティブなコミュニケーションに向けて～①
10月	一般病棟において、予兆をとらえて急変を防ぐ観察と 看護のポイント【完全オンライン：ライブ配信型】
	ACPに基づいた穏やかでその人らしい最期を見守る 看取りのケア
	危険予知トレーニング
	頑張る看護職のストレス対処法 ～アンガーマネジメントでストレス軽減～
10月	新人看護職員研修責任者研修
	看護チームにおけるリーダーシップ①
11月	30代から考える看護職としての人生設計 ～人生100年時代の仕事、健康、資産について～ 【完全オンライン：ライブ配信型】
	みんなで考える看護倫理：アドバンス
	ファシリテーションの基本を学ぼう
	救急・集中治療領域におけるクリティカルケア 【完全オンライン：ライブ配信型】
	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修②
	看護管理者のリフレクション
	「学習する組織」の観点から学ぼう ～潜在能力の引き出し方～【完全オンライン：ライブ配信型】
	認知症高齢者の看護実践に必要な知識②
	入退院支援強化研修①
12月	がん患者の症状緩和を図る看護 【完全オンライン：ライブ配信型】
	診て聴いて触って実践に活かすフィジカルアセスメント 【講義編②】【完全オンライン：ライブ配信型】
	現場で知っておきたい外国人対応 【完全オンライン：ライブ配信型】
	慢性心不全患者の療養支援
	人工呼吸器ケアと呼吸アセスメントスキル ～基礎から学び苦手を克服～ 【完全オンライン：ライブ配信型】
	一般病棟における精神疾患をもつ患者のとらえ方と接し方 ～精神的苦痛に寄り添う看護～
	外来における在宅療養支援能力向上のための研修
	実地指導者研修
	コーチング・コミュニケーション②
	災害・感染拡大時に備える看護管理者が知っておきたい 自然災害への備えと新興感染症対策
1月	診て聴いて触って実践に活かすフィジカルアセスメント 【演習編②－①】
	看護記録のあり方を学ぶ 【完全オンライン：ライブ配信型】
	今日から実践できる褥瘡ケア 【完全オンライン：ライブ配信型】
	新人看護職員教育担当者研修
	指導者必見のOJT手法 ～思考発話でやってみせる指導方法～ 【完全オンライン：ライブ配信型】
	概念化スキル（コンセプチュアルスキル）で問題解決・人材育成
	災害・感染拡大時に備える ～看護職として知っておきたい最新のBLS～ ①（大阪府受託研修）

《看護協会　長期研修》

研修日	研修コース名
10月	2024年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル
	大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会

《徳洲会グループ》

研修月	開催主催	研修コース名
5月	徳洲会看護部	トピックス管理者研修「レポートの書き方研修」
6月	徳洲会看護部	新人看護師教育担当者研修（新人看護師育成コース研修）
	徳洲会看護部	2024 年度　トピックス管理者研修「副看護部長研修」
7月	徳洲会看護部	2024 年度看護補助者教育研修（西日本）
	徳洲会看護部	大阪ブロック　副主任研修
8月	徳洲会看護部	関西 大阪ブロック　看護主任研修
9月	徳洲会看護部	関西 大阪ブロック　新任看護師長研修
	徳洲会看護部	第 11 回医療メディエーター（医療対話推進者）養成研修
	徳洲会看護部	管理者研修　看護提供方式についてａ
11月	徳洲会看護部	2024 年度　徳洲会看護部門管理者研修「副看護部長研修」面接
	徳洲会看護部	看護師メディカルラリー研修
12月	徳洲会看護部	トピックス研修　職場環境を元気にするコミュニケーション

《その他》

研修月	開催主催	研修コース名
5月	愛知県立大学看護実践セミナー	看護研究の基礎①
6月	日本臨床看護マネジメント学会	24「重症度、医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修
	愛知県立大学看護実践セミナー	看護研究の基礎講座②量的研究入門
	愛知県立大学看護実践セミナー	看護研究の基礎講座③質的研究入門
7月	大阪連携たこやきの会	効果的な退院カンファレンス～相互理解と教育的アプローチ～
11月	大阪連携たこやきの会	進められる医療 DX に地域連携の現場はどう対応すればいいのか
	大王製紙株式会社	アテントマイスター・プロ研修

研究発表業績

院外発表

年月日	学会名	病棟名	発表者名	テーマ
2024/5/17～2024/5/19	第67回日本糖尿病学会	ICU	髙橋博之	離島の糖尿病診療における診療看護師（NP）介入の試み
2024/6/22～2024/6/23	第20回日本クリティカルケア看護学会学術集会	ICU	藤原麻友美	急性期病院における気道トラブルリスク評価の導入
2024/9/15	第101回大阪透析研究会	ICU	髙橋博之	急激な腹水貯留を合併した末期腎不全症例にラスト PD を導入した一例
2024/10/26	日本心血管インターベンション治療学会	ER	松尾智子	チーム医療における Rotablator 中の看護師の役割 ～医師・看護師間の共通認識を図る～
2024/11/22～2024/11/24	第10回日本NP学会学術集会	ICU	髙橋博之	Honda jet での離島応援に関する活動報告

4階東　164
5階西　164
5階東　165
6階西　165
6階東　166
7階西　166
7階東　167
8階西　167
8階東　168
ICU　168
HCU　169
外来･ER　170
手術室　171
透析室　171
入退支援　172
保健指導　172

委　員　会

―― 2024年 ――

49）呼吸ケアチーム（RST）　182
50）褥瘡対策委員会　183
51）研修管理委員会　184
52）栄養サポートチーム（NST）　188
53）緩和ケアチーム　190
54）がん緩和支援委員会　192
55）地域医療支援病院運営委員会　194

49）呼吸ケアチーム（RST）

リハビリテーション科　片田　理恵

呼吸ケア　182
褥瘡対策　183
研修管理　184
栄養サポ　188
緩和ケア　190
がん暖和　192
地域医療　194

1. 概要

救急搬送患者の増加に伴い、重症患者も増え人工呼吸器装着中から介入する患者さまも増加しています。患者さまの重症化に伴い、ADL の改善に難渋するケースも多いですが病棟と連携し廃用症候群の予防、早期退院への取り組みも行っています。

新型コロナウィルス感染症の患者さまへの介入も変わらず続いています。重症化する患者さまが減少しており、早期に入院前の生活に戻れる患者さまも増加しています。

2. メンバー構成

医　　師：　原田博雅、石原英樹、緒方嘉隆　濱口眞成、山田知樹、石井真理子
看　護　師：　村中烈子
理学療法士：　片田理恵、麻野智幹、明見あすか、船津和幸

3. 実績

呼吸リハチーム対象

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
患者数	336	439	509	480	402	368	475	546	455	510	423	468	54.1	450.9
単位数	404	523	577	583	516	442	550	690	574	619	528	602	6,608	550.7

4. 今後の目標

・呼吸リハスタッフの増員
・ICU・HCU での早期離床、365 日介入の充実

50）褥瘡対策委員会

形成外科部長　綾部　忍

1. 概要

当院は、2002 年より褥瘡対策委員会を発足しています。医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士・資材課・医事課で構成され、毎週 1 回の回診を行い、それぞれの専門的な知識や技術を出し合って効果的・効率的な褥瘡予防・治療を目指しています。

さらにきめ細かいケアを行うため、看護部各部署にリンクナースを配備しています。

2. メンバー構成

医　　師	綾部　忍、森川　周至、川田　恭平、塚原　麻理奈、畑　夏生
看　護　師	柴山　智賀子、坂田　レミ、河畑　美香、生田　豊子
管理栄養士	齋藤　朝美、藤田　春菜、佐々木　真悠
薬　剤　師	森田　幸男、岩政　かおり
理学療法士	明見　匡人
資　材　課	柏山　文成
医　事　課	永野　柚里

3. 実績

2024 年 1 月～ 2024 年 12 月の実績

褥瘡発生率（実質）　平均 1.48%（発生件数 239 件）

褥瘡有病率平均　1.09%（有病件数 415 件）

4. 今後の目標

褥瘡予防に努めるとともに、褥瘡治療に対して保存的治療・手術治療を行い早期発見・早期治癒促進に努めています。年々高齢化に伴い、持ち込み褥瘡件数が増加傾向にあります。また褥瘡を有した状態で地域に戻られるケースも多く、退院後の環境を踏まえた褥瘡治療を他職種カンファレンス・回診ラウンドにより提供しています。今後の課題として、褥瘡ハイリスク患者に対して重症褥瘡を発生させることなくチーム介入を行い、褥瘡発生率の低減を目指していきます。

51）研修管理委員会

呼吸ケア　182
褥瘡対策　183
研修管理　184
栄養サポ　188
緩和ケア　190
がん暖和　192
地域医療　194

研修管理委員長　原田　博雅（院長）
プログラム責任者　髙原　良典（総合診療部長）

1. 概要

当院は、厚生労働省指定の基幹型臨床研修病院及び協力型臨床研修病院として初期臨床研修医の育成を行っています。プライマリ・ケアと救急医療を中心に、数多くの症例を経験することで総合的な臨床能力をもった医師の育成を目指しています。また、高度集中治療から在宅医療まで幅広く経験できる研修を売りにし、ここ数年は定員数のフルマッチを継続ならびに維持しております。気軽に意見を交わせる場として毎月研修医会議を開催し、指導医・研修医双方が研修環境の改善に取り組めるような雰囲気作りを心がけています。

研修医の基礎的な臨床スキルの向上や、プレゼンテーションの英語表現能力の向上を目指し、イギリス人医師 Dr. ジョエル・ブランチによるケースカンファレンス・レクチャーを週２回開催、さらに、外部や海外からも講師を招聘し、千葉西総合病院 内科部長 八重樫牧人先生のレクチャーを２月、６月、９月の３回、また５年振りに、米国より感染症専門医 Dr.Lo を招聘しました。

今年度は臨床研修説明会の各実地開催も制限なく再開し、徳洲会グループ主催も含め多くの説明会に参加し、来年度も継続致します。

現在、大阪公立大学医学部附属病院のたすきがけプログラム協力型施設としても初期臨床研修医を受け入れ指導にあたっていますが、2023 年度から村上総合病院、佐渡総合病院の２施設と連携して初期臨床研修医の育成にあたる体制を整え、２年連続各病院１名ずつのたすきがけ研修医を迎えることが出来ました。

専門研修プログラムに関しては、現在基幹施設として内科、外科、総合診療科、整形外科（Ⅱ型）、救急科の認定を受けています。

脳神経外科、形成外科、麻酔科、泌尿器科、放射線科、病理診断科領域については、引き続き大学病院や徳洲会グループの各施設と連携を取りつつ当院の特色を生かし、初期研修から専門研修へとシームレスな移行が出来るよう企画・運営を行っていきます。

2. メンバー構成

研修管理委員長：原田　博雅（院長）
プログラム責任者：髙原　良典（総合診療部長）
事務責任者：井上　雅章（事務部長）
外部委員：３名（菊池内科 院長　菊池 博氏、医療法人幸晴会 中谷クリニック 院長 飯地 理氏
八尾市消防本部消防署 救急課長 芋縄 秀央氏）
その他委員：54 名（内訳　院内医師 10 名、看護部・コメディカル９名、協力施設医師 35 名）

3. 実績

1）研修医数

《 初期臨床研修 》

1年次：8名（大阪公立大学医学部附属病院、佐渡総合病院（新潟県）たすきがけ3名含む）
2年次：4名

《専攻医》

内科：1名　　外科：2名　　整形外科：2名　救急科：1名

（以下、他 連携施設として受入れ）

大阪公立大学形成外科専門研修プログラム（2名）、大阪医科薬科大学眼科専門研修プログラム（1名）、大阪公立大学脳神経外科専門研修プログラム（2名）

2）学会発表・勉強会・カンファレンス等

《学会発表》

年次	学会	発表の場	開催日	演題
2年次	日本内科学会	第244回近畿地方会	2024年 6月29日	トリコスポロン陽性にて診断した 震災関連過敏性肺臓炎疑いの一例
1年次	日本内科学会	第245回近畿地方会	2024年 8月31日	約3週間の経過の抗酸菌塗抹検査が 陽転化したびまん性すりガラス陰影の1例
1年次	日本内科学会	第245回近畿地方会	2024年 8月31日	食道癌との鑑別に難渋した食道結核と 脳結核腫を伴う粟粒結核の一例
1年次	内視鏡外科	第37回日本内視鏡 外科学会総会	2024年 12月5-7日	Sjogre n 症候群に肺多発結節性 アミロイドーシスを合併した一例
1年次	内視鏡外科	第37回日本内視鏡 外科学会総会	2024年 12月5-7日	進行膵体部癌に対し後腹膜先行 アプローチ(Retlap)による 腹腔鏡下膵体尾部切除術を施行した一例
1年次	日本内科学会	第246回近畿地方会	2024年 12月14日	B群溶連菌による髄膜炎と 腰椎周囲膿瘍が併発した一例
1年次	日本内科学会	第246回近畿地方会	2024年 12月14日	肥満低換気症候群にTAPSが 有効であった一例
2年次	心臓血管外科	第55回日本心臓血管 外科学会総会	2025年 2月20-22日	心不全および下肢血流低下を来した 大動脈縮窄症に対するTEVARの使用経験
2年次	外科	第208回近畿外科学会	2025年 3月1日	腸腰筋膿瘍を伴う盲腸癌に対して 腹腔鏡下回盲部切除を施行した一例
2年次	外科	第208回近畿外科学会	2025年 3月1日	未診断の胸壁浸潤肺癌の1手術症例
1年次	外科	第208回近畿外科学会	2025年 3月1日	肝悪性腫瘍との鑑別に難渋した Expanding hematoma in liver cystの一例
1年次	日本内科学会	第247回近畿地方会	2025年 3月8日	重傷ベラパミル中毒の一例
2年次	血管外科学会	第38回日本血管外科 学会近畿地方会	2025年 3月15日	腹部大動脈瘤破裂後腹部コンパートメント 症候群に開腹陰圧閉鎖療法を施行し 救命し得た一例
1年次	救急科	第61回日本腹部救急 医学会総会	2025年 3月20-21日	内視鏡的整復を行った胃軸捻転症の1例

呼吸ケア 182
褥瘡対策 183
研修管理 184
栄養サポ 188
緩和ケア 190
がん暖和 192
地域医療 194

《 医局発表 》 Grand Round

毎週金曜日 AM8:10 から学会形式の医局発表を行っています。

初期研修医の発表練習の場として開催しています。 （※は初期研修医による発表）

発 表 内 容	開 催 日
VV-ECMOを使用した間質性肺炎の一例（※）	1 月 5 日
湿布について	1 月12日
動物咬傷と破傷風予防（※）	1 月19日
進化する糖尿病治療薬	4 月 5 日
1年次研修医紹介	4 月12日
DiGeroge症候群、心奇形にIEを発症し複雑な心臓外科手術を要した一例（※）	4 月19日
国境なき医師団での活動報告	4 月26日
帯状疱疹と診断され意識障害を主訴に来院した一例（※）	5 月10日
意識障害の原因を追及せずに 週末入院した高齢男性（※）	5 月17日
左肺下葉切除時に偶然発見した完全心膜欠損の一例	5 月24日
緊急血栓回収術を行った院内発症脳梗塞の一例（※）	6 月 7 日
心不全の初期対応（研修医向け）	6 月14日
急激な腹水貯留を合併した末期腎不全症例にラストPDを導入した一例	6 月21日
救急災害医療について	6 月28日
救急搬送中にCPAとなった症例の検討（※）	7 月 5 日
膵癌予後予測を目指した根クチンファミリー遺伝子パネルの開発（※）	7 月12日
尿閉により高アンモニア血症と意識障害を呈した一例（※）	7 月19日
前医にて上気道炎治療中に偶発的に指摘された高Ca血症の一例（※）	8 月 2 日
LECS	8 月 9 日
シエラレオネでの活動報告	8 月16日
多発関節炎を契機に発症した奇異性脳梗塞の一例（※）	8 月23日
B群溶連菌による細菌性髄膜炎と腰椎周囲膿瘍が併発した一例（※）	8 月30日
低血糖発作にて入院中に気腫性膀胱炎を発症した一例（※）	9 月 6 日
宇治徳洲会病院で経験した川崎病の一例（※）	9 月13日
A群β溶血性連鎖球菌による壊死性筋膜炎に対する試験穿刺の有用性と当院での実際の穿刺方法	9 月20日
脳梗塞後に意識清明であったが肺水腫となり再搬送された一例（※）	10月 4 日
入院中に再膨張性肺水腫をきたした一例（※）	10月11日
ベラパミル中毒の一例（※）	10月18日
放射線治療再開について	10月25日
登山から帰宅直後に突然の発熱と意識障害を来した一例（※）	11月 8 日
歩行困難で入院後に亜急性のⅡ型呼吸不全を呈した一例（※）	11月15日
原因不明のショックを来した一例（※）	11月22日
マダニ咬傷の一例とその初期診療についての考察（※）	12月 6 日

《臨床病理検討会》

（※は初期研修医による発表）

演　題	開 催 日
急速に高ビリルビン血症をきたし死に至った一例（※）	1 月26日
腸炎が死因と考えられた大細胞性肺癌の一例（※）	2 月16日
感染巣不明の菌血症の加療中に突然心肺停止に至った一例（※）	3 月22日
MSSA菌血症に多発膿瘍を合併した一例（※）	4 月26日
原発巣不明ALK陽性肺癌に対する化学療法中に呼吸不全急性憎悪をきたし死亡した症例（※）	5 月24日
尿路感染症に対する治療中に急性呼吸不全を起こし死亡した一例（※）	6 月28日
メトトレキサート過量服用患者に起こった原因不明の意識障害の一例（※）	7 月26日
多発転移のあるKRAS陽性肺癌患者が呼吸不全をきたし死亡した一例（※）	9 月27日
頸椎転移を伴う原発性肺癌患者が呼吸不全に陥った一例（※）	11月22日
胸膜中皮腫に伴う癌性胸水貯留により呼吸不全となり死亡した一例（※）	12月27日

3）各種講習会への参加支援

ICLS、ACLS、BLS、緩和ケア研修会をはじめ、JATEC、PALS や NST 研修会など、各種講習会への参加を奨励し費用の負担などを行っています。

4）研修医の主な卒業大学

大阪公立大学、奈良県立医科大学、京都府立医科大学、高知大学、愛媛大学、徳島大学、鳥取大学、関西医科大学、東海大学、広島大学、久留米大学、弘前大学、福井大学、大阪大学、香川大学、島根大学、兵庫医科大学、琉球大学、金沢大学、金沢医科大学、大阪医科大学、近畿大学など、研修医の出身大学も多岐にわたっています。学閥にとらわれない開かれた医局が特徴です。

4. 今後の目標

・初期臨床研修医の募集定員増員に向けてとり組む、および専攻医採用に力を注ぐ。
・研修医のスキルアップを図るため、院内勉強会を再考・計画的に実施する。
・研修医のインシデント・アクシデント報告意識を高め、医療安全体制を確立する。
・働き方改革において、引き続き臨床研修医労働時間短縮計画の取り組みを行う。
・専門研修プログラムの連携強化を目指し、連携先の充実を図る。
・研修医年 1 回の学会発表を継続を必須として実践する。

52）栄養サポートチーム（NST）

NST 委員長　木村　拓也

呼吸ケア　182
褥瘡対策　183
研修管理　184
栄養サポ　188
緩和ケア　190
がん暖和　192
地域医療　194

1. 概要

栄養サポートチーム（以下、NST）は特別な栄養管理を必要とする入院患者さまを対象に、通常の食事だけでなく静脈栄養、経腸栄養を含む全ての栄養療法における適切な栄養管理・評価・提案を行い、一日でも早く良好な栄養状態に改善できるように活動しています。

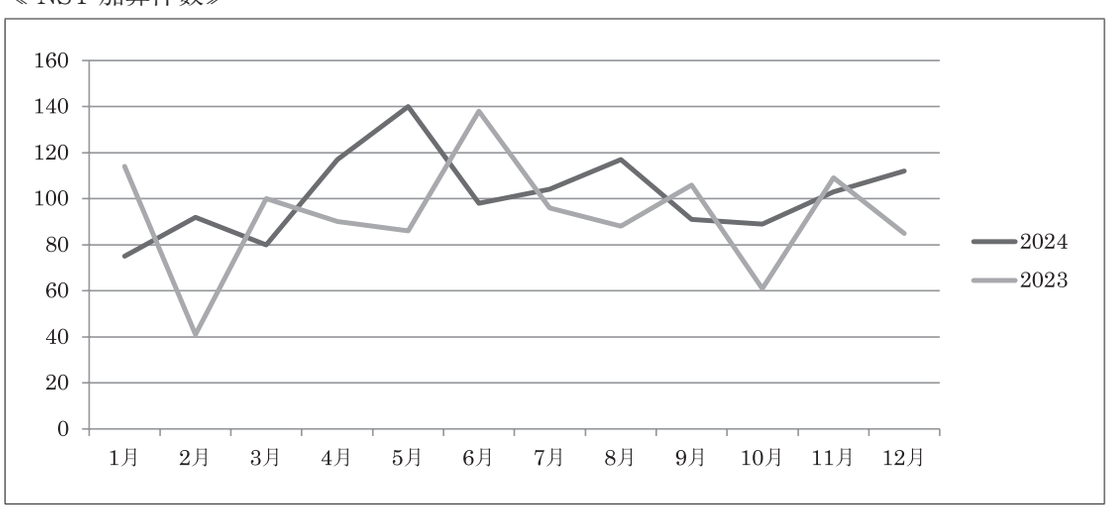
また、NST 教育認定施設として研修生受け入れを実施しており、2024 年度は 14 名の研修生を受け入れました。

2. メンバー構成

医師　　3名　　臨床検査技師　4名
看護師　15名（リンクナース含む）　　管理栄養士　　3名
薬剤師　　7名

3. 実績

≪ NST 加算件数≫



	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
2023	114	41	100	90	86	138	96	88	106	61	109	85	1,114	92.8
2024	75	92	80	117	140	98	104	117	91	89	103	112	1,218	101.5

昨年と比較し、NST 加算総件数は +104 件、月平均 +8.7 件と増加しています。

4. 今後の目標

・教育、研修

近年実施出来なかった勉強会を開催し、栄養療法に関する知識を習得できるようにします。

2025 年度も研修生の受け入れを積極的におこないます（16 名受け入れ予定）。

・研究、発表

定期的な症例検討会の実施、日本臨床栄養代謝学会や日本病態栄養学会など地方・全国学術集会へ参加し、培った知識や技術を患者さまに還元できるよう日々研鑽に努めます。

53）緩和ケアチーム

緩和ケア認定看護師　今西　真奈美

呼吸ケア　182
褥瘡対策　183
研修管理　184
栄養サポ　188
緩和ケア　190
がん暖和　192
地域医療　194

1. 概要

大阪府がん診療拠点病院には、緩和ケアチームの設置が義務づけられています。

当院の緩和ケアチームは、医師（外科・内科・麻酔科・精神科・心療内科）、看護師、薬剤師、作業療法士、公認心理師、管理栄養士、医療相談員で構成され、それぞれの職種が持つ専門知識を最大限に活用し、多角的・継続的にアプローチすることで、患者さまの苦痛の緩和を目指しています。

定期的なチーム回診では、患者さまの病気とQOLを切り離すことなく、身体面・精神面・社会面・スピリチュアルな側面から総合的に評価し、チーム介入時に確認した“患者さまとそのご家族の希望”を叶えられるよう調整を実施しています。

緩和ケアチームの役割として核となっているのは苦痛の除去ですが、並行して患者さまとそのご家族に残された時間が満足感や達成感で満たされるように、ケアの提案やサポートも実施しています。

しかし、残念ながら患者さまとそのご家族・医療従事者においても、“緩和ケア＝終末期のケア”という認識を持っている方が多いのが現実です。緩和ケアは、終末期になってからの開始ではなく、診断されたときから開始することが推奨されています。早期からの緩和ケア介入がQOLの維持・向上に繋がるということを、チーム活動を通して伝え周囲の意識改革を図っています。患者さまとそのご家族に寄り添い、ケアを継続することでつらい気持ちや苦しい時間を少しでも軽減できるように活動しています。

2. メンバー構成

医　　師：垣本　佳士（外科）、池下　和敏（麻酔科）、髙原　良典（総合内科）、
　　仲村　光世（麻酔科）、木村　拓也（肝臓外科）、森本　大樹（外科）
　　片上　徹也（精神科）、杉本　貴美子（心療内科）
看　護　師：藤井　正作、今西　真奈美（緩和ケア認定看護師）
薬　剤　師：青山　瑛里子、山田　直輝（緩和薬物療法薬剤師）、井上　悠
作業療法士：梅崎　大貴
公認心理師：朴　祐希、宮坂　なつ花、田原　一樹
管理栄養士：小山　洋史、佐藤　友亮
医療相談員：三谷　勇一

3. 実績

《緩和ケアチーム介入件数》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数	月平均
新規依頼件数	1	2	1	4	7	7	5	3	0	2	4	4	40	3.33
介入人数	2	3	1	5	8	10	7	3	1	2	5	6	53	4.42
介入件数	3	3	1	7	15	13	10	9	2	7	11	27	108	9

《がん種別件数》

肺	胃	大腸	膵	肝	胆管（胆嚢含）	乳	前立腺	その他	非がん
14	6	4	1	2	5	2	1	4	1

《院内緩和ケア研修会》

開催日	講演 1	講演 2	参加者
3 月 7 日	症例を通して がん疼痛治療の基本を学びましょう	症例に対応する社会資源の紹介	56 名
11 月 7 日	オピオイド製剤の基本的な知識	緩和ケアチームの活動と今後について	28 名

4. 今後の目標

・急性期病院としての役割を担いながら、がんの診断期から治療期、終末期に至るまでのすべての病期に渡って、継続的に患者さまの支援を行います。

・近隣の病院や診療所と十分に連携を図り、患者さまの病期・病状・体調にふさわしい環境を提案できるように努力と工夫を継続します。

・ACP（アドバンス･ケア･プランニング）を推進し､患者さまとそのご家族の気持ちを尊重し、寄り添うことを大切にしながら、患者さまを中心に人生の最終段階を過ごすための体制を整えることを支援していきます。

54）がん緩和支援委員会

緩和ケア特定認定看護師　今西　真奈美

呼吸ケア　182
褥瘡対策　183
研修管理　184
栄養サポ　188
緩和ケア　190
がん暖和　192
地域医療　194

1. 概要

当委員会は、がん診療において疾患別に推奨される治療方法や生活・世代別の特徴などを知り、情報提供することで患者さまにとって最善と考えられる質の高い医療を提供すること、大阪府がん拠点病院としての役割を果たすことを目的に活動しています。

患者さまのQOLの維持･向上や､がんと診断されたときから出現する身体的･精神的･社会的･スピリチュアルな苦痛に対して、積極的・継続的かつ総合的な緩和ケアを提供するために、安定した体制確保の実現を目指しています。

2. メンバー構成

委 員 長　医　師：垣本佳士（外科 / 緩和ケア研修指導者）
　　：池下和敏（麻酔科 / 緩和ケア研修指導者）
事務局長　看護師：苗代啓子（がん化学療法看護認定看護師）
委　　員　医　師：髙原良典（内科 / 緩和ケア研修指導者）
　　：仲村光世（麻酔科 / 緩和ケア研修指導者）
　　：片上徹也（精神科 / 緩和ケア研修指導者）
　　：杉本貴美子（心療内科）
　　看護師：今西真奈美（緩和ケア特定認定看護師）
　　薬剤師：山田直輝（緩和薬物療法認定薬剤師）
　　公認心理師 / 臨床心理士：朴祐希
　　管理栄養士：小山洋史、佐藤友亮
　　作業療法士：梅崎大貴
　　医　事　課：西田美帆
　　医療相談員：三谷勇一

3. 実績

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数	平均
がん患者指導管理料イ	0	0	0	0	4	0	0	1	0	0	0	0	5	0.42
がん患者指導管理料ロ	2	7	5	4	5	2	0	5	3	1	1	0	35	2.92
がん患者指導管理料ハ	10	9	7	4	11	9	13	8	6	17	10	13	117	9.75
ケモ食	351	68	171	327	99	74	283	186	174	242	110	84	2,169	180.75

《スクリーニング件数》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数	月平均
総数	295	283	250	244	260	358	400	347	328	350	350	418	3883	324
該当なし	230 (78%)	223 (79%)	216 (86%)	200 (82%)	219 (84%)	300 (84%)	354 (89%)	291 (84%)	288 (88%)	301 (86%)	311 (89%)	357 (85%)	3290 (85%)	274 (85%)
介入数	1	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	6	0.5

《がん地域連携パス件数》

	胃がんF	胃がんケモ	大腸がんF	大腸がんケモ	乳がん	肺がん
適応件数	28	2	58	3	0	5
実施件数	19	1	47	3	0	5

4. 今後の目標

新型コロナ感染症が5類になったことで、これまでWebで開催していた緩和ケア研修（PEACE研修）を対面で開催することが可能となりました。対面研修になったことで意見交換が活発に行われ、多職種の専門的な知識を活かした有意義な研修となりました。がんに携わる医療者が質の高い医療を提供できるように、今後も緩和ケア研修会（PEACE研修）を含めた緩和ケアに関する研修を継続的に開催し、医療従事者が意欲的に取り組むことができるような工夫をしていきたいと考えています。

併せて、がんサロンも再開され患者さま自身が自分の意思で情報収集をできるようになりました。しかし、新型コロナ感染症の蔓延以前の頃のような活気のあるがんサロンには戻っていません。広報にも力を入れて､患者さまが参加したいと思えるようながんサロンを目指します。

患者さまが求めることに誠実に対応し、病気になったことで何かを諦めるのではなく、最期のその時まで自分らしく生きることができるように支援を行っていきたいです。

呼吸ケア　182
褥瘡対策　183
研修管理　184
栄養サポ　188
緩和ケア　190
がん暖和　192
地域医療　194

55）地域医療支援病院運営委員会

事務局　酒匂　精一（事務長）

1. 概要

当院は 2023 年 4 月、大阪府より地域医療支援病院として承認を得ました。

24 時間 365 日救急医療の提供、より地域に根ざした最善の医療を提供し大阪府中河内医療圏の中核的な医療機関を目指しております。また、地域の医療従事者の資質の向上を図るため 2021 年 7 月より地域の医療従事者向け研修会を毎月開催しております。

2. メンバー構成

地域の委員：7 名

八尾市医師会副会長、八尾市歯科医師会副会長、八尾市薬剤師会副会長、八尾市保健所長
八尾市消防長、池田クリニック院長、八尾市民生委員児童委員協議会会長

病院の委員：6 名

病院長、顧問 2 名、副院長、看護部長、事務部長

事務局：3 名

3. 実績

1）地域医療支援病院運営委員会開催日（3 月、5 月、9 月、12 月 第 4 木曜日 15 時より）

2024 年

3 月 28 日（木）、5 月 23 日（木）、9 月 26 日（木）、12 月 19 日（木）

2）医療従事者向け研修会

	開催日	担当部署	演　題
1月	1月12日（金）	治験センター	学術発表で求められる倫理審査について
2月	2月9日（金）	医療安全管理部	苦情等に対する対応手順（第二弾）
3月	3月8日（金）	臨床工学科	当院で取り扱っているME機器について
4月	4月12日（金）	看護部	医師の働き方改革で注目の診療看護師（NP）制度と 当院での活動内容
5月	5月10日（金）	検査部	貧血のおはなし　～　今更、人にきけないこんなこと　～
6月	6月14日（金）	リハビリテーション科	心臓リハビリテーション
8月	8月23日（金）	栄養科	医療現場における管理栄養士の役割 ～　栄養管理とチーム医療について　～
9月	9月13日（金）	薬剤部	脂肪乳剤TPN
10月	10月11日（金）	看護部	中河内医療ネットワーク
11月	11月8日（金）	放射線科	放射線治療について
12月	12月13日（金）	医局	八尾徳洲会総合病院　放射線治療再開について

4. 今後の目標

地域医療支援病院として他の医療機関や介護施設との連携、関係機関との協力を強化し、地域のニーズに合わせた高度医療、救急医療を含めた医療の提供と地域全体の医療体制の向上を目指します。また感染症対策のための施設整備やプロトコルの改善に取り組みながら、地域の方々には引き続き感染症予防の啓発や教育を行なってまいります。

関　連　施　設

―― 2024年 ――

56）八尾徳洲会介護センター　198
57）よろこび訪問看護ステーション　202
58）介護老人保健施設 八尾徳洲苑　205
59）特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷　214
60）サービス付き高齢者向け住宅　218
　　ラフィーネの郷
61）ラフィーネ介護センター　220

56）八尾徳洲会介護センター

管理者　日髙　陽子

介護セン 198
よろこび訪問看護ステ 202
徳洲苑 205
特養久宝寺愛の郷 214
ラフィーネの郷 218
ラフィーネ介護セン 220

1. 概要

ラフィーネの郷開設、八尾徳洲苑の移転と共に、2月25日に介護複合施設へ移転しました。内覧会では多くの方の来場により、地域の皆様の期待を大きく感じました。前年から準備していたとはいえ、移転後はラフィーネの郷に入居される方のサービス計画の作成による混乱と対応に追われる日々でしたが、振り返ると何とかなるものだと思います。その裏にはスタッフの責任感や協力がありました。

団塊の世代すべての方が後期高齢者となる2025年を迎え、人材確保や医療介護の連携強化、在宅での重度化対応が課題となり、ケアマネジャーの負担増は明らかです。4月の介護報酬改定では、ケアマネジャーの不足により、1人あたりの担当ケアプラン数が増加されました。これまで求められてきた質より生産性の向上を優先せざるを得ないのかと残念に感じます。老老介護、認認世帯、8050問題、ヤングケアラー、支援する環境が複雑化し、重層的支援体制の整備事業が求められます。私たちは過重感を抱えながらも、過不足なく支援ができるよう外部研修や内部研修を通して新しい情報を取り入れています。

2023年より事務員を配置し、順次事務作業をシフトチェンジしたことで、事務作業負担が減少しました。今後も順次シフトします。ハード面により限りはありますが、厚生労働省が推進する介護DX（デジタルトランスフォーメーション）を取り入れることで、利用者支援の質を保ちスタッフの時間外労働の短縮にも繋げたいと考えています。今後もスタッフ一同、日々精進し地域の皆様にお応えできるよう努めて参ります。

2. メンバー構成

管　　理　　者：日髙陽子
主任介護支援専門員：山﨑美保　井澤瞳　野宗かおり　矢竹千津栄
介 護 支 援 専 門 員：米谷昌広
事　　務：櫻井真佐子

3. 実績

1）業務実績

≪介護度別人数≫

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
要介護1	43	39	36	36	36	35	36	38	37	38	41	45	460
要介護2	43	43	41	42	44	44	43	41	42	45	44	43	515
要介護3	23	23	29	26	28	27	25	24	23	22	21	21	292
要介護4	32	31	31	29	30	28	29	29	30	27	29	28	353
要介護5	20	19	18	23	21	22	21	24	25	25	26	25	269
要支援1	4	3	4	5	5	4	4	4	4	3	3	3	46
要支援2	17	21	22	20	22	21	19	17	17	16	16	14	222
利用者合計	182	179	181	181	186	181	177	177	178	176	180	179	2,157

《加算》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
初回加算	4	1	6	5	4	1	4	5	8	6	5	4	53
入院時情報連携加算（Ⅰ）	7	8	7	7	5	5	6	7	6	4	6	5	73
入院時情報連携加算（Ⅱ）	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1	2	3	9
退院・退所加算（Ⅰ1）	3	4	5	1	2	0	1	1	1	4	3	1	26
退院・退所加算（Ⅱ1）	1	0	1	1	1	1	2	1	0	1	1	0	10
退院・退所加算（Ⅰ2）	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
退院・退所加算（Ⅱ2）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退院・退所加算（Ⅲ）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
通院時情報連携加算	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
緊急時カンファレンス加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ターミナルケアマネジメント加算	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	4
予防支援初回加算	2	4	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	9
予防支援委託連携加算	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
加算合計	20	19	20	17	14	9	14	14	16	16	17	14	190

《業務量》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
モニタリング訪問	175	169	156	168	173	163	170	170	167	160	157	156	1,984
サービス担当者会議	30	30	45	24	30	21	25	37	38	31	26	18	355
新規	3	2	9	5	7	2	4	6	6	5	4	4	57
終了	6	3	2	2	0	2	7	5	8	6	1	6	48

2）研修

・法定研修

1/19	主任介護支援専門員更新研修　主催：大阪介護支援専門員協会	野宗

・大阪府各市町村主催の研修・連絡会

2/2	令和５年度介護給付費適正化事業における居宅介護支援事業所向け研修「ケアプランの評価・見直しに繋がるモニタリング、サービス報告書や支援経過記録の活かし方」八尾市健康福祉部高齢介護課	山﨑
3/15	令和５年度介護給付費適正化事業における居宅介護支援事業所向け研修「サービス付高齢者向住宅、有料老人ホームにおけるケアマネジメントの留意点」八尾市健康福祉部高齢介護課	山﨑
6/17	令和６年度介護給付適正化研修会　令和6年度介護報酬の改定について～居宅介護支援を中心に留意点を確認～八尾市健康福祉部高齢介護課給付担当（web）	井澤
10/31	「意思決定支援研修会」講師：大阪弁護士会　井上　雅人氏 研修テーマ：意思決定支援の基本概念と課題、八尾市社会福祉協議会総務部　権利擁護センター　ほっとネット	野宗・米谷

介護セン 198
よろこび 訪問看護ステ 202
徳洲苑 205
特養久宝寺 愛の郷 214
ラフィーネ の郷 218
ラフィーネ 介護セン 220

11/7	ヤングケアラー支援担当職員向け研修「ヤングケアラー支援研修　基礎編」 八尾市要保護児童対策地域協議会　八尾市こども若者部　こども・いじめ何でも相談課	米谷・井澤
11/13	「多様化する家族と住まい課題について」～住まい課題と生活支援の一体的支援の必要性～　八尾市健康福祉部地域矯正推進課	井澤
11/27	介護予防ケアマネジメント業務に関する研修会　八尾市健康福祉部高齢介護課	米谷
11/28	「若年性認知症についての基礎知識、利用可能な制度の案内、支援ポイント」 動画配信　八尾市健康福祉部高齢介護課	山﨑

・八尾市介護保険事業者連絡協議会

2/14	令和５年度　居宅介護支援事業者部会　第２回　定例会　研修会 「2024年度介護報酬改定について～介護支援専門員がおさえておくべきポイント」	井澤
2/20	令和５年度　八尾市介護保険事業者連絡協議会　総会　研修会 （八尾市人権研修）「介護現場における介護従事者へのハラスメントにどう対応するか」	井澤
6/18	令和６年度　八尾市介護保険事業者連絡協議会総会・研修会	野宗
7/12	令和６年度　居宅介護支援事業者部会・居宅サービス部会　合同開催 居宅サービス部会　通所グループ「通所フェア」	井澤
7/23	令和６年度　地区（ブロック）別研修会 「支援の当事者の立場で判断する力を鍛える事例学習会」 ～地域包括支援センターとの合同開催～	井澤
10/17	令和６年度　居宅介護支援事業者部会・第1回定例会　研修会 「令和6年度制度改定について」	山﨑・米谷

・大阪介護支援専門員協会

6/21	2024 年度　研修会（法定外研修）「八尾市の障がい福祉施策について」	日髙・井澤
10/22	令和６年介護支援専門員協会八尾支部　事例検討会 「災害時のケアマネのあり方についてご本人･ご家族に理解していただくための対応」	日髙

・法人内

2/16	徳洲会病院・居宅介護支援部門全体研修「高齢者虐待防止」Web 研修	山﨑
2/19	『令和６年度　診療報酬改定の動向』　説明会	井澤
6/27	2024 年度　居宅介護支援部門全体研修　ハラスメント防止研修　（web）	井澤
6/27	老健徳洲苑主催　施設における感染対策　勉強会	井澤
7/13	管理者向け研修　～風通しの良い職場とは、ストレスを溜め込まない職場とは 管理職として職場の改善計画を考える～	野宗
11/28	2024 年度　居宅介護支援部門全体研修 第２回　コミュニケーション研修　（web）	井澤
12/12	2024 年度　地域包括支援センター部門　全体研修 8050 問題・ひきこもり支援について　（web）	井澤

・事業所内

2/29	人権研修	井澤
6/20	感染勉強会	山﨑
7/4	ハラスメント勉強会	井澤
7/18	高齢者虐待防止、身体拘束についての勉強会	井澤
8/15	ヤングケアラー勉強会	日髙
9/12	法令遵守	野宗
10/17	個人情報保護法、プライバシー保護に関する勉強会	矢竹
[症例検討]、[伝達研修・情報提供等]　週1回定例会議にて実施		

・その他

3/22・23	第 22 回近畿ブロック研究大会 in ひょうご 主催：一般社団法人　日本介護支援専門員協会	野宗
4/1	松本クリニック主催　意思伝達装置のイントロダクション・医療講習会	日髙
10/18	愛の郷開設 10 周年記念講演～デジタル時代のケアマネジメント～	野宗
11/5	松本クリニック主催　コミュニケーション支援機器　～完全攻略ガイド～	日髙
12/10	株式会社ウェルビト　ケアプランに活かす在宅リハビリテーションの考え方	米谷

4. 今後の目標

・増員による事業拡大

・業務の効率化

57）よろこび訪問看護ステーション

管理者　須賀　明美

介護セン 198
よろこび訪問看護ステ 202
徳洲苑 205
特養久宝寺愛の郷 214
ラフィーネの郷 218
ラフィーネ介護セン 220

1. 概要

今年の目標として、①看護の質向上②人材育成と働きやすさの強化③収入、件数の安定を目標として運用しました。

①看護の質向上

スタッフへ年間計画立案を呼びかけ研修希望を募り、研修計画を立てました。昨年同様、スタッフ全員が研修に参加できました。また、業務継続計画の中身である災害対策や感染対策に関しては、徳洲苑との会議への参加や、災害訓練の実施もできており、計画は継続できています。若草支所との合併もあり、在宅患者さまの把握も大変でありましたが、苦情もなく、また事故など起こすことなく対応することができました。

②人材育成と働きやすさの強化

月に2回のミーティングを行い、スタッフの意見を尊重した働きやすい職場を目指しました。よろこび訪問看護ステーションでは、1名引っ越しのため、退職がでましたが、1名のスタッフが病院から入職しました。病棟経験は長いものの、訪問看護は初めてのスタッフのため、プリセプターをつけフォローを強化しました。夜間の待機もこなしており、今後特定行為の研修を受講する予定です。またラフィーネの郷が3月からオープンとなり、よろこび訪問看護ステーションのスタッフが定期巡回として訪問しています。しかし、退職者が相次いだため、今後は定期巡回のスタッフを充実させる予定です。

③収入件数の安定

目標は1人当たり85件でしたが、目標に到達する月は少数でした。また、定期巡回訪問看護介護部門のスタッフの退職が相次いだため、在宅を訪問するスタッフを応援に出すことになっていました。そのため、新規患者さまをお断りすることとなり、また訪問回数が多い在宅患者さまの訪問が終了するなど売り上げが一気に減少しました。加算の取得に必要な研修会には参加し、在宅見取りの件数は維持できたため、加算は継続することができました。報酬改定で必要な会議は徳洲苑の会議に参加し連携できています。

2. メンバー構成

管理者　：須賀　明美
看護師〈常勤〉　：須賀　明美・山口　耕平・長谷川　由紀子・
　中澤　陽子・奥田　利桂・赤井　ちひろ
看護師〈非常勤〉：辻本　由加里・森　裕子・川田　知美
理学療法士〈常勤〉：松本　龍也
事務員　：岡見　亜耶

3. 実績

《訪問看護》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
利用者	85	96	95	97	94	92	92	90	88	85	81	77	1,072
訪問件数	758	706	613	636	601	579	663	615	526	513	474	669	7,353
新規導入者	6	15	7	5	6	3	4	4	2	1	4	11	68
終了者(その他)	12	38	8	3	9	5	4	6	4	4	8	15	116

《研修及び行事》

1月8・15日　奈良理学療法士協会　リハビリテーションコース（松本）
1月12日　BCPの勉強会　（須賀、松本）
1月20日　実地指導から運営指導へ　行政指導は何がかわったのか（須賀）
1月26日　八尾市介護保険事業連絡協議会　在宅におけるハラスメントの実際（須賀）
1月27日　在宅医療総合支援事業　　在宅医療における災害対策研修
2月　8日　患者の自殺後のポストベンション　東大阪医療センター（須賀）
2月20日　八尾市連絡協議会　人権セミナー　プリズムホール（中澤）
3月12日　松本クリニックとの合同勉強会　創部処置剤について　スタッフ全員参加
3月22日　八尾市訪問看護ステーション管理者会（須賀）
4月11日　グリーフケア　エンゼルケアについて　zoom研修（須賀）
5月15日　介護保険法改正と社会のニーズとの関係を知る　zoom研修（須賀）
5月16日　徳州会グループ管理者ブロック会議（須賀）
5月20日　訪問看護ステーション協会　管理者会　河内医師会訪問看護ステーション（須賀）
5月20日　大阪府在宅患者災害時支援体制整備事業設置ステーションマニュアル会議（須賀）
6月18日　八尾市介護保険事業者連絡協議会研修（須賀）
6月24日　認知症ケア研修　八尾介護複合施設（須賀　松本　岡見　長谷川　中澤）
6月25日　NPPV勉強会　（看護師全員）
6月26日　褥瘡勉強会（看護師全員）
6月27日　感染対策勉強会　八尾介護複合施設　（須賀　長谷川　中澤）
7月　9日　倫理及び介護保険サービス　八尾介護複合施設（須賀　山口　奥田　松本）
7月13・14日　スーパーバイザーフォローアップ研修　奈良市社会福祉協議会会館（須賀）
7月17日　緩和ケアについて知ろう　しろばとクリニック（奥田）
7月20日　徳洲会グループ管理者研修　zoom（須賀）
7月22日　接遇研修　八尾介護複合施設（スタッフ全員）
8月　4日　痛み、麻痺、運動機能障害に対する治療的アプローチ　zoom研修（松本）
8月25日　基礎から学ぶ浮腫の理学療法士　zoom研修（松本）
9月4日　徳洲会訪問看護ステーション主催　訪問看護基礎研修
　　脳血管疾患の理解　難病の理解　zoom研修（森）
9月11日　訪問看護における特定行為　zoom（奥田　須賀）
9月12日　緩和ケア研修　　東大阪医療センター（須賀　長谷川　奥田）
9月18日　徳洲会訪問看護ステーション主催　訪問看護基礎研修
　　小児の在宅看護、フィジカルアセスメント　zoom研修（森）
9月20・21日　徳洲会グループ　管理者研修　福岡徳洲会総合病院（須賀）
9月26日　災害拠点の発動機　蓄電池の使用方法研修
　　よろこび訪問看護ステーション主催（須賀　山口）

介護セン 198
よろこび 訪問看護ステ 202
徳洲苑 205
特養久宝寺 愛の郷 214
ラフィーネ の郷 218
ラフィーネ 介護セン 220

10月 9日　徳洲会訪問看護ステーション主催　訪問看護基礎研修
精神障害の理解　がん看護　zoom研修（森）
10月19日　緩和ケア研修　東大阪医療センター（長谷川）
10月23日　徳洲会訪問看護ステーション主催　訪問看護基礎研修
認知症ケアの基本　zoom研修（森）
11月18日　難病会議　（辻本）
11月23日　ACPと救急（山口）
11月30日　ACP支援実践人材育成研修（奥田）
12月18日　エンゼルケア勉強会　おくりびと主催（看護師全員）

《看護実習受け入れ》

太成学院大学　11名
大阪府看護協会主催　病院看護師の在宅研修10月～受け入れ　5名
八尾徳洲会総合病院より、看護師院内留学受け入れ

4. 今後の目標

・件数の安定を図る。
・看護の質向上、離職を食い止め、働きやすい職場を目指す。
・八尾市の訪問看護ステーション、クリニックとの連携図り、地域に根差すステーションを目指す。
・八尾介護複合施設内の連携を図る。

58）介護老人保健施設　八尾徳洲苑

施設長　森本　修

1. 概要

一昨年 12 月に着任して早 1 年が経ちました。着任後、事務長、総師長以下職員の方々の助力をいただいて何とか職務を遂行してきました。

私は開業医時代、在宅医療を実践していませんので、特に通院困難な老人が対象となる当苑での医療は全く未経験で戸惑う事の連続でした。以下に列記します。

・最も驚いたのは低ナトリウム血症の入所者さまが、数名おられた事です。低ナトリウム血症を成書で調べると確かに記述はありますが、今まで渉猟した事はありません。遭遇する事がなかったためです。

・慢性心不全が多い。4 分の 1 近くが何らかの投薬を紹介元から受けている。利尿剤における電解質の管理、心不全の適応がある薬剤の選択はなかなか難しいものです。

・食思に乏しい例も少なくない。特に最近は目立ちます。これには特効薬はないので、困ります。栄養士さん達と直接相談し何とか摂取量を増やす必要が迫ってきます。

・尿路感染が非常に多い。発熱の 8 ～ 9 割がそうではないでしょうか。時にそれに呼吸器感染が併発している例が稀にあります。胸部レントゲン撮影ができないため、八尾徳洲会総合病院にお願いするしかありません。

・心不全と関係する例や無関係な例で、下肢の著名な浮腫、水泡形成、一部感染を伴う蜂窩織炎様のものも数例経験しました。軟膏の選択もなかなか難しく治癒に時間がかかりました。

医療面でその他思ったのは、開業時代では時に経験した胃･十二指腸潰瘍がなかった事です。大抵は患者さま本人からの腹痛の訴えから見つかるのですが、十分症状を訴えられない高齢者が多いからでしょうか。内視鏡をすれば見つかるかもしれませんが。ただ 1 例、貧血から八尾徳州会総合病院に紹介した入所者で胃癌がありました。

以上取り留めのない内容になりましたが、この場をお借りして八尾徳洲会総合病院の先生方には、いつも大変お世話になっている事に謝意を表して終わりたいと思います。

介護セン 198
よろこび訪問看護ステ 202
徳洲苑 205
特養久宝寺愛の郷 214
ラフィーネの郷 218
ラフィーネ介護セン 220

《利用者数実績》

1）入所療養介護（長期入所）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
利用者数	103	105	105	107	105	106	113	108	105	100	104	107	1,268	106	+4%
延べ人数	3,026	2,877	2,969	2,824	3,025	2,916	3,129	3,060	2,898	2,867	2,791	2,969	35,351	2,946	+6%

2）短期入所療養介護（ショートステイ）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
利用者数	5	5	3	3	6	5	4	2	2	2	4	3	44	3.7	−36%
延べ人数	34	23	15	27	24	17	8	8	13	11	21	14	215	17.9	−42%

3）通所リハビリテーション（デイケア）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
利用者数	54	60	79	79	87	89	90	92	90	93	94	89	996	83	+36%
延べ人数	456	512	601	601	821	751	812	830	766	796	806	818	8,570	714	+33%

《入所経路と在宅復帰》（長期入所）

1）入所前場所

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年比
自宅	1	1	0	0	0	4	1	0	0	0	1	1	9	−100%
八尾徳洲会	6	2	7	11	5	6	6	7	6	6	7	10	79	−18%
他病院	2	2	1	5	3	1	1	2	1	2	6	5	31	±%
介護施設	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	−100%
他施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	±%
合計人数	10	5	8	16	8	11	8	10	7	8	14	16	121	−21%

2）退所先

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年比
自宅	1	2	0	0	2	0	3	3	3	5	4	1	24	－51%
八尾徳洲会	3	1	1	6	1	3	2	2	1	4	4	5	33	－37%
他病院	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	±%
特養	1	0	2	1	1	3	0	0	1	0	0	0	9	+23%
老健	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	±%
死亡(看取り)	0	0	1	0	1	1	0	0	3	1	3	1	11	－30%
その他施設	0	2	5	6	3	1	1	6	4	1	2	2	33	+125%
合計人数	5	5	9	13	9	9	6	12	12	11	13	9	113	－22%
在宅復帰率	20%	80%	62.5%	46.1%	62.5%	12.5%	66.6%	75%	77.7%	70%	60%	37.5%	55.8%	－%

一年間の在宅復帰率は、55.8%（前年57.2%）である。

《医療依存度》

1）重症度症例数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
平均要介護度	3.32	3.34	3.33	3.32	3.29	3.30	3.29	3.27	3.29	3.25	3.25	3.29	－	3.29
経管栄養	62	58	35	31	62	30	30	31	30	31	30	31	461	38.4
インシュリン	31	29	31	30	84	115	93	96	90	111	82	66	858	71.5
褥瘡処置	131	87	108	102	124	157	182	144	181	212	155	74	1657	138
酸素吸引	93	85	72	60	59	30	31	34	60	62	60	61	707	58.9
頻回吸引	9	6	14	86	5	2	1	63	56	37	24	0	303	25.2
点滴注射	6	7	24	30	22	5	16	25	18	25	48	47	273	22.7

稼働床に対する割合

2）看取り件数（過去 10 年）

2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	合計	平均	前年比
5	3	5	3	4	1	11	7	9	11	59	5.9	+20%

3）重症者搬送件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
八尾徳洲会総合病院	3	1	1	1	0	3	0	1	0	0	1	2	12	1	-37.5%

介護セン 198
よろこび訪問看護ステ 202
徳洲苑 205
特養久宝寺愛の郷 214
ラフィーネの郷 218
ラフィーネ介護セン 220

【機能訓練室】　　理学療法士副室長　水島　知絵

1. 概要

3月の新築移転に伴い、機能訓練スペースが一新されました。1階に筋力トレーニングマシン4台、個別浴槽を用いた入浴動作練習室、ST室、スタッフルームを有するスペースがあり、主に通所利用者の機能訓練等に使用し活気に溢れています。加えて、各入所フロアにも機能訓練スペースができ、効率的な個別リハ業務の実施が可能となりました。全老健リスクマネジャー資格保有のPTが介護分野の生産性向上に資する取組の中心的存在となり、見守りシステム『ライフレンズ』やインカムの導入に際してシステム・ルールを作成し、看護・介護職と連携の上実践し、生産性向上加算の取得に至りました。

個別リハ業務量は一時人員数が減少したため伸び悩みましたが、施設基準『超強化型』を維持するためのリハビリマネジメント等は滞りなく実施しました。また、部署理念『みんなのニーズに応えたい』の下、部署メンバーが各々の目標達成に向け、メンバー同士が協力し、学会発表や認知症関連資格取得に積極的に取り組みました。

2. メンバー構成

理学療法士　6名（内、1名非常勤）／作業療法士　1名／言語聴覚士　1名（非常勤）

3. 実績

1）通所・入所　個別リハビリテーション実施件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
実施延べ数	1,354	1,298	1,305	1,136	1,303	1,154	1,283	1,258	1,193	1,253	1,087	1,229	14,853	1,238
内、加算算定数	468	360	291	275	354	298	272	256	235	267	256	321	3,653	304

2）講演活動

PT水島・土井：・大阪府認知症介護実践研修（実践者・実践リーダー）
・ラフィーネの郷入職者研修『認知症ケア』
『高齢者虐待防止・リスクマネジメント』
・大阪介護老人保健施設協会
『認知症の行動・心理症状（BPSD）軽減に向けたリハビリテーションとケア』

PT水島：八尾徳洲会総合病院看護部認知症講習会『認知症ケアの理解』

PT土井：・野田福祉会『身体拘束廃止研修後編』
『座位のシーティング・臥位のポジショニング』
・大阪府社会福祉協議会
『利用者の状態に合わせた環境作り（シーティング）（福祉用具の活用）』
・奈良リハビリテーション専門学校『失行・失認タイプ別の理学療法』

3）学会・研修参加

ＰＴ水島・土井：認知症介護研究・研修センター『認知症チームケア推進研修』
ＰＴ土井：　　河内地域キャリア開発ネットワーク『第一種感染管理者コース』
ＰＴ川村：　　・大阪介護老人保健施設協会『認知症介護実践者研修』
　　・第35回全国介護老人保健施設大会演題発表
　　『移乗用具を不安なく適切に活用するための検討』

4. 今後の目標

安定的な人員確保を見越した人事採用許可が下りるよう、個別リハ業務量増加を目指します。認知症チームケア推進加算取得に係る研修を修了しましたが加算取得には至っておらず、取得に向けて認知症ケアチームを発足しシステムを構築します。

【栄養科】　　管理栄養士主任　樋口　晶代

1. 概要

これまで調理は給食委託を行っていましたが、3月新築移転に伴い直営に切替えての運営となりました。提供数は老健100床にサ高住60床、昼食は通所利用者に職員食利用者、同一厨房内で調理のためこれまでの倍近くの食事を提供することになりました。温冷配膳車5台を導入、厨房機器もスチコン2台にリヒートウォーマーなどが増え、厨房内の調理スペースも広くなっています。管理栄養士1名以外は、この新築オープンに伴う新採用であったため、調理現場の作業工程や衛生教育など親病院の協力を得ながら手探り状態の開始となりました。しかしながら、厨房機器や設備などの不具合も重なり、食中毒事故や厨房改修工事期間中は食事提供を一旦中止せざるを得ない状況となりました。その間、外注弁当や冷凍完調品を使用しましたが、利用者さまには温かく調理した食事を提供できずご迷惑をおかけすることとなりました。一時は人員不足もありましたが、ようやく厨房内も軌道に乗り、安定したお食事を提供できる体制に整いつつあります。

栄養管理においては、他職種の協力を得ながら「栄養マネジメント」で個々の利用者さまに応じた食事提供を行い、嚥下状態に見合った食事の提供を行っています。新規移転後、数ヶ月は経口維持加算の算定を一時中断していましたが、以前と同様に他職種と食事評価を行いながら安全な食事の提供に努めました。

また、イベント食関連については、毎月の季節行事食に加え、利用者さまに人気の寿司は定番メニューとして月1回提供しています。通所利用者さまへの特別なイベント食は開催できませんでしたが、麺メニューやお楽しみデザートなど利用者さまに喜んでいただける献立作りに努めました。

2. メンバー構成

管理栄養士　2名
栄養士　1名
調理師　3名
調理補助　9名

介護セン 198
よろこび訪問看護ステ 202
徳洲苑 205
特養久宝寺愛の郷 214
ラフィーネの郷 218
ラフィーネ介護セン 220

3. 実績

1）療養食加算　算定件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
算定件数	2,333	2,288	2,390	2,448	2,641	2,623	2,624	2,700	2,523	2,291	2,176	2,006	29,043	2,420

2）経口維持加算（Ⅰ）（Ⅱ）　件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
（Ⅰ）	15	13	0	0	0	9	10	12	10	13	13	13	108	9
（Ⅱ）	15	13	0	0	0	9	10	12	10	13	13	13	108	9

3）行事食・イベント食

1月　正月「おせち料理」、新年会「祝い弁当」
2月　節分「巻き寿司」
3月　新築移転「ちらし寿司弁当」、ひな祭り「イチゴケーキ」
4月　お花見ランチ「桜寿司」、パスタランチ「ミートスパゲティ」
5月　端午の節句「ちらし寿司、鯉のぼりゼリー」
6月　洋食ランチ「エビフライ」、お楽しみデザート「マンゴーケーキ」
7月　七夕「ちらし寿司とそうめん汁」
8月　土用の丑「うなぎ入りちらし寿司」
9月　敬老の日「祝い弁当」、お楽しみデザート「抹茶ようかん」
10月　ハロウィンランチ「煮込みハンバーグ、かぼちゃババロア」
11月　麺メニュー「肉うどん定食」
12月　クリスマスランチ「エビフライ、クリスマスデザート」

4. 今後の目標

管理栄養士が2名体制となったため栄養マネジメント強化加算の算定を開始し、栄養管理の充実を図ります。また、衛生管理を徹底し、利用者さまに安全で美味しい食事の提供を行えるように努めていきます。

【支援相談員】　　支援相談員副主任　北出　眞和

1. 概要

2024 年 3 月 1 日に八尾市荘内町へ移転させていただきました。新たな地域の皆様へ当施設のご利用内容をご理解いただき、地域の皆様のお力になりたいと思います。私たち支援相談員は、長期入所・短期入所・通所リハビリテーションを希望される方の窓口となり、ご利用にあたっての相談対応支援を中心に活動を行っています。

入所は 100 床あるベッドを運用し、入退所調整を行っています。100 床中 1 床を短期入所用として活用しています。感染症の猛威が衰えない状況が続いていますが、当施設内でも感染対策に関しては各部署と連携をとり安心したサービス利用の提供を目指しています。

入所サービスは基本的に要介護認定を受けられ、介護を必要とする高齢者の自立を支援し、在宅への復帰を目指すために、各職種との協働の下、リハビリテーション・栄養管理・食事・入浴などの日常サービスまで併せて提供するサービスとして相談対応させていただいております。在宅復帰が困難な方にも長期間入所できる施設等の情報提供は実施しており、安心して生活できる環境の提供を心がけ対応しています。

通所リハビリテーションでは、医師の指示書（診療情報提供書）を簡略化し、スムーズな利用への調整を実施しました。

老健施設基準でもある「在宅復帰超強化型」は維持できています。今後も新たな取り組みを検討・構築し、各医療機関や地域でお困りの方に対して積極的に情報発信していき、医療機関の後方支援先・地域の相談窓口としての協力体制を整えていきたいと考えています。

2. メンバー構成

北出眞和　　小茂田加奈　　今野あきの（育休中）

3. 実績

109 名の方が退所されました。内在宅復帰 23 名（21.1％）病院搬送 32 名（29.4％）特養・他老健入所者 8 名（7.3％）有料老人ホーム入所者（有料・サービス付き高齢者向け住宅など含む）34 名（31.2％）となっております。住宅系施設へ入居される方が増加し、年間在宅復帰率は 59％となりました。

入所に関しては､122 名の方が入所されました。110 名(90.2％)の方が医療機関からの紹介で、12 名（9.8％）の方が在宅からの入所となりました。協力医療機関でもある八尾徳洲会総合病院からの紹介が多く、後方支援先として連携がとれました。

4. 今後の目標

長期入所に関しては在宅復帰超強化型を可能限り維持し、安定した入所者数の確保目標にしていきたいと思います。

新築移転に伴い、新しい地域の方々にも周知していただき、地域の窓口とした開けた対応を実践していきます。また、これまで以上に八尾徳洲会総合病院との連携を強化し、施設運営の向上に繋がる支援体制を今後も構築していけるように努力していきたいと思います。

介護セン 198
よろこび 訪問看護ステ 202
徳洲苑 205
特養久宝寺 愛の郷 214
ラフィーネ の郷 218
ラフィーネ 介護セン 220

【介護・看護部】　　総看護師長　武田　郁子

1. 概要

2024 年 3 月 1 日に新築移転しました。新しい地域で新しい建物で利用者さま、ご家族さまによりよいケアを提供できるように努めてまいりました。長いコロナ禍の時を経て少しずつレクリエーションやクラブ活動などができるようになり、面会も可能になりました。それにより利用者さまやご家族さまの笑顔も増えています。まだまだ感染症のクラスターは時々起こり、予断を許さない状況です。感染予防対策を行い、感染拡大のないようにしていきたいです。通所の方も新しい地域で新しい利用者さまとの出会いもあり喜んでいます。利用者さまが楽しく過ごせるように取り組んでいきます。入所、通所ともに看護介護の力を合わせて、今後も利用者さま、ご家族さまが安心してご利用いただけるように努めてまいります。

《年間行事》

施設全体での行事開催はせず、フロアごとの行事を行いました。

2. 実績

1）看護介護目標と成果

2024 年度の八尾徳洲苑の施設目標として

1. プラス一言で和気あいあい　- 利用者さまにも仲間にも -

2. 考えよう費用対効果　- 限りある人・物を有効に活かす -

を掲げました。

2）教育人材育成

介護福祉士受験　1名

3）身体拘束委員会　体拘束ゼロの継続が実行できている、委員会でライフレンズ使用利用者さまの共有

4）事故防止委員会　毎月の事故報告書を分析し、重要事例などは臨時の会議を行い検討している

5）感染対策委員会　感染防止対策を共有し施設での感染発生を防止している
コロナ、インフルエンザ陽性者発生時は臨時感染対策会議を開催し感染防止対策を検討

6）施設内研修

2024 年度は集合型の研修と web 研修、資料配付・レポート提出形式で行いました
一部実技を取り入れた研修も実施しました

5月　介護職の医行為について
　　介護保険サービスと倫理及び法令遵守
6月　感染対策（実技）
　　身体拘束廃止・高齢者虐待防止
7月　接遇について、介護保険サービス
8月　摂食嚥下・排泄ケア
9月　褥瘡予防、看取り
10月　プライバシー保護
11月　嘔吐対応実践型勉強会
11月　急変時対応
12月　摂食嚥下
1月　防災研修、BLS研修
2月　キャリアパス、身体拘束・高齢者虐待
3月　認知症

7）実習受け入れ

・大阪公立大学看護学部看護学科	早期体験実習	14名	9/11、9/12
・大精協看護専門学校	准看護師実習生	44名	老年看護（7/31 ～ 11/22）
	准看護師実習生	22名	追実習（補習及び再実習） 2025/2/3 ～ 2/21

59）特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷

理事長　酒井　　敬
業務執行理事　木口　良章

介護セン 198
よろこび訪問看護ステ 202
徳洲苑 205
特養久宝寺愛の郷 214
ラフィーネの郷 218
ラフィーネ介護セン 220

1. 概要

4 月に介護報酬の改定が実施され、介護職員の処遇改善に 0.98％、サービスの基本報酬等に 0.61％､合計 1.59％のプラス改定となりました。しかし､最近の物価上昇はこの改定率を上回り、職員給与に関しても、最低賃金の上昇は給与規定にも影響を与え、組織運営の環境は厳しさを増しています。また、地域での高齢者施設の増加は利用者の獲得競争となっており、特養といえども稼働率維持が困難となってきています。新型コロナウイルス感染症に関しては、3 月に特養で利用者 7 名、職員 3 名のクラスターが発生しました。年末のインフルエンザの急激な流行は、感染症管理をより厳しいものにしました。12 月に職員の新型コロナ、インフルエンザ感染はありましたが入所者の方への感染はありませんでした。居宅系サービスについても、利用者さまの体調変化など､十分な観察や定性検査の実施などで早期発見することができました。職員の過去 5 年間の経験は感染対策のスキルを向上させました。

当法人が開設され、9 月 1 日で 10 周年を迎えました。その記念事業として、10 周年記念誌を作成し区切りとしての情報を発信しました。また、10 月に地域の居宅支援事業所の介護支援専門員を対象に「デジタル時代のケアマネジメント」と題し、船井総合研究所の鈴木様の講演会を開催しました。現在、開設当初のパンフレットを改訂中です。

運営面では、この 3 年間生産性向上に向けた取り組みを実施しています。その一環として電子請求システムを 10 月に導入。郵便料金の値上げもあり、コスト削減と事務作業の軽減に挑戦しています。8 月頃から退所者が続き利用者の確保が難しくなりました。特別養護老人ホームは、約 5 年前は約 90 名の待機者がおられましたが、今は 5 名程度です。12 月 18 日には法人本部に対し、市の指導監査課による実地監査が行われ、いくつか指摘をいただきました。当施設は第三者評価を実施できていないため間違いを正す良い機会となりました。

嬉しい知らせとしましては、酒井理事長が瑞宝単光章を受章されました。長年の高齢者介護への働きが評価されたことは、当施設従業員としても大変喜ばしい出来事となりました。

次に職員の状況について述べます。法人開設当初から勤務していた介護の管理者が退職するなど、常勤 4 名（介護士 3 名、看護師 1 名）、非常勤 2 名（介護士 1 名、ドライバー 1 名）が法人を離れていきました。入職は介護士（常勤 1 名、非常勤 1 名）の 2 名のみで、常勤換算では前年より 2 名減となりました。大きな支障が出ていないのは ICT 機器の導入や業務の見直しなどにより生産性が向上した結果といえるでしょう。各事業の管理者が、業務管理だけでなく、経営にも目が向いてきたことを実感できるようになりました。4 年前から導入している職員エンゲージメントの取組の成果でもあります。

・資格取得

介護支援専門員　2 名

介護福祉経営士　1 名

2. メンバー構成

職員の配置状況と人員

部門	職種	常勤	非常勤		人数計	換算計
			人数	換算		
管理部	管理者	2			2	2.0
特養	事務	2	0		2	2.0
	生活相談員	1			1	1.0
	介護支援専門員	1			1	1.0
	医師		2	0.2	2	0.2
	看護部	3	2	1.0	5	4.0
	栄養部	5	4	1.4	9	6.4
	介護職	20	8	6.3	28	26.3
ショート	生活相談員				0	0.0
	介護職員	5	2	1.5	7	6.5
デイ	生活相談員	1			1	1.0
	看護部		3	1.8	3	1,8
	機能訓練	1			1	1
	介護職員	3	4	2.8	7	5.8
	運転手		2	1.8	2	1.8
地域包括	社福・ケアマネ・保健師	2			2	2.0
合計		46	27	16.8	73	62.8

3. 実績

・特別養護老人ホーム（50 床）

常に満床の状況ではありましたが､10 月は稼働率が 96.6％まで落ち込みました｡入院が多かった上に退居も重なり稼働率が低下したとみられます。入居者さまの平均要介護度は、長年 4.5 でしたが、10 月からは 4.4 となりました。小規模の施設が運営を維持していくためには、稼働率を 100％に近い状況で維持する必要があります。世間一般には、特養は最も入居が難しく待機の方が非常に多いと思われていますが、数年前と違い特養の待機者は少なくなり、タイミングが合えばすぐにでも入居できる環境に変わってきています。このような状況の情報提供が課題の一つと考えます。

・短期入所（10 床）

特養の稼働率維持のために 2 床ほどを利用していましたが、特養の退居が昨年より増加したため、入居となり稼働率に影響を与えました。急な利用者確保が難しく稼働率 90％を下回る月も見られました。また、他の介護施設への入居や体調不良による入院なども重なったため、稼働率平均も前年より低下しました。

・通所介護（定員 35 名）

平均の稼働率は 84.7％で 88％の目標に達することができませんでした。前年とほぼ同じ結果となりましたが、昨年末の状況が良かったため目標設定が高くなっていたかもしれません。

介護セン 198
よろこび訪問看護ステ 202
徳洲苑 205
特養久宝寺愛の郷 214
ラフィーネの郷 218
ラフィーネ介護セン 220

デイサービスは他施設との競争が激しいため、今一つの差別化が必要と痛感しました。個別機能訓練の訓練結果の見える化も進めていますが、まだ評価されるまでには至っていません。居宅支援事業所や地域包括支援センターから評価してもらえるサービス内容の情報提供が必要です。また、最終的には利用者さまに継続して利用したいと思っていただけるようなサービス提供が必要です。新型コロナやインフルエンザなどの感染症にも影響された年となりました。

	特養（50床）				短期入所（10床）				通所介護（35名）			
	入所数	入所率	退所数	要介護度	利用者数	利用日数	稼働率	要介護度	利用者数	利用日数	稼働率	要介護度
1月	49.4	98.9%	0	4.5	41	286	92.3%	2.9	88	673	87.6%	1.7
2月	49.3	98.7%	0	4.5	39	264	91.0%	2.9	89	700	87.5%	1.7
3月	50.0	100.0%	1	4.5	46	296	95.0%	3.0	85	728	87.5%	1.8
4月	50.0	100.0%	2	4.5	36	291	97.0%	3.0	84	744	89.4%	1.7
5月	50.0	100.0%	2	4.5	36	272	87.7%	3.0	86	774	89.6%	1.8
6月	48.4	96.8%	0	4.5	33	289	96.3%	3.1	84	702	87.8%	1.8
7月	48.4	96.8%	1	4.5	34	320	103.2%	2.9	87	706	81.3%	1.7
8月	49.7	99.4%	3	4.5	33	286	92.3%	2.9	83	686	79.7%	1.7
9月	49.6	99.3%	1	4.5	31	270	90.0%	2.9	85	653	81.6%	1.6
10月	48.3	96.6%	0	4.5	34	306	98.7%	2.8	84	695	80.4%	1.6
11月	48.8	97.5%	2	4.4	34	267	89.0%	2.9	84	684	82.2%	1.6
12月	49.3	98.6%	2	4.4	36	268	86.5%	2.7	83	679	81.6%	1.7
平均	49.3	98.6%	1.2	4.5	36.1	284.6	93.3%	2.9	85.2	702.0	84.7%	1.7

・八尾市地域包括支援センター（公益事業）

相談受付は、2023年度より979件減少しましたが、内容が困難で継続的に関わりを持っているケースが増えています。加えて、地域からの相談事に電話対応や訪問活動を実施し、フレイル予防の視点を重視して自立支援や予防的な取り組みを行い、総合相談窓口としての機能を果たしています。要支援1、2の介護保険利用者を地域の介護支援専門員と協力して支援する、原案委託業務を継続的に実施しています。介護予防支援費とマネジメント費の件数は、前年度より340件多く、八尾市内でも上位の件数を維持できました。要介護よりも単価が低い要支援を担当してくれる介護支援専門員を探すことに苦慮しており、今後も大きな課題となります。支援内容の適正化とともに、支援困難である内容を一緒に考える包括的業務を実施しています。

介護予防教室は、感染予防を継続しつつ年間を通して実施できました。地域行事が再開される中、センターの周知活動の大切さを実感したと共に、改めて地域と共にあるセンターであることを確認しました。

高齢者虐待や認知症の対応を中心に、多職種連携を通じて権利擁護事業の支援を継続的に実施しています。実態把握は、前年度より82件少ないですが、年度統計では同数を算定できる予定です。相談内容は、介護相談や介護保険に関するものが多く、継続して質の高い相談支援を実施して、地域の介護相談窓口としての役割を遂行していきます。

内容	年月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	前年比較
相談受付	2023年	345	345	496	552	499	454	560	462	484	517	417	418	5,549	
	2024年	373	347	358	390	401	364	383	425	394	393	374	368	4,570	－979
介護予防支援費 マネジメント費	2023年	261	256	260	271	269	278	271	283	298	282	283	288	3,300	
	2024年	293	291	303	301	302	299	303	302	307	319	314	306	3,640	340
介護予防教室 家族介護教室	2023年	2	3	1	2	2	1	2	2	1	2	2	1	21	
	2024年	2	3	2	2	2	1	3	2	1	2	2	1	23	2
地域行事	2023年	5	3	5	4	5	4	5	2	4	6	7	7	57	
	2024年	4	6	5	4	5	5	6	3	4	6	8	7	63	6
実態把握	2023年	15	19	12	29	34	25	26	32	30	29	25	17	293	
	2024年	9	5	7	19	29	18	26	15	24	20	21	18	211	－82

4. 今後の目標

毎年掲げていることではありますが、社会福祉法人として求められる役割をしっかりと認識し、地域への公益的な取組を果たしていきたいと思っています。担当する職員がいないため、地域の把握が出来ている地域包括支援センターをその役割の中心に据え、具体的に実績のある取組をおこないます。

利用者さまやそのご家族の方に安全、安心な介護サービスが提供できるよう努力します。そのためには職員の更なるスキルアップが必要となります。各職種の質向上に向け、計画的な教育と評価システムを構築し、「寄り添う介護」を目標に、その実践ができるよう職員全員でチーム介護を実践していきます。経営的には、2025年4月から営業企画室を新たに設けて、居宅支援事業所への営業やグループ施設への情報提供などを組織的に行い、利用者獲得への施策を実施する予定です。職員の意識改革を推進し、業務プロセスの見直しによる業務改善を実施し、生産性を向上させることを当面の目標とします。

地域の各種行事に参加しつながりを強めると共に、当施設主催の行事にも参加していただき、地域との親密性をより強め、災害などの予想しえない事態にも協力し合える関係性を築いていきます。

和泉市で進んでいる2026年開園の幼保連携型認定こども園の建設を来年に控え、園長も決まり具体的な日程が提示されている中、今後、求められる運営法人としての役割を果たしていけるようつとめます。

介護セン 198
よろこび訪問看護ステ 202
徳洲苑 205
特養久宝寺愛の郷 214
ラフィーネの郷 218
ラフィーネ介護セン 220

60）サービス付き高齢者向け住宅ラフィーネの郷

管理者　松野　香澄

1. 概要

当施設は 2024 年 3 月に開設した、58 床を有するサービス付き高齢者向け住宅です。地域の高齢者に対する受け皿として、安心・安全な生活の場を提供する事を目的としています。

グループ内では初めてとなる、介護老人保健施設、通所リハビリ、訪問看護ステーション、居宅介護事業所を併設した複合施設となっています。また､当施設の入居者さまに必要な介護･看護サービスを提供できるように、開設と同時に定期巡回・随時対応型訪問介護看護を行うラフィーネ介護センターを立ち上げました。開設時は 5 名の入居者さまから始まり、月末には 30 名と徐々に入居者数を増やし､半年で 50 名に到達､11 月中旬に満床にする事ができました。

関連施設の皆様の協力もとても心強く、介護老人保健施設八尾徳洲苑・八尾徳洲会総合病院からの紹介や八尾徳洲会介護センターが担当ケアマネージャーを多く引き受けて下さったことが、入居者数を増やせた要因だと思っております。

現在は看取りの方等で空床が出た際にも、スムーズに空床を埋められる状況となりました。入居される方から、【徳洲会の施設だから医療面で安心】との声を多く頂きます。実際、入居する際には主治医も徳洲会に変更したいとの希望がほとんどで、現在は篠崎先生、仲村先生に往診医として入居者の半数以上を診て頂いております。

救急搬送や受診等の際にも、八尾徳洲会総合病院への受け入れをとても円滑に行って頂き、感謝しております。逆に、退院許可が出た際は、迅速に対応し連携の強化に努めています。

新規開設の為､各部署に多大なご迷惑とご負担をお掛けしました事､深く反省しております。しかし、各部署の皆様より格別な励ましやご助言、ご多忙の中、業務支援等でご協力頂き、本当に感謝の気持ちしかございません。皆様に支えて頂いた上に、今日があります。今後もご期待に添えるよう、施設運営に努めて、日々精進していきたいと考えています。

2. メンバー構成

管理者　：松野　香澄
事務員　：酒本　穂
介護職員：ラフィーネ介護センター兼務　13名
看護職員：よろこび訪問看護ステーション兼務　3名

3. 実績

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
新規入居数	29	15	7	2	2	4	5	2	4	1
退居者	0	3	1	2	0	0	3	0	1	2
月末入居者数	29	41	47	47	49	52	54	56	59	58
平均要介護度	2.3	2.4	2.5	2.5	2.3	2.5	2.4	2.3	2.4	2.4

4. 今後の目標

平均入居者数の目標は 58 名に設定していますが、現在、入居をご希望され介護老人保健施設八尾徳洲苑や在宅で待機されている方が 8 名おられます。

今後は退去者が出た際にスムーズに入居へ結びつけられるように、定期的に状況確認の連絡を行い、待機者を確保していきたいと思います。

61）ラフィーネ介護センター

管理者　谷澤　裕子

介護セン 198
よろこび訪問看護ステ 202
徳洲苑 205
特養久宝寺愛の郷 214
ラフィーネの郷 218
ラフィーネ介護セン 220

1. 概要

当事業所は2024年3月に開設したサービス付き高齢者向け住宅ラフィーネの郷の入居者さまへ【定期巡回・随時対応型訪問介護看護】のサービスを提供する為に新設されました。要介護認定を受けられた方に､ラフィーネの郷で安心した暮らしを送って頂けるように24時間サービスを提供しています。ご入居されている居室がご自宅と捉え、必要な訪問介護（掃除･洗濯･排泄・入浴・食事・身体介助等)、訪問看護（体調管理、服薬管理等）を行っています。

現在は57名の方にご利用頂いています。開設当初は職員も手探りの状態から始まり、ご利用者さまへご不便をお掛けしたかと思いますが、介護・看護職員で都度相談し解決策を考え、乗り切る事ができたと感じています。夜間帯は看護師不在となりますが、オンコール対応で何かあれば適宜指示を仰ぎ対応しています。各居室に見守りカメラを導入しており、居室の中での様子を確認する事ができるので、夜間巡視など不要な訪問を控え、職員の負担を減らすようにしています。

また、ご利用者さまのお誕生日には写真付の色紙を職員よりお渡しさせて頂いており、大変喜ばれています。訪問診療、訪問歯科、ケアマネージャー、デイケア、デイサービス等沢山の事業所の方と関わる為、ご利用者さまに関した情報連携が円滑に行えるよう取り組んでいければと思います。

2. メンバー構成

管理者　　：2024年3月～10月　松野　香澄
　　2024年11月～　　谷澤　裕子
介護福祉士：13名
看護師　　：　3名

3. 実績

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
新規利用者	26	16	5	3	1	3	7	1	5	0
中止利用者	0	3	1	2	0	0	3	0	1	0
利用者数	26	39	43	44	45	48	52	51	55	55

4. 今後の目標

ご入居者さまの余暇時間を充実させる為にイベントなどを検討していければと考えています。

学　術　業　績

―― 2024年 ――

62）学会発表　224
63）学術論文　231

62）学会発表

【透析】

・2024.5.18-19　第34回日本臨床工学会（福井）
尾﨑大輝[1], 山谷和佳[1], 平野涼寧[1], 中之 花[1], 前田 遼[1], 西川由希子[1] , 東内耀平[1], 矢野友規[1], 長谷川弘将[1], 向井砂帆[1], 藤村篤志[1], 申　勝[2] （八尾徳洲会総合病院　臨床工学科[1], 血管透析科[2] ）　地域医療支援病院の腎不全治療における臨床工学技士の業務状況 －2022－

・2024.5.18-19　第34回日本臨床工学会（福井）
長谷川弘将[1], 尾﨑大輝[1], 藤田直大[1], 吉岡水輝[1], 西村宥哉[1], 吉村有梨奈[1], 河野　遙[1], 三原寿之[1], 門田翔太[2], 田村真基[3], 寺川知良[4], 申　勝[4] （八尾徳洲会病院　臨床工学科[1] , 医療福祉課[2] , 医事情報課[3] , 血管透析科[4] ）　地域支援病院透析センター における救急搬送患者の治療状況 －2022 －

・2024.6.7-9　第69回日本透析医学会（横浜）　森ちさこ[1], 植田 秀樹[2], 西川由希子[3], 山谷和佳[3], 藤田直大[3], 今堀泰一[3], 岡本誠人[3], 三原寿之[3], 藤村篤志[3], 藤田和睦[3], 門田翔太[4], 田村真基[5], 村上 修[6], 石原 英樹[7], 福田 貢[8], 寺川知良[9], 玉城裕史[9], 申　勝[9] （八尾徳洲会総合病院　腎臓内科[1], 糖尿病内科[2], 臨床工学科[3], 福祉課[4], 医事情報課[5], 総合外科[6], 呼吸器科[7], 循環器科[8], 血管透析科[9] ）　大阪府中河内地域における救急搬送腎不全患者の動向　～2022年～

【糖尿病代謝内科】

・2024.2.17　中河内医療連携の会（シェラトン都ホテル大阪）　石橋里江子　最新の2型糖尿病治療とチーム連携

・2024.2.29　明日からの診療に役立つ糖尿病勉強会in八尾（八尾市文化会館プリズムホール）　高橋博之　糖尿病診療における診療看護師（NP）の役割　～離島でのNP介入により改善した糖尿病症例報告～

・2024.5.17　第67回日本糖尿病学会年次学術集会（東京国際フォーラム）　高橋博之　石橋里江子　酒井菜穂子　高原良典　離島の糖尿病診療における診療看護師（NP）介入の試み

・2024.6.13　第33回　八尾地区糖尿病連携会（八尾市文化会館プリズムホール）　酒井菜穂子　患者さんの言葉から考える糖尿病の療養支援～看護の立場から～

・2023.10.31　GLP-1 Injection Web Seminar（八尾市文化会館プリズムホール）　栗野大輔　自己注射指導における薬剤師の関わり

・2023.10.31　GLP-1 Injection Web Seminar　（八尾市文化会館プリズムホール）　石橋里江子　GLP-1受容体作動薬をいかに活かすか？～チーム医療における導入とオゼンピック注のポジショニング～

・2024.10.26　第61回日本糖尿病学会近畿地方会（大阪国際会議場）　藤井安希子　酒井菜穂子　大谷康仁　竹株緋那　坂野千賀　髙原良典　植田秀樹　羽鳥広隆　石橋里江子　注射部位とローテーション方法を評価・指導するシステムの有効性に関する検討

・2024.12.3　糖尿病領域アドバイザリー会議（住友ファーマ株式会社大阪本社）　石橋里江子　地域の糖尿病診療と医療連携の課題

・2024.12.12　明日からの診療に役立つ糖尿病勉強会 in 八尾（八尾市文化会館プリズムホール）　石橋里江子　糖尿病診療における治療困難な症例を考える

【膠原病リウマチ内科】

・2024.5.16　第5回国際臨床免疫シンポジウム（函館）　K.Yoshizaki,T.Harada,S.Tsunoda Castleman　disease（iMCD-NOS）maybe a Tph cell infiltrated immunological disoeder

・2024.10.11　第52階日本臨床免疫学会（東京）　吉崎　和幸、菊繁吉謙、原田卓也、宇野賀津子、川上　純、新納宏昭、角田慎一郎　キャッスルマン病（iMCD）の病態解明～Tph細胞のCXCL13産生による免疫異常疾患～

・2024.7.17　第45回日本炎症・再生医学会（福岡）　吉崎　和幸　キャッスルマン病（iMCD）における炎症発現の解明

・2024.8.24　キャッスルマン病患者会総会（横浜）　キャッスルマン病（IMCD）はIL-6産生を伴う免疫異常症

・CDCN-patient annual meeting ：Philadelphia　K Yoshizaki. Review presentation on Castleman disease.

・2nd Euro-Grobal Summit on Advanced in clinical and Callular Immunology:Barcelona (Adavanced Immunology 2024)

・2024.7.24　The first international cytokine symposium in Sapporo（第1回国際サイトカイン学会）　K.Yoshizaki, K.kikushige, T.Harada, A.Kawakami, K.Umo, S.Tsumoda

・2024.9.23　2nd Euro-Grobal Summit on Advances Clinical and Cellular Immunology　(Adavenced Immunoloy 2024)　Barcelona

【救急科】

座長

・2024.10.14　第52回日本救急医学会（仙台）　豊田甲子男　口演23、凝固線溶異常／輸液・輸血、座長

・2024.10.14日　第52回日本救急医学会（仙台）　松岡信子　ポスター153専門医教育制度3、座長

学会発表

・2024.3.21　第60回日本腹部救急医学会（北九州）　村尾佳則、パネルディスカッション6、腹部救急疾患に対する各大動脈遮断の適応と有効性、特別発言

・2024.3.21　第60回日本腹部救急医学会（北九州）　森本大樹、大津　周、堤　綾乃、松岡信子、大田修平、村尾佳則　Ball valve syndromeを呈した胃癌の1例

・2024.6.20　ICEM-2024(International Conference on Emergency Medicine), Taipei, Taiwan　Yoshinori Murao , Shu Otsu, Yuko Abe, Yoshitaka Ogata, Osamu Murakami, Takuya Kimura　Laparoscopic versus open surgery for small bowel obstruction in Yao Tokushukai General Hospital

・2024.6.20日　ICEM-2024(International Conference on Emergency Medicine), Taipei. Taiwan　Shu Otsu, Yoshinori Murao, Shuhei Ota, Ayano Tsutsumi, Nobuko Matsuoka, Osamu Murakami　Analysis of Emergency Laparoscopic Versus Open Abdominal Surgery in Yao Tokushukai General Hospital

・2024.10.15　第52回日本救急医学会　村尾佳則、大津　周、阿部祐子、松岡信子、濱口眞成、緒方嘉隆、④救急科専門研修プログラム　私たちの工

夫　―2次救急と離島研修を中心としてー

・2024.10.13　第52回日本救急医学会　大津　周、村尾 佳則、阿部 祐子 、濱口 眞成、緒方 嘉隆、森本 大樹、白木 秀門、松岡 信子 、大田 修平、遠藤 幸丈、村上 修　当院における腸閉塞手術に対する開腹術と腹腔鏡下手術の検討

【集中治療科】

・第52回日本集中治療医学会学術集会、第46回日本呼吸療法医学会学術集会においてシンポジウム・パネルディスカッションなど発表

・第52回日本集中治療医学会学術集会にてポスター発表1題、一般演題口演1題　発表　詳細割愛

【外科】

・2024.8.14-8.17 International Congress of Endoscopic & Laparoscopic Surgeons of Asia　ELSA2024(Bali in Indonesia)　大田修平　Introduction and short-term outcomes or robot-assisted lateral 」 lymph node dissection for advanced lower rectal cancer in our institution

・2024.9.28　第37回近畿内視鏡外科研究会（大阪）　松岡信子　嵌頓・絞扼性鼠径部ヘルニア対する腹腔鏡手術の有用性について

・2024.9.28　第37回近畿内視鏡外科研究会（大阪）　大田修平　離島における腹腔鏡下大腸癌手術の導入と短期成績

・2024.10.31-11.3第37回日本消化器関連学会週間　JDDW2024（神戸）　松岡信子　Mirizzi　症候群の胆嚢摘出術後に判明した離断型胆汁漏に対してランデブーテクニックを用いて内瘻化し得た1例

・2024.10.31-11.3　第37回日本消化器関連学会週間　JDDW2024（神戸）　遠藤幸丈　診断に難渋した虫垂原発悪性リンパ腫の一例

・2024.11.21-11.23　第86回日本臨床外科学会（宇都宮）　大田修平　離島における外科医療の実践と継続

・2024.12.5-12.7　第37回日本内視鏡外科学会総会（福岡）　松岡信子　嵌頓・絞扼性鼠径部ヘルニアに対する腹腔鏡手術の有用性について

・2024.12.5-12.7　第37回日本内視鏡外科学会総会（福岡）　大田修平　離島における腹腔鏡下大腸癌手術の導入と手術短期成績

・2024.12.5-12.7　第37回日本内視鏡外科学会総会（福岡）　遠藤幸丈　食道接合部癌術後の食道裂孔ヘルニアの一例

【心臓血管外科・心臓血管センター】

・2024.2.22-24　第54回日本心臓血管外科学会学術総会（浜松）　一般口演　演題名：大動脈解離に対するPETTICOAT法とre-intervention：complete aortic remodelingへの道　薦岡成年, 東上震一, 畔柳智司, 降矢温一, 平松範彦, 松浦 誠, 小島三郎, 春日健介, 竹本哲志

・2024.5.23-25　第53回日本IVR学会総会（和歌山）　一般口演　演題名：偽腔完全血栓化を目指した慢性大動脈解離に対する血管内治療　d薦岡成年

・2024.5.29-31　第52回日本血管外科学会学術総会（大分）　ポスター発表　腹部分枝debranchingを含む2期的Hybrid治療を施行したCrawford2型胸腹部大動脈瘤の1例　春日健介, 薦岡成年, 小島三郎

・2024.9.14-15　第2回徳洲会国際心臓血管セミナー（逗子）　一般口演　当科の現状と将来展望　薦岡成年

・2024.10.24-25　第65回日本脈管学会学術集会（東京）　一般口演　B型大動脈解離に対するPETTICOAT法と偽腔完全血栓化を目指したre-intervention、薦岡成年, 東上震一, 畔柳智司, 降矢温一, 平松範彦, 小島三郎, 春日健介, 竹本哲志, 小林将明, 橋本和也

・2024.10.24-25　第65回日本脈管学会学術集会（東京）　一般口演　snorkel EVARにて救命し得た大動脈瘤切迫破裂/破裂の治療経験　春日健介, 薦岡成年, 春日健介

・2024.11.1-4　第77回日本胸部外科学会定期学術集会（石川）　一般口演　大動脈解離に対するPETTICOAT法と偽腔完全血栓化を目指したre-intervention、薦岡成年, 東上震一, 畔柳智司, 降矢温一, 平松範彦, 小島三郎, 春日健介, 竹本哲志, 小林将明, 橋本和也

【形成外科】

・2024.4.10-12　第67回日本形成外科学会総会・学術集会（神戸）　綾部忍、森川周至、野村麻衣、塚原麻理奈、築山隆弘　虚血・感染・足変形に着目したAID conceptに基づいた糖尿病性足潰瘍の治療

・2024.4.10-12　第67回日本形成外科学会総会・学術集会（神戸）　森川周至、綾部忍、野村麻衣、塚原麻理奈、築山隆弘　当院の壊死性軟部組織感染症に対するデブリードマンの考え方－Skin-Sparing Debridement－

・2024.6.1　第24回形成外科集学医療技術研究会（大阪）　綾部忍、森川周至、川田恭平、塚原麻理奈、畑夏生　Clinical Significance of the AID Classification in Diabetic Foot Ulcers: Awareness of Arteriopathy, Bacterial Infection and Foot Deformity

・2024.6.1　第24回形成外科集学医療技術研究会（大阪）　川田恭平、綾部忍、森川周至、塚原麻理奈、畑夏生　ベトナムでのボランティア活動と専門医試験アプリ開発

・2024.6.1　第24回形成外科集学医療技術研究会（大阪）　畑夏生、綾部忍、森川周至、川田恭平、塚原麻理奈　A群β溶血性連鎖球菌による壊死性筋膜炎に対する試験穿刺の有用性と当院での実際の穿刺方法

・2024.7.11-12　第16回日本創傷外科学会総会・学術集会（金沢）　綾部忍、森川周至、川田恭平、塚原麻理奈、畑夏生　ランチョンセミナー5　当院でのEPIIFIX使用と入院期間短縮に繋げる治療ルーティン

・2024.7.11-12　第16回日本創傷外科学会総会・学術集会（金沢）　森川周至、綾部忍、川田恭平、塚原麻理奈、畑夏生　シンポジウム3　当院での壊死性軟部組織感染症治療におけるNPWTの使用方法

・9.5-7　Diabetic Foot Study Group 2024 (Valencia)　Shinobu Ayabe　Clinical Significance of the AID Classification in Diabetic Foot Ulcers: Awareness of Arteriopathy, Bacterial Infection and Foot Deformity

・9.26-28　European Bone and Joint Infection Society 2024 (Barcelona)　Chikashi Morikawa　Skin-Sparing　Debridement　in NSTI is possible to both Limb-salvage and lifesaving　4year

single-center retrospective analysis

・9.26-28　European Bone and Joint Infection Society 2024 (Barcelona)　Shinobu Ayabe　Clinical Significance of the AID Classification in Diabetic Foot Ulcers: Awareness of Arteriopathy, Bacterial Infection and Foot Deformity

・11.28-29　第5回日本フットケア・足病医学会年次学術集会（神戸）　綾部忍、森川周至、川田恭平、塚原麻理奈、畑夏生　シンポジウム2　血行再建後の足潰瘍治療の標準化：第5趾MTP関節が露出している症例　血流が保たれている症例では「関節切除」を選択する

・11.28-29　第5回日本フットケア・足病医学会年次学術集会（神戸）　綾部忍、森川周至、川田恭平、塚原麻理奈、畑夏生　シンポジウム12　アンギオソーム理論はやっぱり重要？　アンギオサム再考すべき症例（形成外科）

・11.28-29　第5回日本フットケア・足病医学会年次学術集会（神戸）　綾部忍、森川周至、川田恭平、塚原麻理奈、畑夏生　シンポジウム15　糖尿病性足潰瘍（Diabetic foot ulcers: DFU））に対する外科的手術（Surgical off-loading）　外科的手術（Surgical off-loading）の実際（後足部）

・12.14　第137回関西形成外科学会学術集会（大阪）　森川周至、綾部忍、川田恭平、塚原麻理奈、畑夏生　当院でのTotal Contact Castの使用方法　Why not? TCC

【肝臓センター】

木村拓也

20th World Congress of Endoscopic Surgery

「Laparoscopic vs Circumumbilical incision open pyloromyotomy in infantile hypertrophic pyloric stenosis」

藤井貴子

①第60回日本肝臓学会総会

「常染色体顕性多発性嚢胞腎における肝病変の検討」

②第36回日本肝胆膵外科学会学術集会

「Hepatolithiasis in a patient with autosomal dominant polycystic kidney disease treated by major liver resection and hepaticojejunostomy」

③第7回成人ダウン症研究会（2022年度研究助成成果報告）

「成人ダウン症候群患者における下肢静脈瘤発生頻度とフットケアニーズについて」

河島茉澄

第37回日本内視鏡外科学会総会

「腹腔鏡下脾部分切除術4例の報告」

明渡菜緒（研修医）

第207回近外科学会

「直腸がん術後の転移性肝がんに対して開腹肝 S4 部分切除を施行した 1 例」

金　亮丞（研修医）

第37回日本内視鏡外科学会総会

「進行膵体部癌に対し後腹膜先行アプローチ（Retlap）による腹腔鏡下膵体尾部切除術を施行した 1 例」

【臨床研究】

藤井貴子

「アルコール性肝硬変患者におけるAcute-on-chronic liver failure発症の病態および予後予測因子の解明」　研究実施期間2023～2027.10.31

【病理診断科】

・2024.6.7～9　第65回日本臨床細胞学会春期大会（大阪）　室木魁人、坪佐朱莉、西川裕子、岩崎由恵、南部尚子、久保勇記、中塚伸一、寺田信行　MET exon 14 skipping 変異を認めた肺癌4症

例における細胞像

・2024.6.7～9　第65回日本臨床細胞学会春期大会（大阪）　坪佐朱莉、室木魁人、西川裕子、岩崎由恵、南部尚子、久保勇記、寺田信行、中塚伸一　細胞質内脂肪球を有する細胞とエオジン好性細胞を多数認めた中皮腫の1例

・2024.6.7～9　第65回日本臨床細胞学会春期大会（大阪）　岡崎 健、大井秀太、足立ひとみ、坪佐朱莉、室木魁人、西川裕子、岩崎由恵、西野栄生、中塚伸一　当院における腹膜偽粘液腫疑いの細胞診検体の標本作製について

・2024.6.7～9　第65回日本臨床細胞学会春期大会（大阪）　鈴木彩加、坪佐朱莉、室木魁人、西川裕子、岩崎由恵、南部尚子、久保勇記、中塚伸一、寺田信行　大型異型細胞の混在を認めた胃神経鞘腫の一例

・2024.6.7～9　第65回日本臨床細胞学会春期大会（大阪）　西川裕子、坪佐朱莉、室木魁人、岩崎由恵、南部尚子、久保勇記、寺田信行、中塚伸一　AmoyDx肺癌マルチ遺伝子検査における器具洗浄液利用の検証

・2024.11.7～8　第70回日本病理学会秋期特別総会（東京）　久保勇記、南部尚子、寺田信行、垣本佳士、中塚伸一　腸管虚血で発症した血管内大細胞型B細胞リンパ腫の1例

・2024.11.16～17　第63回日本臨床細胞学会秋期大会（幕張）　久保勇記、岩崎由恵、西川裕子、室木魁人、坪佐朱莉、南部尚子、寺田信行、中塚伸一　尿細胞診を契機に原発巣特定に至った前立腺導管腺癌のオカルト癌の1例

・2024.11.16～17　第63回日本臨床細胞学会秋期大会（幕張）　室木魁人　3.泌尿器　SC-3 スライドカンファレンス回答者

・2024.11.17～18　第11回徳洲会病理部会学術集会（幕張）　西川裕子、坪佐朱莉、平井翔也、溝邊栞、吉川つかさ、室木魁人、岩崎由恵、南部尚子、久保勇記、寺田信行、中塚伸一　【シンポジウム】「呼吸器細胞診報告様式および扁平上皮癌と腺癌の鑑別」　当院の呼吸器細胞診の現状

【臨床検査科】

・2024.2.9～2.10　第35回日本臨床微生物学会　パシフィコ横浜ノース　竹野里奈　Gemella morbillorumによる敗血症の一例

・2024.6.8～6.9　第65回日本臨床細胞学会春季大会　大阪国際会議場　西川裕子　AmoyDx肺癌マルチ遺伝子検査における器具洗浄液利用の検証

・2024.6.8～6.9　第65回日本臨床細胞学会春季大会　大阪国際会議場　室木魁人　MET exon 14 skipping mutationを認めた肺癌の4症例

・2024.6.8～6.9　第65回日本臨床細胞学会春季大会　大阪国際会議場　坪佐朱莉　細胞質内脂肪球を有する細胞やエオジン好性細胞を多数認めた中皮腫の1例

・2024.11.3～11.4　第63回日臨技近畿支部医学検査学会　グランキューブ大阪　岸上周平　好塩基球増多を伴った5q-症候群の1症例

【リハビリ】

・第24回AKA医学会理学・作業療法士会学術集会　関節拘縮の改善により歩行可能となった1症例　高橋杏佳

・第36回大阪府理学療法学術大会　認知機能低下を

有する患者に対するセルフケア定着に向けた取り組み～視覚性記憶に着目した患者教育が有効であった左TKAの一症例～　植田健斗

【臨床工学科】

・2024.2.9　第16回植え込みデバイス関連冬季大会（広島コンベンションホール）　矢野　当院でのCIDE s 外来での役割

・2024.5.17・18　日本臨床工学技士会（福井フェニックスプラザ）　長谷川　地域支援病院透析センターにおける救急搬送患者の治療状況-2022-

・2024.5.17・18　日本臨床工学技士会（福井フェニックスプラザ）　尾崎　地域医療支援病院の腎不全治療における臨床工学技士の近年の業務状況-2022-

・2024.7.23　CVIT（札幌）　吉村　左外腸骨動脈領域治療中に７Frsheathが抜け再挿入できなかった症例を経験して

・2024.12.3　カテ・アンギオWG部会（岸和田徳洲会病院）　玉城　RCACTO治療後、残存病変治療中にステント破損を経験した症例

・2024.12.3　カテ・アンギオWG部会（岸和田徳洲会病院）　矢野　当院でのCIDE s 外来での役割

【栄養科】

・2024.2.14日～2.16　第39回日本臨床栄養代謝学会学術総会　小山洋史　グループ病院の管理栄養士病棟配置への取り組み

【MSW】

・2024.3.16　第33回日本がんチーム医療研究会（大阪）　三谷勇一　急性期病院における平均在院日数の短縮に関連する要因：がん患者に焦点を当てた国際的医療施設評価機関（JCI）データの活用

【感染制御部】

・2024.6.21～6.22　日本医療マネジメント学会（福岡国際会議場）　山下あすか　院内保育園児への手洗い教室の実践事例

・2024.11.2～11.4　日本医療薬学会年会（幕張メッセ 他）　横山靖法　カンジダ血症治療患者の予後におけるACTIONs Bundle遵守率の比較検討

【介護老人保健施設　八尾徳洲苑】

・2024.11.14.15　全国介護老人保健施設大会岐阜「見守りシステム（ライフレンズ）導入に伴う職員の変化」　介護福祉士　山川誠　「レクリエーションについて職員の意識を探る」　介護福祉士　神成晃　「移乗用具を不安なく適切に活用するための検討」　理学療法士　川村富美

63）学術論文

【膠原病リウマチ内科】

・Immunology and targeted therapy in Castleman disease
Shinichiro Tsunoda[1], Takuya Harada[2 3], Yoshikane Kikushige[2 4], Tadamitsu Kishimoto[5], Kazuyuki Yoshizaki[6]　Expert Review of Clinical Immunology 1101-1102　2024

【救急科】

・Non-Operative Managementを選択した離島での闘牛の角による鋭的気管損傷1例　松岡信子, 村尾佳則, 服部彬, 大田修平, 垣本佳士, 豊田亮, 遠藤 幸丈, 村上修, 藤田安彦, 木村拓也　日本外傷学会、38、8-13. 2024.

・腹腔鏡下に整復・切除を行ったBall Valve Syndromeをきたした胃癌の1例　大津　周、村尾佳則、森本大樹、堤　綾乃、松岡信子、大田修平　日本腹部救急医学会雑誌　44, 883-887,2024.

【外科】

・Cureus　：Thoracolaparoscopic repair of traumatic diaphragmatic hernia　豊田亮

【形成外科】

・みんなで考えよう！足病カンファレンス　急性期と慢性期のハイブリッド医療　綾部忍　形成外科　67（1）；66-69，2024

【病理診断科】

・CD10免疫染色ThinPrep®法液状子宮内膜細胞診での上皮細胞の集塊、核の異常所見の評価の癌診断における有用性に関する検討　室木魁人、西川裕子、岩崎由恵、南部尚子、久保勇記、杉原綾子、中塚伸一　明和医学誌2024; 11: 57-60.

・胸水穿刺液セルブロックで診断した胸部SMARCA4欠損未分化腫瘍の１例　室木魁人、坪佐朱莉、西川裕子、岩崎由恵、南部尚子、久保勇記、本間圭一郎、瓜生恭章、寺田信行、中塚伸一　日本臨床細胞学会雑誌2024; 63(6): 315-319.

【MSW】

・高齢者の生きがいと社会参加　第2節　社会参加の現状　第3節　社会参加に向けた課題と対応策　三谷勇一　学びを追求する高齢者福祉（教育情報出版）　9月／2024

八尾徳洲会総合病院年報

発行日：令和七年七月

発　行：八尾徳洲会総合病院　病院長　原田　博雅
〒581-0011 大阪府八尾市若草町1番17号
ＴＥＬ（072）９９３－８５０１（代）
ＦＡＸ（072）９９３－８５６７
http://www.yao.tokushukai.or.jp/

印　刷：寝屋川市高宮栄町２２番１８号
イセン印刷㈱
ＴＥＬ（072）８２４－０８０５
ＦＡＸ（072）８２５－０６５４



医療法人
徳洲会 八尾徳洲会総合病院

〒５８１-００１１ 大阪府八尾市若草町１番１７号
ＴＥＬ（０７２）９９３-８５０１（代）
ＦＡＸ（０７２）９９３-８５６７
https://www.yao.tokushukai.or.jp

Japan Council for Quality Health Care
日本医療機能評価機構